HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地球の息吹 : 海外の魅力的なワイルドフラワー
Author(s)	岡田, 尚武
Issue Date	2016-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76182
Type	book
File Information	Blessings-from-the-Earth (Ver. 3.1) .pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

地球の息吹

– 海外の魅力的なワイルドフラワー–

Ver. 3.1 (2016年11月)

岡田尚武 (Hisatake OKADA)

はじめに

このデジタル本「地球の息吹ー海外の魅力的なワイルドフラワー Ver.3」は、合わせて公開している「北の息吹ー日本の魅力的な山野草500選」の姉妹編として作成しました。私がこれまで出会った海外の魅力的なワイルドフラワー（山野草）を、学名順（科、属、種以下）に配置して纏めたものです。元々の目的は、自分自身がこれまで海外で撮影したワイルドフラワーに関する情報を整理して、理解を深めることでした。最近は海外でワイルドフラワーの撮影を楽しむ方も多く、ネット上で公開されている画像や情報が沢山あります。こういう情報は私も参考にさせて貰っていますし、ワイルドフラワー同好者にとっては、情報は多ければ多いほど良いでしょう。そこで、このファイルを日本国内の同好者にも見ていただけるよう公開しています。今年は7月に2週間ほどスイスアルプスに出かけ、夏の花を中心に、これまで写真がなかった80種ほどを新たに撮影しました。その結果、110枚以上の写真を追加したり入れ替えたりして、このVer. 3では450種類を掲載しています。また、Ver. 2にあった誤りや改善すべき点を修正しました。

私は高等植物の専門家ではありませんし、ここに掲載したのは普通のアマチュアが出会える花ばかりで､珍しい花はありません。また、何かのポリシ-があって撮影したわけではなく、出張や休暇の折に出会った花や、退職後に出かけたアルプスとカナディアンロッキーで撮影した写真だけで、地理的にも季節的にも偏っています。私自身、撮影した花の同定に苦労することが多いので、このデジタル本を見て、ご自分が海外で撮られた花の知識が深まった、ということがあれば嬉しいですね。

「北の息吹」には、外国人に日本の魅力的なワイルドフラワーを紹介するという目的もあるので、英語の解説も併記しています。しかし、「地球の息吹」は、自分のために用意したものを、日本国内の同好者にも見ていただくということなので、英語の記述はありません。また、書いてある事は、生物地理や形態上の興味点など、自分で面白いと思う内容が中心ですし、図鑑ではないので統一したスタイルはありません。全て、素人のワイルドフラワー愛好家が、専門知識なしで入手した情報に基づいています。従って、種の同定の間違いや記述内容の誤りなど、多々あるかと思います。お気づきの方は、（okavep@hokkaido.email.ne.jp） へ、メールでお知らせいただければ有り難く存じます。また、読後の印象やコメントなども歓迎します。

今年の撮影旅行で効率的に多くの花を見られ、比較的容易に同定できたのは、内田一也氏の著書「スイスアルプス花図鑑」のお陰でした。この素晴らしい図鑑を自費出版された内田氏に感謝します。今回の改定で、これまで是非含めたいと思っていた種を多く収録できたので、「地球の息吹」についてはこれが最終版になると思います。これまで国外での撮影旅行に付き合ってくれた妻、山仲間と、技術的サポートを頂いた北大の柳谷龍一氏に感謝します

2016年9月　　岡田尚武

◇Ver.3公開後に*Antenaria*属と*Sedum*属の一部に同定の誤りが見つかったので修正・削除し、新たに*Cirsium*属の2種を加えてVer. 3.1としました。(2016.11.07)

Amaryllidaceae

Allium schoenoprasum var. *sibiricum*
エゾネギの変種

ヒガンバナ科　ネギ属　英語名 : Wild Chive

国内に自生する近縁の種:　シロウマアサツキ、ノビル、ヒメニラなど

カナダ全域と米国の北部～中部の山地帯に分布する多年草で、山地帯の湿った草地、河原、川の土手、湖畔などに生えて、草丈は10～50 cm。これは、北海道でよく見るエゾネギの北米形変種である。葉は根生し、円筒形の葉の長さは20～60 cm、茎先に球形～半球形の散形花序をつける。赤紫色の花には 6 枚の花被片があり、その長さは7～15 mm。基準変種のエゾネギ(var. *schoenoprasum*)は、日本国内では中部地方以北の本州と北海道に分布し、海岸～山地に生えるが、変種シロウマアサツキは山岳地帯に生える。この北米変種も標高の高いところに生えるようだ。撮影地は山岳地帯の河原であるが、群生とはいえないけども結構な数の個体があったし、白い花を咲かせているものも数多く見られた。◇2009.07.17 Jasper National Park, Alberta, Canada

Amaryllidaceae　　*Narcissus poeticus*

ヒガンバナ科　スイセン属　英語名：Pheasant’s-Eye Narcissus
国内に自生する近縁の種：なし

中部～南部ヨーロッパ原産の球根植物で、アルプスでは標高2,300 mまでの湿った草地に生え、草丈は20～40 cm。葉は灰緑色の長い線形で立ち上がる。花は径4～6 cmで茎頂に１個つき、白い花被片が６枚ある。花被片は狭楕円形で先が尖り、根元は細くなる。花の中心部には黄色い副花冠があり、その口縁部は赤く縁取られる。この種は、雪が消えたあとの斜面に大群落として出現し、白い花が一面に咲く景色は春のアルプスならではのもの。花には芳香があるので、辺り一面が香水に包まれたようになるのも素晴らしい。この仲間の分類に関しては諸説あるようが、ネット資料によれば、本種には一つの亜種と数種類の変種があり、フランスには３つの変種があるという。日本には本属は自生しないが、「日本維管束植物目録」では、古くから帰化しているスイセンと栽培株が逸出したラッパズイセンを、国内の野生種としてあげている。◇2012.06.16 Lautaret Pass, French Alps, France

Apiaceae *Angelica sylvestris*

セリ科　シシウド属　英語名: Wild Angelica, Woodland Angelica

国内に自生する近縁の種: エゾニュウ、オオバセンキュウ、エゾノヨロイグサ

ヨーロッパの広い範囲と西アジアからシベリアにかけて分布する２年草で、草丈は1.5〜2 m。湿った草地や湿地に生える。中空の茎は上部で少し分岐し、普通は紫色を帯びて上部に細毛が生え、節には隔壁がある。葉は互生して長い葉柄があり、2〜3回羽状複葉。小葉は鋸歯のある楕円形で、頂小葉は切れ込まない。上部の茎葉は小さく、葉柄の基部は膨らんで鞘となる。茎頂に楕円形の大きな複散形花序をつけ、小花序は20〜40個ある。帯紅白色の花は幅4〜5 mmで、５個の反り返った花弁がある。これはエゾノヨロイグサに似た植物だが、茎は薄く紫色を帯びるものの緑色で、エゾノヨロイグサのような濃い紫色ではない。写真はスカンジナビアの低山で見た株だが、アルプスでは、標高1,800 mまで分布する。◇2010.07.29 Bergen近郊, Norway

Apiaceae　　*Astrantia major*

セリ科　アストランティア属　英語名：Great Masterwort, Mountain Sanicle
国内に自生する近縁の種：なし

ヨーロッパから西アジアにかけて分布する多年草で、草丈は30〜90 cm。アルプスでは、標高2,000 mまでの主に石灰質山地の草地、林間の空き地、沢沿いなどに生える。根生葉は3〜5裂し、裂片は広卵形で粗い鋸歯がある。花柄の先に径2〜3 cmの散形花序を出し、沢山の帯緑白色〜淡紅色の小さなまち針のような花を中央に集め、花弁状の苞が取り囲む。苞は上部が緑色でピンクから紫色を帯び、下部は白色である。先の尖った形の良い苞がパラボラ状に広がり、パラボラの中心部と放射状に展開する葯が鮮やかな赤紫色で、その造形と配色が素晴らしくユニークである。本種は、花の美しさから広く栽培されており、北米には野生化した株が多くあるらしい。園芸品種もいくつか作られているようだ。◇2016.07.14
Shynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Apiaceae *Bupleurum stellatum*

セリ科　ホタルサイコ属　英語名：Stellar Hare’s-Ear

国内に自生する近縁の種：レブンサイコ、ホタルサイコ、エゾサイコ

アルプスとコルシカ島に固有で、標高1,000～2,700 m地帯の草地、低木林、岩礫地などに生える多年草。草丈は10～40 cmで、線形～披針形の根生葉が纏まってつき、茎葉は一枚だけつく。茎は上部で分岐して枝先に3～5個の小散形花序をつける。総苞片は葉状で、小散形花序には10枚ほどの小総苞片が径10～15 mmのパラボラ状に展開し、花の数は10数～30個ほどある。葉の形や草丈は違うが、小散形花序はレブンサイコに似ており、全体が緑色で目立たない花だが面白い構造だ。もっとも、花の色は黄色や褐色など変異に富むらしい。東アジアに分布するレブンサイコは、日本では北海道の山にだけ生育し、そんなに数の多い植物ではない。しかし、本種は撮影地（標高2,400 m）では多数生育しており、そこからワイスミース小屋(標高2,726 m)まで登る登山道脇でも、あちこちで数多く見かけた。◇2016.0717 Kreuxboden, Saastal, Wallis, Switzerland

Apiaceae *Ligusticum mutellina*

セリ科　マルバトウキ属　英語名：Alpine Lovage, Mountain Lovage

国内に自生する近縁の種：マルバトウキ

中部～南部ヨーロッパの亜高山～高山帯に生える毛の少ない多年草で、アルプスでは、標高1,100～3,000 mの湿った草地や明るい疎林に生える。草丈は10～80 cm。茎葉～2本の互生する枝を分ける。根生葉は2～3回羽状複葉で、全体的には三角状だが小葉は狭披針形。茎葉は小さくて数少ない。茎頂に複散形花序を出し、小さな花を沢山咲かせる。小散形花序には7～10個の小花があり、小花は径4～6 mm の５弁花で、花弁の先は切れ込む。花の直下には披針形の苞が1～2個あるが、ないことも多い。本種は、白色の花をつける散形花序と淡紅色の花をつける散形花序が同一株で混在しており、セリ科植物としては珍しいし、紅白の色のコントラストが美しい。◇2007.06.25 Kleine Scheidegg, Berener Oberland, Switzerland

Apiaceae *Pimpinella major*

セリ科　ミツバグサ属　英語名：Geater Burnet Saxifrage

国内に自生する近縁の種：ミツバグサ、ツクシボウフウ

ヨーロッパ中部からコーカサス山脈にかけて広く分布する毛のない多年草で、草丈は30～100 cm。標高2,300 mまでの草地、疎林、路傍などに生える。茎は中空で深い溝があり、上部で分岐する。根生葉は長さ20～60 cmの1回羽状複葉で、3～9枚の小葉がある。茎葉はより小さく基部は鞘状。散形花序は幅50～60 mmで11～16本の小花柄があり、白色から濃いピンク色の花を多数つける。白花の株は目立たないが、写真のような鮮やかなピンク色の花は美しく、群れて咲くので良く目だつ。それにしても、明らかにセリ科と分かるこの植物に、ユキノシタ科を想像させる英語名が付いたのはなぜだろう。ちなみに、国内に自生するミツバグサとツクシボウフウは聞き慣れない名前だが、ともに九州にだけ分布するという。後者はこの種と似た花をつけるが、花色は白色だけらしい。 ◇2012.06.22　Le Tour, Chamonix-Mt-Blanc, France

Apiaceae

Zizia aptera

セリ科　△属　英語名 : Meadow Zizia, Meadow Parsnip

国内に自生する近縁の種：なし

カナダ北部と米国の南西部を除く北米大陸に広く分布する多年草で、湿った草地や疎林に生えて、草丈は30〜90 cm。根生葉は最大長10 cmの心形で長い柄があり、茎葉には短い柄があって３裂する。茎頂に7〜15個の小散形花序からなる複散形花序を出し、花序全体の径は5〜7.5 cmほど。小散形花序は10〜20個の黄色い小花からなり、中央の小花を除いては小花柄がつく。小花には５個の花弁があり、径3 mmほどで僅かに開く。花序と花の色はオミナエシに似ているともいえるが、科が違うだけに葉の形は全く違うし、草丈も低い。また、開花期はオミナエシよりも早い晩春だし、乾燥すると悪臭を放つオミナエシと違って、この花には臭いがないという。

◇2013.06.10 Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Arariaceae　　*Aralia nudicaulis*

ウコギ科　タラノキ属　英語名：Wild Sarsaparilla

国内に自生する近縁の種：なし

北米大陸の北部と東部に分布する多年草で、林内や林縁に生え、草丈は30～60 cm。地下茎から真っ直ぐに茎を延ばし、先が輪生状に３分岐して、各々の枝先に3～7枚（通常５枚）の小葉からなる羽状複葉をつける。小葉は楕円形で先が尖り、長さ7～12 cmで細かい鋸歯がある。根元から直立する花茎を伸ばし、通常は３個の散房花序をつける。花序は径4～5 cmの球形で多数の小さな白い花からなり、葉よりは低い位置で開花する。径3 mmほどの花には花柄があり、５枚の花弁は後方に反り返る。５本の雄しべは花の中心から放射状に飛び出して展開し、白い葯が目立つ。果実は食べられるという。また、全ての葉は１枚の根生葉で、茎ではなく葉柄についているという解説も見られる。球形の花序が茎の中程に３個つくという造りは奇抜で、他に例を見ない面白い植物である。ちなみに。写真の手前で黄色い花を咲かせているのはユリ科の*Clintonia borealis* (p. 246)である。◇2013.06.14 Baudette近辺, Minnesota, USA

Asparagaceae　　*Anthericum liliago*

キジカクシ科　△属　英語名: St. Bernard's Lily
国内に自生する近縁の種: なし

南ヨーロッパからトルコにかけて分布する多年草で、山地帯の石灰岩質の岩礫地や乾いた牧草地に生え、草丈は60〜90 cm。アルプスでの分布は標高1,800 mまでらしい。根生葉は線形で長さ12〜40 cm。細長い茎は無毛で葉がなく、分岐はしないで、上部に10〜20個の白い花がまばらについた総状花序をだす。花は径3〜4 cmで、6枚の長楕円形〜広線形の花被片が平開し、黄色い葯が目立つ。背の高い茎先に白い大きな花を総状に咲かせるという点では、キジカクシ科の*Paradisea liliastrum* (p. 20)と共通するが、この花は、花弁が細くてあまり存在感がない。しかし、長い花序に多数の花が同時に開花するし、草丈も高いので、ガーデニングには人気の植物らしい。ネットで検索すると、本種の苗や種の販売関連情報であふれかえっている。
◇2004.06.10 Provance-Alps, France

Asparagaceae　　*Aphyllanthes monspeliensis*

キジカクシ科　△属　英語名 : Lily Pink
国内に自生する近縁の種: なし

これは、地中海沿岸域の西部に固有の１属１種の多年草。Asparagaveae亜科では唯一の属でもあり、最近まで固有の科に区分されていたほどで、近縁の種がないという珍しい植物である。ヨーロッパ南部とアフリカ北部の地中海沿岸域で、荒れ地や乾いた草地に生え、草丈は30〜60 cm。葉と茎は青緑色で花も青く、全て青ずくめの植物である。葉は全て根生し、先の尖った線形で、花よりかなり低い位置までしか伸びない。根元から細長い花茎を高く伸ばし、その先に淡青紫色の花を平開する。花弁は６枚あり、長さ15〜20 mmの矩形で中央に暗青紫色の筋が１本走る。私は、一目見た瞬間に「青いディスコアスター」と自分用に勝手に命名した。「ディスコアスターとは何か」について興味があれば、ネットで検索されたい。もっとも、英語でDiscoasterと検索した方が、分かりやすい記事が見られるかも。◇2004.06.10 Provance, France

Asparagaceae

Convallaria majalis var. *majalis*
ドイツスズラン

キジカクシ科　スズラン属　英語名：Lilly of the Valley
国内に自生する近縁の種：スズラン

ヨーロッパ原産の草丈10〜25 cmの無毛の多年草で、長さ20 cmまでの大きな披針形の葉２枚が花茎を抱き、花茎の一方向に偏って5〜15個の白い花を下向きに咲かせる。これは、日本を含む東アジアに分布するスズラン(var. *manschurica*)の基準変種である。ヨーロッパの広範囲に分布するが、地中海沿岸と大西洋岸では稀だという。また、米国東部にはもう一つの変種var. *montana*が分布するが、生育個体数が少なく、自生であるか否かに議論があるという。よく言われるように、日本のスズランとの顕著な違いは花の咲く位置にあり、スズランでは花茎は葉よりも高くは伸びないが、このドイツスズランでは葉よりも高い位置でも花が咲く。北海道では、スズランは海岸地帯の原野でおなじみの花であり、標高2,000 mのシーネッゲ・プラッテでこの基準変種の群落を見ておやと思ったが、信州の高原にもスズランは沢山あるので驚くことではなかった。この基準変種は、標高2,300 mまでの疎林や岩礫地に生育するという。◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Asparagaceae　　*Hyacinthoides non-scripta*

キジカクシ科　ヒアシントイデス属　英語名: English Bluebell
国内に自生する近縁の種: なし

これは、英国、アイルランドとオランダ以西のヨーロッパ大陸北西部に自生する多年草で、林床や海岸の崖に生えて群落となり、草丈は最大50 cmまで。葉にも茎にも毛はない。葉は全て根生し、艶がある幅15 mmほどの細い線状披針形。長く伸びた花茎の先に花が一列に並んだ穂状花序をだし、先端が彎曲して花は下垂する。花は美しい青紫色の鐘形で先は浅く６裂し、裂片の先は外側に彎曲する。花には芳香があり、林下に大群落を作るので、満開時には辺り一面に良いにおいが漂う。北海道のエゾエンゴサクもかなりの大群落を作るが、この花のような芳香がないのは少し残念。これは、イングリッシュ・ブルーベルというくらいで、イギリスの春のワイルドフラワーを代表する花であり、４月にイギリスの田舎を走ると、大きな群落が車窓からもよく見える。最近では、別種スパニッシュ・ブルーベル(*H. hispanica*)との自然交配が広範囲に広がって、問題となっている。
◇1994.04.28　ウエールズ南部, United Kingdom

Asparagaceae *Maianthemum canadense*

キジカクシ科　マイヅルソウ属　英語名: Canadian May-Lily, False Lily-of-the-Valley
国内に自生する近縁の種: マイヅルソウ

これはカナダと米国の中西部～東部に分布する多年草で、亜寒帯の湿った林下や砂質の空き地に生えて、草丈は10～25 cm。針葉樹林の林床を覆い尽くすほどの群落となることも珍しくない。先の尖った狭卵形の葉は長さ2～8 cmで艶があり、ジグザグに曲がった茎に2～3枚が互生する。茎頂に長さ2.5～6 cmの総状花序をだし、12～25個の白い星形の花をつける。花は細い花柄の先につき、径4～6 mmで、４枚の花被片と４個の雄しべからなるが、花弁は開花後直ぐに落下する。この花は日本にも多いマイヅルソウによく似ているが、細長い葉が３枚あるので、全体の印象は大分異なる。（マイヅルソウはハート形の葉が２枚ある）◇2013.06.15 Hayes Lake State Park, Minnesota, USA

Asparagaceae　　*Maianthemum racemosum*

キジカクシ科　マイヅルソウ属　英語名: Large False Salomon's Seal, Treacleberry
国内に自生する近縁の種: ユキザサ、ヤマトユキザサ、マイヅルソウ

北米大陸全域に分布する多年草で、半日陰の林下に生え、草丈は50～90 cm。茎葉は長さ7～15 cmの矩形～披針形で、ジグザグに曲がった茎に互生する。葉は全縁で光沢があり、表面に明瞭な平行脈がある。葉縁が波打つ個体もあるようだ。弓なりに曲った茎の頂に円錐花序をだし、白い星形の花を密につける。花は長さ3～6 mmの白い花被片 6 枚からなり、放射状に突き出した雄しべが目立つ。果実は赤く熟して食べられる。これは明らかにユキザサに近い植物で、国内にあればユキザサの変種として区分されるかも知れない。ユキザサは北海道ではアズキナと呼ばれ、最も味の良い山菜の一つとして知られるが、本種にそれと似た甘みがあるかどうかは分からない。◇2013.06.12 Emerald Lake, Yoho National Park, British Columbia, Canada

Asparagaceae　　*Maianthemum stellatum*

キジカクシ科　マイヅルソウ属　英語名：False Solomon's Seal, Starly Solomon's Seal
国内に自生する近縁の種：マイヅルソウ、ユキザサ

米国南東部を除く北米大陸に広く分布する多年草で、メキシコ北部にも自生し、草丈は20〜60 cm。茎は直立または少し彎曲し、上部はジグザグに曲がる。茎葉は互生し、長さ5〜17 cmの狭楕円形〜披針形で葉柄はなく、3〜5本の平行脈がある。茎頂に長さ3〜6 cmの散房花序を出し、5〜10 個の乳白色の星形花を咲かせる。花は長さ4〜7 mmの狭矩形〜披針形の花被片６枚からなり、６本の雄しべには淡黄色の葯が目立つ。これは形態変化の激しい植物で、開花当初は写真のようにコンパクトに纏まった草姿だが、開花が進むと葉も茎も長く伸び、前ページの*M. racemosum*に近い形になる。もっとも、大きく伸びてからの草姿の方が、日本のナルコユリやユキザサに似ていて我々には馴染みがあり、開花当初の草姿はあまり馴染みのない形態である。◇ 2013.06.13 Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

シノニム：*Smilacina stellata*

Asparagaceae　　*Maianthemum trifolium*

キジカクシ科　マイヅルソウ属　英語名：Three-Leaf Solomon’s Seal

国内に自生する近縁の種：マイヅルソウ、ユキザサ

カナダと合衆国東北部に自生する多年草で、湿った林下や湿地に生えて草丈は10～40 cm。葉は通常３枚（2～4枚）が互生し、長さ5～12 cmで先の尖った楕円～長楕円形。葉には細かい平行葉脈があり、無毛で鋸歯はない。茎頂に総状花序をだし5～15個の星状花をつける。花は径5～8 mmで白い花被片が６枚あり、６本の白い雄しべには乳白色の葯がつくが、葯は後に赤味を帯びるようになる。中心部には乳白色の子房があり、花柱は３裂する。これはマイヅルソウ属の植物ではあるが、マイヅルソウともユキザサとも違った構造で、どちらかといえば両者の中間の形態といえよう。写真は、とんでもない数の蚊を払いながら歩いたミネソタ州の湿地の歩行通路で、水苔の上に群生していたもの。◇2013.06.14 Big Bog State Recreational Area, Minnesota, USA

Asparagaceae

Ornithogalum umbellatum
オオアマナ

キジカクシ科　オオアマナ属　英語名：Garden Star-of-Bethlehem, Grass Lily
国内に自生する近縁の種：なし

これは、ヨーロッパの中部～南部、アフリカ北西部、南西アジアに分布する多年草で、標高1,600 mまでの草地、雑木林、ブドウ畑などに生えて、草丈は10～30 cm。世界中のあちこちで野生化しているようだ。地下の球根から根生葉が6～10枚伸びるが、葉は最大長が30 cm、幅2～8 mmの線形で艶があり、中央部に凹んだ白い脈が走る。花茎の先に6～20個の花からなる散房花序を出す。花は径2～3 cmで６枚の花被片があり、日が当たると平開する。花被片の表面は白色で、裏面には緑色の筋模様がある。これは春先の北大キャンパスではおなじみの花で、元々はどこの植物なのだろうと思いながら調べることもなかったが、フレンチアルプスで自生株にお目にかかったおかげで、その正体が分かった。和名をオオアマナというだけあって、花色の違いはともかくアマナとよく似た花で、従来はユリ科に分類されていた。ところが今では､アマナはユリ科に留まり､こちらはキジカクシ科に移動だというから面白い。◇2012.06.17 L‘Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, France

Asparagaceae　　*Paradisea liliastrum*

キジカクシ科　パラディセア属　英語名：St. Bruno’s Lily

国内に自生する近縁の種：なし

これはヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは800～2,000 m地帯の草地や牧場、明るい林の中などに生え、草丈は20～90 cm。葉は長さ25cm、幅2～8 mmの長い線形で、茎の下部について茎を抱く。根元から立ち上がる無毛の茎には、最大20個までの大きくて白い花が横向につく。花は長さ3～6 cmのトランペット型で、６枚の花被片が斜開し、純白の花被片と黄色い葯とのコントラストが美しい。この植物は群生し、大きな純白の花をつけるのでよく目立つ。個体数は少ないようで、自生地は保護されているという。しかし、撮影地の群落は道路脇の草地にあったが、特に保護されているようには見えなかった。観光客が来るような場所ではなかったからだろうが、この美しい花の洪水には興奮させられた。

◇2012.06.16 Brianson北西方, French Alps, France

Asparagaceae　　*Scilla bifolia*

キジカクシ科　△属　英語名 : Alpine Squill, Two-Leaf Squill

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ中南部からロシア西部、南方へはトルコやシリアにかけて分布する多年草で、湿った草地や雑木林に生えて草丈は10〜20 cm。根生葉は狭披針形で肉厚で艶があり、普通は２個、まれには３個つく。花茎は直立して分岐せず、茎頂に6〜10個の花からなる総状花序を出す。上向きに咲く花は径10〜16 mmで、６枚の花被片は深紫青色。この種は、北海道大学の南キャンパスを中心に多数生育しており、雪融け直後のローンに鮮やかな青色のカーペットを広げる。近くにある研究用花壇からの逸出か、誰かが意図的に種を蒔いたのかは分からないが、在来種のキバナノアマナに先駆けて早春のキャンパスを彩る、春一番のお馴染みの花である。自生地での分布は温暖域にまで及ぶが、アルプスでは標高1,600 mまでに分布するというから、札幌の気候はその生育に適しているのだろう。私はまだ原産地での開花を見たことはないが、北大ではよく見かける帰化植物なので、唯一の例外としここに取り上げておく。◇2007.04.18　北大構内（帰化）

Asteraceae　　*Achillea barreliri* subsp. *oxyloba*

キク科　ノコギリソウ属　英語名：Alpine Sneezewort

国内に自生する近縁の種：ノコギリソウ、エゾノコギリソウ

アルプス南西部の石灰岩質帯に分布する毛の多い多年草で、標高1,600～2,800 mの岩の多い草地や岩礫地に生え、草丈は5～20 cm。葉は殆どが根生し、羽状に細かく裂ける。茎葉は小さい。茎頂に大型の頭花を単独又は2～3個つけ、13～18枚の白い舌状花が淡黄色の筒状花群を取り囲む。頭花の径は20～30 mmもあり、ノコギリソウ属にしては異常に大きいが、頭花が単独というのも異例である。ドイツ語名はDolomiten-Schafgarbeだそうでドロミテ山塊を代表する高山植物の一つだが、分布範囲はドロミテ山塊の外にも広がる。この植物の分類学上の位置づけは混乱気味のようで、種名と亜種名を逆にしたものや、*oxyloba*を独立した種名として扱う文献などが混在している。初見では少し変わったキク科の花だとは思ったが、ノコギリソウ属とまでは思いが至らなかった。単独で咲くこんなに大きな頭花がノコギリソウの仲間とはね。◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Calniche, Italy

シノニム：*Achillea oxyloba*

Asteraceae　　*Achillea clavennae*

キク科　ノコギリソウ属　英語名：Silvery Milfoil

国内に自生する近縁の種：ノコギリソウ、エゾノコギリソウ

中部ヨーロッパとアルプス東半部の標高1,500～2,500 m地帯に自生し、草丈10～30 cmになる多年草で、岩礫地に多く生える。葉には絹毛が密生し、銀白色を帯びた緑色の羽状複葉で、裂片は披針形。根生葉には長い葉柄があり、長さは4～8 cm。茎葉は小さく、柄はない。頭花は5～25個が散房状につき、白い舌状花と濁白色の筒状花からなって、径は10～20 cm。日本にはノコギリソウ属は２種しかないが、ヨーロッパには16種以上自生するようだ。しかし、どれも白色か淡紅色の花をつけ、あまり目立つ存在ではない。その中で、本種は白っぽい葉をつける２種の中の一つで、頭花も白っぽいので他の仲間よりは目立つ存在である。観光客がぞろぞろ歩くTre Cimeのハイキングルート脇では、これがもっとも数の多い花の一つであった。

◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Asteraceae　　*Achillea erba-rotta* subsp. *moscata*

キク科　ノコギリソウ属　英語名：Musk Milfoil, Musk Yarrow

国内に自生する近縁の種：　ノコギリソウ、エゾノコギリソウ

中部アルプスとアペニン山脈に分布し、標高1,500～3,500 mの岩場やガレ場に生える多年草で、草丈は12～18 cmほど。全体に殆ど毛がなく、木質化した茎は地を這い、花をつける枝が立ち上がる。英語名が示すように強い芳香がある。鮮緑色の葉は長さ25～30 cmの披針形～さじ形で、両縁に各々4～7個の鋸歯がある。茎葉は無柄で互生し、鋸歯があって上部では長さ11～22 mm の線形となる。頭花は3～25個が散房状につき、頭花の径は10～15 mmで、筒状花は白みがかった黄色である。Collins社の”Alpine Flowers of Britain and Europe”ではアルプス南西部に自生する*A. erba-rotta*とアルプス中部の*A. moscata*を各々独立した種としていたが、最近の分類学では、両者を同じ種の亜種同士として扱っているようだ。

◇2016.07.17　Kreuxboden, Saastal, Switzerland

シノニム：　*Achillea moscata*

Asteraceae

Achillea millefolium
セイヨウノコギリソウ

キク科　ノコギリソウ属　英語名：Yarrow, Common Yallow

国内に自生する近縁の種：ノコギリソウ、エゾノコギリソウ

これは、日本ではセイヨウノコギリソウと呼ばれるおなじみの花である。北半球の温帯域に広く分布し、分布域は中国に達するが日本には自生しない。一方、英国には自生するという。しかし、日本国内では大分前から帰化しており、繁殖力の強い植物なので日本中に蔓延っているのかと思っていたが、北海道と本州の一部で繁殖しているだけだという。庭植えにされていることが多いので、どこででも見かける様な気がしていたが、野外での分布域は限られているのかも知れない。本種は、ヨーロッパでは標高2,800 mまでの草地や荒れ地に生え、草丈は30〜80 cm。茎は直立し、花序を作る部分で分岐する。葉は長楕円状で長さは10 cmほどあり、2〜3回羽状に深裂するので、国内の在来種とは簡単に見分けが付く。また、その終裂片は糸状に細く、ヨーロッパに数多くある同属の中でも最も繊細な構造の葉といえよう。花色は白色〜淡紅色と変化するが、私の印象では白色が多いように感じている。

◇2016.07.19 Sunnegga, Mattertal, Wallis, Switzerland

Asteraceae　　*Adenostyles alliariae*

キク科　アデノスティレス属　英語名 : White-leaved Adenostyle, Adenostyles
国内に自生する近縁の種:　なし

中部〜南部ヨーロッパ原産の多年草で、ピレネー、アルプス、アペニン山脈の、標高2,700 mまでの林内、渓流沿い、湿った岩礫地などに生える。全体が綿毛に被われて、草丈は50〜150 cm。根生葉は長さ6〜9 cm、巾12〜14 cmの三角状心形〜腎形で、粗い鋸歯と長い葉柄がある。茎葉は互生し、上方に向かって小型化して茎を抱く。花序は散房状で毛のある花柄を持つ多数の小頭花からなる。小頭花は3〜4個の筒状花で構成されるが、長さ7〜8 mmの筒状花は鮮やかな紅紫色でよく目立つ。花序は、日本のヨツバヒヨドリなどヒヨドリバナ属と似た印象だが、葉の形と付き方は異なっている。アデノスティレス属はヨーロッパと小アジアに分布し、ヒヨドリバナ属はアジア東部に分布するので、両者の分布域は重ならない。この植物は、渓流沿いの草原で群生することが多く、鮮やかな花の塊はよく目を引く。
◇2015.07.04　Bai de Dones, Alpi Dolomitiche, Italy

Asteraceae

Antennaria dioica
エゾノチチコグサ

キク科　エゾノチチコグサ属　英語名: Catsfoot

国内に自生する近縁の種: この種しかない

ヨーロッパとアジアの冷温帯に広く分布し、北米ではアラスカ州にだけ自生する雌雄異株の多年草で、草丈は10～20 cm。根生葉は長さ4 cmのへら形で、ロゼット状につく。花のつく茎には小さな線形の葉が螺旋状につく。茎頂に径6～12 mmの頭花を数個つける。雄株の頭花は濃紅色～淡紅色の筒状花のみからなるとされるが、フレンチアルプスでは全体に色の濃い頭花を多く見たものの、シャモニー付近で見たのは、中心部の筒状花は紅色だが周辺部の筒状花が白い頭花ばかりであった。雌株の頭花（右下の写真）は全体が白色で、花冠は糸状である。この種は、日本では北海道の限られた場所にだけ生え、絶滅危惧IB類に指定されている。しかし、私は北海道では自生株をまだ見たことがない。日本の図鑑では白い雄花を示しているものが殆どなので、濃紅色の花は国内では珍しいのかも知れない。◇雄株：2012.06.17 Izard Pass, French Alps, France、　雌株：2012.06.16 Briancon の北西

Asteraceae

Antennaria cf. *media*

キク科　エゾノチチコグサ属　英語名: Rocky Mountain Pussytoes

国内に自生する近縁の種: エゾノチチコグサ

北米大陸西部に分布する多年草で、亜高山～高山帯の岩礫地、草地、雪田跡に生えて草丈は5～13 cm。根生葉はロゼット状につき、線状披針形～披針形で先が細まり、多毛である。茎は分岐せず茎葉は狭披針形で小さい。茎頂に数個～10個の頭花をつけ、総苞は暗褐色。写真に示すのは雄花で、花は褐色を帯び、総苞片は黒緑色である。エゾノチチコグサ属は国内では前ページの１種しかないが、北米には多数の種があり、雌雄異株で違う花を付けることもあって鑑定が難しい。ここに示すのは*A. media*としているが、*A. lanata*、または別の種の可能性もあるのでcf. (confer: 確信はないが可能性が高いと判断しているという意味）をつけてある。一方、ヨーロッパ大陸には３種分布しており、 こちらの方は見分けはそんなに難しくはない。

◇2009.07.15 Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Asteraceae *Antennaria racemosa*

キク科　エゾノチチコグサ属　英語名：Raceme Pussytoes

国内に自生する近縁の種：エゾノチチコグサ

カナダ南西部とアメリカ北西部に分布する多年草で、山地の湿った林内や渓流沿いの開けた場所でコロニーを作り、草丈は12～40 cm。葉は根生し、長さ3～10 cmの楕円形で、表面には艶があり、裏面は白毛で密に被われる。コロニー間は葉のついた匍匐枝で繋がっている。茎は直立し、頂部に数個の頭花からなるルーズな円錐花序を出す。雌雄異株で雌株の頭花の方が雄株の頭花より大きい。この種の特色は頭花に長い小花柄があることで、ばらけた花序は他のエゾノチチコグサ属とは異なる雰囲気だ。もっとも、風の強い高山帯では密な花序を作るそうだ。匍匐枝で広がるPussytoesは、グラウンドカバーに適しているとして、広く庭造りに用いられているらしい。

◇2009.07.12 C Level Cirque Trail, Banff National Park, Canada

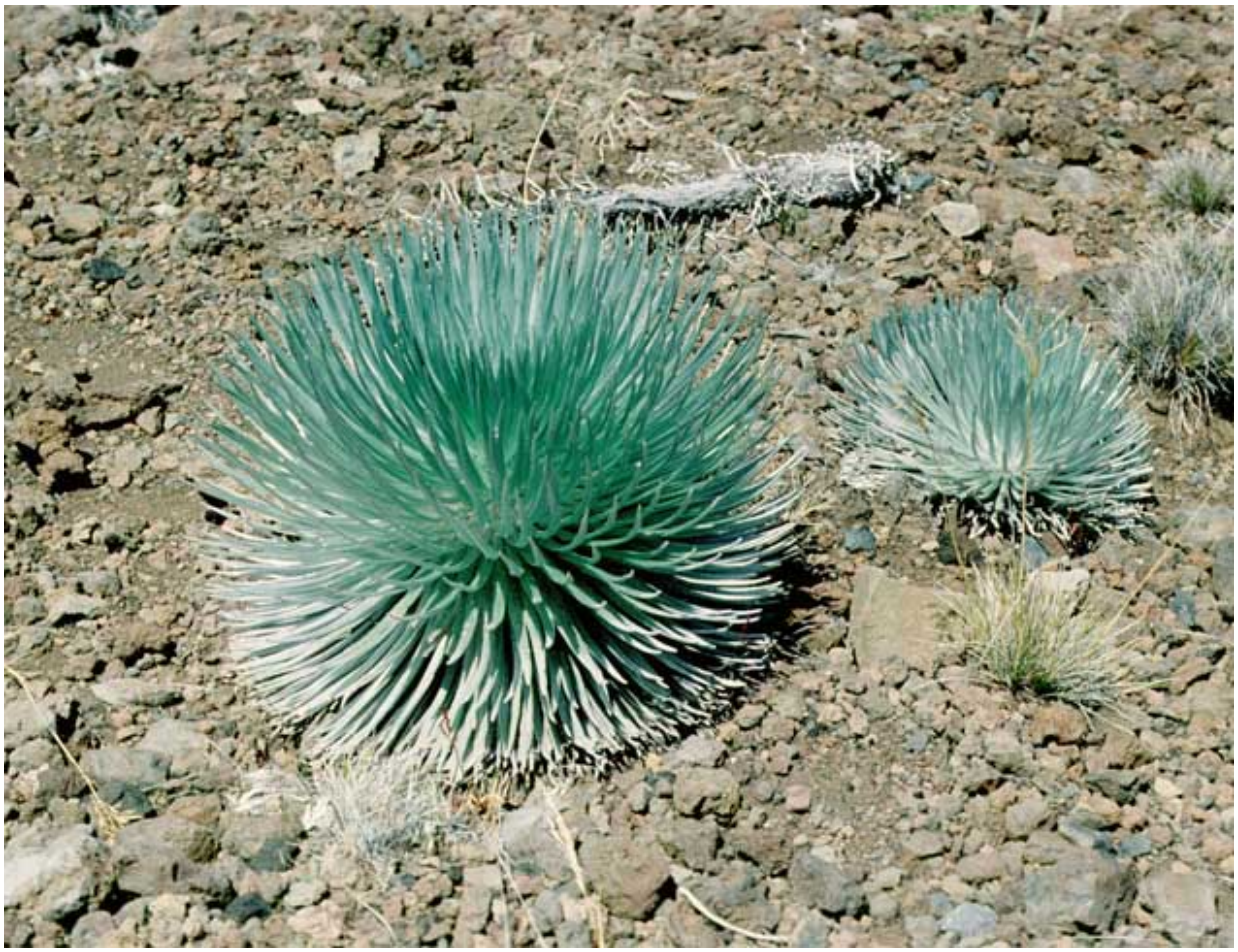
Asteraceae *Antennaria rosea*

キク科　エゾノチチコグサ属　英語名 : Rosy Pussytoes

国内に自生する近縁の種: エゾノチチコグサ

カナダ全域と米国の西部～中西部に広く分布する多年草で、メキシコのカリフォルニア半島にも自生する。生育環境は極めて広く、乾燥地から湿った土地、低地から高山帯までをカバーする。本種は形態変化が大きく、草丈は10～40 cm。本種には短い匍匐枝のネットワークがあり、コロニーを作ることが多い。根生葉は長さ1～4 cmのさじ形～披針形で、灰色の毛に被われ、茎葉は小さな線形で互生する。茎頂に数個の頭花が集まった散房花序を出し、筒状花は白いが、雌株の頭花には淡紅色～濃紅色の総苞片がめだつ。本種には4つの亜種があるが、写真の株がどれに当たるかは識別できていない。園芸の世界では、この種は、もっとも普遍的なグラウンドカバー植物として利用されているという。◇2009.07.16 Lake Moraine, Banff National Park, Canada

Asteraceae　　*Argyroxiphium sandwicense* subsp. *macrocephalum*



キク科　ギンケンソウ属　英語名：Silversword

国内に自生する近縁の種：なし

種レベルではハワイ列島の限られた高山に固有の多年草で、開花するまでの草丈は30～40 cm。マウイ島ハレアカラ山に生えるものと、ハワイ島マウナケア山に生えるものは別亜種とされており、基準亜種はハワイ島のもの。ここに示すのはハレアカラ山に固有の亜種で、絶滅危惧IB類に指定されており、標高2,100 m以上の裸地に生える。発芽後の5～20年間は先の尖った長さ30～40 cmの線形の硬い葉を球状に根生し、葉の全面に絹毛を密生するため銀色に見える。十分に成長した株は長さ70～300 cmの花茎を伸ばし、500～600個の頭花からなる総状花序をつける。各頭花の筒状花は30～600個あり、先端が赤紫色で基部は黄色、葯は暗色である。それを取り囲む舌状花は、紫～ワインレッド～黄色と変異が大きい。私は、博士課程の院生の時に白鳳丸の研究航海途中でハワイに立ち寄り、休日にマウイ島を訪れてこの植物にお目にかかった。その頃は植物に特別の興味があったわけではないが、この植物の美しさは強く印象に残った。◇1969.09.xx　Mt. Haleacala, Maui Island, Hawaii, USA

Asteraceae　　*Arnica cordifolia*

キク科　ウサギギク属　英語名: Heatleaf Arnica

国内に自生する近縁の種: エゾウサギギク、オオウサギギク、チョウジギク

北米大陸西部～五大湖地方に広く分布する多年草で、針葉樹林や山地の草地に生え、草丈は40 cmほどになる。葉は長い柄のある心形～三角状心形で、分岐しない茎に2～4対が対生し、縁には細かい鋸歯がある。茎と葉の表面には細毛がある。茎頂に1～５個の長い柄のある頭花をつけ、径3 cmほどの頭花は、黄金色の筒状花を鮮黄色の舌状花が取り囲む。花弁は総苞片より長い。北米大陸にはウサギギク属の種や亜種が沢山あるが、これは最も普通のArnicaだそうで、実際に、私が最近の２回の北米撮影旅行中に見たArnicaは殆どがこれであった。 写真の葉は全縁に近いが、この他に、細かい鋸歯や粗い鋸歯など変化に富んだ葉が見られる。

◇2009.07.15 Helen Lake Trail, Banff National Park, Canada

Asteraceae *Arnica montana*

キク科　ウサギギク属　英語名：Medicinal Leopard’s Bane

国内に自生する近縁の種：エゾウサギギク、オオウサギギク、チョウジギク

これはヨーロッパに固有とされる多年草だが、英国、イタリア半島とバルカン半島には分布しないらしい。また、シベリアや、米国北西部の限られた場所にも分布するとの記述もある。この種は、標高3,000 mまでの貧栄養の草地に生え、草丈は20～60 cm。茎には毛があり、傷つけると強いアロマ臭がある。殆どの葉は根生葉で、楕円～矩形で全縁の葉がロゼット状につき、地面に接するように展開する。茎葉は1～2対あり、鱗片状で小さい。頭花は通常１個だけつき、径4.5～6 cmもあって長い舌状花が平開する。これは薬草として有名な植物だけに、ネットで検索すると薬用に関する記事や、薬品としての販売に関する記事があふれ返っている。ウサギギク属は北米に多くの種があるが、ヨーロッパでは２種しか検索できなかった。日本国内にはチョウジギクを加えて３種ある。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Asteraceae *Artemisia glacialis*

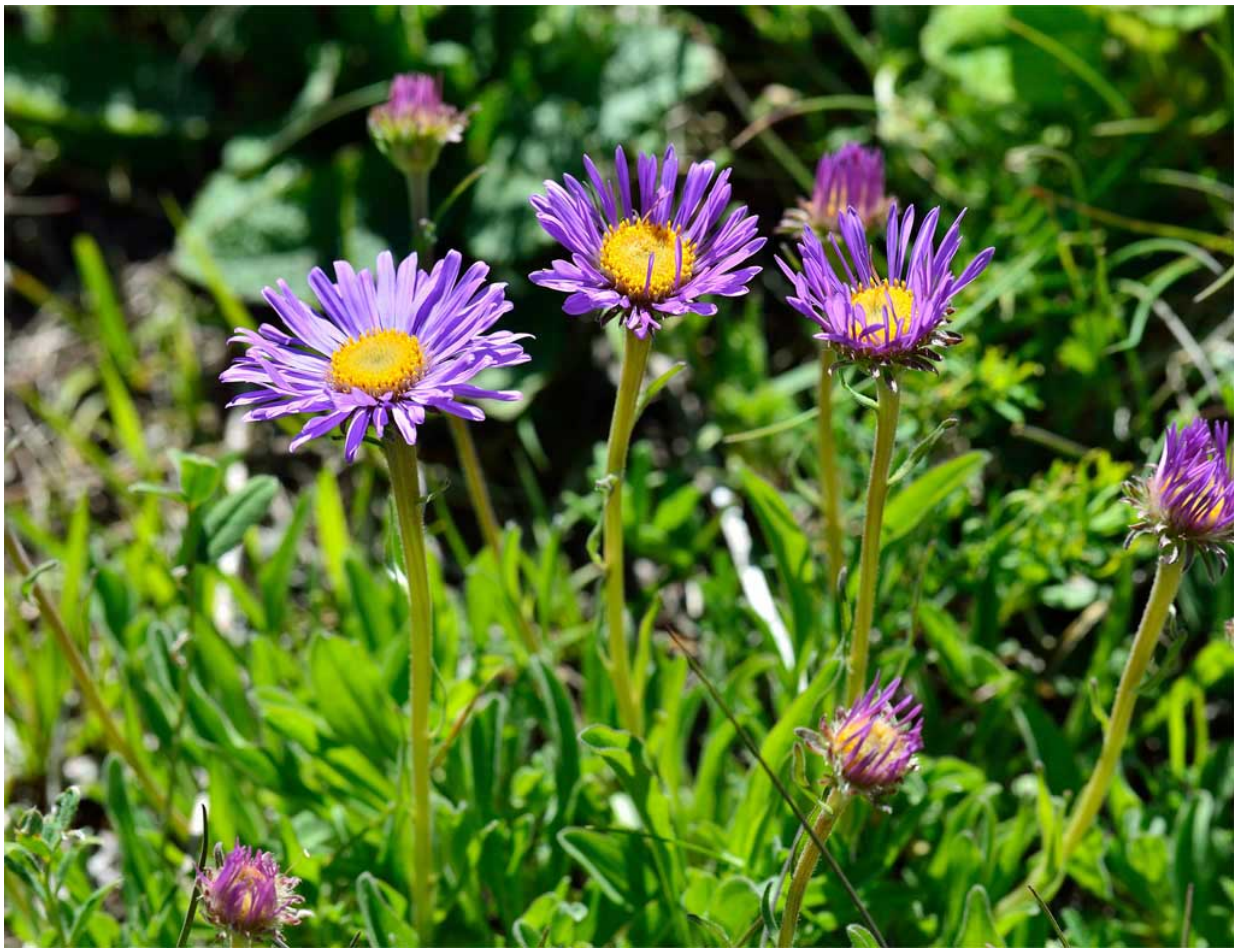
キク科　ヨモギ属　英語名：Glacier Wormwood

国内に自生する近縁の種：サマニヨモギ、ハハコヨモギ、タカネヨモギ

ピレネー山脈東部と西部～南部アルプスに固有の多年草で、標高1,900～3,200 m地帯の、岩場、ガレ場、モレーン上などに生える。草丈は10～20 cmで全草に強い芳香があり、古くからリキュール製造や胃腸薬の原料として利用されてきた。茎や葉に毛が多く、白味を帯びた青緑色を呈する。葉は掌状に裂け裂片は線形である。茎頂に黄色い頭花3～10個からなる半球形の散房花序を出し、頭花は径4～6 mmで、黄色い筒状花のみで構成される。黄色い頭花が密集した散房花序は、日本のキク属イワインチンを連想させが、全体の作りは間違いなくヨモギ属であり、余り見かけない形態のヨモギ属植物である。もっとも、私は見たことがないが、図鑑で見る日本のハハコヨモギには、本種との多少の類似性が認められる。 ◇2016.07.18 Unterrothorn, Mattertal, Wallis, Switzerland

Asteraceae

Aster alpinus



キク科　シオン属　英語名：Alpine Aster, Blue Alpine Daisy

国内に自生する近縁の種：イソギク、シオン、ヨメナなど

ヨーロッパに固有の多年性高山植物で、アルプスとアペニン山脈に分布し、日当たりの良い裸地や草地に生えて、草丈は15～30 cm。アルタイ山脈と中央アジアには変種（var. *vierhapperi*）があるが、これは北米の一部にも分布する。従って、ここでも正式な学名にはvar. *alpinus*を加えるべきであろうが、この変種を記載した信頼できる英文情報が見つからなかった。この植物の葉は殆どが根生し、長さ5 cmほどの披針形～さじ形で鋸歯はない。頭花は径5 cmほどで茎頂に１個つき、黄色い筒状花を青紫色の舌状花が取り囲む。ムカシヨモギ属のミヤマアズマギクによく似た花だが、こちらの方はシオン属なのが不思議な感じだった。しかし、調べてみたらシオン属は舌状花が一重で、ムカシヨモギ属は多重なのだそうだ。◇2012.06.16 Granon Pass, French Alps, France

Asteraceae *Aster bellidiastrum*

キク科　シオン属　英語名：False Aster

国内に自生する近縁の種：シオン、ヨメナなど

これはヨーロッパに固有の多年草で、アルプスやアペニン山脈で標高900～2,800 mの草地や荒れ地に生え、草丈は5～25 cm。ロゼットを作る根生葉はさじ形で中央脈が明瞭にくぼみ、やや肉厚で少し艶があり、鋸歯はない。花茎は分岐せず、茎頂に径2～4 cmの頭花を 1 個平開する。Collins社の図鑑では、頭花には黄色い筒状花と白色～ピンク色の舌状花があるとなっているが、私はピンク色の花を見た記憶がない。白い花は、ごく一般的なキク科の花で特にどうということはないが、日本には、草丈が低くて大きな白花をつけるシオン属はない。この花を始めて見た時の印象は、花は立派で、葉が少し変わっているかなといったところ。◇2012.06.22
Balme Pass, Chamonix Mt-Blanc, France

Asteraceae

Aster flaccidus

キク科　シオン属　英語名 : Weak Violet Aster

国内に自生する近縁の種 :　イソギク、シオン、ヨメナなど

これは、中国西部からウズベキスタンやイランにかけての標高3,600～5,200 m地帯で、湿った岩礫地や草地などに生える多年草である。草丈は、生育環境によって3～30 cmと変化する。根生葉は倒披針形で縁は波打ち、根元にかたまってつく。茎は直立し、披針形の小さい茎葉がつくが、ないことも多い。茎には白い毛が生え、上部ほど密度が高い。茎頂に径3～4 cmの頭花が 1 個つき、中心部に最大60個ほど集まった筒状花を、長さ1.2～1.5 cmで淡赤紫色の舌状花が取り囲む。総苞片には毛が密生する。高山に生えるためか、キク科にしては極めて小さい葉が根元にかたまってつき、相対的に大きな花が上向きに平開するのが印象的であった。折角通ったクンジュラブ峠（標高4,700 m）ではあったが、歩かずに車で着いたため高山病で息苦しく、あまり歩き回ることが出来なかった。そのため、ここで観察できた高山植物が少なかったのが残念である。◇1993.08.02 Khunjerab Pass （標高4,700 m）, Pakistan-China border

Asteraceae *Bellis perennis*

キク科　ヒナギク属　英語名：Daisy, Lawn Daisy

国内に自生する近縁の種：なし

これは、可愛い花ではあるが世界中の芝生に入り込んで嫌われ者の、ヒナギクの野生株だ。ヨーロッパの西部、中部、北部に自生する草丈の低い多年草で、標高2,500 mまでの草地や荒れ地に生える。葉は長さ2〜5 cmの倒卵形〜へら形で、根元に集まってロゼット状となる。芝生では、芝刈り機の攻撃に耐えるため地表に張り付いたように展開するが、標高1,900 mの山腹で出会った写真の個体は、本来の伸びやかな草姿である。頭花は径2〜3 cmほどで、白毛の密生した茎の先に１個つき、黄色い筒状花群を白色の舌状花が取り囲む。舌状花は、先端が赤味を帯びることも多い。総苞片は緑色で、２列に配置されている。茎頂に１個だけ頭花をつけるキク科植物は、属は違ってもよく似たものが多く、野外で見分けの付かないことが多い。写真の個体も、宿に帰って図鑑を調べてから、初めてヒナギクだと分かった次第である。この花からは美味しいワインが作られるというのだが、まだお目にかかったことがない。◇2015.06.29 Innsbruck近郊, Austria

Asteraceae *Carduus defloratus*

キク科　ヒレアザミ属　英語名: Alpine thistle

国内に自生する近縁の種: なし

これは、ピレネー山脈とアルプスに分布する多年草で、標高3,000 mまでの草地、ガレ場や明るい疎林などに生え、草丈は30～100 cm。茎は無毛または微毛で上部には葉がない。葉は無毛～微毛の披針形で長さ8～12 cm。羽状に裂けて、裂片には刺のある鋸歯がある。茎葉は互生する。上部で分岐した茎頂に、通常は一つの頭花をつける。頭花は紅紫～紫色で普通は直立し、径は20～30 mm。日本のノアザミに似た花だが、総苞は丸くて総苞片が放射状に突き出す点で異なる。より正確には、総苞片は無毛の線形で直立し、下部のものはS字状に彎曲する。◇2007.06.24　First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Asteraceae *Carduus nutans*

キク科　ヒレアザミ属　英語名: Musk thistle, Nodding thistle

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパから中国西部までのユーラシア大陸の広い範囲と北アフリカに分布する２年草で、アルプスでは標高2,500 mまでの草地や荒れ地に生え、草丈は1〜1.5 m。茎はよく分岐し鋭い刺と綿毛がある。根生葉はロゼット状につき、長さ30〜60 cmの２回羽状複葉で、表面は蠟質で裂片の先には黄褐色の刺がある。葉柄は短くて幅広で翼がある。茎葉は長さ5〜15 cmで互生し、上に向かって小型化する。茎先に径3〜5 cmの頭花をつけ、開花が進むと横向からうつむき加減になる。この植物の、全体的な草姿と花色は日本のアザミ属と大きな違いはないが、花がドーナツ状に開花するのが日本人には目新しい。優美な花と、いかめしい総苞片の組み合わせもユニークかな。ちなみに、日本国内には、ヒレアザミ属は分布しない。◇2012.06.19 La Grave西方, French Alps, France

Asteraceae

Catananche caerulea

キク科　△属　英語名 : Cupid’s Dart, Love Plant

国内に自生する近縁の種: なし

南西ヨーロッパとイタリアに固有の多年草で、乾いた草地に生えて草丈は45～70 cm。長さ20～30 cmの線形の葉には綿毛が密生し、乾燥に耐えられるようだ。花は長く伸びた細い茎先に1個つき、先が切れ込んだ矩形の花弁は淡赤紫色～ラベンダー色で基部が濃紫色。古代ギリシャでは媚薬の成分として使われたと言われており、“キューピッドの矢”という英語名がついている。花も綺麗だし名前もユニークなので、欧米では人気のある園芸植物のようで、ネット上には種子の販売に関する情報があふれかえっている。この写真は、フランスとの国際共同研究で、先駆的なジオパークのあるバレム近辺での地質調査の折に、道路脇の草地で撮影したもの。長く伸びた細い茎先で、美しい花が風に揺れているのが印象的であった。

◇2000.06.14　Barrem北方, Provance, France

Asteraceae

Centaurea jacea
ヤグルマアザミ

キク科　ヤグルマギク属　英語名 : Brown Knapweed
国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパの中部～南部に分布する多年草で、草地、牧場、荒れ地に生え、草丈は20～80 cm。茎は硬く、直立してよく分岐し、葉は広披針形～披針形で、鋸歯はないかあってもまばらである。下部につく葉には柄があり上部の葉は無柄で、灰色がかった短毛が生える。枝先に赤紫色の頭花を１個つける。筒状花を取り巻く舌状花は斜開して、先端は分裂する。筒状花の雄しべは５本で、雌しべは２個ある。総苞は樽形で淡赤褐色の総苞片は重なり合う。タンニンが多いため牛はこれを食べないそうで、牧場では群落をなすところも多いという。日本にはヤグルマギク属は自生しないが、ヨーロッパには多くの種があり、どれも美しい花を咲かせる。本種も美しい花を咲かせるが、日本名があるくらいで、国内でも園芸用にも栽培されており、帰化植物として野生化してもいるようだ。 ◇2007.06.23 ボージュ山地、France

Asteraceae　　*Centaurea maculosa*

キク科　ヤグルマギク属　英語名：Spotted Knapweed

国内に自生する近縁の種：なし

これは、中部ヨーロッパに分布する多年草で、荒れ地や道路脇に生え、草丈は30～80 cm。ユーラシアに広く分布するという記述もある。葉は淡灰緑色で細かい毛に被われ、根生葉は長さ15 cmほどでロゼット状につき、深裂する。茎葉は互生し、上部に向かって小さくなり、切れ込みも浅くなる。茎は細くて毛に被われ、根元から1～20本立ち上がり、上半部で良く分岐する。枝先に１個ないしは2～3個の頭花をつけ、筒状花と舌状花は淡紅紫色。頭花の基部を黄緑色～褐色の萼片が取り囲む。萼片には明瞭な中央稜があり、先は黒いので斑点のように見え、これが英語名の由来となっている。牛はこの植物をあまり好まないので、放牧地ではこれが増殖する。この花は典型的なヤグルマギクの花で、色も形も美しいが、米国では侵略的外来植物として目の敵にされており、いくつかの州では抜き取りが奨励されているという。◇2005.0.930　Piobico, Marche Province, Italy

Asteraceae

Centaurea montana

キク科　ヤグルマギク属　英語名：Perennial Cornflower, Mountain Cornflower

国内に自生する近縁の種：なし

ヨーロッパに固有の多年草で、南部の山岳地帯で特に数が多く、北部では稀となる。中部～西部ヨーロッパの丘陵～山岳地帯では、標高2,100までの岩れき斜面、草地、疎林下などに生える。草丈は30～70 cmで、茎は直立して分岐せず、綿毛をつける。葉は灰色がかった矩形～披針形で先が尖り、最大長は18 cmくらいで通常は全縁である。頭花は径6～8 cmで茎先に通常1個つき、赤紫色の筒状花を、先が深裂した青色の舌状花が取り囲む。総苞は径10～15 mmで、総苞片には黒くて短い櫛状の付属物がある。ヨーロッパには多くのヤグルマギク属があるが、本種は全縁の葉を持つのが特徴である。また、赤紫色系の舌状花をつける種が多い中で、*C. triumfetti* (p. 47)と本種の舌状花は青紫色なので見分けが付きやすい。この種は園芸に広く利用されているが、日本に帰化して野生化しているヤグルマギク属6種の中には含まれていない。◇2012.06.16 Briancon近郊, French Alps, France

Asteraceae

Centaurea nebosa

キク科　ヤグルマギク属　英語名: Nerved Knapweed

国内に自生する近縁の種: なし

東部～南部アルプス、カルパチア山脈、バルカン半島などに分布する毛の多い多年草で、標高1,500～2,500 mの牧草地、疎林、岩場などに生える。茎は通常分岐せず、草丈は10～40 cm。葉はくすんだ緑色で長さ9～12cmの披針形～長楕円形。茎に互生して下部の葉には柄があり、葉縁には不揃いで粗い鋸歯がある。上部の葉には柄がなく、基部は茎を抱く。頭花は茎先に 1 個つき、径4～5 cm。筒状花と舌状花は共に鮮やかな赤紫色で、周辺の舌状花は内側の花よりもはるかに長い。総苞は径17～22 mmの球形で、総苞片は長い短褐色の毛のある付属体で被われる。

◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switserland

シノイム： *Centaurea uniflora* subsp. *nebosa*

Asteraceae

Centaurea triumfetti

キク科　ヤグルマギク属　英語名：Squarrose Knapweed, Triumfetti's Cornflower
国内に自生する近縁の種：なし

Collins社の"The Alpine Flowers of Brirain and Europe"によれば、この種は「西部～南部アルプスに分布する多年草で、岩場や小石混じりの草地に生え、茎には狭い翼があり、葉は緑色で披針形～線形」とある。しかし、ネット情報では本種はヨーロッパと西アジアに広く分布し、12の亜種があるそうだ。しかし、英語の詳しい記載のある情報がなくて、詳細は不明だ。ネット上には断片的に種々の情報があるが、生息地の標高は300～1,700 m、草丈は30～40 cm（最大80 cm)、頭花の径は5 cmほどとする情報が現実的だろう。頭花の色と形は*C. montana* (p. 45)とよく似ている。写真の個体は干上がった河原に生えていたもので、どの亜種なのかは今のところ分からないが、緑色のスッキリした葉と2色染めの頭花の組合わせは実に美しい。前ページの*C. nebosa*と同様に、総苞片には長い毛状付属体が認められる。
◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

Asteraceae　　*Cicerbita alpina*

キク科　△属　英語名: Alpine Snow-thistle, Alpine Blue-snow-thistle

国内に自生する近縁の種: なし

イタリア半島中・南部を除くヨーロッパ全域に分布する草丈50〜150 cm（2 mに達することも）の多年草で、標高1,000〜2,000 mの林内や渓流脇の草地などに群生する。太い茎は通常は分岐せず、上部は紫色を帯びて赤褐色の腺毛がある。最下部の葉は特徴的な羽状複葉で、先端の小葉は大きな三角形で他の小葉は細長い。葉は無毛で下部の葉には柄があるが、上部のものは小型で無柄で茎を抱く。茎頂に細長い総状花序をだし、淡紫色の頭花を多数つける。頭花は径20〜28 mmで、舌状花の先は平で3〜4個の切れ込みがある。舌状花の配列は乱れがちで、個々の頭花は特に美しくはないが、背の高い茎が並び立ち、その先に紫色の花序があるので、その存在感はなかなかのものである。WengenからKleine Schideggへ登る登山電車の線路脇には、この種の大きな群落が続く場所があって壮観だった。◇2016.07.15 Wengen, Lauterbrunnental, Berner Oberland, Switzerlamd

Asteraceae

Cirsium arvense
セイヨウトゲアザミ

キク科　アザミ属　　英語名 : Creeping Thistle

国内に自生する近縁の種: エゾノキツネアザミ、オニアザミ、ノアザミなど

　ヨーロッパ原産の多年草で草地、荒れ地、田舎道の路端などに生え、草丈は1 mほどになる。根は長さ3 mにも延びて地中を這い、切られたところから新たな芽を出すので、農家の嫌われ者である。種が穀物袋に付着して運ばれたため、今では世界中に広がっており、道内でも大きな群落となっているところを見かける。茎は直立して刺がないが、互生する葉は全縁か大きな切れ込みがあって、鋭い刺が目立つ。全体的には国内に自生するエゾノキツネアザミと似かよるが、径10～15 mmほどの頭花はだらしなく垂れ下がった筒状花で被われ、色は美しいものの風情がない。スイスでは亜高山帯以上で見かけることは無く、低山帯の路端でよく見かける。

◇2016.07.14　Schynige Platte下部、Berner Overland, Switzerland

Asteraceae *Cirsium hookerianum*

キク科　アザミ属　英語名：White Thistle, Hooker's Thistle

国内に自生する近縁の種：オニアザミ、ノアザミ、フジアザミなど

カナダ南西部と米国北西部に分布する２年草で、草地、岩れき斜面、疎林などに生え、草丈は40～100 cm。根生葉は長さ30 cmで幅5 cm。茎葉は互生し、線形～矩形～披針形で長さは5～25 cm。表面は長い軟毛で被われ、縁には浅い鋸歯がある。茎頂に３個ほどの頭花が付き、頭花の高さは3～4 cmで、筒状花は乳白色またはピンク色。舌状花はない。総苞片は細長く、緑色～帯緑色で先端に刺があり、広がり気味で全体に綿毛が密生する。このアザミは、葉は貧弱だし、花も地味であまり魅力的ではないが、白い花を咲かせるアザミは国内にはないので面白い。種小名は英国の探検家の名前から採られたという。◇2009.07.16　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Asteraceae　　*Cirsium oleraceum*

キク科　アザミ属　　英語名 : Cabbage Thistle, Siberian Thistle

国内に自生する近縁の種 : オニアザミ、ノアザミ、フジアザミなど

　ユーラシア大陸の広範囲に自生する多年草で、低地～低山帯の湿り気の多い草地、川沿いの湿地、土手などに生え、草丈は1.5 mほどになる。茎は分岐しないことが多いが、少数の分岐のある個体も見られる。下部の茎葉は羽状に裂け、裂片には細かい鋸歯と細い刺がある。上部の葉は先の尖った広卵形で、不規則で弱い鋸歯がある。茎頂に径2.5～4 cmの頭花が2～6個付き、淡黄色の筒状花から蘂が突き出る。スイスでは、低山帯を走る鉄道の車窓からよく目にするが、開花前の頭花は葉に包まれたラビオリのような形で、日本に数あるアザミには見られない形態が興味を引く。地味な花色で特に美しい花とは思わないが、印象に残るアザミである。本種の刺は硬くないので家畜は好んで食べるし、若い葉と茎は山菜として利用できる。根も食べられるらしいが、キクイモと同様にイヌリンが含まれているという。

◇2016.07.14　Schynige Platte下部、Berner Overland, Switzerland

Asteraceae　　*Cirsium spinosissimum*

キク科　アザミ属　英語名 : Spiniest Thistle

国内に自生する近縁の種: オニアザミ、ノアザミ、フジアザミなど

中部〜南部ヨーロッパ原産の多年草で、アルプス、アペニン山脈、バルカン半島などで標高3,100 mまでの草地や牧場に生え、草丈は20〜120 cm。根生葉はロゼット状につき、羽状に中裂して棘の多い鋸歯がある。茎葉には葉柄がなくて茎を抱くが、上部の葉がクリーム色で立ち上がるのでよく目立つ。茎頂に黄白色の頭花を2〜10個つけるが、地味な花で美しいとは言い難い。頭花は筒状花のみからなり、舌状花はない。総苞片は直立して長い刺がある。とにかく「棘が特別多い」という種小名が示すように、変わった形態の大型のアザミなので、開花状況とは無関係によく目立つ。放牧地で群生することが多いのは、この恐ろしげな刺のおかげで、家畜が近寄らないからだろう。スイスでもオーストリアでも、冬はスキー場になる斜面で特に多く見かける。　◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Asteraceae

Craspedia uniflora

キク科　△属　英語名：Common Billy's Buttons, Woolyhead Plant

国内に自生する近縁の種：なし

これは、オーストラリアとニュージーランドに広く分布し、海岸や台地に生える多年草で、草丈は50 cmほど。葉は根生し、長さ5〜25 cmの広披針形〜狭楕円形で鋸歯はなく、微毛がある。花茎は直立し、細長い鱗片葉が互生する。長く伸びた花茎の先に白色〜黄色の頭花が１個つく。頭花は径15〜35 mmの卵形〜球形で、小さな花が多数密集する。葉の目立たない茎頂に、鮮黄色の丸い花が群がって咲くので、遠くからでもよく目立つ。オーストラリアでは、ドライフラワーのような花をつける種が他にも多くみられるが、この花も、咲いている時からドライフラワーのような雰囲気である。*Craspedia*属は北部準州を除くオーストラリア全州とニュージーランドに分布し、25種あるようだが、海岸から高山帯までの多様な環境下で生育する。

◇1991.11.03 Tharwa西方, Victoria, Australia

Asteraceae

Crepis aurea

キク科　フタマタタンポポ属　英語名：Golden Hawksbeard

国内に自生する近縁の種：エゾタカネニガナ、フタマタタンポポ

ヨーロッパの中部～南東部に固有の多年草で、アルプスでは標高1,400～2,800 mの草地や礫地に生える。細長くて毛のある茎は通常分岐せず、草丈は5～30 cm。葉は全て根生してロゼットとなり、披針形で羽状に切れ込み、頂裂片が大きい。茎の頂に通常は１個の頭花をつけ、頭花の径は20～30 mmで、花色は赤橙色～黄色。総苞片は披針形で暗緑色の毛がある。黄色やオレンジ色のキク科の花はどこにでも沢山あるが、この花は鮮やかな赤味を帯びたオレンジ色なので、よく目立つ。道内で広く帰化しているコウリンタンポポと似た花色だが、より大きいこの花の方がはるかに存在感がある。舌状花の配置はばらばらで、整った美しさはないが、一種独特の雰囲気である。日本にはフタマタタンポポ属は２種しかないが、ヨーロッパには10数種もあるようだ。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Asteraceae　　*Doronicum columnae*

キク科　△属　英語名：Heart-leaved Leopard's Bane
国内に自生する近縁の種：なし

これは、アルプス東部からカルパチア山脈にかけて分布する多年草で、アペニン山脈では数が多く、アルプスではやや少ない。アルプスとアペニン山脈では、標高500～2.300 mの岩礫地や明るい雑木林に生えるが、群生することが多くて草丈は15～60 cm。全体に無毛か微毛がある。葉は多くが根生し、葉身は鋸歯のある三角状心形で径は2～3cm、長さ3～6 cmの葉柄がある。茎葉には柄がなく、基部は茎を抱く。頭花は茎頂に１個つき、筒状花と舌状花は共に黄色である。頭花の径は2.5～5 cmで、次ページの*D. grandiflorum*よりは少し小さい。*D. grandiflorum*は太くて短めの茎だが、本種は長く伸びた茎頂に小さめの花が単生し、群れをなして風に揺れているのが印象的である。◇2015.07.02　Valparola Pass, Alpi Dolomitische, Italy

Asteraceae　　*Doronicum grandiflorum*

キク科　△属　英語名：Large Flowered Leopard's Bane
国内に自生する近縁の種：なし

ピレネー山脈、アルプス、バルカン半島北部に分布する多年草で、標高1,400～3,400 mの石灰岩礫地に生え、草丈は10～40 cm。根生葉は卵形で長い葉柄があり、鋸歯がある。茎葉は毛の生えた茎の下半部に互生し、卵形～披針形で茎を抱く。全ての葉に腺毛と普通の毛が密生する。頭花は茎頂に１個つき、径4～6 cmで黄色い筒状花を黄色い舌状花が取り囲む。黄色いキク科の花はどこにでもあるが、この種は草丈が低い割には大きな整った形の花が群生しており、ミニ向日葵のようで、なかなかの器量好しである。それにしても、*Arnica*属、*Buphthalmum*属、*Doronicum*属、*Erigeron*属、*Leontodon*属など、ヨーロッパと北米にはよく似た花を咲かせる属が実に多い。もう少し整理できないものかしらね。◇2007.06.24　First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Asteraceae

Echinops cornigerus

キク科　ヒゴタイ属　英語名: White Globe Thistle?

国内に自生する近縁の種: ヒゴタイ

これは、アフガニスタンから中央ネパールまでのヒマラヤ山地に分布する多年草で、草丈は50〜100 cm。標高2,400 m〜3,500 mの裸地や河原に生える。帯白緑色の葉は長さ15〜30 cmで羽状に中裂し、三角状の鋸歯から長さ2 cmの鋭い刺が突き出す。葉裏は白毛が密生して白っぽい。太い茎頂に径6〜8 cmの球状頭花を１個つけるが、蕾の時は刺状の総苞片だらけで、栗のイガのように見える。花冠は白色の細い矩形で長さ2〜2.5 cm、総苞片より長く伸び、先端の6〜8 mmが５裂して反り返る。裂片は線形である。写真はインダス川上流部の河原に生えていたもので、花はまだ半分しか咲いていない状態だ。これは、九州に自生するヒゴタイの仲間だが、花色の異なる大型の球状頭花と、刺だらけで猛々しい草姿は、ヒゴタイとは随分異なる印象であった。◇1993.08.03　Karimabad, Hunza, Pakistan

Asteraceae　　*Erigeron aureus*

キク科　ムカシヨモギ属　英語名：Golden Fleabane, Golden Daisy
国内に自生する近縁の種：アズマギク、ミヤマノギク

北米大陸の、ブリティッシュコロンビア、アルバータ、ワシントン州の一部に固有の多年草で、山地帯～高山帯の草地や岩れき斜面に生え、草丈は3～15 cm。根生葉は長さ2～6 cmのさじ形で先は尖らず、茎と同様に毛が生える。茎葉は数枚あり上方に向かって急に小さくなる。茎頂に頭花を１個つけ、大きさは径2～3.5 cm。黄色い筒状花が集まって7～16 mmの中心部を構成し、長さ6～9 mmの舌状花が、25～70個集まってそれを取り囲む。総苞片は長さ5～8 mmで紫色を帯び毛が密生する。この植物は、葉はアポイアズマギクにそっくりだが、日本には黄色い花のムカシヨモギ属はなく、珍しい花を見たという感じがした。低い草丈にしては大きな花で、いかにも高山植物然として好印象である。◇2009.07.12　C Level Cirque, Banff National Park, Canada

Asteraceae　　*Erigeron compositus*

キク科　ムカシヨモギ属　英語名：Cut-Leaf Daisy, Dwarf Mountain Fleabane
国内に自生する近縁の種：アズマギク、ミヤマノギク

米国西部、カナダ、グリーンランドに分布する多年草で、低地から高山までの草地や岩れき斜面、崩壊斜面などに生え、草丈は3～25 cm。根生葉には長い葉柄があり、葉身は長さ1～8 cmの1～4回三出複葉で、裂片は線状になる。長い茎の上部は紫色を帯び、茎葉は少ない。茎葉は線形で鋸歯はない。茎頂に頭花を１個つけるが、頭花の径は1～3 cm。舌状花は最大長12 mmで、通常は白色だが稀にピンク色か青色。総苞は高さ5～10 mmで総苞片には毛がある。同じ属でも本種の葉は線状に切れ込んで、アズマギクの仲間とはかなり違う。しかし、北米に沢山あるムカシヨモギ属の中には、これほどまでではないものの、葉が切れ込む種が他にもある。
◇2013.06.11 Healy Creek Rd., Banff National Park, Canada

Asteraceae *Erigeron neglectus*

キク科　ムカシヨモギ属　英語名：Neglected Fleabane

国内に自生する近縁の種：アズマギク、ミヤマノギク

東端部を除くアルプス全域に固有の毛の多い多年草で、石灰岩地帯に多く、標高1,800～2,600 mの草地に生えて草丈は5～30 cm。根生葉は柄のあるさじ形～披針形で、縁にだけ毛がある。上部の茎葉には柄が無い。毛の生えた赤紫色の茎の頂きに１個の頭花をつけ、径は20 mmほど。黄色の筒状花を、ライラック色の舌状花が取り囲む。総苞片には毛が密生し、先端部はライラック色を呈する。ネット上には英語の記載情報が全くなく、なぜneglectedなのか分からない。この花は、濃い紫色の茎に淡赤紫色の舌状花の組み合わせで、なかなか洒落た配色である。 ◇2016.07.18 Fluealp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Asteraceae　　*Erigeron uniflorus*

キク科　ムカシヨモギ属　英語名：One-flowered Fleabane

国内に自生する近縁の種：アズマギク、ミヤマノギク

北半球の北極圏と高山帯に広く分布する草丈5～20 cmの多年草で、アルプスでは標高1,200～3,000 mの湿った草地、岩礫地、モレーン上などに生える。葉は殆どが根生し、先の丸いさじ形で基部は葉柄状に狭まり、長さは20～65 mm。茎は毛が多くて分岐せず、少数の茎葉が互生する。茎頂に径15～25 mmの頭花を１個つけ、総苞片は1～2列で、縁には毛が多く、花に密着する。筒状花は開花当初は黄白色だが、時間の経過に伴って紫褐色に変化する。舌状花は淡赤紫色～白色で80～100個あり、長さは6～8 mm。本種は周極分布をする植物で、北米やユーラシアの北極圏では普通に見られるという。前ページの*E. neglectus*がスリムな造りで洒落た配色なのに、こちらは、全体的にがっしりとした造りで地味な配色なのがおもしろい。

◇2015.07.03　Cinque Torri, Dolomite Alps, Italy

Asteraceae

Eurybia sibirica

キク科　△属　英語名：Arctic Aster, Siberian Aster

国内に自生する近縁の種：なし

北米大陸西部からシベリアを経てスカンジナビアまでの周極地帯に分布する多年草で、針葉樹林帯の空き地や砂礫質の荒れ地に生え、草丈は10～50 cm。中国や朝鮮半島にもあるらしい。葉は互生し、長さ2～10 cmの披針形で、縁にまばらな鋸歯がある。花序は1～20個の頭花からなる散房花序で、筒状花は開花当初は黄色だが時間が経つと紫色を帯びるようになる。淡紫色～白色の舌状花は12～50個あり、長さ7～18 mmで、間隔を開けて配列する。花柄には毛があり、総苞片は3～4列に並び、紫色を帯びる。この花は、バンフ国立公園では見かけなくて、ジャスパー国立公園で初めてお目にかかったが、どうやらそこが分布の南限のようだ。とにかく、舌状花がまばらに生えており、普通のキク科植物とは大分感じの違う花だなと感じた。いかにも、周極植物という雰囲気である。◇2009.07.17　Maligne Lake Rd., Jasper National Park, Canada

Asteraceae　　*Hieracium alpinum*

キク科　ヤナギタンポポ属　英語名: Alpine Hawkweed

国内に自生する近縁の種: ミヤマコウゾリナ、ヤナギタンポポ

ヨーロッパに広く分布し、グリーンランドにも生育する草丈10〜30 cmの多年草で、珪質岩地帯で標高1,000〜3,000 mの草地やガレ場に生える。茎を傷つけると白い乳液が出る。この植物は全体が毛に被われるが、特に葉縁の毛が目立つ。葉は殆どがロゼット状に根生し、長さ8 cmまでの長楕円形〜さじ形。茎葉はより小さくて先が尖る。花は茎頂に1個付くが、まれには2〜3個のこともある。頭花の径は25〜35 mmで、80〜120個の黄色い舌状花からなり、筒状花はない。ヤナギタンポポ属はヨーロッパには多くの種があるが、分布が地域的だったり形態変異が多かったりで、同定が難しいグループだとされる。 ◇2016.07.17　Saastal, Wallis, Switserland

Asteraceae　　*Hieracium peletierianum*

キク科　ヤナギタンポポ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：ミヤマコウゾリナ、ヤナギタンポポ

本種は、スイスのWallis州特産の多年草で、亜高山帯の牧草地やガレ場に生える。「スイスアルプス花図鑑」では草丈20 cm以下とあるが、写真の株はもう少し背が高かった。葉は披針形～さじ形で殆どが根生し、長毛が目立つ。頭花は茎頂に単生し、舌状花の花色が鮮黄色ではなく黄白色なのが目に付いた。この種についてはネット上の英語情報が少なく、ここでの同定は間違っているかも知れない。

◇2016.07.19　Eggen→Zermatt, Mattertal, Wallis, Switzerland

Asteraceae　　*Hieracium scouleri*

キク科　ヤナギタンポポ属　英語名：Scouler's Hawkweed

国内に自生する近縁の種：　ミヤマコウゾリナ、ヤナギタンポポ

北米大陸の西部に広く分布する多年草で、山岳地帯の多様な環境下に生え、草丈は30～70 cm。茎は細長くて毛があり褐色。根生葉はロゼット状につき、長さ10～20 cmの披針形で先が尖り、全縁で長毛に被われる。茎の下部につく葉も根生葉と似た形態だが、上部の葉は小さい。茎頂に付く花序は多くの頭花からなり、各頭花には15～45個の黄色い舌状花がある。総苞片は緑色で毛があり、開出しない。同属のミヤマコウゾリナには、大きな茎葉が茎全体に付くのに、こちらの方は葉の目だたない長い茎が伸びるので、かなり違った印象である。◇2009.07. Sunwapta Pass, Banff National Park, Canada

Asteraceae　　*Hieracium villosum*

キク科　ヤナギタンポポ属　英語名：Shaggy Hawkweed, Wooly Hawkweed
国内に自生する近縁の種：ミヤマコウゾリナ、ヤナギタンポポ

これは、ヨーロッパアルプスからバルカン半島～ロシア西部にかけて、標高1,400～2,800 mの石灰岩地帯に生育する多年草。日当たりの良い岩礫地や草地に生え、草丈は10～40 cm。花を除く全体が白色の腺毛で被われる。根生葉は帯白緑色でロゼット状につき、長さ4～9 cmの披針形～楕円形で鋸歯はない。葉裏は密生した毛で被われる。茎は上部で分岐することが多く、披針形の小さな茎葉が互生する。枝先に径40～50 mmで鮮黄色の頭花を１個つけるが、1本の茎に着く花は1～4個である。花はタンポポの花に似ており、舌状花は矩形で先が細かく５裂する。この仲間は、いかにも高山植物という雰囲気で感じの良い花だが、局地的に分布するものを含めていくつもの種があり、同定が難しいものもある。また、最近になって、複数の種が外来植物として国内に入り込んでいるらしい。◇2007.06.25　Kleine Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Asteraceae

Homogyne alpina

キク科　ホモジネ属　英語名：Alpine Coltsfoot, Purple Coltsfoot

国内に自生する近縁の種：なし

北部を除くヨーロッパ全域に分布する多年草で、標高500～3,000 mの山岳地帯で、湿った針葉樹林、雑木林、草地などに生え、草丈は10～40 cm。茎は赤褐色で直立し、白毛に被われて鱗片葉を２枚つける。根生葉は革質で光沢があり、長い葉柄があるが立ち上がることはない。葉身は径３ cmほどの心形～腎形で鈍鋸歯があり、表面は暗緑色でくぼんだ葉脈が目立ち、裏面は淡緑色。この葉は小型のツワブキのようだ。高く伸びた茎頂にゴブレット形の頭花を１個つけ、頭花の径は8～15 mm。総苞片は１列で褐赤色、基部には綿毛がある。花はピンク色で総苞より長く、雄しべは暗赤紫色で目立つ。これは、筆が立っているような花で､小さいながらよく目立つ。ホモジネ属はヨーロッパに３種あるようだが、他に類を見ない形の花なので、アルプスでは人気者の可愛い高山植物である。 ◇2012.06.21　Planplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Asteraceae　　*Hypochaeris uniflora*

キク科　ブタナ属　英語名 : Giant Catsear

国内に自生する近縁の種 : エゾコウゾリナ

アルプスからカルパチア山脈にかけて分布する草丈30〜50 cmの多年草で、標高1,800〜2,600 m地帯の日当たりの良い牧草地や疎林に生える。根生葉は長さ9〜15 cmの倒卵形〜披針形で先が尖り、縁には不揃いの鋸歯があって上向きに立ち上がる。茎には硬い毛があって直立し、小さい茎葉を1枚つけて、頭花の下が膨れる。茎頂に 1 個付く頭花は径4〜6 cmで、鮮黄色の舌状花のみからなる。総苞は長さ2〜2.5 cmあり、黒い毛が目立つ。写真の頭花は舌状花が乱れ気味だが、開花当初はきちんと整った配列である。よく知られているように、帰化植物ブタナ(*H. radicata*)の和名はフランス語で「豚のサラダ」と呼ばれるところから来ており、原産地では豚の餌になるほど沢山生えているということだろうが、北海道でもその名に恥じないほど街中や山野で蔓延っている。しかし、ここに取り上げた種については、それほど群れているのを見たことがない。◇2012.06.16　Granon Pass, French Alps, France

Asteraceae

Lactuca perennis

キク科　チシャ属　英語名：Blue Lettuce

国内に自生する近縁の種：エゾムラサキニガナ

ヨーロッパの中部と南部に分布する無毛の多年草で、標高1,600～2,000 mの乾いた草地や荒れ地に生える。草丈は30～80cmで、茎は上部で分岐する。根生葉は青緑色で細い披針形、最大長25 cmほどで羽状に深裂し、裂片は細くて鋸歯はあったり無かったり。茎上部につく葉は披針形で半ば茎を抱き、上部では鱗片葉となる。頭花は径3～4 cmのライラック色～青色で、良く分岐した長い枝先にほどよい間隔で多数咲き、ニガナ属シロバナニガナのような草姿だが、こちらの頭花ははるかに大きいし、鮮やかな花色で別格に美しい。同属のエゾムラサキニガナはほぼ同じサイズの頭花で、花色もこの花と似ているが、やはり花の美しさはこの花の方が上だろう。本種の舌状花は12～20個あり、総苞は長さ1.2～2 cm。ニガナの近縁とあって茎を切ると白い乳液を出すが、これには鎮静作用を始めとして多様な薬効があるそうだ。 ◇2012.06.16　Briancon近傍, French Alps, France

Asteraceae　　*Leontopodium alpinum*

キク科　ウスユキソウ属　英語名: Edelweiss

国内に自生する近縁の種: ミヤマウスユキソウ、エゾウスユキソウ、ハヤチネウスユキソウ

これは、ピレネー山脈からカルパチア山系までの高山帯に分布する多年草で、主に石灰岩地帯の標高1,700～3,400 mに分布し、草地やガレ場に生える。このエーデルワイスはアルプス３名花の一つに数えられ、スイスアルプスの代表的な高山植物として知られる。全体が白色～灰色の綿毛で被われ、草丈は3～20 cm。茎は分岐せず、狭披針形～楕円形の茎葉が互生する。茎頂に１個つく頭花は筒状花のみからなり、中央にある雄性の小花を数個～10個ほどの雌性小花が取り囲み、その周りをフランネルの質感を持つ苞葉5～15個が花弁状に取り囲む。写真の花はまだ開花初期の段階で、周りの雌性小花は開花していない。ヨーロッパにあるウスユキソウは本種と、ピレネー山脈中部にあるより小型の*L. ivale*（本種の亜種とする説も有力）だけだが、日本には７種あり、本種以上に美しいと感じる花を咲かせるものもある。しかし、このエーデルワイスの花には格別の存在感があり、満開状態の花はアルプスのシンボルといわれるのにふさわしい風格がある。◇2016.07.18 Fluealp, Wallis, Switzerland

Asteraceae　　*Leucanthemopsis alpina*

キク科　レウカンセモプシス属　英語名 : Alpine Moon Daisy

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパ全域に分布する背の低い多年草で、標高1,800〜3,000 mのガレ場や岩礫地に生え、草丈は5〜15 cm。写真の株には細かい毛が密生するが、無毛のものもあるらしい。根生葉は楕円径〜さじ形で、鋸歯とも羽状複葉とも見える深い切れ込みがある。紫色を帯びた茎は弱々しく、毛が多くて茎葉は殆どない。茎頂に径20〜40 mmの頭花を１個つけ、中心部の筒状花は黄色で、周りの舌状花は白色だが、ピンク色に変わることも多いという。総苞片は先の尖った披針形で、縁には暗褐色の毛が密生する。レウカンセモプシス属には８種あるらしいが、本種はキク属(*Chrysanthemum*) とされることもある。形の良い小さい葉に大きな花の組み合わせは、いかにも高山植物らしくて好ましい。図鑑によっては、生息上限は標高3,900 mとするものもある。◇2015.06.28　Innsbruck近郊、Austria

シノニム：　*Chrysanthemum alpina*

Asteraceae

Petasites frigidus

キク科　フキ属　　英語名: Arctic Sweet Coltsfoot, Arctic Butterbur

国内に自生する近縁の種: アキタブキ、フキ

北半球の北極圏と冷温帯に分布する多年草で、ヨーロッパではスカンジナビア、北米では米国の北半分の湿った草地、河岸、林縁などに生え、草丈は10〜60 cm。根生葉には長い葉柄があり、葉身は幅15〜20 cmで、丸みを帯びた心形〜腎形〜三角形と形態変化が大きい。葉は掌状に深く切れ込み、裂片の縁に粗い鋸歯があってヤツデの葉のように見える。また、その裏面には綿毛が密生する。花茎は直立して分岐せず、茎葉はないが苞葉が互生する。本種は雌雄異株で、雄花は花後直ぐに萎れる。花茎の先に数個〜多数の頭花が丸く集まった散房花序を出し、雌花は中心にある雄性小花を雌性小花が取り囲む。舌状花は数の変化が激しく、白色〜淡紅色で稀に紫色。この花を最初に見た時には、フキの仲間とは気がつかなかった。葉には顕著な切れ込みが多数あるし、高く伸びた花茎の先には少数の花序しかないし・・・・。しかし、そうと分かってしまえばアキタブキとの共通点は明らかだ。

◇2013.06.12 Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

Asteraceae

Saussurea densa

キク科　トウヒレン属　英語名：Dwarf Saw-Wort

国内に自生する近縁の種：ウスユキトウヒレン、ユキバヒゴタイ、ヒメヒゴタイ、など

北米大陸北西部に分布する多年草で、モンタナ州以北のロッキ＝山脈で、高山帯の崩壊斜面や岩礫地に生えて草丈は5～20 cm。披針形の葉には幅広の柄があり、葉身には粗い鋸歯があって最大長は8 cm。葉は密に互生し、上部に向かって小型化して、葉柄もなくなる。茎頂に紫色の頭花が集まって密な散房花序となり、弧を描いて上方に彎曲する葉に囲まれる。小花は筒状花のみで舌状花はなく、総苞片は長さ11～15 mmで細長い。本種の花序は北海道の高山にあるウスユキトウヒレンとよく似ているのだが、写真は花が散ってしまった株である。しかし、全体の草姿は日本にあるトウヒレン属とは大分雰囲気が違っており、トウヒレン属にしては細めの葉が密につき、上方に彎曲して放射状に配列する様は、素晴らしく感じがよい。もっとも、ネット上の写真を見ると、背の高い株では間延びした感じで葉が配列し、余り魅力的には見えない。◇2009.07.16 Whistlers Summit, Jasper National Park, Canada

Asteraceae

Scorzoneroides helvetica

キク科　△属　英語名：Swiss Hawkbit

国内に自生する近縁の種：なし

これは、西部～中部アルプスに固有の多年草で、標高850～3,000 mの主に酸性土壌の草地や砂礫地に生え、草丈は5～30 cm。根生葉は狭楕円形～披針形で全縁または波状の切れ込みがあり、葉柄がある。茎には毛があって分岐せず、茎葉は小さくて鱗片状。茎頂に１個の頭花をつけ、頭花の径は25～35 mm。舌状花は鮮黄色で、総苞片には白い毛が生える。この種には全体の大きさと毛の性質によって３つの亜種があるというが、分類学的にもいろいろ議論のあるグループらしい。本種は、手持ちの英国の図鑑では*Leontodon*属（カワリミタンポポモドキ属）に区分されており、礼文島固有種のフタナミソウとよく似ているのにと思っていたら、ネット情報でフタナミソウ属(*Scorzonera*)に近いこの属に区分されている記載を見つけた。フタナミソウは絶滅危惧種IAに区分されており、もはや簡単に見られる種ではない。一方、フタナミソウ属には37種がリストアップされており、いくつもの亜種に細分されている。さらに、この*Scorzoneroides*属にも25種が識別されているが、両方の間に重複はないのだろうか。

◇2007.06.25 Kleine Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

シノニム：*Leontodon pyrenaica* subsp. *helvetica*

Asteraceae　　*Scorzoneroides montana*

キク科　△属　英語名: Mountain Hawkbit

国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー山脈から中部ヨーロッパにかけて、標高2,900 mまでの岩がちの草地や岩礫地に生える毛の多い多年草で、草丈は5〜15 cm。根生葉はロゼット状につき、披針形で羽状に中裂〜深裂して、頂裂片は大きい。中央葉脈と茎は赤味を帯びることが多いようだ。草丈の割には大きな黄色い頭花を1個つけ、径は20〜30 mmで、黒くて大きな総苞が目立つ。茎と総苞片には淡灰色の細毛が密生する。もっとも、本種にはいくつかの亜種が識別されており、中には総苞が緑色のものもあるようだ。本種は北海道アポイ岳の特産種であるエゾコウゾリナ(*Hypochaeris crepidioides*)と、形態上の共通点が多い。もっとも、ブタナ属に属するエゾコウゾリナの草丈は30〜40 cmまで伸びることが多いので、小型のエゾコウゾリナに限っての話であるが。

◇2012.06.16　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

シノニム: *Leontodon montanus*

Asteraceae

Senecio halleri

キク科　ノボロギク属　英語名：One-flowered Alpine Groundsel

国内に自生する近縁の種：キオン、ハンゴンソウ、エゾオグルマ

南部～南西部アルプスに固有の多年草で、酸性岩地帯の標高1,900～3,600 mの岩の多い草地や岩礫地に生える。草丈は5～15 cmで、全体に白い綿毛が密生して銀白色を呈する。根生葉は楕円形で長い柄があり、縁には丸みのある鋸歯が目立つ。直立または斜上する茎頂に１個の頭花をつける。頭花は径20～25 mmで、濃黄色～橙黄色の筒状花の群れを、10～16個の同色の舌状花が取り囲む。密生する毛のお陰でボッテリした質感の葉には丸い切れ込みが入り、太めの茎に単生する小さめの花が可愛らしくて、いかにも高山植物という出で立ちが微笑ましい。ちなみに、*Senecio*属はシオン属とされることも多いが、ここでは北隆館発行の「日本維管束植物目録」に従い、ノボロギク属としている。

◇2016.07.17 Kreuxboden, Saastal, Wallis, Switzerland

シノニム：*Senecio uniflorus*

Asteraceae

Tanacetum vulgare var. *vulgare*
ヨモギギク

キク科　ヨモギギク属　英語名：Tansy, Common Tansy

国内に自生する近縁の種：エゾヨモギギク

これは、ユーラシア大陸の温帯に広く分布する多年草で、草地や道路脇に生え、草丈は50～150 cm。葉は互生し、長さ10～15 cmの羽状複葉。裂片は普通 7 対あり、さらに鋸歯のある小裂片に切れ込んで羊歯のような形となる。茎は上部で分岐し、その枝先に、黄色い頭花を放射状に密集して数個以上咲かせる。丸いボタン状の頭花は径1.2 cmほどで、100個ほどの筒状花からなり、まれに矮小化した舌状花がつくこともあるらしい。全体に強い臭いがあり、多量に食べると毒草となるが、古くから薬草や香料として用いられてきた。北米大陸では広い範囲に帰化しており、一部の州では侵略的外来植物とされている。また、北海道北部の海岸沿いには、変種のエゾヨモギギク(var. *boreale*)が自生するというが、私はまだ見たことがない。

◇2010.08.03 Bruges, Belgium

Asteraceae

Taraxacum coreanum
ケイリンシロタンポポ

キク科　タンポポ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：エゾタンポポ、カントウタンポポ、シロタンポポなど

朝鮮半島と中国北東部に分布する多年草。日本にあるシロバナタンポポと似ているが、シロバナタンボボが五倍体なのに対し、こちらは四倍体だそうだ。総苞外片の長さが総苞全体の2/3以上と長く、角状突起もシロバナタンポポより大きいという。そもそも。シロバナタンポポはカンサイタンポポとケイリンシロタンポポとの自然交雑種とする説があるし、九州にあるシロバナタンポポと本種の関係についても、今後の検討課題らしい。ネットで検索すると、本種の薬用に関する記事であふれかえっており、分類学的な興味よりも薬品応用に大きな関心が集まっているようだ。◇2012.04.12 安東河回村, Korea

Asteraceae

Tephroseris integrrifolia subsp. *capitata*

オカオグルマの別亜種

キク科　オカオグルマ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：コウリンカ、サワオグルマ、ミヤマオグルマ

アルプス南西部とアペニン山脈中部に固有の多年草で、標高1,700～2,700 m地帯の草地に生え、草丈は15～30 cm。全体が絹毛で密に被われ、銀白色を呈する。茎葉は披針形～長卵形で、茎にまとわりつくように伸び、縁は全縁で裏側に巻き込む。茎頂に太い花柄のある頭花を3～10個付け、頭花の径は20～30 cmで舌状花は赤橙色。全体的な印象はサワオグルマやミヤマオグルマに似ているが、花色はコウリンカの色であろう。ユニークな草姿と変わった花色で目立つ植物であるが、分布域が限定的なためか、一般的な高山植物図鑑には載っていないことが多い。また、独立種*Tephroseris capitata*として取り扱う図鑑もある。写真の株は開花の初期段階で、花がまだ開ききっていない。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Queyars Regional Natural Park, France

シノニム：*Cineraria aurantiaca*

Asteraceae

Tragopogon porrifolius
バラモンジン（ムギナデシコ）

キク科　バラモンジン属　英語名：Salsify, Common Salsify, Oyster Plant
国内に自生する近縁の種：なし

これは、本来ヨーロッパの地中海沿岸に自生する多年草であるが、花の美しさ、根が食用になる、薬効がある、等の理由で世界中で栽培され、多くの地域で逸出したものが野生化している。この写真もオーストラリアで野生化した株である。草丈は60～120 cmで、淡緑色の茎は無毛で光沢があり、中空で直立して普通は分岐しない。葉は線形で先が尖り、細い平行脈がある。茎先に１個の頭花をつけ、頭花は径3～5 cmで赤紫色の舌状花からなり、花弁の先は５つの歯牙に切れ込む。花弁より長い緑色の総苞片が10個あり、蕾の時も開花時もバラモンジン属独特の特徴的な形態を示す。本種にはムギナデシコという和名があるくらいで、日本国内でも100年前から帰化していて、根を煮て食べたり、味噌漬けにしたりするというが、私は国内ではこの花も製品も見たことがない。ちなみに、バラモンジンという不思議な名前は、インドの司祭を表す「バラモン」と、根を薬用にする朝鮮人参の「ジン」との組み合わせだそうな。◇1991.11.02　Canberra近郊, Victoria, Australia

Asteraceae

Tussilago farfara
フキタンポポ

キク科　フキタンポポ属　英語名: Colt's-Foot

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ、西アジア、北アフリカに自生する１属１種の多年草だが、薬効があるとして栽培され、今や世界の広範囲で逸出したものが野生化している。岩礫地や道路脇、川の土手などに生え、開花初期の草丈は5〜15 cmだが、後には30〜50 cmにまで伸びる。フキの葉に似た根生葉は、心形でロゼット状につき、葉裏は毛が密生してフェルト状である。葉身が動物のひずめに似ているとして英語名が付けられた。茎には綿毛が密生し、鱗片葉が多数着く。これは春一番に咲く花で、茎先に黄色い頭花を１個つけ、頭花の大きさは径2.5〜3 cm。頭花には3〜80個の筒状花があり、それを150〜500個の舌状花が取り囲むので、細い糸で出来たボタンのような花である。私が最初にこの花を見たのはフレンチアルプスの標高2,600 mの峠だったので、高山植物かと思ったが、実際は低地から標高2,600 mまでに分布するらしい。北大構内にも野生化した株が生えている。◇2016.07.10 Bachsee, Berner Overland, Switzerland

Boraginaceae

Echium vulgare
シベナガムラサキ

ムラサキ科　シベナガムラサキ属　英語名：Viper’s Bugloss、Blueweed
国内に自生する近縁の種：なし

ヨーロッパ全域とアジアの中西部に自生する２年草で、荒れ地、崖地、乾いた草地などに生え、草丈は25～100 cm。北米では広く野生化しているが、日本国内にも帰化しているらしい。根生葉は長さ10～15 cmの披針形で毛があり、全縁で表面はざらつく。茎葉は小さく、無柄で互生する。根生葉のロゼットからまっすぐ伸びた茎は枝分かれせず、赤褐色の刺毛がある。茎の上半部全体が円錐花序状で、枝分かれして彎曲したさそり形花序に青紫色の花を密につけ、基部から先端に向かって順番に咲かせる。５枚ある花弁は癒着して鐘形の花冠となり、長さ5～6 mmの萼片が５個ある。赤い雄しべ５本の内、４本が花冠より長く突き出し、青い花冠とのコントラストが印象的な花である。これは、プロバンスでの地質調査では、至る所でお目にかかった植物で、小麦畑の脇や荒れ地で群生していることが多かったが、青い花の集団は遠くからでもよく目に着いた。◇2012.06.19　La Grave, French Alps, France

Boraginaceae　　*Eritrichium nanum*

ムラサキ科　ミヤマムラサキ属　英語名：King of the Alps, Arctic Alpine Forget-me-not
国内に自生する近縁の種：ミヤマムラサキ、エゾルリムラサキ

これは周極分布をする多年草で、北極圏とロッキー山脈や中部～南東部アルプスの高山帯に分布し、標高2,500～3,600 mの岩場や岩の割れ目に生える。アルプスでは酸性岩地帯に多いが、ドロマイトの上にも生育する。草丈は1～6 cmと低く、密なマット状に広がる。葉は狭楕円形～さじ形で、長さ4～10 mm。光沢のある毛が密生してロゼット状に集まる。短い茎の先に3～7個の花が集まって集散花序となり、花の最盛期には株全体が花で被われたようになる。花は鮮青色～淡青色で、径7～9 mmの花冠は５裂して平開し、喉は黄色い。北海道にあるエゾルリムラサキとよく似た花だが、隙間のないほど花が重なり合って咲き、環状に咲くエゾルリムラサキよりはるかにインパクトがあるし、花の色も青みがかってより鮮やかである。英語で「アルプスの王」と呼ばれるのも、十分納得の魅力的な植物である。なお、これには地域限定の亜種や変種がいくつかあるらしい。◇2016.07.17 Hohsaas, Saastal, Wallis, Switzerland

Boraginaceae　　*Lithospermum canescens*

ムラサキ科　ムラサキ属　英語名：Hoary Puccoon

国内に自生する近縁の種：ムラサキ、ホタルカズラ

北米大陸の東半部に固有の多年草で、乾いた草原や日当たりの良い疎林、道路脇などに生え、草丈は15〜45 cm。直立する茎は白毛に被われ、下部では分岐せず上部では稀に分岐する。茎葉は長さ3〜4.5 cmの矩形〜楕円形で、まばらに毛が生えて鋸歯はなく、中央脈が目立つ。茎頂に出る花序は最初はコイル状に巻いているが、満開時には直立する。黄金色の花は径1.5 cmほどで5裂し、裂片は平開してその先は丸い。また、裂片の周辺部は裏側にまくれ込み、立体的な造形である。花冠の基部はロート状の筒形で、緑色の萼片には５つの長い歯牙があり、白い毛で被われる。ムラサキ属だけあって根からは染料が採れるという。もっとも、日本のムラサキとは違って、この植物から採れるのは赤い染料だそうだ。日本のムラサキ属の花は白味を帯びた紫色か白色なので、この黄色い花には驚いた。全体に毛が生えて白っぽく見えることからHoaryで、原住民が染色に使った植物を一般的にpuccoonと読んだのでこの英語名となったという。◇2013.06.15 Baudette近傍, Minnesota, USA

Boraginaceae *Lithospermum ruderale*

ムラサキ科　ムラサキ属　英語名: Western Stoneseed, Lemonweed

国内に自生する近縁の種: ムラサキ、ホタルカズラ

カナダと米国の西部に分布する多年草で、乾いた平原や丘陵地に生え、草丈は20～50 cm。一株で何本もの直立した茎を立ち上げ、茎は細毛で密に被われる。茎葉は最大長 8 cmの披針形で、先が尖る。茎頂に、茎葉で取り巻かれた花と苞葉を固まってつける。花冠は緑がかった淡黄色で径は1 cm 、５中裂して裂片の先は平開する。原住民はこの植物を避妊薬として使ったという。前ページに引き続いて、これまた黄色い花のムラサキ属だが、前ページの*L. canescens*とは、葉の形も花の色も大分異なっている。この種に関しては、染料として使用するとの記載も見つからないので、日本のムラサキとは性質の異なる植物のようだ。◇2013.06.13　Vow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Boraginaceae

Myosotis alpestris
ノハラワスレナグサ

ムラサキ科　ワスレグサ属: Alpine Forget-me-not
国内に自生する近縁の種: エゾムラサキ

これはヨーロッパ原産の植物だが、現在では北半球の亜寒帯から温帯に広く野生化しており、ヨーロッパでの元来の自生範囲はよく分からない。アルプスでは標高700〜2,800 m地帯の岩礫地、湿った草地、林縁などに生え、草丈は10〜30 cm。茎と葉には毛が多い。根生葉はロゼット状につき、長さ2 cmほどのさじ形で柄のあることが多い。茎葉は倒披針形で、次ページのエゾムラサキより細長く、上部の葉はやや茎を抱く。鮮やかな青色の花冠は5裂し、径6〜9 mmで中心部は黄色い。萼筒には鉤形に曲がった毛が生える。白っぽい花もあるが、多くは鮮やかな青色でよく目立つ。この種は日本国内にも野生化した株が多く見られ、普通ワスレナグサと呼ばれるものは本種のことが多い。◇2007.06.24 First, Berner Oberland, Switzerland

Boraginaceae

Myosotis sylvatica
エゾムラサキ

ムラサキ科　ワスレナグサ属　英語名：Wood Forget-me-not

国内に自生する近縁の種：自生するのはこのエゾムラサキ以外にはない

ヨーロッパにはワスレナグサ属が13種もあって、至る所で見かけるものの、地域限定の種が少なくて種の同定はなかなか面倒だ。このエゾムラサキは自生する範囲が最も広く、ユーラシア大陸の亜寒帯に広く分布するが、日本に自生する唯一のワスレナグサ属でもある。アルプスでは標高2,000 mまでの林内や湿った草地に生え、草丈は20〜40 cmになる。よく分岐した枝先に沢山の花をつけ、花径は6〜8 mmと大型なので、鮮やかな空色の花の集団は存在感がある。おまけに、生えているところでは群落となることが多いので、遠くから目立つことピカイチの花でもある。根生葉は長さ2〜6 cmの線状披針形〜楕円形で茎葉は少し小さめ。ムラサキ科の仲間で多く見られるように、蕾はピンク色である。◇2015.06.29　Innsbruck近郊, Austria

Brassicaceae *Biscutella laevigata*

アブラナ科　△属　英語名: Buckler Mustard

国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の標高800～2,600 m地帯に分布する多年草で、ガレ場、小石混じりの草地、明るい林内などに生え　、草丈は10～40 cm。根生葉は狭披針形で弱い光沢があり、小さい鋸歯がある。茎葉は小さくて少ないが、狭披針形で鋸歯はない。茎は上部で分岐し、枝先に散房花序を出して、径4～8 mmの黄色の４弁花を沢山つける。この種は、カドミウムなどの重金属を濃集する植物として注目を浴びているらしく、ネットで検索すると英文はその関係の記事ばかりで、植物学的な記事は殆ど見当たらない。◇2012.06.21 Flegere西方, Chamonix Mt-Blanc, France

Brassicaceae　　*Brassica repanda*

アブラナ科　アブラナ属　英語名: Alpine Cabbage

国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー山脈とアルプスの南西部に分布する多年草で、標高1,500〜2,500 mの岩礫地に生え、草丈は10 cmほど。基部は木質化する。根生葉は最大長5 cmほどの倒披針形で、長い柄があり、地面に這うように広がる。歯の表面はうねって光沢があり、縁には粗い鋸歯がある。葉の直ぐ上で、2〜12個の花が集まって散房花序となる。花は径8〜15 mmで黄色い花弁４枚からなり、大きな株ではキジムシロのように放射状に展開する。これはアブラナ（ナタネ）と同じ属なのだが、植物全体の形は似ても似つかないほど違っている。アブラナ科の花はどれも似た形なので、花は高山植物のナンブイヌナズナに似ているといえるが、イヌナズナ属ではないので花序は違う。葉もナンブイヌナズナとは全く異なる形と大きさだが、いかにも高山植物という感じが好ましい。それにしても、日本国内には帰化したアブラナ属が何種もあるが、自生種がないというのは今まで気がつかなかった。◇2012.06.16 Galibier Pass, French Alps, France

Brassicaceae　　*Cardamine pratensis*

アブラナ科　タネツケバナ属　英語名：Cuckoo Flower, Lady's Smock
国内に自生する近縁の種：ミヤウチソウ、コンロンソウ、ミヤマタネツケバナ

これは、ヨーロッパと西アジアに広く分布する草丈40〜60 cmの多年草で、標高2,600 mまでの湿った草地や渓流脇に生える。根生葉は長い柄のある長さ5〜12 cmの羽状複葉で、長さ1 cmの丸みを帯びた小葉が3〜15個ある。茎葉は大分形が異なり、線状の小葉を持つ羽状複葉が3〜8枚互生する。茎は分岐しないで、その頂きに短い総状花序を出す。花は径1.5〜2.5 cmの4弁花で、花色は淡紅色だが白いものもある。長さ8〜15 mmの花弁には明瞭な筋模様がある。雄しべは6個で2個は短く、葯は黄色。これは、国内では礼文島にだけあるミヤウチソウによく似た植物で、ミヤウチソウが絶滅危惧IA類に区分されるほど稀なのに対し、本種は水辺で大群落をなすこともあるという。◇2016.07.10 Bachsee, Berner Overland, Switzerland

Brassicaceae

Draba aizoides
ハリイヌナズナ

アブラナ科　イヌナズナ属　英語名：Yellow Whitlow-Grass
国内に自生する近縁の種：イヌナズナ、クモマナズナ、ナンブイヌナズナなど

ヨーロッパ中部と南部の高山に分布する多年草で、標高3,600 mまでの石灰質の岩礫地に生え、草丈は10〜15 cm。ヨーロッパ北部でも所々に隔離分布するらしい。根生葉は多数あり、長さ5〜13 mmの線形で、肉質で鋸歯はなく、根元で球形に集まる。茎先に3〜20個の花が集まって散房花序となる。花は鮮黄色で径6〜10 mm、卵形〜さじ形の花弁が４枚あり、長さ3〜4 mmしかない萼片の２倍以上長い。日本国内にもイヌナズナ属の高山植物は数多いが、黄色い花をつけるのはナンブイヌナズナだけだし、本種のように線形の葉を根元で球形に集め、葉のない花茎を伸ばす種類は皆無である。ヨーロッパにはこれらの特徴を共有する種が数多くあり、どれも高山植物らしい風格があって好ましい。◇2012.06.16 Galibier Pass, French Alps, France

Brassicaceae

Draba cf. *incerta*

アブラナ科　イヌナズナ属　英語名 : Yellowstone Draba

国内に自生する近縁の種:　イヌナズナ、クモマナズナ、ナンブイヌナズナなど

北米大陸北西部とカナダ北東部の一部に隔離分布する多年草で、標高3,300 mまでの山地～高山帯の岩礫地、崩壊斜面、ツンドラなどに生え、草丈は5～15 cm。葉は根生し、長さ2 cmほどの線形～披針形で、両面に毛が密生する。茎葉はないが鱗片葉が１枚つくこともある。毛の生えた花茎の先に、3～14個の花が集まって散房花序となり、萼片は長さ2.5～4 mmの広卵形で毛が多い。花には黄色い花弁が４枚あり、花弁は長さ4～5 mmの倒卵形～倒披針形。北米大陸には、黄色い花を咲かせる高山性のイヌナズナ属がヨーロッパ以上に多くあり、茎や葉に生える毛の違いで区分するなど、素人には判別が難しい。写真の個体もこの種名なのかどうかは定かではない。◇2009.07.16　Whistlers Summit, Jasper National Park, Canada

Brassicaceae　　*Draba oligosperma*

アブラナ科　イヌナズナ属　英語名 : Few Seeded Draba

国内に自生する近縁の種:　イヌナズナ、クモマナズナ、ナンブイヌナズナなど

北米大陸西部の山岳地帯に隔離分布する多年草で、亜高山～高山帯の岩礫地、崩壊斜面、ツンドラなどに生え、草丈は2～8 cmしかない。根生葉は肉厚でロゼット状につき、長さ3～12 mmのさじ形～楕円形で鋸歯はなく、毛で被われて銀緑色に見える。葉のない茎の先端に、3～20個の花が集まって密集した散房花序となる。花柄は長さ3～10 mmで、ややカップ状で緑色の萼片は長さ2～3 mm。花は黄色い４弁花で、花弁の長さは3～5 mmで、花柱の長さは1～1.5mm。写真の個体はまだ咲き始めで、花茎も葉もまだ伸びきっていないが、球状に集まった根生葉が面白い。花も殆どが開花直前だが、画面中央にある1個は開花している。イヌナズナ属は世界に350種あり、北米大陸の北部～西部だけでも104種あるというが、日本国内には９種しかない。◇2009.07.16　Whistlers Summit, Jasper National Park, Canada

Brassicaceae

Erysimum pallasii
ホッキョクスズシロ

アブラナ科　エゾスズシロ属　英語名 : Pallas' Wallflower, Arctic Wallflower
国内に自生する近縁の種:　エゾスズシロ

これは　周極分布をする２年草で、グリーンランド、カナダ北西部、アラスカには多く、ジャスパー国立公園では稀だという。ユーラシア大陸では、シベリア北部のタイミル半島以東に限って分布するらしい。本種は、崩壊斜面やツンドラに生え、草丈は10〜35 cm。葉は殆どが根生し、長さ30〜50 mmのさじ形で、縁は全縁か少数の鈍い歯牙がある。花茎は２本以上立ち、8〜25個の花が集まって総状花序となる。花色は普通は紫色〜ライラック色。花は長さ1〜2 cmで、基部は細長い筒状だが。先端は４枚の花弁となって平開する。花弁は長さ6〜10 mmの倒卵形で、切れ込みはないか僅かにあって表面が波打つ。萼片は４個あり、緑色か紫色で長さ4〜6 mm。咲き始めの花は、写真で見るように半分葉に隠れ、根元から直接咲いているように見える。しかし、時間の経過と共に花茎が伸び、実が生長する頃には全く違った草姿となる。私はまだ草丈の伸びた段階を見たことはないが、花色は美しいし、咲き始めの草姿は変わっていて実に魅力的な植物だ。◇2009.07.16 Whistlers Summit, Jasper National Park, Canada

Brassicaceae　　*Erysimum rhaeticum*

アブラナ科　エゾスズシロ属　英語名： Swiss Treacle-Mustard

国内に自生する近縁の種: エゾスズシロ

中部〜南部ヨーロッパに広く分布する多年草で、アルプスでは、標高2,800 mまでの草地やガレ場に生える。草丈は通常10〜50 cmだが、まれには120 cmに達する株もある。茎は角張って短毛が密生する。葉は長さ4〜9 cmの線形〜狭披針形で、全縁か僅かな鋸歯がある。花は濃黄色の４弁花で平開し、花の長さは15〜22 mm。花弁は倒卵形で長さ8〜12 mm。この花は結構目立つ花色で、背の低い株では花数も少なく、高山植物の趣があるが、背の高い株は菜の花のようで、余り有難味がない。ちなみに、日本国内に自生するエゾスズシロ属は１種だけだが、世界では180種ほどが知られており、花色は黄色、ピンク、赤色、白色と多様だ。花の形は似ているものの、この種が前ページの*E. pallasii*と同属だとはなかなか思いつかなったが、米国北西部には*E. arenicola*という、本種によく似た種が分布する。

◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Waliss, Switzerland

シノニム： *Erysimum helveticum*ほか数種

Brassicaceae

Hornungia alpina
タカネカラクサナズナ

アブラナ科　タカネカラクサナズナ属　英語名 : Chamois Cress
国内に自生する近縁の種: なし

中部〜南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは標高3,400 mまでの石灰岩地帯に多く、岩場やガレ場に生えて草丈は5〜15 cm。本種の分類はやや錯綜しており、表題の学名が最新のようだが、比較的新しい図鑑でも、*Hutchinsia*属や*Pritzelago*属に区分しているものがある。葉はロゼット状に根生し、無毛の奇数羽状複葉で、葉柄があって光沢がある。小葉は披針形で鋸歯はない。茎葉はなくて茎先に総状花序をだし、径4〜6 mmの白色の４弁花を5〜10個ほど、球状に咲かせる。花はアブラナ科に多く見られる形態で、特に面白いところはないが、葉はなかなかユニークで面白い。高山帯の岩場に咲くこともあり、白花をつけるアブラナ科の中では、魅力的な種といえよう。◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

シノニム : *Hutchinsia alpina*, *Pritzelago alpina*

Brassicaceae

Petrocallis pyrenaica

アブラナ科　ペトロカリス属　英語名：Pyrenean Whitlow Grass

国内に自生する近縁の種：なし

ピレネー、アルプス、カルパチア山脈の標高1,700～2,900 m地帯で、石灰岩質の崖地や礫地に生える多年草。クッション状～マット状に広がり、草丈は2～8 cm。葉はロゼット状につき、長さ4～6 mmで密生する毛のため灰緑色を帯び、先が熊手状に３裂する。茎には葉がなく、先端に長さ3 cmほどの総状花序をだす。花は径5～8mmで、ライラック色～ピンク色の花弁４枚からなり、花弁の先は丸い。この植物は、草丈が低くてマット状に広がり、他にあまり例を見ない美しい花色の花が沢山咲いて、極めて印象的である。この花はフレンチアルプスではよく目にするが、スイスアルプスでは見たことがない。ネット情報では、低地で栽培すると茎が高く伸びて無様な草姿となる。やはり、この手の植物は、風の強い稜線にあってこそ、その真価が発揮される。図鑑によっては､本種をイヌナズナ属(*Drava*)の可能性あり、とするものがある。◇2012.06.17 Izard Pass, French Alps, France

シノニム：*Drava pyrenaica*

Brassicaceae *Thlaspi rotundifolium*

アブラナ科　グンバイナズナ属　英語名 : Round-leaved Pennycress
国内に自生する近縁の種:

フランス東部からスロベニアにかけての山岳地帯に分布する多年草で、アルプス、では、標高1,500〜3,400 m地帯の石灰質の岩場やガレ場に生える。全草に毛はなく、ほふく枝を伸ばしてマット状に広がり、草丈は通常5〜10 cmしかない。葉は肉質の卵形〜楕円形で光沢があり、暗緑色から青緑色。根生するものはルーズなロゼット状となる。葉は普通は全縁だが、まれに小さな鋸歯を持つこともある。茎先に花を密集させた散形花序を出し、径8〜10 mmの赤紫色の４弁花を咲かせる。花弁基部は濃い赤紅色で、黄色い雄しべや雌しべとのコントラストが美しい。属は違うものの、花の色は前ページの*Petrocallis pyrenica*とよく似ており、日本のアブラナ科植物にはない花色だ。この種は、根元に密集して付く青緑色の葉と、鮮やかな色の花のかたまりが見事なコンビネーションで、芳香もあり、実に魅力的な高山植物である。◇2015.07.05 Tofana di Mezzo, Alpi Carniche, Italy

Campanulaceae　　*Campanula barbata*

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：Bearded Bellflower

国内に自生する近縁の種：ホタルブクロ、チシマギキョウ、ヤツシロソウ

スカンジナビアとフランスをを含む中部ヨーロッパに分布する多年草で、アルプスでは、標高1,100～3,000 mの明るい疎林や礫質の草地などに生える。全体に毛が多く、草丈は10～40 cm。葉は殆どが根生してロゼット状となり、披針形～楕円形で線毛が多く、葉縁は波打って鋸歯はない。茎は分岐せず、１方向に偏ったルーズな総状花序をつける。花は紫がかった淡青色で、長さ20～30 mmの釣鐘形、うつむき加減に咲く花冠内部に白毛が生えるのが本種の特徴である。ヨーロッパに数ある高山性のホタルブクロ属の中で、花冠に顕著な毛があるのは本種だけのようで、英語名の由来となっている。花冠の毛は、日本ではチシマギキョウだけに見られる性質だが、本種は長く伸びた茎に複数の花がつくので、全体的な印象は日本のホタルブクロに近い。しかし、花冠はホタルブクロやチシマギキョウより短く、花の形態としてはイワギキョウに近いという感じかな。開花が進むと、花が縦方向に並び、ユニークな草姿になる。◇2016.07.19 Eggen→ Zermatt, Wallis, Switzerland

Campanulaceae

Campanula cochlearifolia
チャボキキョウ

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名 : Fairy's Thimble

国内に自生する近縁の種:　ホタルブクロ、チシマギキョウ、ヤツシロソウ

ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する多年草で、ピレネー山脈からカルパチア山脈にかけての、標高800〜3,400 mの主に石灰岩地帯で、岩れき地やガレ場に生える。草丈は5〜15 cmだが形態変化に富み、有毛の個体と無毛の個体があるという。根生葉は長さ7〜12 mmの心形〜楕円形で、葉柄と粗い鋸歯がある。茎葉は披針形で鋸歯がある。茎は細く、茎頂に１個または2〜3個の淡青色〜菫色の花をつけ、蕾はうつむくが、開花すると横向き〜やや下向きになる。花は長さ12〜20 mmの釣鐘形で先が浅く５裂し、裂片はあまり大きく開かない。萼裂片は線形で広がる。本種は、草丈が低くて大きめの花を少数つけるため、山野草愛好家に人気があり、白花や濃色の品種を含めて、チャボギキョウの和名で栽培品が広く出回っているようだ。

◇2015.07.02　Arabba近郊, Alpi Dolomitiche, Italy

シノニム：　*Campanula pusilla*

Campanulaceae

Campanula glomerata subsp. *glomerata*
ヤツシロソウの基準亜種

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名: Clustered Bellflower

国内に自生する近縁の種: イワギキョウ、チシマギキョウ、ホタルブクロなど

これは、種レベルではユーラシア大陸の温帯域に広く分布する多年草で、ヨーロッパから日本まで自生する。分布範囲が広いだけに15もの亜種が識別されており、日本にも自生する亜種ヤツシロソウは、この基準亜種より大型とのことだ。この基準亜種はヨーロッパから中国の北西部まで分布し、林下や乾いた草地、道路脇などに生えて、草丈は20〜60 cm。根生葉は楕円径〜披針形で、柄と鋸歯があり、基部は心形にへこむ。茎葉は無柄の披針形で茎を抱く。茎頂と上部の葉腋に合わせて15〜20個の花が集まって咲く。上向きに咲く花は長さ2〜3 cmの鐘形で苞があり、暗紫青色〜紫色の花冠は５裂して毛がある。ヤツシロソウは国内では九州の一部に稀産し、絶滅危惧IB類に指定されているが、この基準亜種の方は数が多いらしく、国道脇に駐車した折に付近を歩いたら、簡単に何株も見つかって驚いた。

◇2004.06.09　Grenoble近郊, France

Campanulaceae　　*Campanula patula*

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名 : Spreading Bellflower

国内に自生する近縁の種: イワギキョウ、ホタルブクロ

これは、ヨーロッパの温帯域原産の２年草で、標高1,600 mまでの日当たりの良い草地、疎林、道路脇などに生える。草丈は25〜80 cmで、ヨーロッパでは最もありふれたホタルブクロ属だという。茎は針金状で直立し、よく分岐して根元近くは赤味を帯びる。根生葉は短い柄のある狭いさじ形で、ロゼット状につく。茎葉は互生し、柄のない線形で、縁には鈍い鋸歯がある。茎先に数個の花が集まって散形花序を作る。萼筒は５裂し、先の尖った三角形の裂片は開く。花冠は淡青色〜白色。長さ20〜25 mmの鐘形で基部は細く、５中裂して裂片は開く。花冠裂片の形には変異があり、写真の個体はかなり細長い裂片だが、もっと太いものも普通に見られる。いずれにしても、この花は日本にあるイワギキョウやホタルブクロの花とは形が違っており、全体の草姿も雰囲気がかなり異なる。◇2005.09.30 Piobico西方, Marche Province, Italy

Campanulaceae　　*Campanula rhomboidalis*

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：Broad-leaved Harebell

国内に自生する近縁の種：イワギキョウ、チシマギキョウ、ホタルブクロなど

ピレネー山脈とアルプスの西部～南部に分布する多年草で、標高1,000～1,800 mの草地や牧草地に生え、草丈は20～70 cm。根生葉は円形で長い柄があり、花期には枯れてなくなる。茎葉は楕円形～広披針形で互生し、鋸歯がある。茎先にルーズな総状花序をだし、鐘形の花を7～10個着ける。青紫色の花冠は長さ15～20 mmで浅く５裂し、裂片はあまり開かない。これは、ヨーロッパの標高の低い牧草地や草地などで普通に見ることの出来るカンパニュラで、群落をなすことも多い。日本には、このように直立する茎に何個も花をつけるホタルブクロ属はヤツシロソウ以外にはないが、ヨーロッパには多くの種がある。◇2012.06.22 Le Tour, Chamonix Mt-Blanc, France

Campanulaceae

Campanula rotundifolia

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名 : Harebell

国内に自生する近縁の種:　イワギキョウ、チシマギキョウ、ホタルブクロなど

これは周極分布をする多年草で、北緯40～70度の温帯域に広く分布しており、ヨーロッパでも北米でもごく普通に見られる。しかし、日本には分布しない。草丈は10～40 cmで、乾いた貧栄養の土地に生え、崖や砂丘で群落をなすことも多い。根生葉は長い柄のある卵形～心形で鈍い鋸歯がある。茎葉は細長く、上位のものには柄が無い。茎先に総状～円錐花序をだし、細い花柄のある鐘形の花を横向に咲かせる。花冠は菫青色で長さ12～30 mm、普通は先が５裂（４、５、６裂もある）し、緑色で先の尖った長い萼片がある。花冠裂片は三角形で大きく開く。細くて硬い茎が何本も立ち上がり、蕾は直立して、大きく開いた幅広の花冠が印象的なカンパニュラである。花は日本のイワギキョウと似ているが、長く伸びた茎に複数の花がつくので、印象は全く異なる。本種の花期は長く、地域的な形態変異の多いカンパニュラだそうだ。◇2016.07.11 Oeschnensee, Berner Overland, Switzerland

Campanulaceae

Campanula scheuchzeri
ヒメイトシャジン

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：Scheuchzer’s Bellflower, Bearded Bellflower
国内に自生する近縁の種：イワギキョウ、チシマギキョウ、ホタルブクロなど

スカンジナビアから中部ヨーロッパの高山地帯まで広く分布する多年草で、ノルウエーでは海岸近くにも生えるが、アルプスでは標高1,300～3,400 mのガレ場や牧草地に生える。草丈は、10～40 cmだが低地では高く、高山では低い。本種の特徴は茎葉が線形であることだが、蕾は上向きで花は横向に咲き、花の長さは18～25 cmである。細い茎に線形の葉がつき、茎頂に大きな青紫色の花が1～数個咲くので、実に風情のある草姿である。草丈も低く、鉢植え愛好家に好まれるのもよく理解できる魅力的な植物である。

◇2010.07.29　Bergen近郊、Norway

Campanulaceae　　*Campanula thyrsoides*

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：Yellow Bellflower

国内に自生する近縁の種：イワギキョウ、チシマギキョウ、ホタルブクロなど

アルプスとヨーロッパ各地の標高1,000～2,700m地帯に分布し、主に石灰岩質の肥沃な草地や牧草地に生えて、草丈は10～50 cm。本種は通常二年草とされるが、開花するまで８年かかり、高山ではさらに長寿だとする資料もある。世界に300種以上あるといわれるホタルブクロ属は、紫色～青色～ピンク色～白色の花をつけるのが普通で、この黄色い花は珍しいし、花の付き方も極めて個性的である。根生葉はロゼット状につき、毛の生えた全縁の倒披針形で大きい。ロゼットの中心から、沢山の茎葉を密集させた太い茎が立ち上がる。茎葉は小さい狭披針形で鋸歯はない。茎の上部に沢山の乳黄色の花を密につけた穂状花序をだす。花序は長いものでは40 cmほどになり、50～200個の花の集合体である。花冠は長さ17～22 mmで、先が浅く５裂するが、隣り合う花と密着して大きく開くことはない。花柱は緑色で、花冠から飛び出して先が3裂する。花序は大きいし、色と形も尋常ではないので、走っている車の窓からでも簡単に見つけることが出来るという、珍しいカンパニュラである。◇2012.06.18 Lautaret Pass, French Alps, France

Campanulaceae　　*Campanula trachelium*

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：Nettle-leaved Bellflower

国内に自生する近縁の種：ホタルブクロ、ヤツシロソウ、チシマギキョウなど

ヨーロッパの広範囲、アフリカ北部、シベリアの一部に分布する多年草で、標高1,800 mまでの林縁や日当たりの良い広葉樹林に生える。草丈は40～100 cmで、角張った茎は分岐せず、全体に赤味を帯びて粗毛がある。根生葉と下部の茎葉には長い柄があり、卵形で基部は心形にくぼむ。上部の茎葉は無柄の卵形～披針形で毛があり、縁には鋸歯がある。茎の上部に不連続な総状花序をだし、うつむき加減の花が一方に偏ってつく。花はロート状～鐘状で長さは2.5～4.5 cm。花色は赤紫色～青紫色だが、まれには白い花もある。花冠は中程まで5裂して裂片は外向きに彎曲し、内側に荒い毛がある。5個ある萼片は基部が癒着して荒い毛があり、先は反り返る。シーネッゲ・プラッテを歩いて麓まで下りてくる途中で、標高1,000 m位まで下った所でこの花が群れていたが、それまで沢山見てきたホタルブクロ属とは異なる花色と、直立した大きな草姿は強く印象に残った。◇2016.07.14 Schynige Platte下部, Berner Overland, Switzerland

Campanulaceae　　*Campanula* sp.

キキョウ科　ホタルブクロ属　英語名：？

国内に自生する近縁の種：ホタルブクロ、ヤツシロソウ、チシマギキョウなど

ヨーロッパにはホタルブクロ属が40種ほどあり、亜種や変種も数多く識別されている。このうち高山帯～亜高山帯に生える種については、いろんな図鑑を使って同定が大体可能だが、低山に生えるホタルブクロ属には、手持ちのどの図鑑にも該当するものが見つからないことがある。ここに示すのもその一つで、標高600 mほどの林道脇に咲いていた。弓なりに伸びる細い茎は長さ1 m以上はある。茎葉は狭披針形で少数が互生し、縁には不揃いな浅い鋸歯がある。茎は上部で分岐し。枝先に青紫色の鐘形のを一つつける。花冠は長さと幅が2 cmほどで浅く5裂し、裂片の先は外側に彎曲する。全体の草姿は日本のソバナに似ているが、花と茎葉の形態はかなり違っている。私の手元にある10冊余りの英語とドイツ語の図鑑には、このように弓なりに長く伸びるホタルブクロ属は載っていないのが困りものだ。

◇2016.07.14 Schynige Platte下部, Berner Overland, Switzerland

Campanulaceae

Phyteuma betonicifolium

キキョウ科　タマシャジン属　英語名：Betony-Leaved Rampion

国内に自生する近縁の種：なし

アルプスに固有の多年草で、標高2,700 mまでの牧草地、草地や林下に生え、草丈は20〜70 cm。茎は分岐せず全体に無毛だが、下部にのみ毛があることが多い。根生葉は楕円形〜披針形で長い葉柄があり、縁には鈍い鋸歯がある。茎上部につく葉は細長くて小さく、苞葉は線形で目立たない。茎頂に径1.5〜3 cm、長さ4 cmまでの円柱状の穂状花序をだし、赤紫色〜黒紫色の管状花を沢山つける。開花前の花は花軸に沿って内側に彎曲し、開花すると花の基部が開いて斜出し、彎曲した花の先端からしべが飛び出す。この花をキキョウ科の花と言われてもぴんとこないが、基部が糸状の花弁を見ると、同じキキョウ科で反り返った線形の花弁が特徴のシデシャジンとの類似性がある。本種は、タマシャジン属の中で最も背が高いわけではないが、目立たない葉を付けてひょろりと伸びた茎が、何本も固まってあるのが印象的で、同属他種との区別は容易である。◇2016.07.15 Wengernalp, Berner Oberland, Switzerland

Campanulaceae

Phyteuma orbiculare

キキョウ科　タマシャジン属　英語名：Round-Headed Rampion
国内に自生する近縁の種：なし

これは、ピレネー山脈からバルカン半島まで、ヨーロッパに広く分布する多年草で、標高600～2,600 mの主に石灰岩質の草地や牧場、岩れき斜面に生え、草丈は20～50 cm。茎の下部にある葉は広卵形～披針形で長い柄があり、縁には鋸歯がある。上部では小型の披針形～線形となる。茎頂に径1.5～3 cmで球状の頭花をつけ、頭花には暗紫色の彎曲した管状花が15～30個集まっている。管状花は先端で裂開している。苞葉は披針形で、大きさはまちまちだが通常は長さが幅の2～4倍ある。ヨーロッパにはタマシャジン属の種が数多くあり、花だけでは区別がつかないほど似たものが多いが、根生葉と茎葉の形や萼片の大きさなどで見分けるようだ。面白い形の花なので、撮影するときは花ばかりに注意が行き。後になって多くの種を撮っていなかったことに気がつく。◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Overland, Switzerland

Campanulaceae　　*Phyteuma ovatum*

キキョウ科　タマシャジン属　英語名 : Dark Rampion

国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー山脈、アルプス全域、アペニン山脈の標高700〜2,400 mの林下や湿地に生える多年草で、草丈は40〜100 cmと大型である。本種は*Phyteuma halleri*と呼ばれることもある。根生葉は三角状披針形で鋸歯と柄がある。茎は分岐しないでまっすぐに伸び、苞葉は広線形でかすかな鋸歯があるか全縁。茎頂に長さ3〜8 cmで黒紫色の穂状花序をだし、上方に向かって順次開花する。苞葉は緑色の狭披針形で長い。もともとタマシャジン属は蕾と花が大きく彎曲した管状で、ユニークな形態だが、本種の、高く伸びた茎頂に咲く黒くて大きな花序はちょっと衝撃的だ。黒っぽい花をつけるタマシャジンとしては他に*P. nigrum* (Black Ramoion)があるが、こちらの方は標高1,200 m以下に生えて草丈も50 cm以下、花序の長さも6 cm 以下と少しおとなしい。 ◇2015.07.02　Arabba近郊, Alpi Dolomitiche, Italy

シノニム： *Phyteuma halleri*

Campanulaceae *Phyteuma scorzonerifolium*

キキョウ科　タマシャジン属　英語名：Scorzonera-Leaved Rampion
国内に自生する近縁の種：なし

アルプスの南西部～中南部とアペニン山脈中・北部に分布し、標高400～2,500 m地帯の草地や疎林に生える多年草で、草丈は30～90 cm。全体に無毛といえるほど毛は少ない。葉は互生し、狭披針形で鋸歯があり、中央脈が目立つ。茎の下部につく葉は長さ数10 cmあるが、上部の葉は小さく、苞葉は線状で目立たない。茎頂に長さ4～5 cmの円柱状穂状花序をだし、淡青紫色の管状花を多数つける。ネットで調べると、もっと長い花序となることもあるようだ。タマシャジン属の頭花は球形のものが普通で、円柱状のものは少ない。さらに、円柱状の頭花をつけるタマシャジン属は花色が種によって異なっており、比較的容易に同定できるのが有り難い。
◇2012.06.17　L'Echarp南方, French Alps, France

Campanulaceae *Phyteuma spicatum*

キキョウ科　タマシャジン属　英語名: Spiked Rampion
国内に自生する近縁の種: なし

これは、ヨーロッパの広範囲に分布する多年草で、生育地はノルウエーからスペインにまで及ぶが、大西洋岸〜中部ヨーロッパが分布の中心だという。英国では海岸近くにもあるが、アルプスでは標高2,100 mまでの草地や林内に生える。草丈は25〜100 cmあり、この仲間としては大型である。根生葉は2〜6枚がロゼットを形成し、長さ5〜8 cmの卵形の葉には長い葉柄があり、縁には鋸歯がある。下部の茎葉は根生葉と似ているが上部に向かって小さくなり、披針形へと変化する。茎頂に長さ3〜8 cmの円錐〜円筒形の穂状〜総状花序をだし、30〜100個の花がつく。花冠は帯黄白色〜帯緑白色で、長さは7〜10 mm、苞葉は狭披針形で短い。本種は開けた草地よりは林下で多く見られ、半日陰の登山道脇に大きな白い花序が何本も立ち上がる様は、極めて魅力的である。◇2016.07.15 Wengernalp, Berner Overland, Switzerland

Capparaceae

Capparis spinosa

フウチョウボク科　フウチョウボク属　英語名 : Caper Bush、Flinders Rose

国内に自生する近縁の種: なし

地中海沿岸、東アフリカ、マダガスカル、南西アジア、ヒマラヤなどに分布する多年性の落葉半つる性低木で、日当たりの良い荒れ地や岩場の隙間などに生え、高さは50〜90 cm。多数の赤味を帯びた枝があり、彎曲した枝には暗緑色でやや肉厚の葉が互生する。葉は卵形〜円形で先が少し尖り、光沢がある。花には芳香があり、赤味を帯びた緑色の萼片４個は舟形で花弁の間に位置する。花は径5 cmほどで、４枚の花弁は白色〜淡紅白色の矩形で先が浅く切れ込む。上２枚の花弁は部分的に重なり合い、下２枚の花弁はお互いに距離を置いてつく。長くて彎曲した雄しべが多数あり、太い雌しべは１個だけで雄しべより高く立ち上がる。この写真の雄しべは白色だが、通常は先半分が紫色で美しい。この雄しべと、変わった形の白い花弁との組み合わせは実にユニークだ。更に特徴的なのは無数に着いた蕾で、これをピクルスにしたケッパーはよく知られている。この花には山形大学山岳部のコクセル峰登山に同行した際に、タクラマカン砂漠の西縁部やインダス川上流域で良くお目にかかった。ユニークな形態の美しい花だと思ったが、帰国するまでこれがケッパーだとは気がつかなかったという次第。◇1993.08.03　Karimabad, Hunza, Pakistan

Caprifoliaceae　　*Centranthus angustifolius*

スイカズラカ科　△属　英語名：Narrow-Leaved Valerian

国内に自生する近縁の種：なし

これは、アルプス南西部、ジュラ山脈、アペニン山脈の主に石灰岩地帯において、標高2000 mまでの岩礫地やガレ場に分布する多年草で、草丈は30〜80 cm 。全体に灰緑色で無毛である。葉は長さ3〜10 cmの線形で鋸歯はなく、茎に対生する。茎頂に丸い散房花序をだし、ピンク色の花を密に咲かせる。花冠は長さ6〜9 mmで、萼は長さ2〜4 mm。花冠は５裂して裂片は線形になるが､その配置が一定ではなく、不均等になるのが面白い。石灰質ナノ化石の専門家としては、「ピンク色のディスコアスター」と呼びたくなる。英語名からも分かるように、本種はオミナエシ属(*Valeriana*)に分類されることもあるが、*Centranthus*属は南ヨーロッパ原産で、全部で12種を数えるという。オミナエシ属の花よりは色鮮やかで、ユニークな形状の花を咲かせる魅力的な種が多い。◇2012.06.18　La Grave西方, French Alps, France

Caprifoliaceae

Knautia arvensis

スイカズラ科　クナウティア属　英語名：Meadow Widow Flower, Field Scabious
国内に自生する近縁の種：なし

ユーラシア原産の２年草～多年草で、乾いた草地に生え、草丈は25～100 cm。根生葉は披針形～楕円形で、全縁から粗い鋸歯のあるものまで変異がある。茎葉は細かく切れ込んだ羽状複葉で､対生する。茎は分岐し、長く伸びて毛のある枝先に、径3～4 cmの頭花を１個つける。頭花は赤紫というよりは、赤味を帯びた藤色という感じで半球形に盛り上がる。頭花は２唇形の小花の集まりで、中央部の小花は小さいが、周辺部の小花は大きい。上唇は切れ込まないが下唇は３裂し、中央裂片が最も大きくて、最大長は1.8 cm。各小花から４本の雄しべが飛び出して、頭花全体を被う。このように花冠から飛び出した蘂はうるさいと感じることが多いのだが、この花の場合は雄しべと花弁が同色で、全体に柔らかな雰囲気を演出しており、むしろ好ましい。ちょっと変わったマツムシソウだと思ったら、これは最近マツムシソウ属から外されたようだ。美しい花を咲かせる植物だが繁殖力が強く、北米では広く帰化していて、州によっては侵略的外来植物と認定されている。◇2012.06.19 La Grave, French Alpes, France

Caprifoliaceae　　*Knautia dipsacifolia*

スイカズラ科　クナウティア属　英語名：Wood Scabious
国内に自生する近縁の種：なし

ピレネー山脈とアルプスで、標高400〜2,100 m地帯の日陰や林下、低木林などに自生する多年草で、草丈は30〜100 cmだが、まれには150 cmになる個体もあるとのこと。葉は浅緑色で同一個体内でも形態変化が大きいが、最大長は20 cm。基本的には、根元がせばまった楕円形で鋸歯があり、茎に対生する。頭花は鮮やかな紅紫色〜ライラック色のドーム形で、径は25〜40 mm。外周部にある小花は内部の小花よりかなり大きく、下唇裂片は前ページの*K. arvensis*より細長い。花色にはある程度の変化幅があるようだが、ドロミテ山塊やコルニケ山塊で私が見た個体は鮮やかなピンク色で、どちらかといえば上品な藤色系の*K. arvensis*や日本のマツムシソウとは異なる、艶やかな花であった。スイスアルプスで撮ったこの写真でも、*K. arvensis*とは異なる花色なのが見て取れる。 ◇2016.07.19 Sunnegga, Berner Overland, Switzerland

Caprifoliaceae

Linnaea borealis
リンネソウの亜種？

スイカズラ科　リンネソウ属　英語名 : Twinflower
国内に自生する近縁の種 : リンネソウそのもの

「日本維管束植物目録」ではリンネソウに亜種を認めていないが、これを３つの亜種に分けるという説もあり。それによれば、アジアと北米西部にあるのはsubsp. *longifolia*で、北米の南部を除く広い範囲には、subsp. *americana*があるという。従って、日本の山で見るものはsubsp. *longifolia*であろう。ところが。亜種*americana*の存在についてはネット上に多くの記事があるが、その形態について記載した信頼できる情報を見つけられないでいる。ここに示す花は、日本で見るものより色が濃いようだが、今のところ、亜種*americana*なのか亜種*longifolia*なのか分からない。もっとも、これらの３亜種はよく似ており、アマチュアのワイルドフラワー愛好家にとっては、どの亜種であっても大きな違いではない。周知のように、これは現在の生物分類学で基本となっている二名法の考案者Carolus Linnaeusにちなむ属名で、和名でもリンネの名前を採用している。◇2009.07.12 Up. Bankhead, Banff National Park, Canada

Caprifoliaceae　　*Lonicera etrusca*

スイカズラ科　スイカズラ属　英語名 : Etruscan Honeysuckle

国内に自生する近縁の種 : スイカズラ、チシマヒョウタンボク

地中海沿岸域を中心としたヨーロッパに分布する多年性の落葉つる植物で、林内や雑木林に生え、長さは最大6 mまで伸びる。茎には長さ数cmの楕円形の葉が対生し、２枚の葉が接合した所から穂状花序が伸びる。花は長さ5 cmの２唇形で、細い筒状部の先に、２枚の唇弁（花弁裂片）が上下に大きく開く。上唇弁は四角形で先が浅く４裂し、下唇弁は細長い。花色は淡黄色～淡紅色で、雄しべと雌しべが花冠から長く突き出す。日本にあるスイカズラは、本種と殆ど同じ形態の花をつけるが、花色は白から黄色に変化して行くので、この赤系統の花は新鮮な印象を与える。

◇2000.06.12　Grenoble郊外, France

Caprifoliaceae　　*Scabiosa columbaria*

スイカズラ科　マツムシソウ属　英語名：Small Scabious, Pincushion Flower
国内に自生する近縁の種：マツムシソウ、エゾマツムシソウ

これは、ヨーロッパの地中海沿岸域、北アフリカ、西アジアに分布する多年草で、日当たりの良い乾いた草地、岩礫地、疎林などに生え、草丈は50～70 cm。茎は良く枝分かれし、根生葉は長さ5～15 cmの披針形で、毛が密生して灰緑色を呈する。茎葉は羽状に切れ込む。茎先に１個づつ径1.5～3.5 cmほどの赤紫色の頭花をつける。中心部の筒状花は浅く4～5裂し、裂片の先は少し開き気味。それを取り巻く10個ほどの舌状花は２唇形で、上唇は小さくて２裂する。下唇は深く３裂して中央裂片は大きく、裂片の先は丸い。日本にあるマツムシソウやタカネマツムシソウと比べるとスッキリした花の造りで、サイズは小さめながらも実に美しい花である。
◇2005.09.30　Urbino近郊, Marche Province, Italy

Caprifoliaceae

Valeriana dioica

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名 : Marsh Valerian

国内に自生する近縁の種 : カノコソウ、ツルカノコソウ

ヨーロッパ、北米、中央アジアに分布する多年草で、山地帯〜亜高山帯の湿った草地、湿地、河畔、湖畔などに生え、草丈は10〜40 cm。根生葉は卵形で長い柄がある。茎葉は2〜4対あって対生し、柄が無くて羽状に分裂し、小葉の先は鋭く尖る。直立した茎は上部で分岐し、枝先に径1〜2 cmの集散花序を出す。この植物は雌雄異株で、雄花の花冠は径5 mmだが、雌花は径4 mm、花冠は淡紅色〜白色で５裂する。写真は、ノルウエーのフィヨルド見物のあと立ち寄った有名観光地で、この花が群生しているのを見つけた時のもの。黒っぽい茎に淡紅色の花の塊は、なかなか洒落た組み合わせだ。◇2010.07.30 ショスの滝, Norway

Caprifoliaceae

Valeriana montana

スイカズラ科　カノコソウ属　ドイツ語名：Berg-Baldrian

国内に自生する近縁の種：カノコソウ、ツルカノコソウ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の標高500～2,600 mの石灰岩地帯で、崖、ガレ場、明るい疎林などに生える多年草で、草丈は10～50 cm。根生葉は柄のある卵形～楕円形で鋸歯はない。紫褐色を帯びた茎は分岐しないで直立し、毛はない。茎葉には柄がなく、先の尖った楕円形～披針形で対生し、鋸歯はあったりなかったりする。まれに、３裂する茎葉があるが、側裂片は小さい。茎先に集散花序を出し、径5 mmほどの白色～淡紅色の花を密につける。花冠は長さ3.5～6 mmで先が５裂する。本種の花は日本のカノコソウと似ているが、全体によりしっかりした作りで、切れ込みのない葉にはすこぶる存在感がある。◇2015.07.02 Pordoi Pass, Alpi Dolomitische, Italy

Caprifoliaceae

Valeriana officinalis
ヨウシュカノコソウ

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名 : Common Valerian, Valerian
国内に自生する近縁の種: カノコソウ、ツルカノコソウ

ヨーロッパの大部分とアジアの一部に分布する多年草で、湿った所でも乾いたところでも生育できるが、主に湿った草地、路傍、川畔、林下などに生えて、草丈は1.5 mになる。アルプスでは標高2,400 mまでに分布する。茎に毛はなく上部で枝分かれする。葉は対生し、羽状に分裂して小葉は披針形。葉縁には鋸歯があり、下部の葉には葉柄がある。枝先に丸みを帯びた集散花序を出し、長さ3〜8 mmの淡紅色〜白色の花を密につける。花の基部にはふくらみがある。これは日本のカノコソウにそっくりの植物だが、草丈はこちらの方が圧倒的に高い。花にはよい香りがあるし、蜜を求める昆虫には大人気の花だ。この植物に特有の強い臭いのため、昔は魔除けや不眠症の治療に使われたとか。また、新鮮な状態では猫が近づかないともいわれる。ネット情報によれば、ヨーロッパでは、現在でも不安神経症の治療に使われているという。◇2010.07.29 Bergen近郊, Norway

Caprifoliaceae　　*Valeriana pyrenaica*

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名：Pyrenean Balerian

国内に自生する近縁の種：カノコソウ、ツルカノコソウ

これは園芸目的にも利用される多年草で、庭から逸出した株が、ヨーロッパ各地で野生化しているらしい。手持ちの図鑑ではピレネー山脈とスペイン北部原産となっているが、フレンチアルプスの山中で出会ったこの株は、自生株だと思われる。この植物は湿った半日陰を好み、草丈は2 m以上になる。根生葉には長い柄があり、葉身がハート形なのがこの種の最大の特徴だ。茎葉は対生し、柄のない三出複葉で、頂小葉は鋸歯のある広披針形で先が尖る。花序は他のカノコソウ属に共通する色と造りで、特に変わったところはないが、背の高さと幅広の茎葉裂片のお陰で、日本のカノコソウのもつ「つつましやか」な雰囲気は全くない。◇2012.06.17　L'Echalp 南方, Quayras Regional Natural Park, French Alps, France

Caprifoliaceae

Valeriana saliunca

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名 : Entire-Leaved Valerian

国内に自生する近縁の種: カノコソウ、ツルカノコソウ

これは、アルプスと中部アペニン山脈に分布する多年草で、草丈は5～15 cm。標高1,800 m～2,700 m地帯で、砂礫地や岩れき斜面に生える。ヨーロッパにはカノコソウ属の種が多くあり、亜高山帯まで分布する背の高い種類は数多いが、草丈が低くて淡紅色の花をつける高山植物は、本種の他に２種あるだけのようだ。本種の根生葉には短い柄があり、披針形～さじ形で英語の名前の通り鋸歯はない。茎葉は披針形で１対だけつき、その葉腋から小枝が出る。茎頂と枝先からこの仲間に共通する集散花序を出し、淡赤紫色の小さな花を沢山つける。花冠は５裂して長さは4～5.5 mm。草丈が低い上に根生葉が単葉と特徴的であり、風の強いIzard峠で最初に出会ったときには、これがカノコソウ属の植物とは思い当たらなかった。花色が少し上品すぎて目立たないが、中々魅力的な高山植物である。◇2012.06.17 Izard Pass, French Alps, France

Caprifoliaceae

Valeriana saxatilis

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名：Rock Valerian

国内に自生する近縁の種：カノコソウ、ツルカノコソウ

アルプス東部とアペニン山脈北部の石灰岩地帯で、標高1,000～2,700 mの岩礫地に生える多年草で、草丈は5～25 cm。根生葉は楕円形～披針形で長い柄があり、鋸歯はあったりなかったりする。茎は上部で分岐し、茎葉はないか広線形の葉が１対対生する。この植物は雌雄異株であるが、花は共に白色で径1～2 mmと小さく、枝先に集散花序を作る。花冠は原則として５裂するが、中には６裂するものも見られる。この仲間にしては純白の花は珍しく、肉厚の単葉が根生することもあって、最初に見た時はカノコソウ属とは思い浮かばなかった。写真の株は開花直後で、葉は小さく丸まっているが、時間がたって葉が十分展開すると、長さ10 cm以上にもなるようだ。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Caprifoliaceae *Valeriana sitchensis*

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名 : Sitka Valerian

国内に自生する近縁の種: カノコソウ、ツルカノコソウ

これは、北米大陸の北西部に分布する多年草で、山地の湿った林下に多いが、多様な環境に対応できて草丈は30〜120 cm。葉は殆どが茎葉で2〜5対あり、多様な形態を取るが、下部では長い柄のある羽状複葉で、3〜7個の広卵形で鋸歯のある小葉をもつ。上部の葉はいくつかに切れ込み、裂片の先は鋭く尖る。茎は無毛で分岐せず、その先に半球状の集散花序を出し、淡紅色〜白色の花を沢山つける。花冠は長さ5〜8 mmで先が5裂し、筒部の長さは裂片の２倍以上ある。ヨーロッパほどではないが、北米にもカノコソウ属の種は沢山あり、中には見分けが難しいものもある。この種の場合は、高い草丈と分岐しない茎が特徴といえよう。◇2009.07.16 Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Caprifoliaceae　　*Valeriana supina*

スイカズラ科　カノコソウ属　英語名 : Dwarf Valerian

国内に自生する近縁の種 : カノコソウ、ツルカノコソウ

アルプス東部の標高1,800〜2,900 m地帯で、石灰岩やドロマイトの上でマット状に広がる背の低い多年草で、草丈は5〜10 cm。根生葉は柄のあるさじ形で、全縁か鈍い鋸歯がある。茎葉は無柄でより細長く、1〜2対が短い茎に対生する。花は淡紅色で茎頂に密な集散花序を形成する。花冠は径3〜4 mmで５裂し、これも雌雄異株の種である。この花はカノコソウ属の特徴を備えてはいるが、全体の佇まいはとてもカノコソウ属とは思えないほど変わっている。以前フレンチアルプスで撮影した *V. saliunca* (p. 123)もカノコソウ属の高山植物であるが、そちらの方はまだ、立ち上がった茎頂におなじみの集散花序をつけ、普通のカノコソウ属を思い出させる風貌である。しかし、この種は岩の割れ目に根を下ろし、岩上にマット状に広がる異端児だ。しかし、岩肌が見えないほどの高密度で葉を付け、極めて短い茎先に花序をつける様子は、いかにも高山植物という感じがして実に魅力的な植物である。

◇2015.07.02　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Caryophyllaceae *Arenaria biflora*

ナデシコ科　ノミノツヅリ属　英語名：Two-Flowered Sandwort

国内に自生する近縁の種：カトウハコベ、オオヤマフスマ、メアカンフスマなど

これは、ピレネー山脈からバルカン半島まで、ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する殆ど無毛の多年草である。アルプスでは、標高1,700 m～3,200 m地帯の、花崗岩質の岩場や荒れ地などに生える。茎は地面を這って10～30 cmに伸び、節から根を伸ばす。立ち上がる枝がないので、草丈は1～3 cmしかない。葉は中央に１脈のある楕円形で対生し、鋸歯はなくて先は丸い。花は長さ5 mmの花柄の先に付く白色の５弁花で、径は7～9 mm。花弁は卵形で先は尖らない。英語名は花が対になることを示すが、実際には対になることもあれば、単独でつくこともある。この植物は、暗紫色の茎に深緑色の葉と純白の花が良いコントラストで、草姿は纏まりを欠くが、そこそこに魅力的な風貌である。それにしても、これがメアカンフスマと同じノミノツヅリ属とはね。確かに花はメアカンフスマによく似ているが、この長く地表をはう茎には違和感を覚える。◇2012.06.21 Pranplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Caryophyllaceae　　*Arenaria ciliata*

ナデシコ科　ノミノツヅリ属　英語名：Ciliate-Leaved Sandwort

国内に自生する近縁の種：カトウハコベ、オオヤマフスマ、メアカンフスマなど

ヨーロッパ大陸に広く分布する殆ど無毛の多年草で、グリーンランドにも自生するという。ピレネー山脈やアルプスでは、標高1,600～3,000 mの石灰岩質の岩場や草地に生え、草丈は5～15 cm。葉は長さ3～4 mmの楕円形～さじ形で対生し、先が尖って、下部茎葉の縁には毛がある。茎はあまり長く伸びず、先端に2～7個の花をつける。花は白色の５弁花で径6～10 mm、萼片は長さ4～5 mmで先が尖る。雄しべは長くて放射状に広がり、花糸と葯は白色である。これは、日本のカトウハコベやメアカンスフマに近い植物ということになるが、前ページの*Arenaria biflora*よりは、花の付き方などに類似点が多い。ちなみに、「日本維管束植物目録」によれば、*Moehringia*属（オオヤマフスマ属）は一時独立の属とされたが、遺伝子研究の結果元のArenaria属に戻された。◇2012.06.17 L'Echalp南方, Queyras Regional National park, French Alps, France

シノニム：*Moehringia ciliata*

Caryophyllaceae *Cerastium alpinum*

ナデシコ科　ミミナグサ属　英語名：Alpine Mouse-Ear, Alpine Chickweed

国内に自生する近縁の種：オオバナノミミナグサ、クモマミミナグサ、ミミナグサなど

これは、周極分布をする多年草で、北半球の北極圏に加えてヨーロッパの山岳地帯にも分布する。アルプスでは、主に非石灰質岩地帯の標高1,800～2,800mの草地やガレ場に生える。草丈は5～20 cmで、マット状に広がることが多い。茎や葉には軟毛が多く、灰緑色に見える。葉は柄が無くて対生し、長さ7～20 mmの全縁の披針形～楕円形だが、線形の株もある。花は径10～20 mmの白色の5弁花で、長さ9～15 mmの花弁は先が浅く２裂する。萼片は５個で先は尖らず、花弁の方が萼片より1.5～2倍長い。ヨーロッパ大陸にはミミナグサ属の種が多く分布しており、葉も花もよく似ていて見分けが難しい。本種は、葉や茎が灰緑色で、葉が小型なのが特徴といえようが、形態変異が多くて、いくつかの亜種に分けられている。◇2012.06.17 L'Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, French Alps, France

Caryophyllaceae　　*Cerastium* cf. *arvense* subsp. *strictum*

ナデシコ科　ミミナグサ属　英語名 : Field Chickweed, Rigid Mouse-Ear

国内に自生する近縁の種 : オオバナノミミナグサ、タカネミミナグサ

これはユーラシア大陸と北米大陸に広く分布する多年草で、南米大陸にも分布する可能性があるという。また、形態変化が激しくて、他種との見分けが難しいことも多いという。幅20〜40 cmに広がったルーズなマットから多くの花茎が立ち上がり、その草丈は5〜50 cmと変化が激しい。花のある茎につく葉は、長さ1〜3 cmの線形から狭披針形で、１本の中央脈がある。しかし、標高の高い所では葉の幅が広いとの資料もあるし、花のない茎の葉は楕円形〜楕円状卵形で、幅は3〜4 mmというデータもある。5個ある萼片は長さ4〜6 mmで腺毛がある。5枚の白い花弁は長さ11〜15 mmで、先端は深く切れ込む。とにかく、アルプスには数多くのミミナグサ属があり、素人には正確な同定は難しい。写真は、花弁の切れ込みの深さと茎の立ち上がり具合から、「スイスアルプス花図鑑」に載っている表題の亜種に似ていると判断したが、自信はない。◇2007.06.24　First, Berner Overland, Switzerland

Caryophyllaceae　　*Cerastium latifolium*

ナデシコ科　ミミナグサ属　英語名 : Broad-Leaved Mouse-Ear

国内に自生する近縁の種 : オオバナノミミナグサ、タカネミミナグサ

アルプスと北部アペニン山脈の石灰岩地帯で、標高1,600〜3,500 mの岩の割れ目やモレーン上に生える多年草で、全体が繊毛に被われて草丈は3〜10 cm。カルパチア山脈にも自生するというネット情報もある。葉は三角状楕円形で先が尖るが、学名にあるようにこの仲間としては幅広で形が良い。上向きに咲く花は径15〜20 mmの白色の５弁花で、茎頂に１個または2〜3個がつく。花弁は先端が浅く切れ込み、萼片の２倍の長さがある。また、花弁基部から先端に向かって灰色の縦筋が走り、形の良い洒落た感じの花である。苞葉は緑色で葉状だ。本種は、草丈が低くて葉の形も良く、大きめの美しい花を咲かせるので、アルプスに咲くミミナグサ属の中でも、最も魅力的な花といえるだろう。咲いている場所が、高山帯の岩場や岩礫地というのも好印象である。◇2015.07.05　Tofana di Mezzo, Alpi Carniche, Italy

Caryophyllaceae

Dianthus armeria
ノハラナデシコ

ナデシコ科　ナデシコ属　英語名: Deptford Pink, Grass Pink
国内に自生する近縁の種: カワラナデシコ、シナノナデシコ

これは、ヨーロッパ原産の1年〜2年草で、悪い環境にも耐えられるので、世界各地に帰化しているようだ。茎は地表近くで分岐し、草丈は最大60 cm。葉は暗緑色で毛があり、下部では長さ5 cmほどのへら形で柄があるが、上部では無柄の線形となって対生する。茎頂に小さな散房花序を出し、３対の苞葉が目立つ。花は径8〜15 mmの５弁花で、鮮やかな濃いピンク色の花弁の基部には白い斑点がある。小さいながら美しい花で、なかなか魅力的である。日本では1967年に初めて帰化しているのが見つかったそうだが、北大構内には集まって咲いているところがある。ボージュ山地でみた自生地では群落をなしており、蕾は多いものの開花している花はぽつりぽつりという感じだった。多分、開花期の長い植物なのだろう。◇2007.06.23 ボージュ山地, France

Caryophyllaceae

Dianthus barbatus
ヒゲナデシコ

ナデシコ科　ナデシコ属　英語名 : Sweet William

国内に自生する近縁の種:　カワラナデシコ、シナノナデシコ、ハマナデシコなど

ヨーロッパ南部とアジアの一部に分布する２年草で、アルプスでは標高2,500 mまでの日当たりの良い草地や路端に生え、草丈は30〜75 cm。葉は緑色〜青緑色の披針形で、長さは4〜10 cm。花は茎頂に最大30個ほど集まって散房花序となり、副萼片は緑色で鋭く尖る。花は径2〜3 cmの５弁花で、濃いピンク色の花弁は基部が白くて、先がギザギザに切れ込む。花弁の基部に白い斑点のあることも多い。これは人気のある園芸植物でもあり、数多くの園芸品種が作られている。和名の別名をアメリカナデシコというらしいが、本種は北米には分布しない。どうやら、本種が最初にアメリカ経由で導入されたことによる和名のようだ。◇2005.09.30 Urbino近郊, Marche Province, Italy

Caryophyllaceae　　*Dianthus carthusianorum*

ナデシコ科　ナデシコ属　英語名：Carthusian Pink

国内に自生する近縁の種：カワラナデシコ、シナノナデシコ、ハマナデシコなど

ヨーロッパに広く分布する多年草で、アルプスでは標高2,500 mまでの乾いた草地に生える。茎は細くてあまり分岐せず、草丈は15～60 cm。茎葉は広線形で対生し、長さは最大7 cm、幅は5 mmまでで鋸歯はない。茎先に数個の花からなる散房花序を出し、萼片と副萼片は紫褐色。花は径10～25 mmの５弁花で、濃いピンク色～紫色の花弁には濃色の筋があり、先がギザギザに切れ込む。花弁の基部に白い斑点のある花も多い。小さいながらも鮮やかな色彩の花が茎頂にいくつも同時に咲き、国内にはないタイプのナデシコで実に魅力的な植物だ。この花は、2012年のフレンチアルプス旅行では余り多く見かけなかったが、2016年に出かけたスイスアルプスでは、ツェルマット周辺やサース谷の標高2,000 m付近で、辺り一面がピンク色に染まるほどの大群落を見かけた。◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

Caryophyllaceae　　*Dianthus gratianopolitanus*

ナデシコ科　ナデシコ属　英語名 : Cheddar Pink

国内に自生する近縁の種: カワラナデシコ、シナノナデシコ、ハマナデシコなど

これは、ヨーロッパ大陸の西部と英国の一部に分布する多年草で、草丈は30 cmほど。アルプスでは南東部を除く全域で、標高2,200 mまでの草地や岩礫地に生え、英名の元となったイングランドのチェダー渓谷では、石灰岩の崖と岩の割れ目に生えるという。茎は青緑色で毛がなく、先の尖った線形の葉が対生する。花は茎頂に通常１個つき、平開して芳香がある。花は径15～30 mmの５弁花で、花弁は淡いピンク色の卵形で先がギザギザに切れ込む。萼片は紫褐色で副萼片は短い。写真の花は路傍の空き地に咲いていたが、針金のように細くて長い茎には細くて小さい葉がつき、茎頂に鮮やかな花が１個づつ平開して、風に揺れている様子はとても面白い。英国に自生することもあって、英国では園芸品種が多く作り出され、色様々な品種の種がネット販売されている。◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

Caryophyllaceae

Dianthus sylvestris

ナデシコ科　ナデシコ属　英語名 : Wood Pink

国内に自生する近縁の種:　カワラナデシコ、シナノナデシコ、ハマナデシコなど

スペインからイタリアにかけての山岳地帯で、標高1,400～2,800 mの岩がちの草地や岩礫地に生え、草丈は10～30 cm。根生葉は幅1 mmの線形で、下方に反り返ることが多い。茎は低山帯では分岐することが多いが、高山帯では分岐しない。花は茎頂に普通は１個、まれには２個つき、径15～25mmの５弁花で花色は濃紅色～淡紅色。花弁の先は丸みを帯び、歯牙状に切れ込む。副萼片は短い。これまた日本国内では見ないタイプのナデシコで、比較的しっかりした茎と、太い萼筒が印象的なナデシコである。ちなみに、フレンチアルプスで出会った写真の花の萼筒は緑がかっているが、今年ツェルマット周辺で見かけた花の萼筒は、褐色を帯びた赤紫色であった。ネット情報では両方のタイプが混在するらしい。本種は、米国とカナダで局所的に帰化しているらしい。◇2012.06.19 La Grave, French Alps, France

Caryophyllaceae　　*Gypsophila repens*

ナデシコ科　カスミソウ属　英語名：Alpine Gypsophila
国内に自生する近縁の種：なし

中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、標高2,900 mまでの乾いた石灰質の岩れき斜面でマット状に広がる。草丈は10～20 cmで、横への広がりは30～50 cm。毛のない匍匐茎から多くの茎を垂直に伸ばし、花をつける茎は更に細かく分岐する。葉は互生し、青緑色の狭披針形で、長さは最大で3 cmほど。枝先にまばらな散房花序を出し、径8～10 mmの白色～淡紅色の５弁花を数個つける。花弁の先は浅く凹むことが多く、萼片は花弁より短い。全体の造りは違うものの、花は花屋でよく見かけるカスミソウそっくりで、可愛い花である。撮影地では国道沿いの斜面に沢山咲いていたが、白い花ばかりでピンク色の花は見かけなかった。
◇2012.06.16 Brianson近郊, French Alps, France

Caryophyllaceae　　*Minuartia nuttallii*

ナデシコ科　タカネツメクサ属　英語名：Nuttali's Sandwort, Brittle Sandwort
国内に自生する近縁の種：タカネツメクサ、ミヤマツメクサ

北米大陸西部に分布する多年草で、カナダ南西部からカリフォルニア州やネバダ州にかけての岩礫地や林地に生え、草丈は3〜10cm。横方向の広がりは30 cmほど。葉は対生して重なり合い、針状で硬く、長さ6〜12 mmで幅は1 mmほど。茎頂に小型の集散花序をだし、2〜7個の白色の５弁花をつける。花柄は長さ3〜10 mm。萼片は長さ4〜6 mmの線状披針形〜披針形で、先が尖る。花弁は長さ1 cmほどで、3本の隆起した筋があって先が尖る。この花には砂漠で出会ったので、乾燥地帯に特有の植物だと思っていたが、タカネツメクサの仲間で森林地帯にも生えると分かって、ちょっとビックリ。確かに、出会ったのは砂漠地帯でも標高の高いジョシュアツリーの生育地帯だったので、森林地帯といえなくもない。花はタカネツメクサに似ているが、葉は青緑色で硬そうだし、付き方も違うのは、乾燥地帯に生えていた個体だからかな。◇1997.06.02 Jashua Tree National Park, California, USA

Caryophyllaceae　　*Minuartia recurva*

ナデシコ科　タカネツメクサ属　英語名: Sickle-leaved Sandwort

国内に自生する近縁の種: タカネツメクサ、ミヤマツメクサ

スペインから小アジアにかけての山岳地帯に分布する多年草で、標高1,700～3,100 mのガレ場や草地に群がって生え、草丈は5～15 cm。全体に毛がやや多い。英語名が示すように基部の葉は三日月形で束生し、長さは4～10 mmで３脈がある。茎葉は対生する。花は茎頂に１個または2～8個が集まり、径7～9 mmの白色の５弁花。花弁は長楕円形で、基部は細まり先端は丸い。子房は緑色で花糸は白色、葯は淡赤紫色である。全体の形は日本のエゾタカネツメクサに似ているが、子房と葯の色が違っている。この花は、観光客で賑わうトレチーメの遊歩道脇に沢山咲いていた。事前の予想とは異なり、この遊歩道脇には多くの高山植物が咲き乱れていた。黄色いケシは群れているし、小型リンドウやタカネツメクサ属は何種類も見られたしと、裸地続きで花は少ないだろうという思い込みは完全に間違っていた。

◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Caryophyllaceae　　*Minuartia sedoides*

ナデシコ科　タカネツメクサ属　英語名: Mossy Cyphel

国内に自生する近縁の種: タカネツメクサ、ミヤマツメクサ

ヨーロッパの北極圏と南部の山岳地帯に分布する全体に無毛の多年草で、スコットランドにも自生する。ピレネー山脈やアルプスでは、標高1,800～3,800 m地帯の岩場、モレーン、岩がちの草地などに生えて、マット状に広がる。草丈は1～5 cmしかなく、花はマットから立ち上がることなく開花する。狭披針形の葉は長さ3～6 mmで３脈があり、密に重なり合う。短い茎頂に１個つく花は径4～6 mmと小さくて花弁はなく、黄緑色で先の尖った卵形の萼片が５枚大きく開く。子房、花柱、花糸も緑色で、５個ある葯は黄白色。小さい上に緑色ずくめで目立たない花だが、カルニケ山地では数が多く、大きなマットとなって岩場に広がるので良く目につく。しかし、本種は一部の山域では豊富に自生するが、他では稀か全く見られないという。◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Caryophyllaceae

Minuartia verna var. *verna*
ホソバツメクサの基準変種

ナデシコ科　タカネツメクサ属　英語名: Vernal Sandwort, Spring Sandwort
国内に自生する近縁の種: ホソバツメクサ、ミヤマツメクサなど

ユーラシア大陸の極地や高山に隔離分布する多年草で、アルプスでは標高3,000 mまでの石灰岩地帯の草地や砂礫斜面に生え、草丈は5〜15 cm。茎には毛が生え良く分岐する。葉は先の尖った線形で、裏面には隆起した筋があり、長さは20 mmほど。枝先に単独または2〜7個の花が集まって散房花序となる。花は白色の５弁花で、径は6〜8 mmほど。萼片も５個で。花弁より少し短い。葯は紫色で日本の変種ホソバツメクサ（var. *japonica*)と共通する。ホソバツメクサは超塩基性岩地帯に特産するが、この基準変種は石灰岩地帯を好むという。やはり血筋は争えないと納得。写真は、石灰岩と同じくアルカリ性岩であるドロマイト(苦灰岩：$CaMg(CO_3)_2$)の岩礫地に咲く大株で、形の良い5弁花の集団が見事である。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Caryophyllaceae　　*Saponaria ocymoides*

ナデシコ科　サボンソウ属　英語名 : Rock Soapwort

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパの西南部～中南部に分布する半常緑性の多年草で、アルプスでは標高2,000 mまでの岩場や岩礫地、乾いた斜面に生え、マット状に広がって草丈は10～40 cm。赤味を帯びた茎は地を這うか斜上し、毛が密生してよく分岐する。葉は長さ1～3 mmの卵形～披針形で鋸歯がある。枝先に散房花序をだし、赤色～ピンク色で径6～10 mmの５弁花を咲かせる。萼は癒着して萼筒となり長さは8～10 mm、花弁の先は丸みを帯び、葯は紫色である。一株に咲く花の数は多くて葉が見えないほどだし、花期も３月から10月と長いので、この鮮やかな花の集団は車窓からでも良く目につく。しかし、フレンチアルプスでは道路脇で沢山見かけたが、ドロミテ山塊では時たま目にするだけだったし、今年のスイスアルプス山行では全く見かけなかった。地域的な生育密度は変化が大きい様だ。◇2012.06.16 Granon Pass, French Alps, France

Caryophyllaceae

Silene acaulis
コケマンテマ

ナデシコ科　マンテマ属　英語名: Moss Campion

国内に自生する近縁の種: タカネビランジ、フシグロセンノウ

ユーラシアと北米大陸の周極地方や高山に分布する常緑の多年草で、風の強い稜線や岩礫地で大きなクッションとなって広がり、草丈は普通5 cmほど。アルプスでは1,500〜3,000 m地帯に生える。鮮緑色の葉は長さ0.5〜1.2 cmの線形で根元から立ち上がり、地面が見えないほど密生する。1〜2.5 cmほどに伸びた茎頂に、径6〜12 mmほどのピンク色の５弁花を１個つける。両性花は雌性花より大きい。マンテマ属によく見られる特徴として、花弁の配置は極めて不規則である。萼片は癒着して萼筒となり、10本の雄しべと３本の雌しべは花冠より突き出る。他の植物が生えていないような砂礫地に鮮やかな緑色のクッションを広げ、ピンク色の花を点在させる姿はいかにも極寒地の花を思わせる。日本では見られない草姿だけに、アルプスでもカナディアンロッキーでも、この花との出会いは大きな喜びを与えてくれる。これとよく似た*S. excapa*を別種として扱う本もあるが、本種の変種として扱ったり、同じものと考える新しい説もあるようだ。◇2009.07.16 Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Caryophyllaceae

Silene dioica
アケボノセンノウ

ナデシコ科　マンテマ属　英語名 : Red Campion

国内に自生する近縁の種: タカネビランジ、フシグロセンノウ

ヨーロッパの北部～中部の全域と南部の一部に分布する２年草～多年草で、標高2,400 mまでの湿った草地や岩れき斜面、道路脇などに生える。茎は良く分岐し、草丈は30～90 cm。葉は全縁の広披針形～卵形で、長さは3～8 cm。根生葉はロゼットを作り、茎葉は対生するが、上部の葉には柄が無い。茎と葉には毛が密生し、触ると少しべたつく。枝先に散房花序をだし、濃いピンク色～赤色の５弁花を、数個横向に咲かせる。花は径1.8～2.5 cmで花弁は２深裂し、裂片の先は丸い。これは雌雄異株の植物で、雄花には10本の雄しべと10個の筋のある萼筒があり、雌花には５個の雌しべと20本の筋のある萼筒がある。本種は、アルプスの牧草地では普通にお目にかかるマンテマだが、実に鮮やかで美しい花である。日本にも帰化しているというが、私はまだ国内では見たことがない。◇2007.06.24 First → Grosse Sheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Caryophyllaceae　　*Silene nutans*

ナデシコ科　マンテマ属　英語名: Nottingham Catchfly

国内に自生する近縁の種:

ヨーロッパとアジアの広範囲に分布する多年草で、アルプスでは標高1,900 mまでの湿った草地、牧草地やガレ場に生える。草丈は25〜80 cmで茎には毛があり、上部は腺毛となって触ると粘つく。全ての葉には軟毛があり、根生葉は長い柄のあるさじ形で最大長は75 mm。茎葉は披針形で小さく、互生する。茎頂に一方向に偏った総状花序をだし、花はまばらに付いてうつむき加減に咲く。花は黄白色で部分的にピンク色を帯び、径は1.5〜2.5 cm。5枚の花弁は先が２深裂して、先が反り返る。萼は癒着して細い筒状になり、腺毛があって10本の赤紫色の筋が顕著である。本種は、萼筒は細いし花色は地味だしと、このデジタル本で取り上げた他のマンテマ属と比べると随分おとなしい花である。しかし、少なめの花がうなだれて咲く様子はそことなく風流で、趣のあるマンテマという印象を受ける。◇2016.07.15 Wengernalp, Berner Oberland, Switzerland

Caryophyllaceae *Silene pusilla*

ナデシコ科　マンテマ属　英語名 : Alpine Catchfly

国内に自生する近縁の種: タカネビランジ、フシグロセンノウ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の標高1,300～2,900 m地帯で、石灰質岩の岩場やガレ場に生える多年草で、草丈は5～20 cm。全体に殆ど無毛で細い茎は枝分かれする。葉は最大長3 cmの披針形～線形で互生する。花は白い５弁花で、径10～15 mm。花弁の先は2～4箇所ほど切れ込むが、先端中央部に、浅くて明瞭な切れ込みが一つだけある花の方が多いようだ。まれには、花弁がピンク色の個体もあるという。草丈も花も大分小さいが、この花は日本のセンジュガンピを思い出させる。全体がコンパクトなだけに高山植物の雰囲気があり、清楚で美しい花である。

◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Caryophyllaceae

Silene suecica
ミヤマセンノウ

ナデシコ科　マンテマ属　英語名 : Alpine Catchfly

国内に自生する近縁の種:　センジュガンピ、タカネマンテマ、フシグロセンノウ

ノルウエーとスウエーデンの山岳地帯に多い多年草だが、アルプス、ピレネー山脈、グリーンランドと北米の一部でも見られる。アルプスでは、標高2,000〜3,100 m地帯の岩場、乾燥した高山草原、砂礫地などに生え、草丈は10〜40 cm。茎は赤色で毛がなく分岐しない。葉は狭披針形で鋸歯がなく、根生葉には柄があってロゼット状につき、茎葉は対生して柄がない。茎頂に小型の散形花序をだし、芳香のある濃いピンク色の花を密につける。萼は筒状で５裂し、緑がかった紫色である。花は径1〜2 cmで５枚の花弁があり、花弁の先は２深裂する。本種は超塩基性岩地帯や栄養素の乏しい土壌にも耐え、銅の含有量が多い土壌にでも生えるため、探鉱目的でも利用されるという。北欧では海岸にでも生えているが、アルプスでは、数の少ない花のようだ。私はフレンチアルプスとツェルマット周辺で何株かみかけたが、一見マンテマ属とは思えないような草姿が印象的である。◇2012.06.18
Emparis Plateau, French Alps, France

Caryophyllaceae

Silene vulgaris
シラタマソウ

ナデシコ科　マンテマ属　英語名：Bladder Campion

国内に自生する近縁の種：センジュガンピ、タカネマンテマ、フシグロセンノウ

ヨーロッパに広く分布する多年草で、アルプスでは標高3,100mまでの草地や岩場に生え、草丈は20～80 cm。茎は淡緑色で毛がなく、基部で分岐する。葉は全縁で、殆どが茎について対生する。下部の葉は長さ6 cmほどの広楕円形で柄があるが、上部の葉は柄のない楕円径～狭卵形で、長さは2 cmほど。茎先に大型の円錐花序をだし、多数の花を下向きに咲かせる。花は径2～3 cmで長さは2～2.5 cm。５枚の白い花弁が平開し、花弁の先は２深裂する。萼は無毛の樽形で淡緑色～濁淡紅色、20本の平行な筋がある。10本の雄しべと１本の雌しべは花冠から突き出るが、紫色の葯が美しい。この植物は、地中海沿岸国では山菜としても利用されるそうだ。また、本種は世界中の温帯域で帰化しており、日本には戦後帰化したそうだ。それにしても、風流な日本名に対して「膀胱マンテマ」という英語名はいただけないと思っていたら、bladderには「膨れたもの」という意味もあるのだそうで納得した。

◇2007.06.24 First → Grosse Schaidegg, Berner Overland, Switzerland

Caryophyllaceae　　*Stellaria longipes*

ナデシコ科　ハコベ属　英語名 : Long-stalked Starwort

国内に自生する近縁の種: イワツメクサ、ウシハコベ、オオヤマハコベなど

これは、北半球の高緯度地方で周極分布をする多年草という資料が多いが、ヨーロッパの図鑑には載っていない。しかし、米国農務省の分布図ではグリ–ンランドにもあるし、ユーラシアに分布すると明言する資料もある。とにかく、本種はツンドラやタイガのほか、亜高山帯～高山帯の湿った岩れき斜面や草地に生え、草丈は3～30 cm。形態変化の多い植物で、遺伝的な違いと環境の違いで色や形が変化する。茎は短くて単純なものから、地面を這って良く分岐するものまである。葉は線形～披針形で対生し、毛はなくて長さは1～4 cm。葉は硬くて光沢があり、色は黄緑色～青緑色。長さ5～30 mmの苞葉の付いた茎先に、単独または複数の花が散房花序となる。花は径5～10 mmで５枚の白い花弁があり、先が２裂するが切れ込みの深さには変異がある。萼片は５個あり、長さ3～4 mmで先が尖る。写真の個体は、葉が青緑色なのでシコタンハコベによく似ている。◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Celastraceae

Parnassia palustris
ウメバチソウ

ニシキギ科　ウメバチソウ属　英語名: Grass of Parnassus
国内に自生する近縁の種: シラヒゲソウ

これは、北半球の寒冷帯～温帯に広く分布する多年草で、湿った草地や高山の湿地に生え、草丈は10～30 cm。日本では酸性土壌地でも普通にみられるが、ヨーロッパでは石灰質の土壌を好むという。葉は長い柄のある心形で最大長は10 cm、ロゼット状に根生し、茎の中程に茎葉が１枚つく。花茎の先に１個の花が平開し、５枚ある花弁は白色で、長さは8～13 mm。緑色の明瞭な筋模様がある。北米にはいくつかの同属種があるとされるが、写真の花は日本にあるウメバチソウと同じものである。ノルウエーの有名観光地であるショスの滝を訪れて、近づけない所にある濡れた岩壁を見下ろしたら、ウメバチソウの見事な株が群がって咲いていた。この植物は、何本もすっくり延びて葉のない茎先に、大きめで白一色の花が1個だけ咲くのが魅力である。。◇2010.07.30 ショスの滝、Norway

Cistaceae　　*Helianthemum alpestre*

ハンニチバナ科　ハンニチバナ属　英語名 : Alpine Rockrose

国内に自生する近縁の種:　なし

これは地中海沿岸域に多い矮小灌木で、アルプスでは標高1,600～2,900 mの石灰岩地帯で草地や礫地に生え、高さは5～20 cm。葉は全縁の狭披針形～楕円形で対生し、通常毛はない。花は径14～20 mmの５弁花で、黄色い花弁と黄色い雄しべに黄色い葯という、黄色ずくめの組み合わせだ。*H. nummularium* (p. 153)とよく似た花だが、草丈も花も随分と小型である。もっとも、最近ドロミテで出会った*H. canum* (p. 152)はもっと小型である。この仲間は、ハンニチバナ科というだけあって、日の出と共に開花して午後には花弁が落ちる。ハンニチバナ科は日本ではおなじみのない科だが、世界には9属200種もあるという。◇2012.06.17 Queyras Regional Natural Park, French Alps, France

シノニム：　*Helianthemum oelandicum* subsp. *alpestre*

Cistaceae　　*Helianthemum apenninum*

ハンニチバナ科　ハンニチバナ属　英語名 : White Rockrose

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパの広範囲に分布し、乾いた草地や岩場に生える常緑の灌木で、高さは50 cmに達する。アルプスでは標高1,800 mまでの石灰岩地帯に生える。葉は長さ3 cmの線形〜狭楕円形で対生し、裏面に白色〜灰色の毛があって、縁は下方に巻き込む。茎先に3〜10個の花からなる散房花序をだし、径2.5〜3 cmの白い５弁花を咲かせる。花弁の基部は黄色く、花の中心で多数束生する黄色い雄しべと合わせて、白い花弁との対比が美しい。花弁は薄くて凹凸がある。この花は、蕾の時にはうなだれているのだが、開花すると上向きに平開する様子が面白い。ブリアンソンの砦跡を訪れた際、これまで見たことのないこの花を見つけて撮影したが、近くに黄色い花を咲かせる*H. nummulrium* (p.154)も咲いていた。両方とも、ここで見た以外では、その後お目にかかったことがない。◇2012.06.16　Brianson近郊, French Alps, France

Cistaceae　　*Helianthemum canum*

ハンニチバナ科　ハンニチバナ属　英語名 : Hoary Rockrose

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパの石灰岩地帯で、標高1,700 mまでの乾いた草地や岩礫地に生える半灌木だが、分布は局所的で比較的稀な植物だという。また、地域的な形態変化も大きいらしい。本種は、中心にある幹から多くの枝が上方や横方向に伸び、高さは最大で20 cmほどしかない。葉は長さ10 mmほどの楕円形〜狭披針形で鋸歯はなく、芽が出たところに固まってつく。葉の表は緑色で毛があり、裏面は灰白色の毛が密生する。枝先に1〜6個の花が集まった集散花序をだし、沢山の蕾がうなだれて開花を待っている。花は径は8〜15 mmの５弁花で上向きに平開し、萼片も５個ある。花弁は重ならず、先には浅い切れ込みのあることが多い。蘂や葯を含めて全体が黄色く、余りメリハリのない花ではあるが、鮮黄色の花弁は美しい。

◇2015.06.29 Innsbruck近郊, Austria

Cistaceae　　*Helianthemum nummularium*

ハンニチバナ科　ハンニチバナ属　英語名 : Common Rockrose

国内に自生する近縁の種: なし

これは、ヨーロッパの広範囲に分布し、形態変化大きい半灌木で、標高2,800 mまでの乾いた石灰質の土地に生え、高さは50 cmになる。茎は良く分岐し、枝先にまばらな散房花序を出す。葉は長楕円形〜披針形で対生し、表面は無毛で１脈があり、裏面は毛が密生して白く､葉縁は内側に巻き込む。花は径14〜30 mmの５弁花で皿形に平開する。鮮黄色の花弁は全体に皺があり、広卵形〜矩形で花弁の基部はオレンジ色。花の中心部で束生する雄しべもオレンジ色である。この花には、オレンジ色や白色のものもあるらしい。形態変異が多いだけに、本種には８つもの亜種が識別されている。撮影地では、このうち６亜種が分布する可能性があるが、それらの特徴に関する詳しい情報もないので、亜種レベルでの同定は今のところ出来ない。◇2012.06.16　Brianson近郊, French Alps, France

Cornaceae　　*Cornus* cf. *unalaschkensis*

ミズキ科　サンシュユ属　英語名：Alaskan Bunchberry, Western Bunchberry

国内に自生する近縁の種：エゾゴゼンタチバナ、ゴゼンタチバナ、ヤマボウシ

アラスカからカリフォルニア州までの北米大陸西部と、ロシアのマガダン地方に分布する多年草で、林下に生えて草丈は20 cmほど。葉は４枚か６枚が輪生し、最大長が8 cmの楕円形。花が咲くのは、６枚の葉を持つまで成長した株に限られる。輪生する葉の根元から花柄を伸ばし、４枚の白い苞に囲まれた筒状花からなる集散花序を平開する。苞は長さ1～2 cm。本種の分類上の位置づけにはいくつもの説があり、*C. canadnsis*（ゴゼンタチバナ）と同じ種と考えられたり、何かの雑種とされたりしたが、最近では*C. canadnsis*と*C. suetica*との遺伝子を受け継ぐ異質倍数体と考える研究者が多いという。また、ウイキペディアの記事では、*C. unalaschkensis*はこれらの２種とは生息地が重ならないそうだが、USDAのマップでは、*C. unalaschkensis*の分布範囲の殆ど全部が、*C. canadnsis*の分布範囲の一部と重なっている。両種は花と葉の詳しい見比べで区別できるというが、信頼できる情報がないので、ゴゼンタチバナとは微妙に異なるという印象から、写真の個体は表題の種と見なしている。

◇2009.07.12　Up. Bankhead, Banff National Park, Canada

Crassulaceae　　*Rhodiola integrifolia* subsp. *integrifolia*

ベンケイソウ科　イワベンケイ属　英語名 : Pacific Rroseroot, King's Crown
国内に自生する近縁の種: イワベンケイ、ホソバイワベンケイ

北米大陸西部とカムチャッカ半島を含む極東ロシアに分布する多年草で、亜高山～高山帯の草地、岩場、崩壊斜面などに生え、草丈は最大で30 cmほど。枝分かれした多肉質の根茎からがっしりとした茎を延ばし、広卵形～楕円形で最大長が2.5 cmほどの多肉質の葉を互生する。葉は全縁で毛がなく、縁が上方に少し彎曲する。葉は出始めは緑色だが、時間の経過と共に橙色や赤色に変化する。枝先に密に纏まった集散花序をだし、最大50個ほどの肉質の花をつける。花には鮮赤色～濃紫色の肉質の花弁が4～5個あり、先端が僅かに開いて雄しべが少し突き出る。この色鮮やかで風変わりな花には驚いた。最初見たときは果実かと思ったが、まだ廻りはシーズン始めの花が咲いている段階だった。よく見ると四角錐形の花弁の先から雄しべが覗いており、蟻が蜜を吸いに集まっている。帰国してから図鑑を調べて、これが確かに花であると確認したが、日本にあるこの仲間とは全く違う形態の花なので実に面白い。◇2009.07.12　C Level Cirque, Banff National Park, Canada

Crassulaceae　　*Sedum album*

ベンケイソウ科　マンネングサ属　英語名：White Stonecrop

国内に自生する近縁の種：コモチマンネングサ、ハママンネングサ、マンネングサなど

北半球の温帯域に広く分布する多年草で、海岸の岩場、乾いた土手、石混じりのの草地などに生え、草丈は8～20 cmほど。アルプスでは標高2,500 mまで分布する。年間の殆どは、短い茎に葉を密につけて匍匐しているが、7～8月の花期が来ると、茎は伸びて立ち上がり、時々分岐して淡紅褐色に変わる。茎葉は長さ4～12 mmで互生し、肉質で先の丸い円筒形だが上面はやや平たい。開花期には、葉も赤味を帯びた緑色になり、茎頂に径4～8 mmの花を密につけた集散花序をだす。花冠は4～5枚の白い花弁からなり、10本の雄しべと５本の雌しべがある。日本にあるマンネングサ属は殆どが黄色い花を咲かせ、このような淡紅色～白色の花は珍しいし、暗赤色の葯とのコントラストが美しい。黄色いマンネングサはありふれていて面白くもないが、ベルゲンの山中で出会ったこの花は中々魅力的である。◇2010.07.29 Bergen近郊、Norway

Crassulaceae

Sedum atratum

ベンケイソウ科　マンネングサ属　英語名: Dark Stonecrop

国内に自生する近縁の種:コモチマンネングサ、ハママンネングサ、マンネングサなど

ピレネー山脈からバルカン半島のカルパチア山脈まで、南部ヨーロッパの山岳地帯に自生する一年草で、アルプスでは、標高1,500〜3,200 mまでの岩場や岩礫地に生え、草丈は2〜10 cm。全草無毛で基部で分岐し、茎は赤味を帯びて直立する。茎に密集して互生する葉は長さ5 mmほどの棍棒状で、色は茎と同じく赤褐色のことが多いが、中には緑色の株もある。花は茎頂に3〜6個つき、径は5〜8 mm。花弁はふつう乳白色で5〜6枚あり、内側と外側に赤い筋がある。しかし、ネット上には花弁全体が濃紅色の花もある。花弁は肉厚で先が尖り、長さは萼片の1〜1.5倍ある。この植物は、赤くて棍棒状の茎葉がびっしりと密生するのが異様である。葉緑素のない腐生ランなら驚かないが、ベンケイソウ属にも変わり者がいるものだ。

◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Crassulaceae　　*Sempervivum arachnoideum*

ベンケイソウ科　クモノスバンダイソウ属　英語名: Cobweb Houseleek
国内に自生する近縁の種: なし

アルプス、アペニン山脈、カルパチア山脈に固有の多年草で、標高1,500〜3,100 mの酸性岩地帯で、岩場、ガレ場、河原などに生える。多肉質の葉が集まって径5〜15 mmほどのロゼットとなり、それが集まって最大径30 cmほどのマットを作る。ロゼットを構成する根生葉は無柄の倒卵形で、長さは12 mm。表面に腺毛があり、ロゼット全体がクモの巣状の白毛で被われる。根生葉は淡緑色だが、先が赤味を帯びることが多い。初夏の頃マットから高さ5〜15 cmの茎が立ち上がり、重なり合った長さ15 mmの披針形の茎葉で被われる。茎葉は緑色だが褐赤色の部分が目立ち、淡緑色のロゼットとのコントラストが鮮やかである。茎先に径1〜2 cmの花が3〜8個集まって、平らな集散花序となる。花弁は先の尖った線状披針形で8〜12枚あり、濃いピンク色で中央に濃色の筋がある。 ◇2016.07.13 Kreuxboden, Saastal, Wallis, Switzerland

Crassulaceae　　*Sempervivum montanum*

ベンケイソウ科　クモノスバンダイソウ属　英語名: Mountain Housleek
国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ南部の山岳地帯に自生する形態変異の大きい多年草で、西はピレネー山脈から東はカルパチア山脈まで、南はコルシカ島にまで分布する。標高1,500〜3,200 mの酸性岩地帯で岩場やガレ場に生え、草丈は5〜25 cm。根生葉は長さ1〜2 cmの先の尖った倒披針形で柄はなく、緑色だが先端部は赤味を帯びることが多い。根生葉の表面には腺毛があり、強い松ヤニ臭がある。この葉が集まって径2〜4 cmのロゼットとなり、ロゼットは最初は球形だが次第に外側に開くようになる。ロゼットは密に集まってマット状となり、そこから立ち上がる茎は赤っぽく、長さ2.5〜3.5 cmの披針形の茎葉が互生して、茎全体を被う。茎先に2〜8個つく花は径2.5〜4 cmで、10〜15枚の先の尖った披針形の花弁がある。花弁は長さが10〜15 mmで紫赤色、中央部に不明瞭な濃色の筋がある。これは、前ページの*S. arachnoideum*と似た種だが、花が大きいだけにその異形ぶりはさらに際立っている。アルプスでは是非みたい花の一つであろう。◇2016.07.13 Kreuxboden, Saastal, Wallis, Switzerland

Crassulaceae　　*Sempervivum tectorum*

ベンケイソウ科　クモノスバンダイソウ属　英語名: Common Houseleek

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する変異の多い多年草で、ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の、標高2,800 mまでの珪質の岩場や草地に生える。モロッコの一部にも分布するらしい。根元に生える葉には柄がなく、長さ3〜5 cmの倒卵形で先端が刺状に尖る。葉の表面には腺毛があり、緑色で周辺部は赤褐色。50〜60枚の葉がルーズに集まって、径3〜8 cmのロゼットを作る。初夏の頃、ロゼットから長さ15〜40 cm（最大60 cm）の茎を延ばし、茎頂に10〜40個の花からなる集散花序をだす。花は径3 cmほどで、10〜15枚の披針形の花弁があり、花弁はピンク色〜紫色で中央に暗色の筋がある。高く伸びる茎には、最大長4 cmの先の尖った楕円形の茎葉が重なり合ってつき、基部は茎に密着気味だが先端は少し反り返る。茎葉は基本的には緑色だが、大部分が濃い赤味を帯びる。この花はツェルマット周辺の山では少なかったが、マッター谷を下る線路脇に、無数に咲いているのが電車の窓から見えた。◇2016.07.19 Eggen → Zermatt, Wallis, Switzerland

Cyperaceae　　*Eriophorum chamissonis*

カヤツリグサ科　ワタスゲ属　英語名 : Russet Cotton-Grass

国内に自生する近縁の種 : ワタスゲ、サギスゲ

これは、これは一目で分かるワタスゲの仲間で、カナダ全域と米国の北西部～中西部、ロッキー山系に分布し、湿地や道路脇の窪地に生えて草丈は20～70 cm。地下の根茎から茎や葉を立ち上げてコロニーを形成する。葉は殆どが根生し、幅1～2 mmの扁平な３稜形。茎頂に丸みのある径2～3 cmの小穂が１個付き、鱗片は黒緑色の狭卵形で、糸状の花被片は白色～赤褐色。花後の白い果穂はワタスゲにそっくりだ。ところで、カナディアンロッキーでは、北海道で見るようなこの花の大群落にはお目にかかったことがない。一方、日本にあるものと同じサギスゲには、ミネソタ州北部の道路脇の湿地で大きな群落となっているのに出会った。ロッキー山系で大きな群落を見ないのは、日本の山や原野にあるような湿原がないからだろうか。

◇2013.06.14 Big Bog State Recreational Area, Minnesota, USA

Cyperaceae

Eriophorum scheuchzeri var. *scheuchzeri*

エゾワタスゲの基準変種

カヤツリグサ科　ワタスゲ属　英語名: Scheuchzer's Cottongrass

国内に自生する近縁の種: ワタスゲ、サギスゲ

これは、種としては北半球で周極分布をする多年草で、北米やユーラシアの北極圏と高山帯に分布する。大雪山に生育して、日本の絶滅危惧IA類に区分されているエゾワタスゲは、本種の一変種でvar. *tenuifolium*と呼ばれる。本種は海岸線から標高4,000 mまでの湿地や湿った草地、池沼の縁などに生え、草丈は通常20〜40 cmほどだが、最大70 cmになるものもある。根生葉は長さ12 cmほどで断面は丸い。茎頂に長さ1〜3 cmの穂状花序をだし、穂は花後に伸びて白い綿毛となる。これは、日本に数多くあるワタスゲとは別の種で。最大の違いは、ワタスゲの葉の断面が三角状なのに対して、本種のそれは円形であることのようだ。勿論、遠目にはその違いは見分けられなくて、前ページの北米種共々、一般の人には「ああワタスゲだ」で済まされてしまう。　◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Ephedraceae　　*Ephedra pachyclada*

マオウ科　マオウ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：なし

マオウ属は裸子植物の灌木で、葉は退化して鱗片状になって目立たず、節に対生する。本種は高さは数10 cmで、茎は節で分岐する。雌雄異株で、花（胞子菜穂）は胞子葉が松かさ状に重なったもので節につく。ネットで見ると花は褐色がかった黄色い塊で、被子植物でいう花とはほど遠い姿形である。ウイキペディア情報では、本種はシナイ半島、イエメンからパキスタンにかけて分布するとあるが、ネパールにも自生するらしい。写真は球果をつけた雌株で、赤い球果の中に種子が１個入っている。球果は食べられるそうだ。カラコルムハイウエーの旅では、フンザで初めてお目にかかったが、青緑色の茎と赤い実とのコントラストが美しい。マオウ属はEphedrales目Ephedraceae科の唯一の属で、世界中で70種ほど知られているが、茎にエフェドリンが含まれており、古くから漢方薬として使われている。現在でも、シナマオウ(*E. sinica*)、チュウマオウ、モクゾウマオウの3種は、日本薬局方で麻黄の基原植物とされている。ここに示す種はその３種には含まれないが、実際には同じ目的で利用されているようだ。◇1993.08.03　Karimabad, Hunza, Pakistan

Ericaceae

Andromeda polifolia
ヒメシャクナゲ

ツツジ科　ヒメシャクナゲ属　英語名 : Bog Rosemary
国内に自生する近縁の種：本種以外にはない

これがあのヒメシャクナゲとは、帰国するまで思いも寄らなかった。ミネソタ州の湿原で、日本では見たこともないほど立派な金属製の歩道橋から見たこの植物は、高さが60cmほどあり、道北の高層湿原で見る樹高10 cmほどのヒメシャクナゲとは結びつかず、ヤチツツジに近い植物かと思った。米国の図鑑やネット情報では、本種の高さを最大30〜40 cmとするものが多いが、ミネソタ州野生植物協会のデジタル図鑑では20インチ(51 cm)となっているので、私の目分量もそれほど違ってはいなかったのだろう。写真の花は、日本で見るヒメツツジよりは丸みを帯びており、色も白っぽいが、前出のデジタル図鑑でも写真と同じような花が示されているし、花色は白色〜ピンク色とある。それにしても、ツツジ科のこの灌木に、シソ科の灌木であるローズマリーの名前を使うとはね。和名と同じく、英語名も分類上の関係を無視して付けられたものが多いので、こういう不統一が時々ある。◇2013.06.14
Big Bog State Recreational Area, Minnesota, USA

Ericaceae　　*Cassiope mertensiana*

ツツジ科　イワヒゲ属　英語名：Western Moss Heather, White Mountain Heather
国内に自生する近縁の種：イワヒゲ

これはアラスカからカリフォルニア州まで、北米大陸西部の亜高山帯に分布する常緑の矮小灌木で、草地や岩の割れ目に生えてマット状となる。日本のイワヒゲは匍匐して成長し、茎の上位に咲く花まで入れても、高さはせいぜい数 cmだが、この種は茎が立ち上がり、樹高は5〜30 cmにもなる。枝に鱗片状の葉が十字対生し、４稜状になるのはイワヒゲと共通である。枝先から長さ5〜30 mmの花柄を数本伸ばし、その先に長さ5〜8 mmの鐘形の白い花を下向きにつける。花柄の最大長はイワヒゲと変わらないが、私が観察した限りでは10 mm程度の短いものが多かった。花冠の先1/3ほどが切れ込んで、卵形の裂片は外側に彎曲する。花はイワヒゲと似ているが、萼が赤いことと、花冠が鐘形で、イワヒゲのような先すぼまりの壺形でない点が異なる。地表に広がるイワヒゲの大きな群落は大雪山で見慣れているが、バンフで出会ったこの株は三次元的に展開しており、日本のイワヒゲとは全く異なる雰囲気で面白かった。◇2009.07.14 Healy Pass, Banff National Park, Canada

Ericaceae

Kalmia polifolia

ツツジ科　カルミア属　英語名: Bog Laurel, Swamp Laurel

国内に自生する近縁の種: なし

北米大陸の北東部に分布する常緑の小灌木で、高山の湿地や低地の湿原などに生え、高さは30〜90 cm。葉は対生し、長さ2.5〜5 cmの革質の披針形、鋸歯はなく縁が内側に巻き込む。枝先に数個の花からなる散房花序をだし、濃いピンク色の花を咲かせる。花は５枚の花弁が癒着して径2〜2.5 cmの皿形となり、10本の雄しべには暗赤色の葯がつき、雌しべは１本で花冠から大きく突き出す。日本にはカルミア属は分布しないが、アメリカではよく目にし、独特の花の形と鮮やかなピンク色で、直ぐカルミヤと分かる。日本には、湿原でこんな色の花を咲かせる灌木はないので、カルミアの花を見ると、北米の湿原にいることを実感させられる。

ところで、本種とよく似た*Kalmia microphylla*は北米大陸西部に分布する種で、ミネソタ州には分布しない。しかし、どちらにもSwamp laurelとBog laurelという名前があり、何ともややこしい。◇2013.06.14 Big Bog State Recreational Area, Minnesota, USA

Ericaceae

Menziesia ferruginea

ツツジ科　ヨウラクツツジ属　英語名：False Azalea, Rusty Menziesia

国内に自生する近縁の種：ヨウラクツツジ、コヨウラクツツジ

これは、北米大陸西部に分布する落葉低木で、低地帯～高山帯の林縁、ヒース原野、川岸などに生え、高さは0.5～2 m。葉をこするとスカンク臭があるという。茎は直立してよく分岐し、若い枝には赤茶色の細毛がある。葉は互生して枝先にまとまってつき、長さ3～6 cmの楕円径～卵形で、表面に腺毛が生えて先は尖る。枝先に2～10個の花が集まって散房花序となり、花柄は長さ1～3 cmで腺毛がある。花冠は濁紅色～帯緑橙色の壺形で、長さは6～10 mmで先が浅く４～５裂する。萼は皿形で浅く４～５裂する。樹形と葉はヨウラクツツジにそっくりだが、花冠は短めで花色も赤味が少なくて落ち着いた色合いだ。この仲間はスノキ属とは違って、食用にならない小さい実をつける。「日本維管束植物目録」ではヨウラクツツジ属をツツジ属に統合しているが、ここでは原産地の文献に従った。◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae

Moneses uniflora
イチゲイチヤクソウ

ツツジ科　イチゲイチヤクソウ属　英語名：One-Flowered Wintergreen, Single Delight
国内に自生する近縁の種：イチゲイチヤクソウのみ

北半球の温帯域に広く分布し、湿った針葉樹林に生える１属１種の多年草で、草丈は3～17 cm。葉は根生か茎の下部に着き、長さ1～3 cmの卵状楕円形～倒卵形で、縁に小さい鋸歯があり、葉柄は短い。茎先に１個の白い花を下向きにつけ、径15～25 mmの花には芳香がある。平開する５枚の花弁は蠟状で、表面に少し皺があり、萼片は楕円形で帯白緑色。花の中心に、大きな緑色の子房と淡緑色の花柱が突き出し、同色の柱頭は５裂する。雄しべは普通10個あり、黄褐色の先端が膨れてフィラメント状に裂ける。日本では、東大雪山系にごく少数存在したが、その後生育地が壊されて絶滅した可能性が高いと聞く植物である。バンフのハイキングコースを歩いた折りに、駐車場から少し入った遊歩道脇にこの花が沢山咲いていて驚いた。見れば見るほど変わった造りの花である。北欧でも、森に咲く最も貴重な花とされているそうだが、北米ではどんな評価なのだろう。この後数日間ロッキーの森を歩いたが、この花には二度と出会わなかった。しかし、その後訪れたドロミテ山塊とスイスアルプスでは、亜高山帯の林内に群生している箇所があったので、それほど少ない花でもなさそうだ。◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae

Phyllodoce empetriformis

ツツジ科　ツガザクラ属　英語名：Pink Mountain-Heather

国内に自生する近縁の種：エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ツガザクラ

北米大陸西部の山地に分布する常緑の矮小低木で、日当たりの良い岩れき斜面、湿った草地、林下に生え、高さは4〜15 cm。茎は良く分岐し、枝を垂直に立てて若い枝には毛がある。針状の葉は互生し、縁が下方に巻き込む。枝先に散房花序をだし、毛が生えて赤味を帯びた花柄の先に、鐘形の花を下向きに咲かせる。花は濃いピンク色で深さ6 mmほどの花冠は浅く５裂し、裂片の先は後方に巻き込む。10個ある雄しべは花冠の内側に隠れるが、１個だけの雌しべは花冠から突き出る。萼片は暗赤色だ。これは、一目見てエゾノツガザクラと近縁だと分かる全体の造りだが、花冠が壺形ではなく、ツガザクラに似た浅い鐘形なのが最大の相違点だろう。また、高山に限定されるエゾノツガザクラやツガザクラとは違って、この種は山地帯から高山帯まで分布し、針葉樹林の林下にも生える。◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae

Phyllodoce glanduliflora

ツツジ科　ツガザクラ属　英語名: Yellow Mountain-Heather

国内に自生する近縁の種: アオノツガザクラ、エゾノツガザクラ、ツガザクラ

北米大陸西部の亜高山～高山帯に分布する常緑の小灌木で、岩れき斜面や湿地に生える。茎はよく分岐してマット状に広がり、高さは10～40 cm。葉は長さ4～12 mmの線形で互生し、表面は革質で毛はない。花は茎頂にまとまってつき、長さ1～3.5 cmの花柄の先で下垂する。花柄には腺毛が密生する。花は長さ5～9 mmの壺形で、色は黄白色～緑白色。花冠は浅く５裂し、裂片は開いて、外側には腺毛が生える。萼片は長さ3～4 mmの披針形で、緑色を帯びる。これは、日本のアオノツガザクラにそっくりの植物で、生えている場所も、花の色形もうり二つという所だが、花色はこちらの方がより白色に近いし、樹高がより高い所まで伸びる点で違いがある。◇2009.07.14 Healy Pass, Banff National Park, Canada

Ericaceae

Pyrola asarifolia subsp. *asarifolia*
ベニバナイチヤクソウの基準亜種

ツツジ科　イチヤクソウ属　英語名: Heart-Leaved Pyrola, Pink Wintergreen

国内に自生する近縁の種: ベニバナイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ

種レベルでは、北米とアジアの亜寒帯～冷温帯に広く分布する多年草だが、この基準亜種は、北米大陸西部の低地帯～高山帯に分布する、湿地や川沿いに生えて草丈は15～45 cm。葉は根生して長い葉柄があり、葉身は艶のある革質で長さ3～8 cmの円形～楕円形。赤い花茎が直立し、上半分に10～25個ほどの花を、まばらに下向きに咲かせる。花は長さ3～8 mmの花柄の先につき、花冠は径10～15 mmで赤色～赤紫色。花弁は長さ5～7 mmの卵形で５枚あり、先の尖った萼片は長さ2.5～4 mm。この基準亜種は、日本の亜種ベニバナイチヤクソウ (subsp. *incarnata*)とうり二つで、仮に隣り合って生えていても、見分けはつかないかと思われる。あえていえば、こちらの花の方が赤味が強いかなとも思うが、ネットで見ればもっと色の淡い花もあるようだ。北米には、この基準亜種の他に、葉の先が尖って萼片もやや長い亜種(subsp. *bracteata*)もある。 ◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae *Pyrola chlorantha*

ツツジ科　イチヤクソウ属　英語名：Green Wintergreen

国内に自生する近縁の種：カラフトイチヤクソウ、コバノイチヤクソウ

これは、周極分布をする多年草でユーラシアと北米に分布し、北米ではカナダ、米国北東部、米国西部に自生する。ヨーロッパではスカンジナビア、ピレネー山脈、アルプスに分布する。高い山の針葉樹林や混交樹林の湿った場所に生え、草丈は10～20 cm。根生葉は長さ3～5 cmの円形～楕円形で、葉身と葉柄は同じ程度の長さ。葉の表面は淡緑色で葉脈が目立ち、裏面は暗緑色だ。直立する赤い花茎の上部に、カップ状の花を3～10個総状につける。花には丸くて淡緑色～帯緑白色の花弁が５枚あり、花弁の縁は内側に彎曲することが多い。白みがかった橙色の雄しべが束になって、上花弁の下にあり、淡緑色の雌しべは象の鼻のように彎曲して下方に突き出す。本種は、花茎や花柄が赤味を帯びる点で、日本のカラフトイチヤクソウやコバノイチヤクソウに似ているが、花弁が純白ではなく帯緑白色な点で違いがある。

◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae　　*Pyrola rotundifolia*

ツツジ科　イチヤクソウ属　英語名：Round-leaved Wintergreen

国内に自生する近縁の種：イチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、コバノイチヤクソウ

ヨーロッパの大部分と西アジア、北米大陸の北東部にかけて広く分布する常緑の多年草で、標高2,300 mまでの林内、ヒース、湿地などに生えるが、石灰岩地帯を好むようだ。この種にはいくつかの亜種や変種があり、北米の変種は別の種として扱われることもある。草丈は10〜40 cmと大型で、葉は根生してロゼットとなる。葉身は長さ5 cmほどの円形〜楕円形で、細かい鋸歯がある。葉柄は葉身と同長か、それより長めなのが本種の特徴だという。高く直立した花茎上部には8〜30個の花がつき、四方を向いてうつむいて咲く。花は径8〜12 mmの半球形状で、白色の花弁が5枚あり、花柱は彎曲して花冠より突き出し、赤味を帯びることが多い。本種は日本にも分布するというネット情報もあるが、間違いだろう。この花は純白の花冠と淡紅色の花柱の組み合わせが美しいが、本種の特徴は何といっても花茎の高さだろう。撮影地では林下に大群落が広がっていたが、日本では見たことのない草丈に圧倒された。◇2016.07.11　Kandersteg, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Ericaceae *Rhododendron albiflorum*

ツツジ科　ツツジ属　英語名：White Rhododendron

国内に自生する近縁の種：ヒカゲツツジ、シロヤシオ

北米大陸北西部に分布する落葉性の灌木で、その分布範囲は、南北方向にはブリティッシュコロンビア州からオレゴン州まで、東方への延長はモンタナ州までである。この種は亜高山帯の林内や斜面に生え、高さは1～2 m。全体に赤みがかった毛が生える。葉は質が薄く、鮮やかな緑色の楕円形～倒披針形で長さは4～9 cm。葉は枝先に固まって着き、短い葉柄があって縁に鋸歯はない。葉腋に1～4個の白い花を咲かせ、花柄の長さは1～1.5 cm。萼片は緑色で５個あり、葉のような形態で赤い毛が生える。花冠は径1.5～2 cmで５裂し、丸い裂片は大きく開く。雄しべは10本で下部には毛がある。シャクナゲ類は別として、北米にはツツジの仲間が少ない。英語名が示すように、白い花をつけるのはこの種だけかもしれない。◇2009.07.14 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ericaceae　　*Rhododendron ferrugineum*

ツツジ科　ツツジ属　英語名：Alpenrose

国内に自生する近縁の種：ミツバツツジ、ムラサキヤシオツツジ

これがアルプスの3大名花の一つといわれるアルペンローズだ。ヨーロッパ原産の常緑灌木で、アルプス、アペニン山脈、ピレネー山脈の標高1,500～3,200 m地帯の岩礫地に生え、高さは50～100 cm。葉は楕円形～卵形で光沢があり、縁が内側に巻き込む。葉の表面は濃緑色で裏面には錆茶色の斑点がある。花は枝先に6～10個固まって着き、長さ12～18 mmの筒状鐘形で濃いピンク色。花冠下半分の筒状部には外側に白い斑点があり、上半分は５裂して裂片は大きく開く。ヨーロッパにはツツジ類は種類が少なく、日本のツツジのように大きくて広い鐘形の花をつける種類はない。このアルペンローズも色はきれいだが、花はとても小さくて長い筒部があり、日本のツツジのような豪華さはない。アルプスにはこれに似た花をつけるツツジが、もう１種（p. 179）ある。◇2012.06.21 Planplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Ericaceae

Rhododendron groenlandicum subsp. *groenlandicum*
イソツツジの基準亜種

ツツジ科　ツツジ属　　英語名 : Labrador Tea

国内に自生する近縁の種:　イソツツジ、ヒメイソツツジ

　これは、種レベルでは北半球の高緯度地帯や山岳地帯に広く分布する常緑の矮小灌木だが、この亜種の北米以外での正確な分布範囲は分からない。北米ではカナダ全土と、モンタナ州、ワイオミング州を除く米国北部に分布するようだ。樹高は0.5〜1.5 m。葉は革質で長さ2〜6 cmの長楕円形。縁は巻き込んで裏面には白色〜赤褐色の毛が密生する。花は球状の散房花序に多数つき、白色の花冠は径1 cmほどで5裂する。これは、日本にあるカラフトイソツツジ(*R. groenlandicum* subsp. *diversipilosum* var. *diversipilosum*)とその変種イソツツジ(var. *nipponica*)の基準亜種で、一見したところではカラフトイソツツジとの区別はつかない。ちなみに、この葉は北極圏ではハーブティーやスパイスとして用いられるが、英語名は、本種の他、R. tomentosum,とR. neoglandulosumにも共通して用いられるという。◇2013.06.14 Big Bog State Recreational Area, Minnesota, USA　　シノニム：　*Ledum groenlandicum*

Ericaceae　　*Rhododendron hirsutum*

ツツジ科　ツツジ属　英語名 : Hairy Alpenrose

国内に自生する近縁の種: ミツバツツジ、ムラサキヤシオツツジ

アルプスの中部と東部の石灰質岩地帯に特産する常緑灌木で、明るい疎林や岩礫地に生えて樹高は50～120 cm。生育高度は*R. ferrugineum* (p. 177)より少し低くて600～2,600 mだという。ドロミテ山塊で見た限りでは、*R. ferrugineum*のように自立するのではなく、岩肌に沿って伸びる株が多かった。葉は先の尖った鮮緑色の楕円形で、表面には艶があり縁には毛が生える。この毛の有る無しが*R. ferrugineum*との見分けのポイントである。また、裏面には錆茶色の斑点がなくて緑色な点でも違いがある。花冠は赤みがかった鮮やかなピンク色で、長さ15 mmの筒状鐘形、５裂した花冠裂片の先は大きく開く。ちなみに、ヨーロッパに自生する高山性のツツジ属は３種だけで、アルプスにある２種の他には、スカンジナビアに自生する*Rhododendron lapponicum*があるが、こちらの花は長さ8 mmしかないらしい。

◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomotiche, Italy

Ericaceae

Rhodothamnus chamaecistus

ツツジ科　△属　英語名 : Dwarf Alpenrose

国内に自生する近縁の種: なし

これは、東部アルプスの固有種で、標高1,000〜2,400 mの石灰質岩地帯に自生する多毛な矮小灌木だ。岩場やガレ場に生えて、樹高は10〜30 cm。鮮緑色の葉は長さ6〜10 mmの倒披針形〜楕円形で、縁に顕著な繊毛がある。花は淡紅色の杯形で径2.5〜3 cm、枝先に１個または2〜3個がまとまってつく。５枚の花弁は大きく開き、白い花糸の先に付く黒っぽい大きな葯が目立つ。正面から見ると、一見ツツジに見える花だが、５枚の独立した花弁があって、これはツツジ属ではない。ただし、英語名は「小型のアルペンローゼ」である。この美しい花は遠くからでもよく目立ち、群れて咲いているのに出会えば、幸せな気分になること必定だ。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

シノニム : *Rhododendron chamaecistus*

Ericaceae　　*Sarcodes sanguinea*

ツツジ科　△属　英語名：Snow Plant
国内に自生する近縁の種：なし

これは、カリフォルニア州、ネバダ州西部の一部、カリフォルニア半島北部の針葉樹林に生える、１属１種の菌寄生植物で、草丈は15～30 cm。この植物は全体が鮮やかな赤色で腺毛が生え、鱗片状の葉が沢山ある。花序は地上部の大部分を占める総状花序で、短い花柄のある壺形の花を密につける。花は咲き始めは横向で、後にややうつむく。花の内部には白くて大きい子房があり、柱頭は赤い。雄しべは花糸が白色で葯は黄褐色。写真の個体は開花の末期で、上部に開花中の花があるが、下半分の花は萎れかかっている。それにしても、全体が鮮赤色のこの植物をSnow Plantと呼ぶのは不思議だが、実際は雪融け後に咲く花を、雪中から咲くと誤解したからだとか。比較的珍しい植物のようだが、一度元気の良い花盛りの花を見てみたいものだ。◇1997.06.01　San Jacinto Park, California, USA

Ericaceae

Vaccinium myrtillus
セイヨウスノキ

ツツジ科　スノキ属　英語名 : Bilberry
国内に自生する近縁の種: クロウスゴ、ウスノキ、コケモモ

ユーラシア大陸北部と北米大陸西部に広く分布する落葉低木で、アルプスでは標高2,800 mまでの酸性岩地帯の荒れ地、疎林やヒース原野に生え、高さは20〜75 cm。枝は無毛で３稜があり緑色。葉は鮮緑色の楕円形〜披針形で、縁に細かい鋸歯がある。花は短い花柄の先に下垂し、日本のミヤマクロウスゴと似た平たい壺形で、長さは5〜6 mm。花色は普通「緑がかったピンク色」とされているが、シャモニー北方の稜線で出会ったこの花は、鮮やかな赤色で、濃緑色の萼との組み合わせが美しい。本種の黒紫色の実は古くからジャムに加工したり生食されたりしてきたし、目に薬効があるともいわれている。アメリカのブルーベリー（いくつかの種がある）とよく混同され、文献によっては本種とは違うものをBilberryと記述するものもある。◇2012.06.21 Planplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Euphorbiaceae

Euphorbia cyparissias
マツバトウダイ

トウダイグサ科　トウダイグサ属　英語名：Cypress Spurge
国内に自生する近縁の種：トウダイグサ、ノウルシ、ハクサンタイゲキなど

ヨーロッパに広く分布する多年草で、標高2,600 mまでの乾いた砂礫地や草地、荒れ地などに生え、草丈は10～50 cm。茎は直立して水平方向に枝を伸ばし、枝には長さ2.5～4 cmの線形の葉が密に互生して、松の小枝のように見える。花には萼も花弁もなく、丸みを帯びた菱形～三角状の苞が２個ある。苞は最初は黄金色だが、時間が経つと橙色や赤色に変わる。花の中心には三日月状の腺体が４個あり、丸くて緑色の子房が目立つ雌しべは長く突き出る。咲き出した頃は花が茎頂にまとまってつくが、時間が経つと花序はばらけ、苞も赤くなるので大分雰囲気が変わる。ヨーロッパにあるトウダイグサ科の植物で、高山帯に生えるのは本種だけだという。とにかく変わった色と形の花で、最初に見たときは面食らったが、日本国内でも野生化しているという。◇2012.06.17　Briancon近郊, French Alps, France

Fabaceae *Anthyllis montana*

マメ科　クマノアシツメクサ属　英語名：Mountain Kidney-Vetch
国内に自生する近縁の種：なし

これは、南東部を除くアルプスとヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する多毛で常緑の半灌木で、標高400〜2,100 mの石灰岩地帯で草地や岩れき地に生え、高さは10〜30 cm。最大60 cmほどまで広がって、群落をなすことが多い。木質の茎から毛が密生した羊歯のような羽状複葉をだし、小葉は長楕円形で鋸歯はない。長い花柄の先に、径2 cmほどのクローバーのような形態の球状の頭花をつける。花は赤紫色の細長い蝶形花で、苞葉は花より短い。時には紫色や白色の花も見られるという。この種は、旗弁がとがり気味で縁が白く見えるのが特徴のようだ。◇2012.06.16 Granon Pass, French Alps, France

Fabaceae

Anthyllis vulneraria
クマノアシツメクサ

マメ科　クマノアシツメクサ属　英語名：Common Kidney-Vetch
国内に自生する近縁の種：なし

これは、ヨーロッパ全域、北アフリカ、小アジアで非連続的に分布する2年草～多年草で、標高3,000 mまでの草地や岩れき斜面に生え、草丈は10～40 cm。葉は羽状複葉で小葉は5～7対あり、頂小葉が最大である。枝先に径1～2 cmの丸い散房花序をだすが、花は黄色か赤色の細長い蝶形花で、花弁は５枚あり、長さは12～15 mm。萼筒には毛があり先端部は赤い。花序の下には緑色の苞葉がある。これはアルプスでよく見かける花で、斜面全体を黄金色に染め上げるところも多い。しかし、低地にも生えるらしく、日本国内でも帰化していて、海岸沿いで見られるらしい。一見、黄色いツメクサのように見えるが、花序の形は少し違う。本種には20ほどの変種（亜種とする文献もある）があり、その殆どは黄色い花をつける。うるさいことをいえば、写真は亜種 *alpestris*であろう。◇2015.07.02 Valparola Pass, Alpi Dolomitiche, Italy

Fabaceae　　*Astragalus alpinus*

マメ科　ゲンゲ属　英語名：Alpine Milk-Vetch

国内に自生する近縁の種：シロウマオウギ、モメンヅル

これは周極分布をし、北米とユーラシア大陸の高緯度地方に分布する多年草で、亜高山～高山帯の湿った林下や草地、ツンドラなどに生え、マット状に広がって草丈は8～20 cm。本種は形態変化の多い植物で、葉と花の形や花色に変異が大きい。葉はマメ科に共通の羽状複葉で、長さは最大15 cmになる。小葉は長さ2 cmほどの楕円形～卵形で、15～25個ある。小葉の先は浅く凹む。直立する茎頂に、5～25個の花からなる総状花序を出し、花は淡青色～淡紅紫色の細長い蝶形花で、基部は白味を帯びることが多く、長さは7～15 mm。この花序は他のゲンゲ属の花序と違った雰囲気があり、バンフ国立公園では数も少ないし、花色が雅な藤色系なので魅力的な花である。アルプスでは見たことがなかったが、今年はベルナー高地のバッハゼーで、少数の株を見かけた。◇2009.07.15 Helen Lake Trail, Banff National Park, Canada

Fabaceae *Astragalus centralpinus*

マメ科　ゲンゲ属　英語名：Central-Alps Milk-Vetch
国内に自生する近縁の種：シロウマオウギ、モメンヅル

フランスから地中海沿岸域を経てカザフスタンや中国まで隔離分布する多年草で、標高1,400～2,000 m地帯の草地や荒れ地に生え、草丈は50～150 cm。径1 cmにもなる太い茎には毛が密生し、長さ20～30 cmの羽状複葉が互生する。小葉は20～30対あり、卵形～楕円形。茎先や葉腋から長さ5～9.5 cmの円筒状花序をだし、黄色い蝶形花を沢山（最大80個）つける。萼片は大変毛深く、苞葉も長さ1～2 cmある。この植物は、ゲンゲ属にしては異常なまでに大型の草丈と葉を持ち、毛むくじゃらの黄色い花序を立てるので、遠くからでも良く目につく。アルプスでの分布は南西部に限られるというから、スイスアルプスでは見られないかも知れない。私の経験でも、Queyras渓谷の北部でしか見たことがない。◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

Fabaceae

Astragalus danicus

マメ科　ゲンゲ属　英語名：Purple Milk-Vetch

国内に自生する近縁の種：ムラサキモメンヅル、エゾモメンヅル、リシリオウギ

ヨーロッパの広範囲に分布する多年草だが、その分布は隔離的で、アルプスでは南西部と東部に限られるという。アルプスでは、標高1,800～2,400 mの石灰岩質の草地でマット状に広がり、草丈は5～30 cm。根生葉は羽状複葉で毛があり、楕円形で先の丸い小葉が6～13対ある。長い花柄の先に丸い散房花序をだし、濃い赤紫色の花を密につける。花は長さ15～18 mmの細長い蝶形花で、旗弁は立ち上がる。この花は実に鮮やかな色で、ムラサキモメンヅルや北海道のエゾモメンヅルの花に似ているが、花の付き方はこちらの方が豪華な感じである。また、花序は帰化植物のゲンゲ（レンゲ）よりも大型で、旗弁が立ち上がるので明確な違いがある。アルプスに数多くあるゲンゲ属の中でも、際だって存在感のある花である。

◇2012.06.19 La Grave, French Alps, France

Fabaceae *Astragalus nivalis*

マメ科　ゲンゲ属　英語名 : Snow Milk-Vetch

国内に自生する近縁の種: シロウマオウギ、モメンヅル

カシミール、ヒマラヤ西部、チベットに分布する多年草で、日当たりの良い砂礫地に生え、茎は直立して灰白色のビロード毛で被われる。葉は羽状複葉で長さ3〜6 cm、長さ3〜5 mmの楕円形の小葉が13〜19枚ある。長さ4〜8 cmの総花柄の先に、6〜20個の花が密に集まって総状花序となり、上向きに咲く。写真では、手前の個体は花後で左奥の個体は開花中だが、総花柄が地面に倒れているので、花が地面から直接咲いているように見える。図鑑には、花は紫色で長さ1.5〜2.2 cmとある。しかし、写真の花は、旗弁の先端部は紫色だが中部以下は白色だ。萼は白っぽく、長さ8〜12 mmで白色と紫褐色の軟毛が密生し、裂片は小さい。萼筒は開花後に次第にふくれ、手前の個体のように球形になり、豆果はふくれた萼筒の中で成熟する。これは、最初に見た時は、どんな造りになっているのか分からないほど変わった花である。世の中には不思議な植物があるものだ。◇1993.07.28 カラクル湖北方の標高3200m付近, 新疆ウイグル自治区, China

Fabaceae *Astragalus zanskarensis*

マメ科　ゲンゲ属　　英語名: 不明

国内に自生する近縁の種: シロウマオウギ、タイツリオウギ

「ヒマラヤ植物大図鑑」の記載を自分なりに抄録すると以下のようになる。「パキスタン北部からインド西北部（ヒマチャル地方）にかけてのヒマラヤ山系に分布する小低木で、高山帯の乾燥した砂礫地に生え、荒れた放牧地に多くて高さは5〜10 cm。木質の根茎が地上に現れて短い幹となり、刺状に硬化した長さ7〜10 cmの古い葉軸が越年する」。この種は、花期の羽状複葉は長さ5〜8 cmで、狭楕円形の小葉が9〜13対ある。短い総花柄の先に数個の黄色い花が密集し、花の長さは20〜25 mm。竜骨弁は翼弁よりはるかに短い。写真で見られるように、葉のない鋭い刺が放射状にあり、家畜の食害から守っている。「キバナレンゲソウ」という和名もあるようだ。◇1993.08.02 Karimabad, Hunza, Pakistan

Fabaceae

Hedysarum boreale

マメ科　イワオウギ属　英語名：Boreal Sweet-Vetch, Northern Sweet-Vetch

国内に自生する近縁の種：イワオウギ、カラフトゲンゲ

カナダ全域と米国の西半部に分布する多年草で、標高1,200～2,400 m地帯の日当たりの良い砂礫地や草地に生え、ある程度の塩分やpHの変化に耐えられるという。茎の基部は木質化して多くの茎を延ばし、草丈は30～60 cm。葉は5～15個の小葉をつけた長さ3～12 cmの奇数羽状複葉で、互生して毛はない。上部の葉腋から5～50個の花をつけた総状花序をだす。花は長さ15～25 mmで、通常は赤紫色だがピンク色も見られ、まれには白い花もある。バンフ国立公園からジャスパー国立公園まで走るハイウエー沿いで、最も数の多かったのがこの花で、至る所であふれんばかりに咲いていた。しかし、風景の一部としてみるのには美しいが、単独の花としては特に美しいという感じではない。◇2009.07.16 Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Fabaceae

Hedysarum hedysaroides
カラフトゲンゲ

マメ科　イワオウギ属　英語名 : Alpine Sainfoin

国内に自生する近縁の種: イワオウギ

中部〜南部ヨーロッパからユーラシア大陸北部に広く分布する多年草で、日本では絶滅危惧IA類に区分されて北海道に稀産する、カラフトゲンゲと同じものである。北米大陸西部にあるものを本種とする説と、北米固有の種*H. alpinum*とする説とがある。本種には、いくつかの亜種や変種が提案されているが、最近のトレンドは種レベルで取り扱うようだ。アルプスでは標高1,600〜2,800 mの草地に生え、草丈は20〜60 cm。葉は4〜10対の小葉からなる奇数羽状複葉で、小葉は長さ10〜30 mmの先の尖った長楕円形。花は鮮やかな赤紫色の蝶形花で、長さは13〜25 mm。茎頂に10〜35個ほど付いて穂状花序となる。この花は前ページの*H. boreale*と同サイズだが、はるかに鮮やかな花色でボリューム感もあり、比較にならないほど美しい魅力的な花である。礼文島では、大きく育った株に沢山の花をつけたものをよく見るが、アルプスで見るものは茎が地表をはい、花序の数も少なくて大分趣が異なる。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Fabaceae

Hippocrepis comosa

マメ科　ヒポクレピス属　英語名 : Horseshoe Vetch

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパの広い範囲に分布する毛の多い多年草で、主に石灰質の草地や砂礫地に生える。アルプスでは標高2,400 mまでに分布して、草丈は5〜25 cm。葉は線形〜矩形の小葉3〜8対からなる羽状複葉だ。長い花柄の先に、長さ6〜10 mmの黄色い花を数個輪生状につける。果実は馬蹄形の種子がジグザグに数個連なった形で、これが英語名の由来だそうだ。それにしても、マメ科には、よく似た花を咲かせるのに異なる属に区分する例が数多くある。ヒポクレピス属の場合は、花が輪生状につくというのが特徴だそうで、素人にも分かりやすい。この属には13種あるらしいが、アルプスに自生するのは本種のみのようだ。上で「よく似た花」と書いたが、本種とミヤコグサ属（次ページとP. 195)は、葉の構造的な違いの他に、花の形がかなり異なる。ミヤコグサ属の花の正面像は丸いが、本種の旗弁は矩形なので、正面像は縦長である。葉は根本的に違うし、花の形、花序に付く数と配列方向も違うのだから、独立した属が作られても当然という所だね。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Fabaceae　　*Lotus alpinus*

マメ科　ミヤコグサ属　英語名：Alpine Birdsfoot Trefoil
国内に自生する近縁の種：ミヤコグサ

南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、特にアルプスとピレネー山脈に多く、1,700～2,700 m地帯の草地や岩礫地に生えて、草丈は5～10 cm。岩上で水平に広がる株をよく見る。葉はちょっと変わった羽状複葉で、披針形～楕円形の小葉が葉柄の先に３枚、小葉のように見える托葉が葉柄の付け根に２枚ついて、あたかも５小葉を持つ複葉に見える。花は枝先に1～3個つき、長さは12～18 mm。花色は黄色、オレンジ色、赤橙色などがあり、開花前は赤橙色で開花すると黄色になると説明する資料が多いが、逆の変化をするという図鑑もあって混乱気味だ。実際に観察してみても、咲き始めの花だけが赤っぽいというようには見えない。それはともかくとして、黄色と赤い花が入り交じって面白いが、花の形は典型的な蝶形花で特に変わった点はない。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Fabaceae

Lotus corniculatus var. *corniculaus*
セイヨウミヤコグサ

マメ科　ミヤコグサ属　英語名 : Birdsfoot Trefoil
国内に自生する近縁の種: ミヤコグサ

これは日本に自生するミヤコグサ(var. *japonicus*)の標準変種で、ユーラシアと北米大陸の温帯に広く分布する多年草だ。砂礫地や路端に生え、草丈は通常5〜20 cmだが、他の植物に寄りかかって50 cmまで伸びることもある。葉と花は前ページの*L. alpinus*とそっくりだが、植物全体がより大きいし、枝先につく花は3〜7個と多めである。花はよく見慣れた５弁の蝶形花で、花色は赤い筋のある黄色だが、一部が赤味を帯びることもある。萼は長さ5〜8 mmで先は５裂し、萼裂片は筒部と同長かやや短い。これは高山植物ではなく、アルプスでは標高1,600 m以上には生えないらしい。日本にも帰化しており、よく見かける見慣れた花なのだが、一部が赤味を帯びた花はあるものの、前ページの*L. alpinus*のような全体が赤橙色の花を見た記憶がない。ネットで調べると、蕾の時に赤いことがあるという。◇2012.06.16 Brianson近郊, French Alps, France

Fabaceae　　*Onobrychis montana*

マメ科　オノブリキス属　英語名 : Mountain Sainfoin

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパから西アジアにかけて分布する多年草で、牧場、乾燥した草地、砂礫地などに生え、アルプスでは標高1400～2500 mの牧場でよく見る。草丈は15～40 cm。葉は奇数羽状複葉で、5～8対の楕円形～長円形の小葉がつき、葉の裏面には短毛がある。茎先に長い総状花序をだし、沢山の花が固まって咲く。写真でも分かるように、花序は花の咲き始めはコンパクトに纏まっているが、開花が進むと間延びした形になる。花は長さ10～14 mmの蝶形花で、濃いピンク色。旗弁は竜骨弁より短く、紫色の筋がある。ネットで検索すると花色の変異が大きく、写真のような濃いピンク色の他に、淡いピンク色や白っぽい花も見られるようだ。◇2007.06.24 First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Fabaceae

Onobrychis vicifolia

マメ科　オノブリキス属　英語名 : Common Sainfoin

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパからイランにかけて分布する多年草で、草丈は1 mに達する。分岐した根株から茎が直立し、奇数羽状複葉には5〜6対の倒卵形の小葉がある。年に２回茎先に長い穂状花序をだし、下から上に向かって順に開花する。花序には、長さ10〜14 mmの淡紅色の蝶形花が沢山つく。旗弁は後方に彎曲し、濃紅紫色の縦筋が何本も入る。この植物は、1950年代のグリーン革命でアルファルファやクローバーに取って代わられるまでは、重要な牧草として利用されていたらしい。北米大陸では、中北部と南部を除く広範囲で野生化している。また、最近では、鉛や銅等の重金属を濃集する植物として注目されているという。写真の花は河原に生えていた個体で、淡紅色の花が珍しいと思って撮影したら、前ページに載せた、どこにでもある*O. montana*とは別の種であった。◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

シノニム：　*Hedysarum onobrychis*

Fabaceae

Ononis cristata

マメ科　オノニス属　英語名: Mt. Cenis Restharrow

国内に自生する近縁の種: なし

これは、ピレネー山脈東部、アルプス西南部、アペニン山脈中部などに分布する亜灌木で、標高1,800 mまでの主に石灰岩地帯の岩礫地に生えて、草丈は5～20 cm。茎は分岐し、長く伸びてマット状に広がる事もある。葉には矩形の小葉3枚がつき、小葉の上半部には鋸歯があり、葉柄の付け根には托葉がある。花は長い花柄の先に１個つき、径10～14mmで横向に咲く。旗弁は円形で先がやや尖り、表面は円滑で全体がやや裏側に反り返る。色は鮮やかな淡紅色で下部はやや白味を帯び、垂直方向に紫色の筋が多数ある。翼弁と竜骨弁は白色で合体し、前方に突き出す。萼は披針形で先が尖り、毛がある。本種は、マット状に広がった茎と葉から長い花柄が直立し、変わった形の美しい花を高く咲かせるのが印象的である。図鑑では、斜上する茎の先と葉腋から伸びた花柄の先につく花が描かれており、この写真のような特別の雰囲気は感じられない。とにかく、この花は、私がこれまでアルプスで出会ったマメ科植物の中で最も魅力的な花である。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Fabaceae *Oxytropis campestris*

マメ科　オヤマノエンドウ属　英語名：Field Locoweed, Yellow Milk-Vetch

国内に自生する近縁の種：オヤマノエンドウ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲなど

これは、北米大陸とヨーロッパの北部、ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する多年草で、砂礫質の裸地に生える。全体に毛が多い。アルプスでは標高3,000 mまでの草地や礫地に生える。地表をはう枝先からロゼットをなす根生葉と花茎を立ち上げ、草丈は5～15 cm。根生葉は7～45個の楕円形～披針形の小葉からなる奇数羽状複葉で、対生または3～4枚が輪生し、長さは5～30 cm。花茎の先に穂状花序または頭花状花序をだし、長さ10～17 mmの花3～30個がつく。花色は乳黄色～ピンク色～紫色と多様だ。花の色も植物全体の形も多様性に富み、多くの変種が提唱されているが、分類学的な再検討が必要だそうだ。◇2009.07.16 Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

シノニム：Astragalus campestris

Fabaceae　　*Oxytropis monticola*

マメ科　オヤマノエンドウ属　英語名：Yellow-Flower Locoweed, Common False Locoweed

国内に自生する近縁の種：オヤマノエンドウ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲなど

カナダ南西部と米国北西部に分布する多年草で、乾いた砂礫地や岩の隙間などに生え、草丈は15〜60 cm。全体が銀灰色の絹毛で被われて白っぽく見える。葉は8〜22対の楕円形の小葉からなる奇数羽状複葉で、株の中心に近い葉は立ち上がる。一株から花茎が何本も立ち上がり、葉よりも上位の茎先に穂状花序をだし、淡黄色の蝶形花を多数つける。北米には茎が直立するオヤマノエンドウ属の種が多くて、日本のオヤマノエンドウのイメージしかない人は、ちょっと面食らう。本種は葉が根元から立ち上がるので、ますます違和感を感じてしまうが、全体的な佇まいはなかなか好ましい。◇2013.06.13　Vow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Fabaceae　　*Oxytropis podocarpa*

マメ科　オヤマノエンドウ属　英語名：Stalked-Pod Locoweed

国内に自生する近縁の種：オヤマノエンドウ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲなど

これは、北米大陸の中北部に分布する多年草で、ロッキー山系とカナダ東部の北極圏に隔離分布するという。高山帯の草地や砂礫地に生え、地面を這ってマット状に広がり、草丈は2〜3 cmほど。茎は無毛で最大長は7 cmほど。根生葉は長さ2〜5 cmほどの奇数羽状複葉で、狭披針形の小さい小葉が4〜13対ある。花は地面を這って伸びる花茎の先に1〜3個（普通は2個）つく。花は赤紫色の蝶形花で、長さは10〜17 mm。萼筒は紫色で花冠の2/3の長さである。この種は見慣れない形の小型の葉が特徴的で、花がないとオヤマノエンドウ属とは思いつかないかもしれない。

◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Fabaceae　　*Oxytropis* cf. *pyrenaica*

マメ科　オヤマノエンドウ属　英語名：Samnitic Milk-Vetch

国内に自生する近縁の種：オヤマノエンドウ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲなど

アルプスにはオヤマノエンドウ属の種が多数あり、紫色の花を咲かせるものだけでも数種あって、袋状の莢の形と毛の生え方が見分けの要のようだ。写真の花は日本では見られない美しい色調なので取り上げた。花と葉の色と形から表題の種と見立てたが、莢を確認していないので、*O. amethysta*、*O. foucaudii*、*O. gaudinii*、*O. halleri*、*O. riflora*のどれかの可能性もある。表題の*O. pyrenaica*は、アルプスとアペニン山脈に分布し、標高3,000 mまでの石灰岩地帯に生える。葉は奇数羽状複葉で楕円形～披針形の小葉が12～20対ある。花は紫色から青みを帯びた菫色である。

◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Fabaceae *Oxytropis sericea*

マメ科　オヤマノエンドウ属　英語名：Silky Locoweed

国内に自生する近縁の種：オヤマノエンドウ、マシケゲンゲ、リシリゲンゲなど

北米大陸西部に固有の多年草で、ユーコン川流域からオレゴン州までのロッキー山系に多く分布するが、高山帯よりは標高の低いところに多い。ガレ場や草着き斜面、路端などに生え、局所的には大きな群落となる。草丈は最大30 cmになり、全体に銀白色の毛があり、白っぽく見える。羽状複葉の長さは最大20 cmほどで、小葉は披針形～楕円形で両面に絹毛が生える。。一つの株から数本の花茎が立ち上がり、穂状の散房花序に最大30個ほどの花を咲かせる。花は長さ18～25 mmの蝶形花で、全体的に白色だが黄色みを帯びた部分もあり、時には先端部が紫色を帯びることもある。ルイーズ湖からジャスパーまで延びるパークウエー沿いにはマメ科の植物が多く見られるが、美しいと感じるものはあまりない。本種は多数の花茎が立ち上がり、白い花がまとまって咲くので、ここのマメ科の花の中では目立つ方である。◇2009.07.15　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Fabaceae

Securigera varia
タマザキクサフジ

マメ科　△属　英語名: Crown Vetch, Purple Crown Vetch
国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ、アフリカ、アジアに自生する多年草で、路端や植生が乱された空き地に大きな群落を造る。草丈は30〜90 cm。葉は互生し、暗緑色の奇数羽状複葉で9〜25対の小葉があり、小葉は全縁で長さは2 cmほど。長くのびた花柄の先に細長い蝶形花が集まって、散形花序をつくる。旗弁は美しい淡紅色で、側弁は白に近い。美しいピンク色の花が、ちょっと変わった形の花序をつくり、それがビックリするほど多く咲くのだから興味を引かれる。本種は、しっかりとした根を張る丈夫な植物なので、土壌浸食を防ぐ目的で北米に導入されたが、一度増えると根絶するのが難しいようだ。いくつかの州では、侵略的外来植物に指定されているらしい。日本国内では、1981年に札幌市で初めて帰化しているのが見つかったというが、現在では、あちこちの人為的に乱された土地で群生しているという。◇2012.06.19 La Grave西方、French Alps, France

Fabaceae　　*Spongiocarpella* cf. *purpurea*

マメ科　スポンギオカルペラ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：なし

この写真は、山形大学山岳部のコクセル峰登山隊に付随した学術調査隊の隊長として、カラコルムハイウエーを通って、中国とパキスタン国境のクンジュラブ峠を通った際に撮影した。この植物には、長く伸びる総花柄がないので、ゲンゲ属ではなくスポンギオカルペラ属の種であると思われる。*S. purpurea*には、黄色い花をつけるものと赤紫の花をつけるものがあり、写真の植物は後者にそっくりだが、「ヒマラヤ植物大図鑑」では、この種がヒマラヤ西部にまで分布するとは記してないので、今のところ仮判定の鑑定状態である。それはともかく、白毛で被われた小さな小葉の集団と、細長い萼筒をもって直立する美しい花の組み合わせは実に魅力的だ。ちょっと例を見ないほど太い莢も面白い。◇1993.08.02 Khunjerab Pass, Pakistan-China Border

Fabaceae

Thermopsis montana

マメ科　センダイハギ属　英語名：Mountain Golden Banner, Mountain Golden Pea
国内に自生する近縁の種：センダイハギ、クソエンドウ

この種は、カリフォルニア州を除く米国西部に分布する多年草ということだが、米国農務省のマップではカナダには分布しないことになっている。それが本当なら、この花を撮影したカルガリー近郊は分布範囲外となり、路傍に生えていた写真の株は帰化したものということになろう。撮影地付近に人家はないので、庭から逸出したのではなく、自動車で種が運ばれてきたのかな。それはともかく、本種は草地や渓流沿いの林に生える。草丈は50～100 cmということだが、ハイウエー脇に生えていた写真の個体は、一度刈り取られたのか、草丈は30 cmほどと低かった。茎葉は３枚の小葉からなる複葉で、小葉の長さは1.5 cmほど。花は黄色で穂状花序をなし、葉よりも上位で咲く。日本のセンダイハギににているが、葉はセンダイハギより小さめで、全体にスマートな感じである。米国にはセンダイハギ属が10種あるという。
◇2013.06.10　Calgary西方, Alberta, Canada

Fabaceae　　*Trifolium alpinum*

マメ科　シャジクソウ属　英語名: Alpine Clover
国内に自生する近縁の種: シャジクソウ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の標高1500〜2800 m地帯に分布する多年草で、酸性土壌の草地や牧場に生え、草丈は10〜20 cm。地下に長さ1 mにもなる主根があり、そこから長さ5 cmほどの毛のない茎を立ち上げ、長さ2〜7 cmの葉柄のある三出複葉をつける。小葉は先の尖った狭披針形で、長さ1〜5 cm。托葉は膜状で長さは4 cmほどあり、殆ど完全に地上茎を被う。長く伸びた花茎の先に、淡紅色〜淡紫色の蝶形花を3〜12個球状に着けるが、花序の大きさは径3 cmほど。花は長さ18〜25 mmの縦長蝶形花で、旗弁の先は尖る。咲き始めの花は立ち上がって格好の良い花序だが、時間が経つと花が垂れ下がって面白さが失われる。咲き始めの花序は、色は違うが*Astragarus danicus*（p.188）とよく似ており、なかなか存在感のある花である。◇2012.06.16　Brianson近郊, French Alps, France

Fabaceae *Trifolium montanum*

マメ科　シャジクソウ属　英語名：Mountain Clover
国内に自生する近縁の種：シャジクソウ

スカンジナビアと、ピレネーからアペニン山脈にかけての山地に分布する多年草で、アルプスでは標高400～2,400 mの乾いた草地や疎林に生える。草丈は20～50 cmで茎は直立し、綿毛が密生する。茎葉は3出複葉で互生し、小葉は楕円形～披針形で細かい鋸歯がある。葉の裏には密着する毛がある。花は最上位の葉腋から延びた長い柄の先に付き、球形～卵形の密な総状花序となるが、花序は2個並び立つことが多い。花は白色の細長い蝶形花で、長さ7～9 mm。萼は5裂して毛が多い。本種は同属のシロツメクサ（クローバー）に似ているが、やや縦長な花序が2本あり、花がより細長いので雰囲気は大分違う。また、萼に毛がある点でもシロツメクサとは異なっている。シャジクソウ属はクローバーの仲間を含むので、「日本維管束植物目録」には24種の帰化植物が載っているが、国内に自生するのはシャジクソウのみである。◇2016.07.19　Eggen → Zermatt, Matertal, Wallis, Switzerland

Gentianaceae　　*Comastoma tenella*

リンドウ科　サンプクリンドウ属　英語名：Slender Gentian

国内に自生する近縁の種：サンプクリンドウ

ユーラシア、グリーンランド、北米大陸で隔離分布する1年草で、草丈は2～15 cm。茎には４稜があり、分岐しないか根元で分岐する。アルプスでは標高1,600～2,900 mの草地やガレ場に生えるが、酸性岩地帯に多いという。根生葉は通常数枚あり、長さ3～10 mmの倒披針形でロゼットとなる。茎葉は長さ5～15 mmの倒披針形で、数は少なくて対生する。花は茎頂に一個つき、長さ8～15 mmの筒形～鐘形で、青紫色～白色の花冠は４裂する。花冠裂片の内側にはひげ状の鱗片があって、のど元をふさぐ。萼は花冠の半分以上の長さがあり、基部で膨れて根元まで深く４裂するが、外側の２枚は内側の２枚より幅広で短い。日本国内には同属のサンプクリンドウが自生するが、その自生地は南アルプスの一部と八ヶ岳のみで、花期も遅くてなかなかお目にかかれない。ロートホルンパラダイスからフルーアルプに下る登山道脇で、この珍しい花を見られて満足した。◇2016.07.18　Unterrothorn, Wallis, Switzerland　シノニム：*Gentianella tenella*

Gentianaceae

Gentiana acaulis

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Trumpet Gentian

国内に自生する近縁の種：ハルリンドウ、フデリンドウ、リンドウ

ヨーロッパ中部〜南部の山岳地帯に分布する多年草で、主に珪質岩地帯の標高800〜3,000 mの草地に生え、直立する花を入れた草丈は15 cmほどになる。根生葉は常緑でロゼット状につき、長さ2〜5 cmの長楕円形〜披針形で先は尖らない。茎は長さ3〜6 cmで普通は葉をつけないが、1〜2対の葉がつくこともある。茎先に長さ4〜5 cmのトランペット状の花を1個つける。花は暗青色で先が浅く5裂し、内部にオリーブ色の太い筋があり、その中に隆起した黒い斑点がある。萼は二重で内側の萼にくびれがあり、その先が開くのが特徴だとか。*G. kochiana*という学名が正しいとする説と、それをシノニムとする説がある。◇2012.06.21 Flegere西方、Chamonix Mt-Blanc, France

シノニム：*Gentiana kochiana*

Gentianaceae

Gentiana alpina

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Southern Gentian

国内に自生する近縁の種：ハルリンドウ、フデリンドウ、リンドウ

ピレネー山脈とアルプスの西半部に分布する多年草で、標高2,000～2,600 m地帯の草地に生え、草丈は通常5～10 cm。葉は長さ1～3 cmの広楕円～広卵形でロゼット状につく。葉脈は１本であまり明瞭ではない。ロゼットの真ん中からトランペット型の花が1個直立するが、花茎は無いことが多い。濃い青紫～紫色の花は、長さ30～40 mmで、先は浅く５裂する。花冠裂片は幅8～10 mmで、長さはそれより短い。花冠裂片の内側にオリーブ色を帯びた白色の太い筋があり、その中に暗緑色の斑点が多数ある。これは*G. acaulis*よりは小型で、葉が披針形ではなく広楕円形なのが特徴だという。◇2012.06.16　Galibier Pass, French Alps, France

Gentianaceae

Gentiana bavarica var. *bavarica*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Bavarian Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

アルプスの固有種で、標高1,800～3600 mの湿った草地や湿地に生える多年草で、草丈は5～15 cm。根生葉はロゼット状につき、長さ1 cmほどの倒卵形～さじ形で先は尖らず、色は黄緑色。茎葉は多くあり対生するが、根生葉と同長か少し長めである。葉先は尖らない。花は深青色で長さは1～2 cm、時々菫色や白色の花がある。喉は白色のことが多い。花冠裂片は幅広で先は尖らず平開する。萼は少し膨れ気味で黒ずんでおり、長さは花の半分ほど。アルプスには青い花をつける小型のリンドウ属が多数あり、種の同定は結構難しい。写真は観光客も多い遊歩道脇に咲いていた花で、近くに学名と特徴を記した銘板があったので、同定は間違いないだろう。

◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Gentianaceae　　*Gentiana bavarica* var. *subacaulis*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

これは前ページの基準変種の高山型変種で、標高2,400 m以上に分布し、草丈は10 cm以下だという。根生葉は円形～楕円形で極めて短く、重なり合って付く。茎葉は卵形で先が尖る。花や萼の形態は基準変種と殆ど変わらないようだ。この変種をシノニムリストに入れる資料も多く、この変種がどこまで広く受け入れられているのかは分からない。標高3, 000 mで見かけた写真の株は、その形態と生息地がこの変種の特徴に合致しているので、ここで掲載する植物を450種類に調整するために取り上げた。◇2016.07.16 Gornergrat, Wallis, Switzerland

Gentianaceae

Gentiana brachyphylla

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Short-leaved Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

ピレネー山脈とアルプスの標高1,800～4,200 m地帯に自生する多年草で、主に珪質岩地帯の草地や砂礫地に生え、草丈は3～5 cmで殆ど茎を持たないか短い。葉は殆どがロゼット状に根生し、菱形～楕円形で最大長は1 cmほど、茎葉はないか１対つく。花冠は長さ15～25 mmで、長楕円形の裂片は鮮やかな青色。筒部は紫がかった緑色で細長い。萼は細長くて花筒に殆ど密着し、帯緑色で翼を持たない。葉が小さくて幅広なのが本種の特徴だが、この花の深い青色は、日本のワイルドフラワーでは例がない。◇2012.06.17　Izoard Pass, French Alps, France

Gentianaceae　　*Gentiana clusii*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Clusius's Gentian

国内に自生する近縁の種：ハルリンドウ、フデリンドウ、リンドウ

これは、アルプス三大名花のひとつで、ピレネー山脈からカルパチア山脈までの山岳地帯に分布し、標高2,800 mまでの草地や砂礫地に生える。草丈は8～10 cm。分布域が殆ど重なる*G. acaulis*が珪質岩地帯を好むのに対し、こちらは石灰岩地帯に多いという。葉は楕円形～披針形でロゼット状に根生し、茎にも小型の葉が1～2対対生する。花は長さ4～6 cmのトランペット型で、内部にオリーブ色の斑点はない。前出の*G. acaulis*, *G. alpina*を含めて、ヨーロッパにはこれによく似た大型の花を咲かせるリンドウが６～７種類あるが、どれも日本ではお目にかかることのないタイプのリンドウで、地面から直接大きな花が咲いているような形態は、アルプスでのトレッキングを楽しませてくれる。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Gentianaceae　　*Gentiana lutea*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Great Yellow Gentian

国内に自生する近縁の種：トウヤクリンドウ、リンドウ、エゾリンドウ

中部～南部ヨーロッパに自生する多年草で石灰岩地帯を好み、標高1,000～ 2,500 mの草地、湿地、岩れき斜面などに生え、草丈は1～2 mにもなる。葉はコバイケイソウを思わせる広披針形～楕円形で先が尖り、長さは10～30 cm。葉は青みを帯びた緑色で、裏面に隆起した筋がある。上部の葉腋に黄色い星状の花が10個ほど数段輪生する。花冠は5～7個の裂片に深裂し、裂片は細長くて先が尖り平開する。これは、何ともダイナミックな大型植物で、最初はユリ科の植物かと思った。しかし、宿に帰って図鑑で調べたら、リンドウ科と分かって驚いた次第。リンドウ科であることに違和感はないが、花はどうみてもリンドウ属よりはセンブリ属の花だ。この植物の根や茎は、センブリと同様に胃腸薬の成分として使われるというし、ホップが導入されるまでは、ビールの醸造に使われたこともあるという。◇2016.07.14 Schynige Platte中部, Berner Oberland, Switzerland

Gentianaceae　　*Gentiana nivalis*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Snow Gentian, Small Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

ヨーロッパと北米の北極圏とヨーロッパの高山帯（ピレネー山脈からコーカサス山脈まで）に分布する１年草で、アルプスでは1,600～3,100 mの岩がちの草地や斜面に生え、草丈は5～20 cm。茎は根元からよく分岐し、腺毛がある。根生葉は卵形でロゼットとなる。茎葉は同長の披針形で対生する。花は枝先に一つつき、花冠は暗青色～淡青色で、長さ15 mmほどの筒部と、長さ4～5 mmの５枚の裂片がある。花冠裂片は車輪状に平開して径 8mmほどになり、花冠ののど元をふさぐ毛はない。萼は花筒の2/3の長さで、断面は角張るが、稜に翼はない。萼筒の下半分は花筒に張り付き、裂片の先は尖って濃い縁取りがある。これは、よく分岐した茎先に極小の花を多数付け、アルプスに数あるリンドウ属の中でも特に変わった形態なので、同定を誤る心配はないし、独特の存在感があって印象に残る。◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Gentianaceae　　*Gentiana orbicularis*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Round-leaved Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

ヨーロッパに固有の多年草で、スペイン南部からバルカン半島北部まで分布し、標高1,700～2,800 mの石灰岩地帯を中心に、湿った草地やガレ場に生える。茎は殆どなくて、草丈は3～6 cmしかない。根生葉はロゼットを造り、長さ4～10 mmの広卵形で硬く、表面には光沢がある。葉縁は上向きに反る。花は長さ15～25 mmの筒状花で、先は５裂して殆ど平開し、花冠裂片は幅が広くて重なり合う。花筒は褐色でやや太めの萼筒で被われ、萼には稜があるが翼はない。◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

Gentianaceae　　*Gentiana punctata*

キキョウ科　リンドウ属　英語名：Spotted Gentian

国内に自生する近縁の種：トウヤクリンドウ、リンドウ、エゾリンドウ

ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布し、標高3,000 mまでの明るい疎林、草地、岩礫地に生える多年草で、草丈は20～60 cm。葉は長さ10 cmまでの楕円形～広披針形で先が尖り、幅は3～7 cmある。葉の表面には光沢があって、裏面に隆起した縦の脈がある。下部の葉には柄があるが上部のものは無柄。茎先や上部の葉腋に、帯緑黄色の釣鐘形の花を数個かたまってつける。花には紫色の細かい斑点が多数あり、花冠の長さは15～35 mm。花冠の先は浅く5～8裂するが波打って不規則な形だ。花冠裂片は大きくは開かないが、太い筒部が円筒状なので花の内部はよく見える。葉と同色の萼筒には5～8個の歯牙がある。黄色い花のリンドウということで、日本のトウヤクリンドウと似ているかと思ったが、葉の形、花の色、花冠の外形、花冠裂片の数と形、などが大きく違っている。それにしても、アルプスの黄色い花のリンドウ２種は、紫色の花をつける他の種とは大きく異なる葉と花をつけるのが面白い。

◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Gentianaceae

Gentiana schleicheri

リンドウ科　リンドウ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

これは、西部～南部アルプスに分布する多年草で、草丈は3～6 cm。標高1,900～2,900 mの小石混じりの草地に生える。根生葉はロゼット状に重なってつき、先の尖った広披針形で光沢はない。ロゼットの中心から1個の花が直立し、茎は殆どない。花は長さ12～20 mmの筒形で先は５裂し、花冠裂片は深い菫青色の倒卵形でほぼ平開するが、裂片は重なり合わない。副片は部分的に白色で、喉も白色を呈する。萼筒は細長くて花筒に密着し、褐色を帯びる。◇2016.07.18 Unterrothorn, Wallis, Switzerland

シノニム：*Gentiana terglouensis* subsp. *schleicheri*

Gentianaceae　　*Gentiana utriculosa*

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Bladder Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

アルプスとアペニン山脈で、標高2,500 mまでの湿った草地や岩礫地に生える１年草で、草丈は5～25 cm。根生葉は長さ1 cmほどの淡緑色の披針形～楕円形でロゼット状につき、茎葉は分岐する茎に対生する。花は分岐した茎頂に1個ずつつき、長さ1.5～2.5 cmの筒形で先は深く５裂する。花冠裂片は濃青色で先が尖り、径1 cmほどに平開する。裂片の尖った先が時計方向に少し彎曲するので、上から見るとカザグルマのように見えることが多い。萼は稜が高さ3 mmほどに隆起して膨らんで見える。英語名はこの膨らんだ萼筒に由来するが、本種のもう一つの特徴は、分岐した茎が短いため、花が垂直方向に並んだように配列することである。

◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Gentianaceae

Gentiana verna

リンドウ科　リンドウ属　英語名：Spring Gentian

国内に自生する近縁の種：ミヤマリンドウ、リシリリンドウ

ヨーロッパ原産のリンドウ属としては最も広範囲に分布する種で、アイルランドからモンゴルまでのユーラシア大陸に自生し、ヨーロッパ中部と南東部では普通に見られる。北アフリカの高山帯にもあるようだ。アルプスでは標高3,000 mまでの石灰岩～酸性岩地帯の湿った草地に生え、草丈は3～12 cmくらい。ロゼットとなる根生葉は楕円形～披針形で硬く、茎葉は小さな卵形で1～3対が対生する。茎は直立して分岐せず、頂に目にも鮮やかな鮮青色の花を１個上向きに咲かせる。花冠の長さは1.5～2.5 cmで先は５裂し、裂片は平開して径1～２cmになる。花冠裂片は楕円形で、それらの間には先が２裂して直立する副片がある。花冠の中心（喉部）は白色。萼筒は花冠の2/3ほどの長さで、中央部がやや膨らみ、褐色を帯びることが多い。稜には狭い翼がある。◇2016.07.17 Hohsaas, Saastal, Wallis, Switzerland

Gentianaceae　　*Gentianopsis paludosa*

リンドウ科　チチブリンドウ属　　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：シロウマリンドウ、アカシリンドウ、チチブリンドウ

パキスタンから中国西部までのヒマラヤ山系に分布する２年草で、乾燥した亜高山帯の林縁や岩の多い草地に生え、草丈は20～50 cm。根生葉は短い柄のある楕円形で、長さ2～4 cm。茎葉は長楕円形～披針形で柄はなく、対生する。花は茎先と葉腋につき、花柄は長さ7～20 cm。萼は長さ25～40 mmで４稜がある。花冠は青紫色で長さ25～35 mm。先は４裂し、裂片は平開する。これは、日本にある同属３種の中ではアカイシリンドウに最も似ているようだが、花柄は比べものにならないほど長く、全く異なる雰囲気である。撮影地はタシュクルガン西方のカラコルムハイウエー沿いで、岩がちの草地に大群落となって咲き誇っていた。近くには放牧されたヤクが見られたが、食害がないので大きな群落を形成できているのだろう。
◇1993.07.28. タシュクルガン近傍、新疆ウイグル自治区、China

Gentianaceae　　*Sabatia campestris*

リンドウ科　サバティア属　英語名：Prairie Rose-Gentian, Meadow Pink
国内に自生する近縁の種：なし

米国中部～南部原産の２年草で、東西方向ではテキサス州からミシシッピー州まで、北へはイリノイ州やアイオワ州まで分布する。この植物は、平原、林下、路端などに生え、草丈は15～50 cm。茎には４稜があり、上部でよく分岐する。葉は披針形～狭卵形で対生し、長さは8～20 mm。花は上部の葉腋から伸びた短い花柄の先につき平開する。花冠は径2.5～3 cmの濃いピンク色で、花弁状に深く５裂する。裂片の先はあまり尖らず、喉部には星形の黄色い斑がある。これはテキサス州に出張した折りに、休憩時間中に分け入った草原で見かけた花である。その時はリンドウ科の植物とは思い当たらなかったが、帰国してからの調べで、日本にはないリンドウ科のサバティア属と分かって納得した。◇1996.05.13　College Station, Texas, USA

Geraniaceae　　*Geranium rivulare*

フウロソウ科　フウロソウ属　英語名：Rivulet Cranes'bill

国内に自生する近縁の種：チシマフウロ、エゾフウロ、ゲンノショウコ

この植物は、以前は*G. sylvaticum*（次ページ）の亜種として取り扱われることが多かったが、最近では独立した種として分類する図鑑が多いようだ。日本ではチシマフウロの淡色～白色のものを、亜種どころか変種より下位レベルの品種トカチフウロとするが、ヨーロッパの図鑑は"Splitter"の意見が強い様で面白い。遺伝学的に検証したら、本当に*G. sylvaticum*と*G. rivulare*に種レベルでの違いがあるのかどうか興味がある。本種の全体的な形態は*G. sylvaticum*と変わらないが、草丈は20～60 cm。花は*G. sylvaticum*より小型の径10～18 mmで、花弁は少し紫色がかった白色で赤紫色の筋がある。白い花弁に紫色の葯が良いコントラストとなっており、落ち着いた美しさがあって好ましい。この種の分布については、中部～西部アルプスとする資料は多いが、正確な分布範囲は分からない。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy　　シノニム：*Geranium sylvaticum* subsp. *rivulare*

Geraniaceae　　*Geranium sylvaticum*

フウロソウ科　フウロソウ属　英語名：Wood Cranesbill

国内に自生する近縁の種：エゾフウロ、ゲンノショウコ、チシマフウロ

ヨーロッパとトルコに分布する多年草で、アルプスでは標高2,400 mまでの草地、林下、砂礫地などに生え、草丈は50～100 cm。根生葉は幅10～20 cmで掌状に5～7裂し、裂片はさらに切れ込んで先が尖る。花は径12～25 mmの５弁花で、花色は土質によって淡青紫色～空色～ピンク色と変化するが、基部に白い筋模様のあることが多い。雄しべは10本あり、葯は紫色だ。アルプスで最も普通に見かけるフウロソウは本種とのことで、本巻の表紙に見られるように、高山帯の草地に群生して、遠くからでもよく目立つ。日本にもフウロソウ属は数多くあるが、その多くはがピンク系統の花を咲かせ、青紫の花を咲かせる種でも、この種のように深みのある菫色の花はない。写真のように白い筋模様がはっきりした花はとりわけ魅力的である。

◇2007.06.24 First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Hypericaceae　　*Hypericum perforatum*

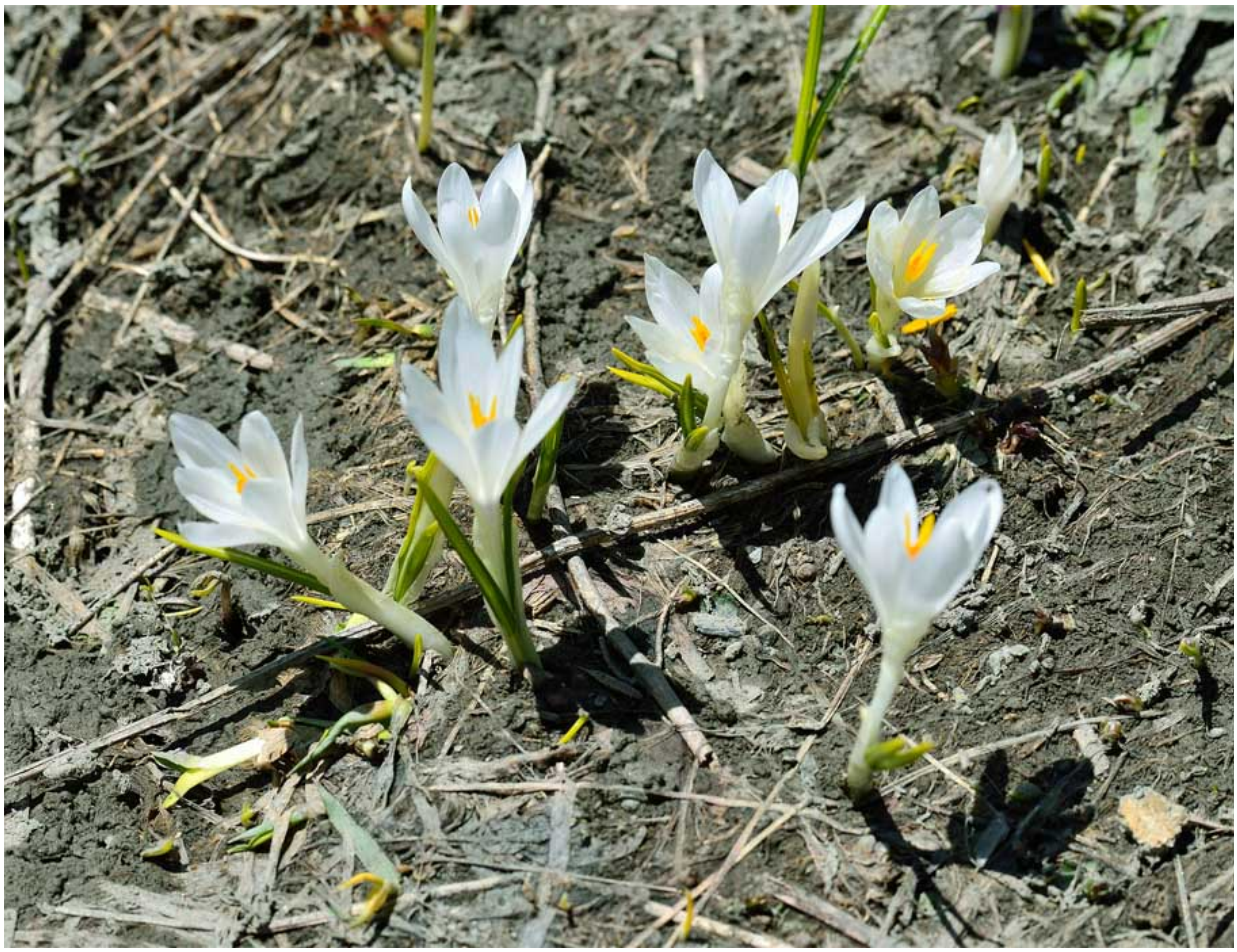
オトギリソウ科　オトギリソウ属　英語名：Perforated St John's-Wort

国内に自生する近縁の種：イワオトギリ、シナノオトギリソウ、トモエソウ

ヨーロッパとアジアの一部に原産する多年草で、草地や疎林に生え、草丈は最大1 mまでになる。現在は、北米、アフリカ、インド、中国など世界各地の温帯に広がり、侵略的帰化植物と見なされている。茎は無毛で直立し、２本の稜があってよく分岐する。葉は長さ1〜2 cmの楕円形で対生し、小さい明点が多くある。枝先に沢山の黄色い花が集まってつき、花は径2〜2.5 cmほどの５弁花。花弁は狭楕円形で縁に黒点がある。雄しべは50〜100本もあり、黄色い葯をつけて放射状に突き出す。日本に自生するオトギリソウ属で、こんなに大きくなるのはトモエソウ以外にはないだろう。これはトモエソウほど大きな花ではないが、1日花にしては沢山の花が同時に咲き、なかなか見応えのあるオトギリソウ属である。また、この植物は、抗うつ薬や傷薬として利用されるそうだ。◇2010.07.29　Bergen近郊、Norway

Iridaceae

Crocus vernus subsp. *albiflorus*



アヤメ科　クロッカス属　英語名: White Crocus

国内に自生する近縁の種: なし

アルプスの春一番を象徴するのが、この白いクロッカスの群落であろう。開花期に当たれば、標高800〜2,500 mの雪融け直後の斜面を一面に被って咲いているが、花弁が透明感のある白色のせいかあまり目立たない。これを独立した種とする文献や、花は次ページのsubsp. *vernus*の半分の大きさとする文献など、ちょっと混乱気味だ。この亜種の中に青紫色の花をつけるものも含まれるという文献もある。詳しくは、次ページに記載してある。◇2012.06.16 Lautaret Pass, French Alps, France

Iridaceae

Crocus vernus subsp. *vernus*

アヤメ科　クロッカス属　英語名：Purple Crocus, Spring Crocus

国内に自生する近縁の種：なし

アルプス、ピレネー山脈、バルカン半島に自生する球根植物で、アルプスでは標高1,000～2,700 mの草地や雪田跡に生え、草丈は10～15 cm。葉は線形で開花時には一部が伸び始めたところ。花は紫色の６弁花で葯は橙黄色。私がヨーロッパの高山植物図鑑として頼りにしている本では、*C. albiflorus*は白い花で、基部に紫色の入る事もあり、雌しべは雄しべより短いとある。一方、*C. vernus*は紫色の花をつけ、花は*C. albiflorus*の２倍大きく、雌しべは雄しべより長いとなっている。写真の花は見ての通りの紫色だが、前ページの白い花と大きさは変わらなかったと記憶しているし、雌しべは雄しべより短い。また別の情報では、白も紫も*C. vernus*で、色によって亜種に分けるとなっている。亜種は、本来生息地が違うものを区分するという決め事のはずなのに、なんだかおかしい。私の感じでは、両者は同じ種で、せいぜい変種か品種のレベルで区分すべきではなかろうか。◇2012.06.16 Lautaret Pass, French Alps, France

Iridaceae　　*Gladiolus italicus*

アヤメ科　グラジオラス属　英語名：Wild Gladiolus, Italian Gladiolus, Field Gladiolus
国内に自生する近縁の種：なし

これは、ユーラシアと北アフリカの広い範囲に分布する多年草で、畑や荒れ地に生え、草丈は40〜80 cm。茎は直立して根元に幅1〜1.6 cmの細長い葉を3〜5枚つける。茎の上部に、6〜15個の花が一列に並んだ穂状花序を出す。花には苞葉がつくが、下部の花では花と同じ長さがある。花は紅紫色〜ピンク色で長さ4〜5 cm。花被片は長さが異なり、上花被片は長くて、側花被片の倍の幅がある。英語名からするとこれがグラジオラスの原種か？ 確かにきれいな花ではある。◇2000.06.14 Barrem北方, Provance, France

Lamiaceae　　*Acinos alpinus*

シソ科　アキノス属　英語名 : Rock Thyme, Alpine Calamint
国内に自生する近縁の種:　なし

これは、ヨーロッパ南部の山岳地帯に分布する多年草で、標高900～2,600 mの荒れ地や岩の割れ目などに生える。草丈は10～20 cm程度とする資料と、50 cmに達するとする資料があるが、私が見た範囲では前者があてはまる。本種は、かってイブキジャコウソウ属(*Thymus*)に区分されたこともあるほどで、花の色はイブキジャコウソウに似ているが、花の形と大きさは大分異なる。茎は木質で綿毛に被われ、長さ5～15 mmの卵形～披針形の葉が対生する。葉腋に3～8個の花が輪生し、花は長さ15～20 mmの２唇形で、鮮やかな赤紫色。下唇は３裂し、中央裂片の先は浅く２裂する。下唇の基部には白い斑があり、立体的な付属片を伴う。イブキジャコウソウよりは大きい花が多数同時に咲くので、なかなか見応えのある美しい植物だ。これは、タイムと同じようにハーブティーとして利用できるし、薬用もあるという。
◇2016.07.09　Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Lamiaceae *Ajuga pyramidalis*

シソ科　キランソウ属　英語名：Pyramidal Bugle

国内に自生する近縁の種：キランソウ、ジュウニヒトエ、ヒイラギソウ

これはヨーロッパ全域に分布するが、中部～南部アルプスで特に数が多い多年草だという。アルプスでは標高2,700 mまでの珪質岩地帯で乾いた草地や裸地に生え、草丈は5～25 cm。植物全体に毛が多く、根生葉は柄のある楕円形で、ロゼット状につく。茎は断面が四角で直立し、楕円形の苞葉を十字対生する。根生葉は緑色だが、苞葉は紅紫色。苞葉は上部に向かって紅紫色の度合いが強まり、小型化するが、花より短くなることはない。花はキランソウそっくりの色と形の２唇形で、基部は細い筒状となる。開花の初期は草丈が低く、全体が円錐形に見えるので「ピラミッド状の」という種名がついた。大きな赤紫色の苞葉はよく目立ち、この植物は出会うのが楽しみな変わり者だ。◇2012.06.21 Planplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Lamiaceae

Ajuga reptans
セイヨウジュウニヒトエ

シソ科　キランソウ属　英語名：Blue Bugle, Common Bugle

国内に自生する近縁の種：キランソウ、ジュウニヒトエ、ヒイラギソウ

この植物はヨーロッパに広く分布し、アルプスでは標高2,000 mまでの湿った草地や林下に生えて、草丈は10～30 cm。匍匐枝が長く伸びて何本も茎を立ち上げ、マット状に広がる。茎は断面が四角く２面に毛が生える。茎に対生する葉は柄のある楕円形～卵形で、毛はなくて先は尖らない。茎の上部に総状花序をだし、青紫色の花を密に何段も輪生する。花は短い筒状部のある２唇形で、下唇には暗色の筋があり、長さは14～17 mm。上唇は短く平だが、下唇は波打って３裂し、中央裂片は長く伸びて先が浅く２裂する。 これは、園芸品種として親しまれているセイヨウジュウニヒトエの原種であり、日本在来のジュウニヒトエより鮮やかな花を咲かせる。庭で見慣れた花ではあるが、山で見る野生株は一層鮮やかな花をつけ、ひと味違った魅力がある。◇2012.06.17 L'Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, French Alps, France

Lamiaceae　　*Horminum pyrenaicum*

シソ科　△属　英語名: Dragonmouth
国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー山脈とアルプスの石灰岩地帯で、標高1,000～2,500 mの草地、岩礫地、明るい疎林などに生える１属１種の多年草で、全体に微毛があって草丈は10～45 cm。葉は根元にかたまって付き、長さ3～7 cmの楕円形～三角状卵形で長い柄がある。葉脈は凹んで葉の表面には複雑な皺がある。花は直立した花茎の上部で一方に偏って付き、穂状花序となる。花は長さ15～20 mmの濃紫色の２唇形筒状花で、上唇は浅く２裂して前方に突き出し、下唇は３中裂して中央裂片は下方に彎曲する。花の形から「竜の口」という英語名が付けられたのだろうが、花冠の長さに比べて唇弁は短く、日本のアキギリほどには動物の頭部を連想させる花ではない。訪問した季節の違いかもしれないが、フレンチアルプスやスイスアルプスではこの花を見た記憶がない。しかし、ドロミテ山塊では、登山道脇の至る所でこの特徴的な葉を目にした。ただし、花茎を立てている株は余り多くなかった。今年訪れたスイスアルプスでは、稀に見かけた。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Lamiaceae　　*Lamium maculatum*

シソ科　オドリコソウ属　英語名：Spotted Deadnettle, Spotted henbit
国内に自生する近縁の種：オドリコソウ、ホトケノザ

ヨーロッパの広範囲と西アジアの温帯域に分布する多年草で、混交樹林、林縁、路傍、川の土手などに生え、草丈は20～60 cm。葉の形態や花色に変異の多い植物で、毛の生え方にもいろいろと違いがある。茎は中空で毛が多く、根元で分岐して直立する。葉は心形～楕円形で、先が尖って柔らく、縁には通常粗い鋸歯がある。葉には長い柄があるが、ふつうは葉身よりは短い。葉には白い斑紋や斑点のあることが多い。茎上部の葉腋に6～16個の花が数段輪生する。花は長さ2～3 cmの２唇形で、色は通常濃いピンク色から鮮かな紅紫色。下唇には鮮やかな白と赤の斑があり、３裂して中央裂片は下向きに突き出る。上唇は兜状で直立する。日本のオドリコソウにも赤い花をつける個体はあるが、この種ほど鮮やかな色合いのものはないので、この花が群れて咲いていると、「オオッ」という声が出てしまう。◇2016.07.09
Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Lamiaceae *Lavandula angustifolia*

シソ科　ラヴァンドラ属　英語名：Lavender. Common Lavender, True Lavender
国内に自生する近縁の種：なし

地中海沿岸域の西部に分布する常緑灌木で、標高1,000～1,800 mの主に石灰岩地帯の岩れき斜面に生え、高さは1 mを越えることもある。葉は線形で長さ20～50 mm、幅は4～6 mm。枝先から長さ10～30 cmの花茎を伸ばし、その先に長さ2～8 cmの穂状花序を出して、ラベンダー色の小さい花を密に沢山つける。この野生ラベンダーには、プロバンス北部での国際共同研究の野外作業中によく出会った。標高1,000 mを越えると、石灰質の白い斜面にはこの野生ラベンダーが一面に生えており、踏んづけないと前に進めないところも多かった。思ったほど強い臭いではなかったが、私にとっては記憶に留まる経験である。プロバンスにはラベンダー畑が多くあるが、標高は1,000 m以下で、植えてあるのは花の大きな園芸品種である。
◇2000.06.14　Barrem北方、Provance, France

Lamiaceae　　*Salvia glutinosa*

シソ科　アキギリ属　英語名：Jupiter’s Distaff, Sticky Sage
国内に自生する近縁の種：キバナアキギリ、アキノタムラソウ

ヨーロッパ中部からアジア西部にかけて分布する多年草で、標高100～1,600 mの主に石灰岩地帯で、広葉樹林、雑木林、空き地などに生える。茎は直立して40～100 cmになり、全体に腺毛があって粘つくが、特に萼と花で顕著である。葉は最大長13 cmの心形～三角状鉾形で、先が尖って縁には荒い鋸歯があり、長い（8～10 cm）葉柄につく。茎上部の葉腋に2～6個の花が輪生状につく。花は長さ3～5 cmの２唇形で、全体が淡黄色だが、下唇の内側には赤褐色の斑点や筋がある。上唇は逆さの舟形で、赤紫色の雌しべが突き出す。下唇は3裂し、中央裂片は下がり気味に突き出す。この花は日本に固有のキバナアキギリによく似ているが、全体の造りはより大げさで、大口を開けた蛇かトカゲを連想させる気味悪さや面白さは、こちらの方が数段上回っている。◇2016.07.14 Schynige Platte下部, Berner Oberland, Switzerland

Lamiaceae *Salvia pratensis*

シソ科　アキギリ属　英語名: Meadow Clary, Meadow Sage

国内に自生する近縁の種: アキギリ、アキノタムラソウ、シナノアキギリなど

ヨーロッパ、西アジア、北アフリカに分布する多年草で、標高1,900 mまでの乾いた草地や林縁に生えて、草丈は1〜1.5 m。茎は断面が四角く、腺毛と軟毛が生える。葉は長楕円形で対生し、表面が少し凸凹して縁には鈍い鋸歯がある。下部の葉は長さ15 cmほどあって有柄だが、上部のものほど小型化して無柄となる。茎は分岐し、4〜6個の花が何段にも輪生して、花序の長さは30 cmに達する。花は鮮やかな濃青紫色で。花序の下から上に向かって咲き上がる。花冠は長さ2〜3 cmの２唇形で、上唇は逆さの舟形で彎曲して立ち上がり、下唇は３裂して前方に突き出す。上唇の先からは先が２裂した雌しべが突き出す。同じ属の植物だけに、この花は日本のアキギリに似ているが、アキギリのようなは虫類を連想させる造りではない。むしろ、小鳥を連想させる様な構造で、色の鮮やかさと相まって、この花は何回見ても面白い。◇2012.06.16 Granon Pass, French Alps, France

Lamiaceae *Satureja montana*

シソ科　△属　英語名: Winter Savory

国内に自生する近縁の種: なし

これは、南部ヨーロッパと地中海沿岸域に分布する多年草で、草丈は最大40 cmまで。木化した茎から長さ1〜4 cmの枝が伸び、長さ5〜30 mmの線状披針形の葉を互生する。無毛か微毛のある枝の先に、最大14個までの花を輪生に近い形でつける。花は長さ6〜12 mmの２唇形で、基部は真っ直ぐな筒状。花冠は白色〜ピンク色で、唇弁の内側に赤紫色の斑点があり、稀に全体が紫色のものもある。上唇は浅い逆さ舟形で花筒から延長して延びるが、下唇は3裂して下方に折れ曲がる。下唇裂片は広卵形で中央裂片は突き出し、ランの仲間によく見られるような形となる。本種は、分類学的にはローズマリーやタイムに近い植物であり、近縁のSummer Savory (*S. horensis*)と共に、古くから香草や薬草して利用されてきた。ハーブとして肉料理やサラダに用いられるし、胃腸薬、殺菌素材、虫除けとしての効用もあるという。

◇2005.09.30　Piobico近郊, Marche Province, Italy

Lamiaceae *Scutellaria alpina*

シソ科　タツナミソウ属　英語名 : Alpine Scullcap

国内に自生する近縁の種:　タツナミソウ、ナミキソウ、ヒメナミキ

ヨーロッパの中・南部とロシアに分布する多年草で、石灰岩地帯の標高1,400～2,500 m地帯の岩礫地や草付き斜面に生え、草丈は10～30 cm。根茎から伸びた地上茎は、断面が四角くて地を這ったり斜上したりして、よく分岐する。葉は対生し、長さ2～3 cmの楕円形で短い葉柄があり、毛が密生して縁には粗い鋸歯がある。花は茎頂に集まって四角い穂状花序となり、立ち上がって咲く。花は２唇形で長さは2.5～3 cm。上唇は逆さの船状できれいな紫色、下唇は少し紫がかった白色で、全体に波打って大きく広がる。この花は、タツナミソウの仲間としては大きく、上唇外側の色鮮やかさは目を引くし、白い下唇がエプロンのように広がって、なかなか豪華な花である。ちなみに、タツナミソウ属は世界に300種ほどあり、日本国内にも18種あるが、ヨーロッパに自生するのは少ないようで、Collins社の図鑑に載っているのはこの一種だけだ。 ◇2012.06.17 L‘Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, French Alps, France

Lamiaceae　　*Thymus glabrescens*

シソ科　イブキジャコウソウ属　英語名 : Glabrescent Thyme

国内に自生する近縁の種: イブキジャコウソウ

中部～東部ヨーロッパとアジアの一部に分布する矮小低木的な多年草で、アルプスでは標高1,500 mまでの乾いた草地や岩礫地に生える。匍匐性の茎から枝を立ち上げ、草丈は7～15 cm。茎は全体に毛が多く、花を咲かせる枝に付く葉は、楕円形～披針形で、巾は少なくても3 mm以上ある。花は淡紅色～赤紫色の２唇形で長さ3～6 mm。茎頂に集まって丸い花序となるが、その下にも少し小型の花序を付けることが多い。上唇の先は浅く切れ込み、下唇は３中裂して水平に大きく開く。イブキジャコウソウ属は日本にはイブキジャコウソウ１種しかないが、世界には200～350種もある大きな属だという。アルプスにも６種あって同定は難しいが、本種は、地表を匍匐する茎から分岐しない枝を何本も立ち上げるのが特徴的だといえよう。◇2015.06.28　Innsbruck近郊, Austria

Lamiaceae *Thymus pulegioides*

シソ科　イブキジャコウソウ属　英語名：Larger Wild Thyme, Broad-Leaved Thyme
国内に自生する近縁の種：イブキジャコウソウ

ヨーロッパの温帯域に分布する常緑の矮小低木的な多年草で、岩礫地や荒れ地、道路脇などでマット状に広がり、高さは5〜25 cm。赤味を帯びた茎は断面が四角形で、稜には毛が生える。芳香のある葉には短い柄があって対生し、全縁の楕円形〜矩形で毛はない。枝先にピンク色〜赤紫色の花が密に輪生した散形花序をだす。花は長さ6 mmの２唇形で、上唇は先が切れ込み、下唇は３裂して中央裂片は２個の側裂片より大きい。本種は、アルプスに自生するタイムの中で最も大きい花を咲かせるようだ。日本のイブキジャコウソウもこれに負けないサイズの花をつけるが、花の付き方が少し異なる。◇2007.06.24 First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Lamiaceae　　*Thymus* cf. *serphyllum* subsp. *polytrichus*

シソ科　イブキジャコウソウ属　英語名：

国内に自生する近縁の種：イブキジャコウソウ

次ページに掲載する*Thymus serphyllum*には多くの亜種が提唱されているが、その多くを認めないという説もあり、混乱気味のようだ。また、*T. polytrichus*を独立した種とする説もあって素人には手に負えない。写真は葉が見えないほど花が立派で、面白いと思って掲載したが、表題の亜種への同定には大いに疑問がある。ネット検索で、これによく似た写真が表題の名前で出ていたので、それを借用しているという次第。

◇2016.07.15 Kleine Schaidegg, Berner Oberland, Switzerland

シノニム：*Thymus pracox* subsp. *polytrichus*

Lamiaceae　　*Thymus serphyllum* subsp. *serphyllum*

シソ科　イブキジャコウソウ属　英語名：Wild Thyme, Breckland Thyme
国内に自生する近縁の種：イブキジャコウソウ

これは、ヨーロッパの広範囲と北アフリカに分布する常緑の矮小低木的な多年草で、アルプスでは標高3,000 mまでの乾いた草地や砂礫地に生え、マット状に広がって高さは3〜10 cmほど。地を這う茎は長さ10 cmほどで、長さ3〜8 mmの狭楕円形の葉が対生する。枝先に長さ4〜6 mmの唇状花を密集してつけるが、花はライラック色〜紅紫色で、強い芳香がある。日本のイブキジャコウソウ(*T. quinquecostatus* var. *ibkiensis*)は従来本種の亜種とされてきたが、今は別の種の亜種となった。この種は、全体的な印象は日本のイブキジャコウソウによく似るが、花はこちらの方が小さくて、色も少し濃いように思える。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Lentibulariaceae　　*Pinguicula alpina*

タヌキモ科　ムシトリスミレ属　英語名：Alpine Butterwort

国内に自生する近縁の種：コウシンソウ、ムシトリスミレ

これは、ユーラシアの高緯度地帯と高山に分布する多年草で、北はアイスランドから南はヒマラヤまでに分布する。アルプスでは標高2,600 mまでの湿地や沢の縁、湿った岩場などに生え、草丈は5〜15 cm。アルプスには５種のムシトリスミレ属が自生するようだが、白い花をつけるのは本種だけなので、同定は簡単だ。根生葉は最大長6 cmで肉厚の楕円形〜披針形、5〜8枚がロゼット状につく。色は黄緑色〜赤褐色で、縁は表側に巻き込む。本種は発芽して数年後、株が十分大きくなると長さ5〜15 cmの花茎を伸ばし、その先に1個の花をつける。花は白い２唇形で、長さは10〜16 mm。上唇は２裂、下唇は３裂して、喉部に黄色い斑が1〜3個ある。距は黄緑色で短い。葉の表面にある腺体から粘液を出して虫を捕らえるわけだが、受粉は蠅に頼っているので、花は葉から高く離れた位置で開花し、受粉者を捕まえないようにしているのだろう。◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Lentibulariaceae

Pinguicula vulgaris var. *vulgaris*
ムシトリスミレの基準変種

タヌキモ科　ムシトリスミレ属　英語名：Common Butterwort

国内に自生する近縁の種：コウシンソウ、ムシトリスミレ

これは周極分布をする植物で、ヨーロッパ全域、ロシア、カナダ、米国の低地帯～亜高山帯の湿地や湿った草地に生え、草丈は10～20 cm。日本のムシトリスミレは本種の一変種で、極東アジアと北米西部に分布する。この基準変種は、長さ2～4 cmの矩形～楕円形の根生葉がロゼット状につき、色は黄緑色で縁は表側に巻き込む。ロゼット葉の中心から真っ直ぐ立ち上がる花茎には腺毛が生え、上部は彎曲して先端に1個の花を横向につける。花は濃い赤紫色の上下につぶれた2唇形で、長さは15～25 mm。上唇は２裂し、下唇は３裂して中心部から基部にかけて白斑があり、赤紫色の斑点が散在する。距は細長くて下方に彎曲する。この基準変種は花は日本のムシトリスミレとそっくりだが、写真の個体では花茎はうんと長い。ひょろりと伸びた「ろくろっ首」のようで滑稽ですらある。◇2012.06.18 Emparis Plateau, French Alps, France

Liliaceae　　*Clintonia borealis*

ユリ科　ツバメオモト属　英語名：Blue-Bead Lily, Clinton's Lily, Corn Lily
国内に自生する近縁の種：ツバメオモト

北米大陸東部に分布する多年草で、湿った林下に生えて草丈は15～40cm。葉は根元に2～4枚つき、長さ10～30 cmの楕円形で鋸歯はなく、先の方が広くて先端は尖る。葉は濃い緑色でやや肉厚、艶があって平行脈がはっきりしている。高く伸びた花茎の先に小さな散形花序を出し、2～8個の黄色い花をうつむき加減に咲かせる。花は径2～2.5 cmで６枚の花被片があり、内花被片と外花被片は殆ど同形の披針形で鐘形に開く。雄しべは６個で葯も黄色、雌しべは１個で雄しべより長く、花冠から少し突き出る。この花は、基本的な作りは日本のツバメオモトと似ているが、葉はより軽快で数も少なく、ツバメオモトほどの存在感はない。しかしながら、花は黄色いのでツバメオモトとは違った魅力がある。果実の方はツバメオモトと同じ藍色で径1.2 cmほど。それが、英語名の謂われとなっている。◇2013.06.14 Minnesota州北部、USA

Liliaceae　　*Erythronium americanum*

ユリ科　カタクリ属　英語名：Yellow Trout Lily

国内に自生する近縁の種：カタクリ

これは、北米大陸東部に分布する多年草で、林内や草地に生えて草丈は10～25 cm。肉厚の根生葉が２枚あり、長さ8～15 cmの長楕円形で、濃い緑色の地にえび茶色の斑紋が目立つ。この斑紋が魚のブルックトラウトの模様と似ているとして、英語名の謂われとなった。葉の間から立ち上がった花茎の先に、１個の花をうつむき加減に咲かせる。花は長さ2～3.2 cmで黄色い花被片が６枚あり、花被片の外側は紫色を帯びることが多い。雄しべは６本で葯は黄色～褐色、子房は１個で３つの花柱が立ち上がる。日が当たると花は大きく開き、花被片は反り返る。花は黄色でカタクリとは雰囲気は異なるが、えび茶色の斑模様のある葉はカタクリにそっくりで、初めて見たときは親近感を感じた。国内で広く栽培されているキバナカタクリ（洋種カタクリ）はカリフォルニア原産の別種の栽培品種で、ここに見られる葉の斑紋はないことが多い。◇1986.04.23 Palisades, New Jersey, USA

Liliaceae

Erythronium grandiflorum

ユリ科　カタクリ属　英語名: Yellow Glacier Lily, Yellow Avalanche-Lily

国内に自生する近縁の種: カタクリ

カナダ南西部と米国西部に分布する多年草で、亜高山帯の草地や斜面に生え、草丈は10～30 cm。２枚の根生葉は長さ10～20 cmの披針形～楕円形で、光沢があって斑紋はなく、縁は波打つ。長い花茎の先に通常1～2個つく花はうつむいて咲き、鮮やかな黄色の花被片が６枚ある。花被片は披針形で長さは2～4 cm、６枚共に同形である。本種は葉に斑がなくて花も小型だし、全体の造りも前ページの*E. americana*ほどは、日本のカタクリと似ていない。しかし、大規模に群生し、辺り一面が数多くの花で圧倒される感じは、北海道のカタクリと共通する。ちなみに、国内で広く園芸栽培されているキバナカタクリは、カリフォルニア原産の*E. tuolumnense*の栽培品種で、一茎に数個の花を咲かせる点で異なる。◇2013.06.11 Healy Creek, Banff National Park, Canada

Liliaceae　　*Fritillaria purdyi*

ユリ科　バイモ属　英語名 : Purdy’s Fritillary

国内に自生する近縁の種:　カイコバイモ、クロユリ、コシノコバイモ、

カリフォルニア州北西部とオレゴン州の一部に分布する多年草で、蛇紋岩地帯の森林に生え、草丈は10〜40 cm。肉質の葉は最大長10 cmの楕円形で、縁が上方に彎曲して、チューリップの葉に似ている。毛のない茎の上部に総状花序をだし、１個〜数個の椀型の花を下向きに咲かせる。花には６枚の白い花被片があり、褐紫色の斑点が多くあるが、花被片の中軸部には特に多く、その部分は白地にピンク色の斑が重なる。葯は赤橙色である。ネットで調べると花被片の先が尖り気味の花もあり、斑点の密度と色合いにも変異があるようだ。日本国内に８種あるコバイモ類と比べると、花が複数つくのと、花に派手な斑点があるのには驚かされる。

◇1997.06.04　Mendocino National Forest, California, USA

Liliaceae　　*Fritillaria recurva*

ユリ科　バイモ属　英語名 : Red Bells, Scarlet Fritillary

国内に自生する近縁の種: カイコバイモ、クロユリ、コシノコバイモ、

これは、カリフォルニア州北部とオレゴン州南西部に分布する多年草で、標高300～2,200 mの森林地帯で、乾いた空き地や疎林に生え、草丈は30～90 cm。毛のない茎は直立して分岐せず、中程に線状披針形の葉が3～5枚輪生し、上部では葉が互生する。葉は青みを帯びた粉で被われる。茎上部の葉腋から花柄が伸び、その先端に緋色の花を１個下垂する。花は細長い鐘形で、緋色の地に黄色くて細かい斑模様が全体を被う。一株につく花の数は最大で13個だそうだ。６枚ある花被片の先は外側に反り返り、葯は暗赤色。休暇を取ってアメリカの古い友人を訪問した折りに、カリフォルニアの国有林でこの花に出会った。そのときは何の仲間なのか私には分からなかったが、日本にもあるコバイモの仲間と知って以来、バイモ属に興味を持つようになった。私は、退職後に日本国内にあるバイモ属８種は全て撮影したが、アメリカに数多いバイモ属はまだ２種しか見たことがない。◇1997.06.04

Mendocino National Forest, California, USA

Liliaceae

Gagea fistulosa

ユリ科　キバナノアマナ属　　英語名 : Star of Bethlehem, Yellow Gagea

国内に自生する近縁の種:　エゾヒメアマナ、キバナノアマナ、ヒメアマナ

これはヨーロッパ原産の多年草で、スペインからスイスにかけてと、ヨーロッパ東南部に隔離分布するようだ。アルプスでは、標高1,200～2,800 m地帯の日当たりの良い草地や雑木林の林縁などに生え、草丈は5～20 cm。２枚ある広線形の根生葉は中空で、断面は半円形だ。花茎の先に長い花柄のある黄色い６弁花を1～3個つけ、花柄の付け根には大きくて先の尖った苞葉が２枚ある。花は径1.5～3 cmで、花被片は先の尖った披針形。雄しべは６本で黄色く、葯も黄色だ。日本にあるキバナノアマナより花被片は細長く、花も少し大きい。一株につく花数も少ないし、こちらの方がキバナノアマナより雰囲気が良くて、より魅力的である。ちなみに、*G. fragifera*は本種の一変種とする説や、本種は*G. fragifera*のシノニムとする説（その逆もあり）などがあり、よく分からない。◇2012.06.17 Izard Pass, French Alps, France

シノニム：　*Gagea fragifera*

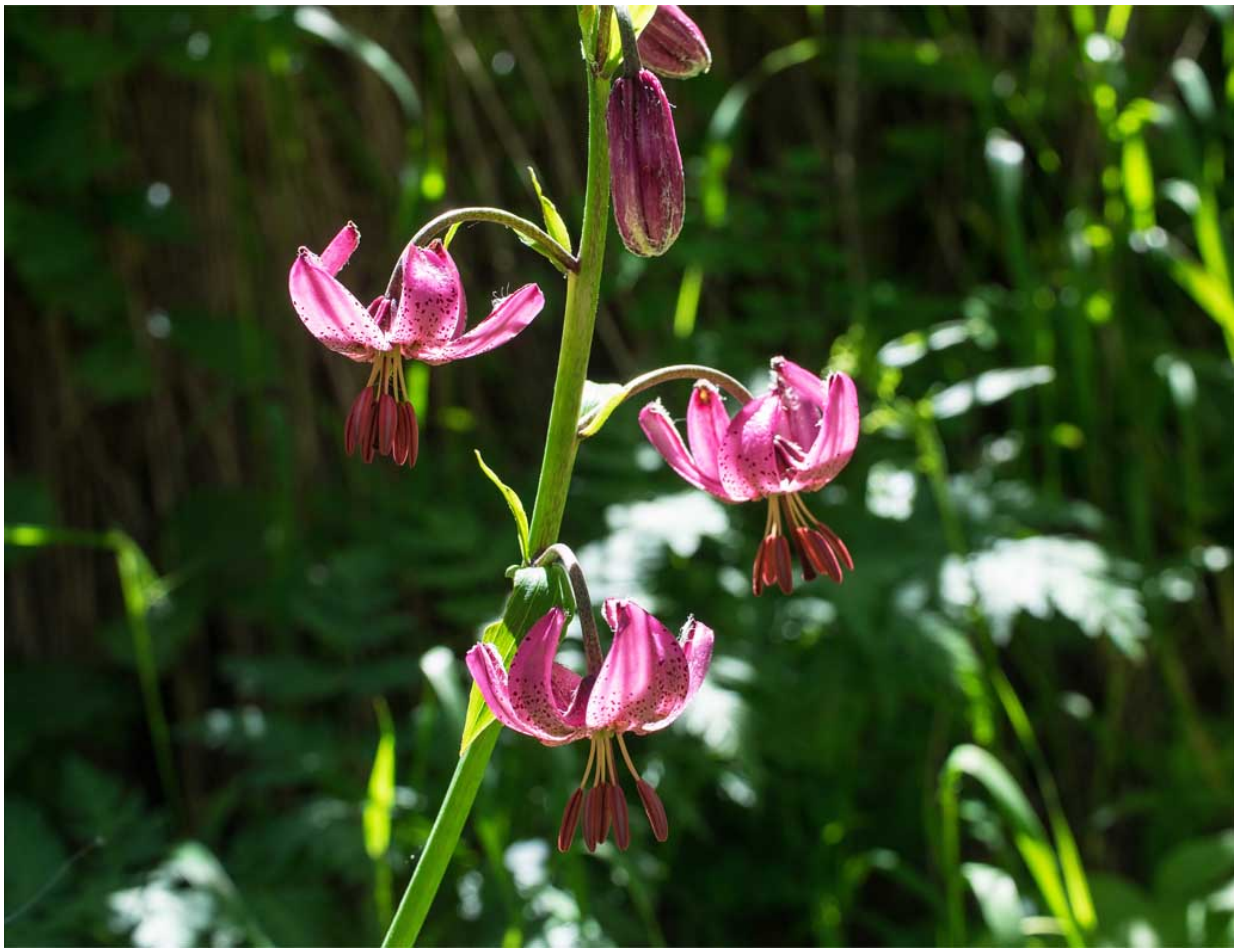
Liliaceae　　*Lilium bulbiferum*

ユリ科　ユリ属　英語名 : Orange Lily

国内に自生する近縁の種 : エゾスカシユリ、スカシユリ、ヒメユリ、

スペインからウクライナやフィンランドまでの、ヨーロッパの広域に分布する綿毛の多い多年草で、草丈は20〜80 cm。アルプスでは標高2,400 mまでの林内、草地、岩礫地に生える。直立する茎に互生する葉は狭披針形で、葉腋に黒色のむかごをつける。茎頂に1〜5個の大きな花を上向きに咲かせるが、花には鮮やかな赤橙色の花被片が６枚あり、径は4〜8cm 。花被片の表面には黒い斑点と突起した腺毛があり、基部は急に細まって、隣の花被片との間に隙間がある。本種は北海道にあるエゾスカシユリとよく似ているが、むかごを付ける点が違っている。ところで、オニユリとコオニユリの関係と同様に、アルプスの西部と中部には、これとよく似てむかごのない変種 *L. bulbiferum* var. *croceum*が自生する。日本ではむかごのある無しで種を分けるのに、ヨーロッパでは変種レベルの扱いとは、ちょっと意外だ。
Geranium rivulare (P. 225)のケースとは反対で面白い。◇2015.07.02 Arraba近郊, Alpi Dolomitiche, Italy

Liliaceae　　*Lilium martagon*



ユリ科　ユリ属　英語名：Martagon Lily, Turk's Cap Lily

国内に自生する近縁の種：クルマユリ、コオニユリ

フランス東部からモンゴルまで、ユーラシア大陸の寒冷な温帯域に分布する多年草で、いくつかの亜種に分けられている。アルプスでは標高2,800 mまでの草地や明るい林内に生え、草丈は30～120 cm。茎は直立して、最大長16 cmの楕円形～倒披針形の葉が、輪生～互生する。葉には光沢があり、緑色の地に紫色や赤色の斑があって、裏面には毛が生える。茎頂に最大50個までの花をつけ、花は下向きに咲く。花は径3～6 cmで、６枚の花被片は上方に反り返る。花色は紅紫色の地に暗色の斑点があるのが基本だが、殆ど白色のものから黒色に近いものまで、変異幅が極めて大きい。６本の雄しべは下方に向かって放射状に突き出し、葯は暗赤色から紫色。ドロミテ山塊で見た花は、下部の花は綺麗に開花しているのに、上部の蕾は変形して萎れているものが多くて気になっていた。今年スイスアルプスで出会った株にも多少その傾向はあったが、全ての花が綺麗に咲いているものも多くて安心した。

◇2016.07.19 Zermatt近郊, Wallis, Switzerland

Liliaceae

Lilium philadelphicum

ユリ科　ユリ属　英語名：Wood Lily, Philadelphia Lily, Prairie Lily

国内に自生する近縁の種：エゾスカシユリ、クルマユリ、ヤマユリ

米国の西部を除く北米大陸に広く分布する多年草で、草地や林縁、道路脇などに生え、草丈は30〜90 cm。茎は直立し、先の尖った披針形の葉が輪生する。本種は分布域が広いだけに、いくつかの地域的な亜種や変種が知られている。写真に示すものは、下部の葉が輪生しないでバラバラに付いているので、北米大陸西部の変種(var. *andinum*)の可能性が高い。この種は、茎頂に1〜5個の花を上向きに咲かせる。６枚の花被片は同じ株内では同形だが、株間ではその形が大きく異なる。花被片の基部が柄のように細まって、スカシユリのように間が透けて見えるのが普通だが、幅の変わらない細長い花被片を持つ花もあるようだ。花色も、橙色から殆ど赤色といえるものまで変異があり、花被片基部にある紫褐色の斑点も、大きさと付き方に変異がある。写真の個体では花被片の先が尖っており、エゾスカシユリとの違いを感じたが、尖らない花も見かけた。◇2009.07.13 Kootenay National Park, Canada

Liliaceae

Lloydea serotina
チシマアマナ

ユリ科　チシマアマナ属　英語名：Snowdon Lily, Common Alplily

国内に自生する近縁の種：ホソバノアマナ

チシマアマナは北半球の北極圏と高山帯に広く分布する多年草で、北米西部ではアラスカからニューメキシコにかけて、ヨーロッパではアルプス、カルパチア山脈、英国に自生する。アジアでも、シベリアから日本まで広く分布する。アルプスでは標高1,800～3,000 m地帯の岩礫地や背の低い草地に生え、草丈は5～15 cm。根生葉は長さ9～20 cmの線形で2枚ある。茎葉は狭披針形で2～4枚あり、長さは1～3cm。茎先に通常１個まれに２個の花をつけ、花には6枚の白い花被片があって、上向きのロート状に開く。花は長さ8～14 mmで、花被片の両面には赤褐色の筋が顕著である。ネット上ではLloydea属の種は全てGagea属に改変されたとする情報があるが、それを受け入れていない資料も多い。「日本維管束植物目録」でも本種をチシマアマナ属としており、キバナノアマナ属には編入していないので、ここではそれに従った。◇2016.07.16　Rotenboden, Wallis, Switzerland

シノニム：*Gagea serotina*

Linaceae　　*Linum perenne*

アマ科　アマ属　英語名：Perennial Flax

国内に自生する近縁の種：マツバニンジン

これは、ヨーロッパ原産の多年草で特にアルプスに多く、標高1,700 mまでの乾いた草地に生え、草丈は30～60 cm。葉は長さ1～2.5 cmの線形～狭披針形で１脈があり、茎には螺旋状に互生する。花は分岐した枝に散房状につき、径2～2.5 cmの淡青色の５弁花である。花弁は広卵形でややうねって先が少し凹むことも多く、基部は赤紫色を帯びて、暗色の筋がある。実に美しい花だが、午後には花弁が落ちてしまう１日花だ。しかし、一株につく蕾の数が多いので、群落はいつも多くの花で賑わっている。茎は細いがとても丈夫で、簡単に引きちぎることは出来ない。かっては茎から採れた繊維がロープに使われ、現在でも麻布の材料となるリンネンを作るアマ（*Linum usitatissimum*）の仲間なので、その丈夫さは、当然といえば当然ではある。ちなみにアマは野生種*L. bienne*から作られた栽培種で、一年草だという。

◇2012.06.16　Brianson近郊, French Alps, France

Melanthiaceae　　*Anticlea elegans*

シュロソウ科　リシリソウ属　英語名: Mountain Death-Camas, Elegant Camas
国内に自生する近縁の種: リシリソウ

米国南部とニューイングランドを除く北米大陸に広く分布する多年草で、多様な環境に対応して生え、草丈は15～90 cm。葉は殆どが根生し、長さ10～30 cmの線形。縁には鋸歯はなくて、裏面の中央に稜があり、表面にはかすかな平行脈がある。茎葉はごく少数で小さく、長軸に沿って折りたたまれる。通常は長さ30 cmまでの分岐した円錐花序をだし、最大50個までの花をつけるが、直立した茎先に単純な総状花序を出すこともある。花柄の先につく花は乳白色の６弁花で、花弁の基部には緑色の腺体が２個あり、花の中心を取り巻く環となる。花の中心にある雌しべは円錐形で先が３裂し、それを外側に彎曲した６本の雄しべが取り囲む。これは、北海道にあるリシリソウそっくりの味わいのある花で、花数も多いので実に魅力的な植物である。しかし、英語名で分かるように、これは強い毒を持つ毒草なので、トリカブト同様に「取扱注意」である。◇2009.07.17 Maligne Lake Rd., Jasper National Park, Canada

Melanthiaceae *Paris quadrifolia*

シュロソウ科　ツクバネソウ属　英語名：Herb Paris

国内に自生する近縁の種：クルマバツクバネソウ、ツクバネソウ

ヨーロッパと西アジアに分布する多年草で、湿った林内に生え、草丈は10〜30 cm。先の尖った楕円形の葉が通常４枚（〜６枚まである）つき、直立する長い花柄の先に、緑色の萼片４枚と雄しべ８本からなる花を見れば、これがツクバネソウの仲間であることは直ぐ分かる。しかし、日本で見慣れたツクバネソウにそっくりなのだが、何か違和感がある。よく観察したら、葉はツクバネソウで、花はクルマバツクバネソウそっくりではないか。４枚の狭披針形の萼、糸状に細い４個の緑色の花弁、黒い子房、８本の長い雄しべ、を組み合わせたこの花は、まさにクルマバツクバネソウの花そのもので、何とも面白い。さらに、日本のクルマバツクバネソウにも６枚の葉を持つ個体はあるので、本種の６枚の葉がある個体と比べたら、一体どこが違うのだろうと思ってしまう。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, French Alps, France

Melanthiaceae　　*Stenanthium occidentalis*

シュロソウ科　△属　英語名: Bronze Bells, Mission Bells, Western Feather-Bells
国内に自生する近縁の種: なし

カナダ南西部と米国西部に分布する多年草で、湿り気のある多様な環境に対応し、草丈は30〜60 cm。葉は2〜3枚あって根生し、長さ22〜30 cmの線状倒披針形で、葉柄がある。毛のない直立した茎先に、3〜25個の花をつけた総状花序をだし、長い花柄の先に１個ずつの花を下垂する。花は黄緑色〜褐赤色で、長さ10〜20 mmの細い筒型。花冠は浅く６裂し、裂片の先は反り返る。この花は、バンフ近郊のトレッキングルートで沢山見かけたが、何の仲間なのか私には全く見当がつかなかった。結局、このルート以外では再び見ることはなかったが、帰って調べたら、北緯52度以南のロッキー山系に自生するとのことなので、この写真の撮影地は分布の北限に当たるようだ。シュロソウ科には有毒植物が多いが、これにもかなり強い毒があるらしい。◇2009.07.12　C Level Cirque Trail, Banff National Park, Canada

Melanthiaceae　　*Trillium cernuum*

シュロソウ科　エンレイソウ属　英語名 : Nodding Trillium

国内に自生する近縁の種:　オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウ

北米大陸の北東部に分布する多年草で、広葉樹林や針葉樹林の湿った林下に生え、草丈は15～60 cm。３枚ある葉は茎頂に輪生し、長さ4～15 cm、幅6～18cmの楕円形～菱形で、先は鋭く尖る。茎頂から長さ0.5～3.5 cmの花柄を下向きに伸ばし、その先に白い花を１個下向きに咲かせる。花が葉よりも下で葉に隠れるように咲くので、花が上向きに咲く日本のエンレイソウ類とは、随分感じが違う。本種の緑色の萼片は長さ9～30 mm。３枚の白い花弁は長さ15～25 mmの楕円形で先が尖り、上方に強く彎曲する。葯はピンク色だ。北米東部では、これと似た花をつけるエンレイソウとして、Bent trillium (*T. flexipes*)という種もある。こちらの方は、１）葉がより幅広、２）花弁が反り返らない、３）葯が黄色、という違いがあり、本種との見分けは容易だ。とにかくこのエンレイソウは暗い林下に生え、恐ろしいほどの蚊の大群を覚悟しないと撮影出来なかった。◇2013.06.15 Hayes Lake State Park, Minnesota, USA

Melanthiaceae

Trillium erectum

シュロソウ科　エンレシソウ属　英語名：Red Trillium, Purple Trillium, Wake-Robin
国内に自生する近縁の種：エンレイソウ、オオバナノエンレイソウ

これは北米大陸の東部と北東部に分布する多年草で、広葉樹の湿った林下に生え、草丈は20～60 cm。葉は長さは4～8 cmの幅の広い菱形で先が尖り、３枚が茎頂に輪生する。花は茎頂から出る花柄の先に１個つき、上向きまたは横向に咲く。３枚の花弁は通常紫がかった暗褐色だが、暗赤色や白色の花もあるという。全体の草姿は、北海道にあるオオバナノエンレイソウそっくりで、花弁が白ではなくて帯紫褐色なのが最大の相違点だが、横向に咲く花もある点でも違いがある。オオバナノエンレイソウと同様に、この花も大きく、径3～8 cmだというが、私は6 cm以上もある大きな花は見たことがないと思う。◇1986.04.23　Palisades, New.Jersy, USA

Melanthiaceae　　*Trillium ovatum*

シュロソウ科　エンレシソウ属　英語名：Pacific Trillium, Western White Trillium
国内に自生する近縁の種：オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウなど

これは北米大陸西部に分布する多年草で、標高2,000 mまでの混交林、針葉樹林の林下に生え、草丈は10〜45 cm。茎頂に３枚輪生する葉は、先の尖った広卵形で艶があり、長さは5〜20 cmと変異の幅が大きい。上向きに咲く花は、狭楕円形〜楕円形で先の尖った３枚の花弁と、先の尖った披針形の萼片３個からなる。この花もサイズ変化が大きく、花弁は長さ1.3〜7.5 cmだとのことだが、私は長さ7 cmもある大きな花弁は見たことがない。どうやら、特に大きな花をつける個体は、カリフォルニア州北西部に自生するらしい。花色は白色で、時間の経過と共にピンク色や紅赤色に変わるという。この花色変化は日本のオオバナノエンレイソウにも一部共通するが、花弁の形と大きさの変異が極めて大きい点でも、両者には共通点がある。
◇1987.04.09 Palo Alto, California, USA

Melanthiaceae　　*Veratrum album*

シュロソウ科　シュロソウ属　英語名：False Helleborine, White Hellebore

国内に自生する近縁の種：バイケイソウ、コバイケイソウ、ホソバシュロソウ

英国を除くヨーロッパ全域と西アジアに分布する多年草で、アルプスでは標高2,700 mまでの草地や林内の空き地に生える。茎は直立して草丈は50～175 cmになり、縦じわのある広卵形の葉が互生する。葉の裏面には綿毛が密生し、基部は鞘状となる。茎の上部に枝のある穂状花序をだし、径12～15 mmの星状花を多数つける。6枚の花被片は内側が白色で外側は淡緑色、または全体が白味を帯びた淡緑色で、緑色の条線がある。これは日本のバイケイソウによく似た植物で、こちらの方も強い毒を持つ。花はコバイケイソウほど白くはないが、バイケイソウよりは白味が強いという所。ちなみに、花被片が緑色のものは亜種 (subsp. *lobelianum*)として扱われているが、こちらの方はバイケイソウそっくりというべきだろう。

◇2016.07.15　Wengernalp, Berner Oberland, Switzerland

Montiaceae　　*Claytonia lanceolata*

ヌマハコベ科　ハルヒメソウ属　英語名: Western Spring Beauty, Indian Potato
国内に自生する近縁の種: なし

北米大陸西部の丘陵地から高山の斜面にまで分布する多年草で、標高500～3,000 m地帯の湿った草地や斜面、林の中などに生え、草丈は5～20 cm。根生葉はないか1～2枚つき、最大長15 cmまでの倒披針形だが、幅は2～15 mmと変化が極端に激しい。茎葉は直立した茎に２枚対生し、肉厚の卵形～狭披針形で、長さは1.5～6 cm.。茎頂に総状花序をだし、花柄のある3～20個の花を上向きに咲かせる。花柄は長さ1～5 cmと変化に富む。花は径15～20 mmで、５枚の花弁は皿形に大きく開く。白色～ピンク色の花弁には赤紫色の筋があり、基部には黄色い斑がある。これは、日本には似たもののない美しいワイルドフラワーで、インディアンはこの植物の根茎を食用にしたり、家畜の飼料として利用したという。◇2013.06.11 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Nymphaeaceae　　*Nuphar lutea* subsp. *polysepala*

スイレン科　コウホネ属　英語名：Rocky Mountain Pond-Lily

国内に自生する近縁の種：オゼコウホネ、コウホネ、ヒメコウホネ

北米にあるコウホネ属は*N. lutea* 1 種だけで、いくつもある地域タイプはその亜種と考える研究者と、これらを独立した種と見なす研究者があるという。ここでは亜種とする見解に従っている。この亜種は北米大陸西部に分布し、大部分の葉は水面に浮くが、少数の葉は水面より上に出る。葉は長さ10～40 cmの楕円状心形で、基部の切れ込みは日本のコウホネ類とは少し違う感じがする。花はネムロコウホネより大きくて、黄色い花弁状萼片は９個あり、萼片が５個のネムロコウホネとは大分違った雰囲気である。この亜種の外側の萼片は緑色を帯びて、内側の萼片より小さい。内側の萼片は鮮黄色で、長さ3.5～6 cmの卵形。花弁は小さな披針形で、カップ状に纏まった萼片の内側に10～20個ある。この写真の個体では葉の表面は平滑だが、ネットで見ると皺の顕著な葉も多く見かける。◇2009.07.13　Rt.95沿道、British Columbia, Canada

Onagraceae

Chamerion angustifolium
ヤナギラン

アカバナ科　ヤナギラン属　英語名: Fireweed
国内に自生する近縁の種: ヒメヤナギラン

これは、日本にもあるヤナギランそのものであり、北半球の温帯と寒冷な針葉樹林帯の大部分に分布する。草丈は0.5～1.5 mで、直立して分岐しない茎は、上部に短い剛毛がある。茎葉は沢山あって互生し、長さ5～20 cmの披針形で短い葉柄がある。茎頂に長い穂状花序をだし、花と苞葉を密につける。花は茎を取り巻くように横向につき、濃いピンク色～淡赤紫色の花弁は４枚で、先は丸くて長さは2～2.5 cm。花弁の間に配置される線形の萼片は、色の濃い赤紫色で、長さは花弁の半分ほど。これは、長野県の高原や北海道では普通に見られる花であるが、アラスカの大群落は、それとは比較にならない規模であることはよく知られている。スカンジナビアでも、郊外の大群落はもとより、街中の空き地にも結構な数で咲いていた。しかし、カナディアンロッキーでは、ヒメヤナギランは多かったが、こちらの方はかなり少なく意外であった。ところで、本種の茎は分岐しないはずなのに、クートニー国立公園内の国道脇で、何本にも枝分かれした大きな株を見た。一種の奇形なのか未だに分からないでいる。◇2009.07.15　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Onagraceae

Chamerion latifolium
ヒメヤナギラン

アカバナ科　ヤナギラン属　英語名：River Beauty, Broad-Leaved Willowherb
国内に自生する近縁の種：ヤナギラン

これは、周極分布をする多年草で、北半球の北極圏と亜極圏に広く分布する。日本では、南アルプスの北岳に少数の株が自生する。カナディアンロッキーでは、バンフ周辺ではあまり見なかったが、バンフ国立公園北部からジャスパー国立公園にかけて、ハイウエー沿いの河原に大群落が続いていた。葉は形と大きさの変化が大きく、長さは1〜10 cmの披針形〜楕円形で、先は尖ったり丸かったり、毛が生えていることもあれば、蠟質で無毛のこともある。茎頂にでる総状花序には荒い毛があり、花は鮮やかなピンク色から濃いピンク色まで。花弁は最大長が3 cmくらい。４枚ある花弁の後ろには先の尖った濃いピンク色の萼があり、正面から見ると、花弁の間から花弁より少し短い萼が見える。驚いたことに、この植物は全体が食べられるという。味はほうれん草のようだとのことだ。◇2009.07.17 Icefield Parkway, Jasper National Park, Canada

Onagraceae　　*Epilobium alpestre*

アカバナ科　アカバナ属　英語名: Whorled-Leaved Willowherb

国内に自生する近縁の種: アカバナ、ミヤマアカバナ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈の標高1,300〜2,400 m地帯で、岩れき地、草地、明るい疎林などに生える毛のある多年草で、草丈は30〜80 cm。茎葉は長さ3〜10 cmの披針形で細かい鋸歯があり、3〜4枚が集まって何段にも輪生する。花は茎頂に数個集まって咲き、長さ6〜12 mmの鮮やかなピンク色の花弁が4枚大きく開く。花弁の先端部は濃いピンク色で浅く切れ込み、花弁全体に同色の縦筋が何本も入る。この花の構造は次ページの*Epilobium hirsutum*と共通するが、ヨーロッパには鮮やかな色彩の大きな花をつけるアカバナ属が多い。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Onagraceae　　*Epilobium hirsutum*

アカバナ科　アカバナ属　英語名 : Greater Willowherb

国内に自生する近縁の種: アカバナ、ミヤマアカバナ

スエーデン南部以南のヨーロッパ、北アフリカ、アジアの一部に分布する多年草で、標高2,500 mまでの湿地、窪地、川の土手などに生え、草丈は2 mを越えることもある。丈夫な茎には毛が密生してよく分岐する。互生する葉には毛が密生し、長さ2〜12 cmの柄のない披針形で、鋭い鋸歯があって茎を抱く。枝先に散房花序をつけ、葉腋から紫紅色の花を咲かせるが、長い花柄の様に見えるのは子房で、これがそのまま細長い果実の鞘となる。花は径25 mmの４弁花で、長さ10〜16 mmの花弁の先には切れ込みがあり、基部は色が薄い。雌しべは白く、先が４裂して大きく開く。日本にも10種以上のアカバナ科植物が自生するが、どれも径1 cmにも満たない小さな花ばかりで、こんなに大きな花を咲かせる種はない。この美しい花が背の高い枝先に沢山咲くのだから、この花に出会って以来、アカバナに対するイメージが変わってしまった。◇2007.06.23 ボージュ山地、France

Onagraceae　　*Epilobium parviflorum*

アカバナ科　アカバナ属　英語名：Hoary Willowherb, Small-flower Hairy Willowherb
国内に自生する近縁の種：アカバナ、エゾアカバナ

ヨーロッパの殆ど全域、北アフリカ、インドから西のアジア、北米に広く分布する多年草で、標高1,400 mまでの湿地や湿った草地に生え、草丈は30〜80 cm。茎は直立し、全体に毛が生えるが、特に下半部には密生する。葉は互生し、鋸歯のある披針形で、長さは4〜10 cm。淡紅色〜淡紫色の花は径6〜7 mmで、先が浅く切れ込んだ４個の花弁、８個の雄しべ、先が４裂した１個の雌しべがある。種子は長さ3〜7 cmの鞘に入るが、写真には、花弁が落ちたばかりの緑色の子房が沢山写っている。前ページの*E. Hirsutum*とは違って、こちらの花は日本にあるアカバナ属とよく似た形と大きさで、特にどうということはないが、一株につく花の数は、この種の方が日本の同属より少し多いかな。◇2010.07.29　Bergen近郊, Norway

Onagraceae

Oenothera speciosa
ヒルザキツキミソウ

アカバナ科　マツヨイグサ属　英語名：Pink Evening Primrose, Showy Primrose
国内に自生する近縁の種：なし

米国の南半分とメキシコ北部にかけて分布する多年草で、岩がちの平原、疎林、草地などに生え、草丈は20～50 cm。線形～卵形と多様な形態をとる葉には葉柄がなく、最大長10 cmで互生し、縁には鋸歯があって表面は毛で被われる。上部の葉腋に皿形の花を１個つけるが、花は径4～5 cmの４弁花で大きく平開し、花弁の先は浅く切れ込む。花は咲き始めは白色だが、時間の経過と共に薄ピンク色に変わる。花の中心部と、８本ある雄しべ、葯は黄色い。雌しべは先が４裂する。この仲間の多くは、夜明け前に開花して日が当たると花を閉じる。本種は、昼に花が咲くので日本国内でもよく庭に植えられており、逸出したものが各地で野生化しているらしい。しかし、テキサスの原野で見た野生株は、低い草丈に大きな花を沢山つけ、庭で見るのとは違って魅力的であった。◇1996.05.13　College Station, Texas, USA

Orchidaceae　　*Anacamptis pyramidalis*

ラン科　△属　　英語名: Common Pyramidal Orchid
国内に自生する近縁の種:

これは、ヨーロッパ西部から地中海沿岸域を経てイランまで分布する多年性のランで、草丈は10～25 cm（最大60 cm）。海岸から高山帯までに自生するが、アルプスでは、標高2,900 mまでの石灰岩地帯の草地に生える。根生葉は線状披針形で平行脈があり、長さは最大25 cmほど。花茎には鱗片葉があるが目立たない。種名が表すように、咲き始めの花序はピラミッド形だが、その後成長して円筒状になる。花序につく花の数は50～100の範囲で、花色はピンクから紫色まで変異がある。唇弁は３裂し、側花弁は萼片と一緒に兜状となる。距は長さ1.5 cmほどで細長く後ろに突き出し、下方に少し彎曲する。花には狐くさい臭いがあるといわれる。美しいランだが、地中海沿岸では最も普通に見られるランだとか。◇2000.06.12　Grenoble近郊, France

Orchidaceae

Calypso bulbosa var. *occidentalis*

ヒメホテイランの変種

ラン科　ホテイラン属　　英語名： Fairy Slipper, Venus's Slipper

国内に自生する近縁の種: ホテイラン、ヒメホテイラン

これは、種レベルでは周極分布をする多年性のランで、北米大陸とユーラシア大陸北部に広く分布する。この変種は、北米大陸西部に固有で、アラスカからカリフォルニア州にかけての針葉樹林下に生え、草丈は10～14 cm。暗緑色で楕円形の葉が１枚根元に付き、長さは2.5～6 cmで平行脈が目立つ。紫色の花茎の先に１個の花を付け、３個の萼片と側花弁は赤紫色～紫色の披針形～線状披針形で、長さ1～2 cm、幅2.5～5 mmで、大きく開いて展開する。唇弁は長さ1.5～2.5 cmの袋状で、白味を帯びたピンク色。基部には暗赤紫色の線状斑紋があり、開口部周辺には３列の黄色毛がはえる。これは１属１種の植物で、日本固有とされる変種ホテイラン（中国にもあるとする説あり）を含めて４つの変種と１つの自然交雑種が識別されている。本変種とは分布域が重なるvar. *americana*は、唇弁先端部に暗赤色の斑紋が多いので、ここに示すのはvar. *occidentalis*と思われる。ちなみに、基準変種のヒメホテイランは、北欧からロシアを経て朝鮮半島と日本にまで分布するが、北米大陸には分布しない。◇2013.06.11 Healy Creek, Banff National Park, Canada

Orchidaceae　　*Cephalanthera rubra*

ラン科　キンラン属　　英語名 : Red Helleborine

国内に自生する近縁の種: キンラン、ギンラン、ササバギンラン

ヨーロッパ、北アフリカと南西アジアに分布する多年性のランで、石灰質土壌の林の中に生えるが特に樫の林に多く、草丈は20～60 cmほどになる。 アルプスでは、標高1,800 mまでの疎林や雑木林に自生する。茎は細くて紫色を帯び、上部には腺毛が生える。茎葉は暗緑色で2～6枚が互生し、長さ5～10 cmの披針形で質は薄い。茎葉の幅は上位のものほど狭くなり、花柄の付け根には鱗片状の苞葉がつく。茎先に長さ6～15 cmの穂状花序をだし、3～10個の赤色～紫色の花をまばらにつける。花は径2～4 cmで頂萼片と側花弁は短くて先が尖り、上部に集まって満開時には開く。側萼片は鳥の翼のような形で大きく、先が尖って大きく開く。唇弁は細長く中央部に白色の斑紋がある。これは、日本にあるキンランやギンランと同属であるが、花色が違うこともあり、図鑑で調べるまで思いつかなかった。花の形はキンランとはほど遠いが、ギンランには少しだけ似たところがある。

◇2004.06.10　Provance, France

Orchidaceae　　*Corallorhiza striata*

ラン科　△属　英語名：Striped Coralroot, Hooded Coralroot

国内に自生する近縁の種：なし

これは、カナダ、米国北部と西部、メキシコに分布する菌寄生植物で、林下や渓流沿いに生えて、草丈は10～60 cm。この属に共通の性質として植物体に葉緑素はなく、地下の菌に寄生する。茎は直立して葉はなく、赤褐色、紫色、黄緑色、白色と多様性に富む。茎上部に総状花序をだし、最大で35個の花をつける。萼片と花弁はよく似ており、長さは4～17mm、淡紅黄色～褐色で暗赤色～紫色の縦筋がある。唇弁は長さ4～16 mmの浅い舟形となり、暗赤色または紫色で、基部は白色～黄色である。唇弁に距はない。このランは暗い所に生えて余り目立たないが、花をよく見ると、花弁と萼片共通で外側に縦のストライプが明瞭に走っており、暗赤色の唇弁との組み合わせはなかなか洒落ている。

◇2013.06.10 Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Orchidaceae　　*Corallorhiza trifida*

ラン科　△属　　英語名： Yellow Coralroot, Early Coralroot, Northern Coralroot
国内に自生する近縁の種: なし

北米大陸とユーラシア大陸で周極分布をする草丈8～35 cmの多年草で、ユーラシアではヨーロッパ全域とロシアを始め、中国、朝鮮半島、ヒマラヤ山系などに広く分布する。これは、半菌寄生性のランなので多少の葉緑素は持っているが、茎に葉はなくて多少の苞があるだけ。茎頂に総状花序をだして5～20個の花をつけ、花の下には披針形の苞がつく。萼片は長さ3～6 mmの線状披針形で黄緑～緑色だが、時折紫色を帯びることがある。花弁は萼片と似ており、側花弁は頂萼片と一緒に兜状となる。唇弁は長さ2.5～4 mmの倒卵形～楕円形で３裂し、縁は波打つ。中裂片の基部には２本の肉質隆起がある。側裂片は小さくて先が尖り、白色の地に暗紫色の斑点がある。米国のネット情報では本種は日本にもあるというが、日本の図鑑には載っていないし、「日本維管束植物目録」にも記載がない。サカネラン属(*Neottia*)に区分されていないか調べたが、そうはなっていないようだ。◇2013.06.12
Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

Orchidaceae　　*Cypripedium parviflorum* var. *makasin*

ラン科　アツモリソウ属　英語名: Small Yellow Lady-Slipper

国内に自生する近縁の種: アツモリソウ、キバナアツモリソウ、クマガイソウ

これは、以前はカラフトアツモリソウ(*C. calceolus*)と同じ種とされていたこともあったが、今は北米大陸に固有な別種とされている。湿った所を好む落葉性の多年草で、変種 *pubescence*（次ページ）よりは小型で草丈は15～30 cm。茎には微毛があり、長さ3～10 cmの披針形の葉3～4枚が互生して、葉にも微毛がある。茎先に１個（まれに２個）の花をつけ、花は最大幅が4.5 cmで苞葉が1枚ある。背萼片は長さ2～4 cmで立ち上がり、縁が波打つことが多い。側花弁は長さ3～5 cmで幅は1 cm以下、やや下がり気味に付き2～4回のひねりが入る。レモンイエローの唇弁は卵形～楕円体で上部に開口部があり、通常の長さは3 cmほどだがもっと小さいものも多い。唇弁には赤レンガ色の斑点があることが多く、特に開口部周辺で顕著である。背萼片と側花弁は黄緑色基調だが、暗紫褐色の斑点の数によって茶色～暗褐色に見えるものもある。本変種には芳香があり、その香りは変種 *pubescence*より強い。本変種は北米大陸の北方に多く、その分布範囲はニューイングランド北部からワシントン州西部を結ぶ線より北である。一方、変種 *pubescence*の方は、それより南方から東方にかけて分布の中心がある。◇2013.06.12　Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

Orchidaceae　　*Cypripedium parviflorum* var. *pubescens*

ラン科　アツモリソウ属　　英語名：Large Yellow Lady-Slipper, Mocassin Flower

国内に自生する近縁の種：アツモリソウ、キバナアツモリソウ、クマガイソウ

林下や湿原に生える多年性のランで、北米大陸の広範囲に分布し、草丈は70～100 cm。カリフォルニアとフロリダにはないらしい。茎は普通分岐せず、断面は丸くて密生した毛に被われる。葉は3～6枚が互生し、長さ6～20 cmの楕円形～長楕円形で毛に被われ、深い平行脈が目立つ。茎は葉よりも高く伸び、茎頂に1～2個の花をつけ、花の後ろに苞葉が１枚ある。背萼片は卵状披針形で長さは20～80 mmで幅7～40 mm、下萼片は癒着して唇弁の後ろで下垂する。側花弁は緑黄色～褐紫色の線状披針形で螺旋状に巻くことが多く、長さは25～100 mmで幅3～12 mm。側花弁は水平または下向きにつき、基部から先端まで走る細かい脈がある。唇弁は鮮やかな淡～濃黄色で赤い斑点があり、長さは1.5～5 cm。花は開花してから３週間後にしおれる。これを独立した種*C. pubescens*と考える研究者も多いという。また、基準変種(var. *paviflorum*)はネブラスカ州からバージニア、ニューハンプシャー州以南に分布し、唇弁の長さは1.5～3 cm。この基準変種をSmall yellow Lady's-slipperと呼ぶ人がいて、分布域の異なるvar. *makasin*との関係が混乱する。また、本種をユーラシアに広く分布するカラフトアツモリソウ(*C. claceolus*)の北米亜種と考える研究者もいる。◇2013.06.15　Hayes Lake State Park, Minnesota, USA

Orchidaceae

Cypripedium reginae

ラン科　アツモリソウ属　英語名: Showy Lady's Slipper, Queen's Lady's Slipper

国内に自生する近縁の種: アツモリソウ、キバナアツモリソウ、クマガイソウ

北米大陸に固有の多年性のランで、米国北東部とそれに隣接するカナダに分布し、主として湿地に生える。根生葉は長さ25 cmの楕円形で、基部は茎を抱く。草丈は1 m近くになるが、茎の高さは40～75cmで3～7枚の葉を互生し、茎葉は根生葉より小さい。葉は長楕円形でくぼんだ平行脈がり、茎と共に毛が密生する。条件がよいと、一つの株から50本もの花をつける茎が立ち上がる。幅10 cmに達する花は茎頂に1～3個つき苞葉がある。白い背萼片は卵形で先は丸く、長さは5 cmほどで、立ち上がり気味に付く。下萼片は背萼片と似た形だが少し小型で癒着して唇弁の後ろに隠れる。側花弁は白色で水平に展開し、最大長4.5 cmで幅2 cm以下である。袋状の唇弁は長さ3～5 cmで、白地に紫赤色の筋状斑紋があり、時には白地が見えないほど斑が卓越した花もある。2013年にミネソタ州北部へ自生の花を見に出かけたが、この年は開花が遅れており、あと数日で開花する蕾を沢山見ただけで終わってしまったのはまことに残念。

◇左図：2013.06.15 ミネソタ州北部, USA　　右図：2013.06.23 北大植物園（植栽）

Orchidaceae　　*Dactylorhiza cruenta*

ラン科　ハクサンチドリ属　英語名：Leopard Orchid, Flecked Marsh Orchid

国内に自生する近縁の種：ウズラバハクサンチドリ、アオチドリ

これは、頑丈な造りに斑点のある葉が特徴の多年性ランで、ヨーロッパからトルコにかけて分布し、湿った草地や湿地に生えて、草丈は15～35 cm。葉は披針形で根元が細まり、先端部は帽状に合わさる。葉と苞葉に褐紫色の斑点があり、苞葉は花より長い。茎の先端に沢山の花が密生した穂状花序を出し、花色はふつう濃い赤紫色で、表面には濃紫色のくねった筋模様がある。唇弁は長さ5～6 mmで浅く３裂する。ヨーロッパにはこれとよく似た*D. incarnata* という種があり、葉には斑点がないことと、唇弁の形が少し違うという特徴があるが、表題の種を*D. incarnata* の亜種と考える研究者も多いらしい。本種は、花色はハクサンチドリと似ており、羽ばたく羽のように開いた側花弁もよく似ているが、唇弁に斑点ではなくて、くねった筋模様がある点が異なる。◇2012.06.16　Briancon近郊, French Alps, France

シノニム：*D. incarnata* subsp. *hyphaematodes*

Orchidaceae　　*Dactylorhiza fuchsii*

ラン科　ハクサンチドリ属　英語名: Common Spotted Orchid

国内に自生する近縁の種: ハクサンチドリ、アオチドリ

これはユーラシア大陸北部に広く分布する多年性のランで、ヨーロッパ全域からシベリアまでに自生する。海岸から標高2.300mまでの林下や湿った草地、湿地などに生えて、草丈は15〜60 cm。草丈と同様に、花にも変異が大きい。葉は狭披針形で稜があり、暗色の斑点のあることが多い。花序は、咲き始めは三角錐状だが後に円柱状になる。苞葉は普通は花より短い。花色は白色〜淡紫色で暗紫色の斑点やくねった斑紋がある。唇弁は３裂し、本種とよく似た*D. maculata*（次ページ）よりも小型で切れ込みも浅い。その分布範囲の広さと個体数の多さから、本種にも６つの亜種が認められており、自然交雑したハイブリッドも多く報告されている。日本にはハクサンチドリ属は２種しかないが、ヨーロッパには７種以上はあるようだ。

◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Orchidaceae　　*Dactylorhiza maculata*

ラン科　ハクサンチドリ属　　英語名：Heath-Spotted Orchid

国内に自生する近縁の種：ハクサンチドリ、アオチドリ

ヨーロッパ全域の山地帯で、湿った草地や荒れ地に生える多年性のランで、草丈は15～60 cm。アフリカ北部と西シベリアにも分布するらしい。本種は、全体の形と花に変異が大きい。葉は3～10枚あって根生または茎の下部につき、長楕円形～披針形で先は丸く、暗緑色の地に暗褐色の斑紋がある。最下部の葉は明らかに他の葉より大きい。茎上部に20～70個の花が集まって長さ5～15 cmの穂状花序を作り、始めは棍棒状だが後に円柱状になる。花は径1.5 cmほどで、花色は淡紅色～淡紫色だが白いものもある。唇弁は長さ7～11 mmで浅く３裂し、側裂片は中央裂片より大きく、全裂片に赤紫色の斑点とくねった筋模様がある。裂片の形態と筋模様は実に多様である。本種は分布範囲が広くて個体数も多いし、花に変異が多いので、10種類もの亜種が識別されている。◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Orchidaceae　　*Dactylorhiza majalis*

ラン科　ハクサンチドリ属　英語名：Broad-leaved Marsh Orchid
国内に自生する近縁の種：ハクサンチドリ、アオチドリ

ヨーロッパの比較的広い範囲に分布する多年草で、アルプスでは標高2,500 mまでの湿った草地や沼沢地に生え、草丈は15～50 cm（まれには70 cm）。茎は中空で直立し、広楕円形～披針形の葉3～8枚を互生する。葉は長さ6～18 cmで、上に向かって小さくなり、披針形に近づく。葉の表面には褐紫色の斑点が多数あることが多い。茎頂につく穂状花序は長さ4～15 cmあり、開花当初は円錐形で後に円筒形へと変化する。花序には7～50個の濃紫赤色の花がつき、背萼片と側花弁は集まって兜状となる。唇弁は長さ5～10 mm、幅7～14 mmで3裂し、裂片の形は変化に富む。唇弁の中央部は色が薄くて、濃色の線や筋、斑点などの模様があるが、その形態も多様である。距は子房より短く少し下向きに曲がる。本種については、湿地を好み、花色は極めて濃い赤紫のランというのが私の印象だ。◇2016.07.15 Wengernalp, Berner Oberland, Switzerland　シノニム：*Orchis majalis*

Orchidaceae

Dactylorhiza viridis
アオチドリ

ラン科　ハクサンチドリ属　英語名： Frog Orchid

国内に自生する近縁の種: ハクサンチドリ

これは、北海道でも普通に見られるアオチドリと同じものだというが、道内でいつも見る緑色の花とは色が大分違っている。こちらの方は、花と苞葉が淡い褐色を帯びた黄緑色である。本種は菌依存性植物で、生えている環境によって花の大きさと色合いが異なるという。フィンランド南部では緑色の大きな花をつけ、北部では草丈も花も小さく、花色は赤褐色だそうだ。それにしても、この地味な花が、華麗な花をつける種の多いハクサンチドリ属の一員とはね。唇弁の形もハクサンチドリとはかなり違っており、何となく納得が行かない感じだ。最近訪れたドロミテ山塊では、草地の至る所でこの花に出会った。ところで、ネット情報では*D. viride*が正式な学名で*D. viridis*はシノニムとするものがあるが、「日本維管束植物目録」ではアオチドリの学名は*D. viridis*とされている。◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

シノニム：*Coeloglossum viride*

オーストラリア、タスマニア島のラン

Diuris sulphurea
英語名 : Tiger Orchid

Lyperanthus suaveolens
英語名 : Brown Beaks

左図：オーストラリア南東部の海岸地帯とその近傍に分布する多年性のランで、日当たりの良い砂質土壌を好み、草丈は最大で50 cmほど。葉は1～3枚つき、長さ20～50 cmの線形。茎先に1～7個の花が集まって長さ3～6 cmの花序を作る。花は鮮黄色で幅3～4 cmほど、唇弁には暗褐色の斑紋がある。背萼片は長さ8～20 mmの楕円形で、２つの暗褐色の斑紋があり、斜めに立ち上がる。側萼片は線形～披針形で、長さ10～25 mm、幅1～3mmでゆがんでおり、平行に下垂するか交差する。側花弁は楕円形で柄があり、動物の耳のような形で斜めに立ち上がる。唇弁には暗褐色の明瞭な斑があり、中央に隆起した稜がある。◇1994.11.19 Freycinet 国立公園、タスマニア

右図：オーストラリア南東部に分布する多年性のランで、草丈は最大45 cmほど。線形の葉が１枚つき、長さ20 cmほど。茎の上部に芳香のある花が2～8個つき、緑黄色～褐色で径3 cmほど。背萼片は狭い兜状で、後ろに反り返った黄色い唇弁を被う。側萼片と側花弁は先の尖った暗紫色の線形で放射状に展開し、これに似たランはないので、見間違いの可能性はないという。ランチに招待された民家の、自然状態の林に繋がる裏庭に、パラパラとではあるが結構な数の株が自生していて、驚かされたものである。
◇1994.11.13　North Bruny Island、Tasmania, Australia

Orchidaceae *Galearis rotundifolia*

ラン科　カモメラン属　英語名：Round-Leaved Orchid

国内に自生する近縁の種: カモメラン

北米大陸を中心に分布する多年性のランで、カナダ全域と米国北部に加えてアラスカやグリーンランドにも分布する。湿地や湿った針葉樹林に生えて、草丈は10～25 cm。肉厚で艶のある楕円形の葉が1枚根元に付き、葉の長さは5～10 cmで幅は7～9 cm。１本の花茎を立ち上げて、上部に苞葉と5～15（最大18個）個の花を横向につける。花には白色～淡紅色の６枚の花被片があり、萼片は３個で長さ1 cmほど。２枚の側花弁は小さく、上萼片と集まって花の上部で兜状に纏まる。唇弁は長さ6～10 mmで３裂し、白色で赤紫色の細かい斑点がある。中央裂片は先が広がって浅く切れ込む。距は少し太めで下方に彎曲し、長さは5 mmほど。カモメラン属ということなので、日本のカモメランとは全体的な形が似ているが、花の数はカモメランの２個よりはるかに多い。また、唇弁に赤紫色の細かい斑点がある点では共通するが、その形はカモメランの広楕円形とは違って、コアニチドリやダイサギソウの唇弁と似ている。いずれにしても、カモメランに引けを取らない魅力的な小型のランである。

◇2013.06.12 Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

シノニム：*Amerorchis rotundifolia*

Orchidaceae

Gymnadenia conopsea
テガタチドリ

ラン科　テガタチドリ属　英語名：Fraglant Orchid
国内に自生する近縁の種：国内にはテガタチドリしかない

これは日本にもあるテガタチドリそのもので、北部ヨーロッパとヒマラヤ以北のアジアに広く分布する。アルプスでは、標高2.400 m以下の山地の草地、牧場、沼地などに生える多年性のランで、草丈は20～60 cm。円柱状の穂状花序には最大50個の花が集まり、花序の長さは5～25 cm。花は大きさ1 cmほどで、花色は通常ピンク色だが稀に白色の花がある。唇弁は長さよりも幅が広く、浅く３裂する。距は細長い。英語名が示すように、花には芳香がある。根からはデンプン様の粉がとれ、栄養価が高いのだそうだ。何となくボテーとした花に特徴があり、個々の花よりも花序全体の雰囲気が魅力的なランである。日本国内ではテガタチドリ属はこの１種しかないが、アルプスでは白い花をつけるものを加えて、他に2種ある。これは、立山や根室半島では比較的多く見られるランではあるが、他では群落をなすのは見たことがない。しかし、アルプスでは普通に見られるありふれたランである。
◇2012.06.16　Granon Pass, French Alps, France

Orchidaceae　　*Neotinea ustulata*

ラン科　△属　英語名：Burnt Orchid, Burnt-tip Orchid

国内に自生する近縁の種：なし

中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、標高2,400 mまでの主に石灰岩地帯の乾いた草地や、疎林に生える。草丈は10～50 cmで、5～10枚の広披針形の根生葉が立ち上がってつく。根生葉には明瞭な葉脈があり、斑がないのがふつうである。茎の上部には小さな鱗片状の葉がつく。茎頂につく穂状花序には最大で70個の花が集まり、開花当初は密に固まっているが、開花が進むと共にばらけた円筒形になる。蕾は暗赤色だが、開花すると、萼と側花弁の集まった兜は暗赤色で長さ3 mmほど。唇弁は白地に紫赤色の斑点があって３深裂し、中央裂片はさらに２裂して人型となる。この上下二段染め状態の色模様と、鮮やかな斑点のある人型の唇弁花との組み合わせで、小さいながらも他に類を見ない特徴的なランとなっている。 ◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

シノニム：*Orchis ustulata*

Orchidaceae　　*Neottia borealis*

ラン科　サカネラン属　英語名：Northern Twayblade

国内に自生する近縁の種：サカネラン、コフタバラン

これは北米大陸に固有のランで、カナダの大部分と米国西部の山岳地帯に分布し、草丈は5〜25 cmほど。標高の高いところの、湿った針葉樹林や混交林に生える。植物全体の造りはコフタバランそっくりで、茎の中程に長さ1〜5 cmで楕円〜卵状長楕円形の葉が２枚対生する。葉より下の茎は無毛だが、それより上には微毛がある。花は総状花序に8〜16個つき、緑色〜黄緑色で長さは10〜18 mm。萼片と側花弁は長さ4〜7 mmで反り返る。唇弁は矩形で中央が少し狭まり、先端は中程度に切れ込む。唇弁の長さは4〜7 mmで、基部に耳様の付属物が２個つき、縁は淡緑色〜白緑色。これは、分布範囲は広いが稀なランだという。写真は、Healy Creek Trailで１株だけ見つけた花だが、そんな稀なランに出会ったのだろうか？　本当ならラッキーだが、ちょっと信じがたい感じだ。◇2009.07.14　Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada　　シノニム：*Listera borealis*

Orchidaceae　　*Neottia ovata*

ラン科　サカネラン属　英語名： Eggleaf Twayblade, Common Twayblade
国内に自生する近縁の種: サカネラン、コフタバラン

東アジアを除くユーラシア大陸に広く分布する多年草で、シベリアやヒマラヤにもあるという。アルプスでは、標高2,100 mまでの樹林下、林内の空き地、草地などに生えて草丈は20～60 cm。根元近くの茎下部に、長さ5～20 cmの楕円形の葉が一対対生する。葉は緑色で艶はなく、たて皺が明瞭で、全縁の縁が上方に彎曲する。直立する茎の上半部に15～100個の小さな花がつき、間延びした穂状花序となる。花は全体が黄緑色で、萼片と側花弁が集まって長さ5～6 mmの開いた兜状となる。唇弁は長さ7～15 mmで下に突き出し、深く２裂して裂片の先は尖らない。裂片は余り開かず、切れ込みが深いので、唇弁全体が人の胴と脚のように見え、少し開き気味な側花弁が両手のようにも見える。目立たないランで花も小さいが、拡大してみるとなかなか面白い。◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland　　シノニム： *Listera ovata*

Orchidaceae　　*Nigritella nigra*

ラン科　ニグリテラ属　英語名：Black Vanilla Orchid
国内に自生する近縁の種：なし

これは中部～南部ヨーロッパに広く分布するランで、アルプスでは標高1,000～2,800 mの草地に生え、草丈は5～25 cm。根生葉は楕円形で鋸歯があり、茎葉は先の尖った狭披針形～線形で、垂直に近い形で茎につく。茎頂に円錐形の穂状花序をだし、多数の黒紫色の花を咲かせる。花弁と萼片は同色で全て斜開し、花弁の長さは7 mmほど。花の向きは普通のランとは逆で、唇弁が最上位にあって上向きらしい。ここに示す花は全体が黒紫色だが、ピンク色がかったものもあり、次ページの*N. rubra*と紛らわしい個体もある。このランの特徴は強い芳香（バニラ臭）があることで、放牧された牛は通常食べないが、間違って食べた時はバニラ臭のあるミルクを出すというから面白い。この花には、フレンチアルプスではお目にかからなかったが、ドロミテ山塊では*N. rubra*と混生する箇所があちこちにあり、*N. rubra*の方が優勢であった。スイスアルプスでも、ツェルマット周辺では数が多い。
◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Orchidaceae

Nigritella rubra

ラン科　ニグリテラ属　英語名 : Rosy Vanilla Orchid

国内に自生する近縁の種: なし

東部アルプスに固有のランで、標高1,500〜2,500 mの草地や湿原に生え、草丈は10〜30 cm。葉や花序の様子は前ページの*N. nigra*にそっくりだが、花は鮮やかな紅赤色で遠くからでもよく目立つ。花弁、唇弁、萼片は*N. nigra*より幅広で、花弁の長さも10 mmほどで少し長めだという。この写真でも見られるが、茎葉の隆起した中央脈と葉縁が紫褐色を帯びるのが目に付き、これは*N. nigra*でも共通してみられる特徴だ。また、上向きに立ち上がった唇弁の先端が黒赤色の兜状なので、花序の上部が黒っぽく見えて、最初のうちは*N. nigra*との区別に迷った。実際、これは最近まで*N. nigra*の亜種とされていた。英語名でも分かるように、この花にもバニラ臭があるが、*N. nigra*よりは弱い香りだという。私は*N. nigra*の香りは確かめたが、こちらの方は嗅いだことがない。 ◇2015.07.04 Falzarego Pass, Alpi Dolomitiche, Italy　シノニム : *Nigritella nigra* subsp. *rubra*

Orchidaceae　　*Orchis mascula*

ラン科　オルキス属　英語名 : Early Purple Orchid

国内に自生する近縁の種:　なし

ヨーロッパの草地や林縁に生える多年性のランで、アルプスでは標高2,600 mまでの草地や低木林に生え、草丈は20～60 cm。茎は直立し、下部が緑色で上部は紫色。根生葉は矩形～披針形で、淡緑色の地に褐紫色の斑点があることもある。茎の上部につく穂状花序は6～20個の花で構成され、長さは7.5～12.5 cm。花は長さ2.5 cmほどで、花色はピンクからすみれ色。側萼片は卵形～披針形で水平に展開するか立ち上がる。中央萼片と側花弁は小さく、一緒に兜を作って雌ずい群を被う。唇弁は幅6～10 mmで３裂し、基部は明色で紫褐色の斑点がある。苞葉は花と同色で幅2 mmしかなく、花の下につく。本種は下痢止めなどの薬効があるという。一見してハクサンチドリ属(*Dactylorhiza*)の種かと思うが、私の参考にしているヨーロッパの高山植物図鑑では両者を識別しており、ハクサンチドリ属の８種とオルキス属の12種をリストアップしている。また、オルキス属はヨーロッパと地中海沿岸域に分布する、と規定しているネット情報もある。◇2007.06.24　First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland　シノニム:*Dactylorhiza mascula*

Orchidaceae　　*Platanthera chlorantha*

ラン科　ツレサギソウ属　英語名 : Greater Butterfly Orchid

国内に自生する近縁の種：エゾチドリ、ツレサギソウ、ミズチドリ

ヨーロッパ全域とトルコ、北アフリカに分布する多年性のランで、標高1,800 mまでの広葉樹林下、雑木林、草地などで普通に見られて、草丈は25～60 cm。短い柄のある根生葉が２枚対生し、長さ8～12 cmの光沢のある広楕円形で全縁である。茎には1～3個の小さい線形の葉が互生し、上部では苞葉に変わる。茎先に帯緑白色で繊細な造りの花が最大20個ほど穂状につき、花はLesser butterfly orchid (*P. bifolia*)と違って殆ど香りがない。上萼片と側花弁が集まって兜状となり、花の中心部には離れて配置された花粉嚢がある（花のよく似た*P. bifolia*では近接した平行配列）。側萼片は水平に広がり、唇弁は細長くて先が分裂せず、長さは10～16 mm。細長い距は外側が淡緑色で先が尖り、まっすぐ伸びて長さは18～27 mm。日当たりの良くない斜面に生えていたせいか、写真の花は弱々しくて貧弱だが、図鑑やネットで見るともっとしっかりした造りの花もある。いずれにしても、この属はあまりさえない色の花を咲かせるが、ペロリと出した舌のような唇弁が面白い。◇2007.06.23　ボージュ山地、France

Orchidaceae　　*Platanthera dilatata* var. *dilatata*

ラン科　ツレサギソウ属　英語名：White Bog Orchid, Bog Candles

国内に自生する近縁の種：エゾチドリ、ツレサギソウ、ミズチドリ

米国南部を除く北米大陸に広く分布する多年性のランで個体数は多く、湿地や湿った草地に生えて、草丈は20～100 cmと変化に富む。花にはスパイスの香りがあるという。葉は肉厚で2～5枚あり、長さ5～25 cmの披針形～披針状楕円形で、茎の上部では線状披針形の苞葉に変わる。茎先に最大100個もの花が密に集まって穂状花序を形成する。全体が純白の花は幅2～3 cmで、披針形～楕円状披針形の側萼片は長さ4～8 mm。上萼片と側花弁は集まって兜状となる。線形～披針形の唇弁は基部では太いが先に向かって細くなり、長さは5～10 mmで先は尖らない。距の長さは唇弁と同程度である。本種には３つの変種があり、距の長さと形態で区分されている。この基準変種は距が細長く、花弁と同じ長さとされている。このランは、純白の花が密に多数咲くので見応えがある。ツレサギソウ属としては大変豪華なランとして評価できるだろう。◇2009.07.15　Icefield Parkway, Banff National park, Canada

Orchidaceae　　*Platanthera huronensis*

ラン科　ツレサギソウ属　英語名：Huron Green Orchid, Northern Green Bog Orchid
国内に自生する近縁の種：エゾチドリ、ツレサギソウ、ミズチドリ

北米大陸の東部と西部に隔離分布する多年性のランで、湿った草地や湿地、道路脇の窪地などに生え、草丈は10～100 cm。数枚付く茎葉は矩形～披針状線形で、長さは最大30 cmだが上方に向かって小型化し、茎の上部では苞葉のようになる。花は淡緑色～帯緑白色で、芳香があり、唇弁は他の花被片より白味が強い。上萼片と側花弁は集まって兜状となり、花弁状側萼片は長さ5～8 mmの楕円～披針形で、水平に広がって先端は後方に曲がる。唇弁は長さ5～12 mmで側萼片より細く、先端は尖らず分裂もしない。このランは群れて生えることが多いが、花は小さくて目立たないし、色も淡緑色なのであまり魅力的な花ではない。属は違うが、日本のシロウマチドリと共通点がある。しかし、全体の姿はスッキリとした、端正なランである。撮影地では国道脇の窪地に群がって生えていた。

◇2009.07.13　Kootenay National Park, Canada

Orchidaceae　　*Pseudoorchis albida*

ラン科　△属　英語名 : Small White Orchid

国内に自生する近縁の種: なし

フランスからカムチャッカ半島までのユーラシア北部、さらには、グリーンランドやカナダ東部まで分布する１属１種の多年草で、３つの亜種が識別されているが、ドロミテ山塊にあるのは基準亜種である。アルプスでは標高2,500 mまでの草地や牧草地に生え、草丈は10〜30 cm。葉は楕円形で上部のものは幅が狭い。茎頂に小さな花が密集した穂状花序を作る。花は帯緑白色で長さは3〜6 mm、唇弁は３裂して中央裂片は少し突き出る。これは、よくみると可愛い造りのランだがいかにも小さい。撮影地では他の小型ランを探していてこれを見つけたが、普通の歩き方では路端にあっても気がつかないだろう。本種は最近までテガタチドリ属に分類されていたが、最近独立した属として認められた。花の形と大きさはテガタチドリ属とはかなり違っている。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

シノニム： *Gymnadenia albida*

Orchidaceae　　*Traunsteinera globosa*

ラン科　△属　英語名：Round Headed Orchid

国内に自生する近縁の種：なし

スペインからウクライナとトルコまで、ヨーロッパの山岳地帯で広範囲に分布する多年性のランで、標高 700～2,100 mの乾性～湿った草地に自生する。高さが45～75 cmもある茎頂に、小型で球形の穂状花序をだすが、全体がひょろりと細長くて、他のランとは随分違う草姿である。根生葉はなく、5～8枚つく茎葉は披針形で互生する。花序には25～100個の小さなピンク色の花が密集し、花の大きさは径4～5 mmほど。上萼片と側花弁は兜状となる。唇弁には紫色の斑点があり、先は３裂して、距は下方に彎曲する。この花は、萼片と花弁の先端が線状に細まって花冠から突き出し、花序全体がピンク色の突起で被われたような形状になるのが特徴的で、全体に間延びした草姿と合わせて、他に例を見ない面白いランである。

◇2012.06.16　Granon Pass, French Alps, France

Orobanchaceae　　*Castilleja coccinea*

ハマウツボ科　カスティレア属　英語名：Scarlet Indian Paintbrush
国内に自生する近縁の種：なし

カナダ南東部と米国東半部に分布する半寄生性の多年草で、湿った草地、プレーリー、荒れ地に生え、草丈は10〜70 cm。茎は通常分岐せず、紫色で白い絹毛に被われる。根生葉はロゼット状につき、矩形で普通は全縁。茎葉は不規則に深く切れ込み、裂片は線形〜矩形で長さは4 cmほど。茎頂や上部の葉腋から穂状花序をだし、花を密につける。花序は開花当初はコンパクトに纏まっているが、時間の経過と共に長く伸びる。花序には赤色〜橙色の苞葉があり、その内側に長さ2 cmほどの緑色〜黄色の筒状花があって、雌しべが花冠から突き出る。苞葉には毛があり、3〜5裂する。カスティレア属はIndian Paintbrush（インディアンの絵筆）と総称され、200種ほどあるが、その殆どが北米西部に分布するので、東部に分布するこの種は例外的である。◇2013.06.14　Northern Minnesota, Minnesota, USA

Orobanchaceae　　*Castilleja miniata*

ハマウツボ科　カスティレア属　英語名：Slender Paintbrush, Great Red Paintbrush
国内に自生する近縁の種：なし

北米大陸西部とカナダ中部に分布する多年草で、湿った川岸、草地、林内などに生え、草丈は30〜75 cm。茎には毛があり殆ど分岐しない。茎葉は濃緑色の平らな披針形で分裂しない。花は鮮やかな赤色〜淡橙色で、鋭い鋸歯と毛のある苞葉で殆ど被われ、その内側に赤い縁取りのある黄緑色の筒状花がある。さらに、花弁のくちばしは、時間の経過と共に苞の先へ突き出てくる。苞葉は赤色〜ピンク色〜鮮黄橙色と変異が大きい。これは、インディアン・ペイントブラシの最も典型的な姿と色合いの種だという。北米ではこの仲間をよく見るが、色鮮やかな部分は花弁でも萼片でもなく苞葉なので、何ともすっきしない形の花であまりなじめない。景色の一部としてとらえるには格好の素材だが、単独で魅力的な植物かと言われればyesとは言い難い。◇2009.07.15 Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Orobanchaceae *Castilleja occidentalis*

ハマウツボ科　カスティレア属　英語名: Western Paintbrush

国内に自生する近縁の種: なし

これは、カナダ南西部からニューメキシコ州までの、ロッキー山系に沿って分布する多年草で、亜高山〜高山帯の草地や崩壊斜面に生え、草丈は10〜30 cm。この個体は草丈30 cm以上あるので、表題の種ではないかも知れないが、白い花のインディアン・ペイントブラシの例として示した。とにかくこの仲間は苞葉の色変化が激しくて、同一種内でも、真っ赤なものから白いものまである。◇2009.07.15 Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Orobanchaceae

Castilleja rhexifolia

ハマウツボ科　カスティレア属　英語名: Alpine Paintbrush, Rosy Paintbrush
国内に自生する近縁の種: なし

カリフォルニア州とアリゾナ州を除く北米西部に分布し、亜高山～高山帯の草地や岩れき斜面に生えて、草丈は10～40 cm。全体に無毛か細かい腺毛がある。茎葉は披針形で互生し、普通は全縁だが、稀に上半部が切れ込むものもある。中心脈は明瞭である。苞葉は深紅～紫色の矩形～卵形で、普通は1～2対の側裂片がある。萼は長さ15～24 mm。花冠は長さ20～35 mm。インディアン・ペイントブラシは普通乾いた草地や林縁に生えるが、この写真は高山帯の湿った草地で撮ったもので、他の植物と混じったお花畑を作っていて珍しいと思った。苞葉の色もインディアン・ペイントブラシの仲間としては、最も鮮やかな部類であろう。◇2009.07.14　Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Orobanchaceae　　*Euphrasia minima*

ハマウツボ科　コゴメグサ属　英語名：Dwarf Eyebright

国内に自生する近縁の種：ミヤマコゴメグサ、エゾコゴメグサ、チシマコゴメグサ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈に分布する１年草で、標高3,200 mまでの草地、放牧地やガレ場などに生え、草丈は通常2～10 cmだが25 cmに達するものもある。茎はあまり分岐せず、楕円形で少数の大きな切れ込みのある茎葉が対生する。葉に毛の生える個体と無い個体があるようだ。花は茎上部に数個が輪生状につき、長さ4～6 mmの２唇形で、上唇は藤色～ライラック色で先が２裂し、裂片の先はさらに２浅裂する。下唇は３裂して裂片の先はさらに２浅裂する。下唇の基部には黄色の斑があり、全体に紫色のたて筋がある。図鑑によっては、下唇が白色～淡黄色で小型のものを*E. minima*とし、少し大きめでライラック色のものを*E. alpna*としているが、これらを分けないで*E. minima*とする資料もある。下唇全体がライラック色や黄色い花は派手で目を引き、写真の花とはかなり印象が異なる。

◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Orobanchaceae

Euphrasia montana

ハマウツボ科　コゴメグサ属　英語名: 不明

国内に自生する近縁の種: ミヤマコゴメグサ、エゾコゴメグサ、チシマコゴメグサ

ヨーロッパの寒帯～温帯に分布する１年草で、草丈は5～25 cm。アルプスでは標高3,000 mまでの湿った草地、牧草地、疎林などに生える。茎はあまり分岐せず、楕円形～長円形の葉が対生する。葉脈は顕著で、葉縁には明瞭な鋸歯がある。私が見た限りでは、他の種と比べて花の数は少なめかと思う。花は長さ8～12 mmの２唇形で、上唇は淡い藤色で外側に紫色の筋がある。下唇は白色で３深裂し、裂片はさらに２中裂して大きく開く。この仲間の常として下唇の中央には黄色い斑があり、縦方向に紫色の筋模様がある。ヨーロッパのコゴメグサ属には似通った多くの種があり、素人目で見ても分類は混乱しているようだ。「スイスアルプス花図鑑」に従って本種を独立した種としたが、優勢な意見ではないかも知れない。

◇2016.07.14 Schynige Platte中部, Berner Oberland, Switzerland

シノニム： *Euphrasia rostkoviana* subsp. *montana*, *Euphrasia officinalis* subsp. *montana*

Orobanchaceae　　*Melampyrum pratense*

ハマウツボ科　ママコナ属　英語名: Common Cow-Wheat

国内に自生する近縁の種: ママコナ、ミヤママママコナ

ヨーロッパの北部と中部に分布する半寄生性の１年草で、湿った林縁やヒース原野に生え、草丈は20〜50 cm 。葉には柄がなくて対生し、狭披針形〜線形で最大長は10 cm。苞葉は下部では弧を描いて全縁だが、上部では細長い裂片に切れ込む。茎の上部に長い花序をだし、一方向に揃って１対の花が横向に咲く。苞葉の葉腋につく花は長さ12〜18 mmの２唇形で、外側は鮮黄色〜帯黄白色だが内側は常に黄色い。上唇は兜状で、下唇は真っ直ぐ伸びて先が３裂する。この花には、雄しべが４個と雌しべが２個ある。萼は癒着して筒状で、先が４裂して裂片の長さは4〜5 mm。日本にあるママコナ属はピンク色の花をつけるが、ヨーロッパでは黄色い花をつける種がいくつかある。これはあまり派手な花ではないが、大きな純群落となっているところでは、結構目を引く存在である。◇2007.06.23　ボージュ山地、France

Orobanchaceae　　*Melampyrum sylvaticum*

ハマウツボ科　ママコナ属　英語名：Wood Cow-wheat, Small Cow-wheat

国内に自生する近縁の種：ママコナ、ミヤママママコナ

ヨーロッパに固有の半寄生性の１年草で、アルプスや南部ヨーロッパの山岳地帯にもあるが、分布の中心はスカンジナビアからロシアにかけてのようだ。アルプスでは標高2,500 mまでの広葉樹林、谷筋、土手などに生え、草丈は最大40 cmまで。葉は長さ40～70 mmの狭披針形～線形で鋸歯はなく、茎全体に対生する。茎には3～10個のfloral nodeがあり、そこから一対の筒状花を同方向にだす。筒状花は長さ8～12 mmの２唇形で、濃黄色だが、時間の経過に伴ってオレンジ色に変わる。上唇は浅い兜状で真っ直ぐに突き出し、下唇は下方に彎曲するので、花全体は大きく口を開いたような形態となる。下唇の先は浅く３裂する。花の内側には毛がないが、上唇の縁には綿毛がある。萼は緑色で、花筒と同長か少し長い。

◇2016.07.11　Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Orobanchaceae　　*Pedicularis bracteosa*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名: Towering Lousewort, Bracted Lousewort
国内に自生する近縁の種: シオガマギク、ヨツバシオガマ、ミヤマシオガマなど

これは、カナダ南西部と米国西部に分布する多年草で、山地帯～高山帯の湿った草地や明るい林内に生え、草丈は30～100 cm。根生葉は数が少なく、殆どの葉は直立した太い茎に互生する。根生葉と茎葉は似た形だが、前者には長い柄があり、後者は上部で小型化する。茎葉は羊歯のような羽状複葉で、長さは3～15 cm。裂片は線状楕円形で長さは1～7 cm、鋸歯状に粗く切れ込んで、その裂片には更に細鋸歯がある。茎の先に沢山の花と苞葉のついた穂状花序をだす。花冠は長さ13～20 mmの２唇形で、花色は紫色～赤色～青銅色～黄色と変異に富む。上唇は帽状でくちばしがなく、筒部と同長。下唇は短くて先が３裂する。日本にも多くのシオガマギク属の種があるが、このように羊歯そっくりの葉をつけるものはない。花の色も紫色や青銅色など、日本のシオガマギク属では見たことのない色が多く、興味深い「シオガマ」である。◇2009.07.15　Moraine Lake, Banff National Park, Canada

Orobanchaceae

Pedicularis cheilanthifolia

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：オニシオガマ、コシオガマ、ミヤマシオガマ

カシミール・中国西部からチベット西部にかけて分布する多年草で、高山帯の砂礫斜面や草地に生え、草丈は7～20 cm。環境による形態変化が激しいという。根生葉は長さ1～8 cmの倒披針形で、羽状に全裂し、裂片は楕円形で更に羽状中裂する。茎葉は普通４枚が輪生する。茎頂に長さ3～5 cmの総状花序をだし、沢山の花を輪生状につける。花冠は長さ2～2.5 cmの２唇形で、色は淡紅色～白色。筒部は萼より少し長く、上唇は長さ8～10 mmで上部がゆるく前方に彎曲し、先端は少し尖るがくちばし状にはならない。下唇は上唇より短い。萼は長さ5～10 mmで軟毛が密生し、裂片は短い。ネットで調べると濃いピンク色の花が多いようだが、クンジュラブ峠で見た写真の花は、透明感のあるピンクがかった白色で、上唇の先端部だけ淡赤紫色という色合いであった。この種にはいくつか亜種があるようだ。

◇1993.08.02　Khunjerab Pass, Pakistan-China Border

Orobanchaceae

Pedicularis comosa

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Crested Lousewort

国内に自生する近縁の種：ネムロシオガマ、オニシオガマ、ミヤマシオガマ

ピレネー、アルプス西部、アペニン山脈に分布する毛の多い多年草で、正確な分布範囲は分からないが、トルコにはこれの変種が分布するらしい。アルプスでは、標高1,400～2,250 m地帯の草地や岩れき斜面に生えて、草丈は10～50 cm。茎と葉は共にくすんだ緑色で、羊歯のように細かく裂けた羽状複葉の茎葉は、長さ6～20cmで、上のものほど小さくなる。茎頂に15～50個の花が集まった穂状花序をだす。花は長さ15～25 mmの黄白色～白色の２唇形で、帽状の上唇には短いくちばしがあり、苞葉は花より長いものと短いものがある。これは、北海道にあるネムロシオガマによく似た植物で、淡黄色～白色の花も、２回羽状複葉の葉もそっくりである。本種は、Emparis台地の上部では群生していたが、他では一切見たことがない。

◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

Orobanchaceae　　*Pedicularis foliosa*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Leafy Lousewort

国内に自生する近縁の種：ネムロシオガマ、オニシオガマ、ミヤマシオガマ

南西部～中部ヨーロッパの山岳地帯に分布する半寄生性の多年草で、草丈は20～50 cm。ピレネー山脈、アルプス、ジュラ山脈、アペニン山脈の標高1,000～2,500 m地帯に生育し、主に石灰岩地帯の草地、低木林、渓流脇などに生える。茎は直立して分岐せず、毛がある。葉は殆どが茎上部につき、最大長25 cmの広披針形で、2～3回羽状に裂ける。茎頂に花と苞葉が密に集まった穂状花序をだし、苞葉は花より長くて突き出す。花は淡黄色の２唇形で、花冠は長さ2～3 cm。筒部は萼より長い。上唇は横に押しつぶされたような帽状で、下唇は浅く３裂する。本種は花は地味だし、苞葉の目立つ花序も特に魅力的ではないが、花期が進んだ頃に十分展開する葉は大きく、裂片の形状も美しくてとても魅力的である。◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Orobanchaceae　　*Pedicularis groenlandica*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Elephant's-Head Lousewort

国内に自生する近縁の種：オニシオガマ、コシオガマ、ミヤマシオガマ

北米大陸西部とグリーンランドに分布する多年草で、川岸などの湿った場所に生え、草丈は最大80 cmまでになる。茎は直立し、無毛で赤紫色のことが多い。葉は羊歯状で裂片の先は鋭く尖る。写真のように、茎のみならず葉まで赤紫色の個体も多く見られるが、これは時間の経過と共に緑色が優勢になってくるようだ。茎頂にピンク色～赤紫色の花を密につけた穂状花序をだし、花序には殆ど毛がない。花冠は上下2唇形で、上唇は帽状で上方に反り返った長さ7～8 mmのくちばしがある。下唇は３裂し、側裂片は象の耳のように広いので、上唇の本体が象の頭、くちばしが象の鼻のように見える。シオガマ属の花で小鳥のように見えるものは数多くあるが、本種のように象の頭そっくりの花は他にはない。北米ではこのことはよく知られており、自生株を見つけると「ピンクエレファント見いつけた」といってもてはやす。

◇2009.07.16　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Orobanchaceae　　*Pedicularis langsdorfii* subsp. *arctica*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Arctic Lousewort

国内に自生する近縁の種：オニシオガマ、コシオガマ、ミヤマシオガマ

北米大陸の北部、主に北緯52度以北の内陸部で、ツンドラや岩がちの草地などに生える多年草で、草丈は5〜25 cm。根生葉は披針形で羽状に切れ込み、翼のある葉柄を含めての長さは4〜7 cm。茎葉も形態は根生葉と同様で、わずかに小さい。茎頂に苞を伴う花が密につき、穂状花序となるが、時間の経過と共に花序は長く伸び、苞も茎葉と同じような形になる。花は長さ20〜25 mmの上下２唇形で、花冠の色はピンクから紫色。上唇は帽状で彎曲し、くちばしはないが先端に１対の歯牙がある。下唇は楕円形で浅く３裂する。萼は細長くて先が５裂し、長い綿毛で被われる。この植物の葉は、北海道にあるキバナシオガマの葉ににによく似ている。しかし、綿毛と苞葉で被われた花序は、キバナシオガマのスッキリした花序とは大分違った雰囲気で、いかにも寒冷地の植物という感じである。◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Orobanchaceae

Pedicularis oederi
キバナシオガマ

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Crimson-tipped Lousewort

国内に自生する近縁の種：ネムロシオガマ、オニシオガマ、ミヤマシオガマ

北半球の周北極地域や高山帯に広く分布する毛の多い半寄生性の多年草で、日本では北海道の大雪山にだけ分布する。アルプスでは標高2,000 mまでの湿った草地やガレ場に生え、草丈は5〜15 cm。葉は殆どが根生し、長さ5〜15 cmの狭披針形で羽状に裂け、裂片は10〜30対あって卵形〜楕円形。縁は下に巻き込む。茎葉は1〜2枚あり、根生葉に似るがより小さい。茎上部に、花と苞葉が密に集まった長さ5〜10 cmの散房花序を出し、苞葉は線状披針形〜線形で、花と同長か少し短い。花は長さ12〜20 mmの２唇形で黄色く、上唇の先は濃褐色で短いくちばし状となり、雌しべが突き出る。下唇は長さ5〜7 mm、幅7〜14 mmで３中裂し、裂片の先は丸い。本種は表大雪の一部に自生するが数は多くない。アルプスでは、どこにでもあるというほど多くはないが、撮影地では結構多くの個体があり、大雪山で見るものよりは草丈の高いものが多かった。　◇2016.07.10 Bachsee, Bernese Oberland, Switzerland

Orobanchaceae *Pedicularis rosea*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名 : Pink Lousewort

国内に自生する近縁の種: オニシオガマ、コシオガマ、ミヤマシオガマ

東部アルプスに固有の毛の多い多年草で、標高2,000～3,000 mのガレ場や石の多い草地に生え、草丈は5～15 cm。上半部の茎や葉は紫色を帯びることが多い。葉は長さ5～8 cmで羽状に切れ込み、殆どが根生する。茎葉は輪生することはない。花は茎頂に輪生状に集まり、長さ12～18 mmの鮮やかな淡紅色。上唇はくちばし状に尖ることはなく、下唇よりも濃い色調である。下唇は３裂して水平に大きく開く。苞葉は花よりも長い。このシオガマは、低い草丈の頂部に大きくて鮮やかなピンク色の花を密集させ、大きめの唇弁が広がるのでよく目立ち、いかにも高山植物然として魅力的である。東部アルプス特産種とのことで、これまでは見たことがなかったが、トレチーメの遊歩道脇では沢山咲いていた。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Orobanchaceae　　*Pedicularis rostratocapitata*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名 : Beaked Lousewort

国内に自生する近縁の種 : オニシオガマ、コシオガマ、ミヤマシオガマ

中部と東部アルプスに固有の多年草で、標高1,200～2,700 mまでの石灰岩地帯で、ガレ場や牧場に生えて草丈は5～15 cm。茎は紫色を帯び、反対方向に位置する毛が2列に並んで生える。葉は毛のない２回羽状複葉で、緑色を帯びた紫色。苞葉も羽状複葉である。花は茎頂に固まって3～15個つき、鮮やかなピンク色で長さは15～25 mm。上唇は下唇より色が濃いめで、鳥のくちばしのように長く突き出す。下唇は浅く３裂し、大きく広がって全体に皺がある。これは、私がこれまでアルプスで出会ったシオガマの中で、最も派手な花だ。くちばし状の上唇は最も長い部類に属するが、“くちばし”がより短いシオガマで顕著に見られる、“目玉”が見られないのが、返ってご愛嬌というところ。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Orobanchaceae　　*Pedicularis tuberosa*

ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Long-beaked Yellow Losewort

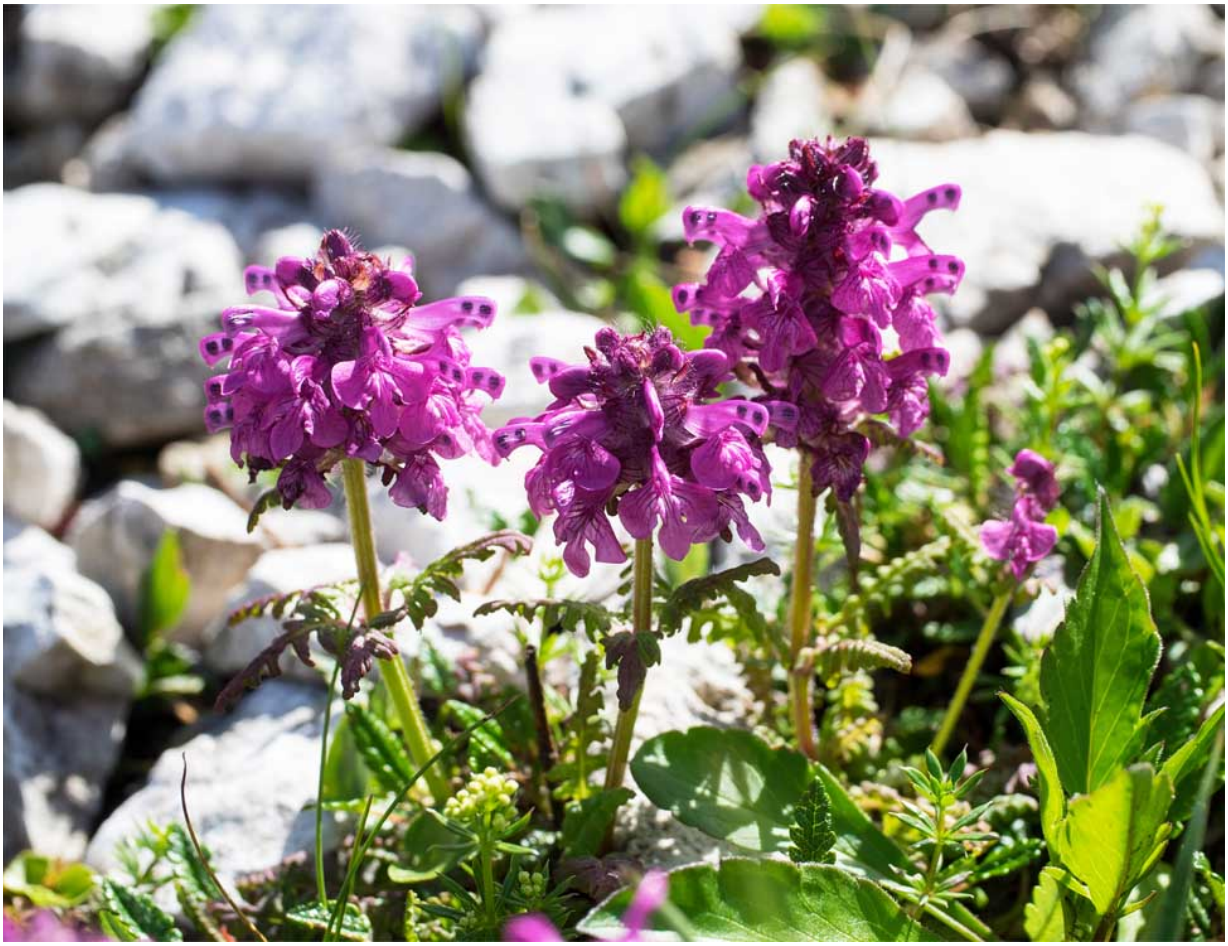
国内に自生する近縁の種：ネムロシオガマ、オニシオガマ、ミヤマシオガマ

南西部～中部ヨーロッパに分布する毛の多い半寄生性の多年草で、標高1,200～2,900 mの酸性岩地帯の草地、明るい疎林、ガレ場に生えて、草丈は10～25 cm。葉は披針形で2回羽状に裂け、根生葉はロゼット状につき、茎葉は互生する。花は淡黄色の２唇形で長さは14～20 mm。上唇は横に押しつぶされた帽状で、長いくちばしがある。下唇は幅があって下向きに曲がり、浅く3裂するが、裂片の先は丸い。この種は日本にあるエゾシオガマと似ているが、花（特に上唇）が螺旋状にねじれる事が多い点でも共通性がある。美しい花を咲かせるシオガマギク属の種が多いアルプスでは、「最も美しくないシオガマギク属の花」と言ったら語弊があるかな。

◇2016.07.17　Kreyxboden, Saastal, Wallis, Switzerland

Orobanchaceae

Pedicularis verticillata
タカネシオガマ



ハマウツボ科　シオガマギク属　英語名：Whorled Lousewort, Verticilate Lousewort
国内に自生する近縁の種：ミヤマシオガマ、ヨツバシオガマ

これは周極分布をする１年草で、北半球の寒冷帯や高山の湿った草地に生え、草丈は15～35 cm。茎は直立し、縦方向に４列に並んだ毛が生える。葉は４枚が数段輪生し、長さ3 cmほどの葉柄がある。葉身は長さ2.5～3 cmの矩形～披針形で、羽状に深裂して先は尖らない。茎頂に総状花序をだし、赤紫色で幅1.3 cmほどの花を密につける。これは日本にあるタカネシオガマそのもので、フレンチアルプスではあまり見なかったが、シャモニー近辺やドロミテでは稜線の草地に群落をなしていた。本種は、この仲間としては葉の切れ込みは少ない方だ。筒部のある花が輪生するので英語名はそれにちなんでいるし、上から見ると車輪のように見えるのが面白い。鳥の頭のようにも見える上唇に、目玉のような暗点が2つ並んであるのもこの種の特徴である。　◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Orobanchaceae　　*Rhinanthus alectorolophus*

ハマウツボ科　△属　英語名: Greater Yellow Rattle

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパに広く分布する半寄生性の１年草で、標高2,300 mまでの牧草地や草地に生え、草丈は10〜50 cm。全体に毛が多い。葉は無柄の披針形〜楕円形で茎に対生し、葉脈が顕著で縁には鋸歯がある。茎頂と枝先に総状花序をだし、多数の花を全方位に横向に咲かせる。苞葉は帯白緑色の幅広の三角形で毛はなく、大きさと形の整った鋸歯がある。萼は扁平で膨らみ、毛が多い。花は長さ2 cmの２唇形で、上唇は横につぶれた帽状で淡黄色だが、先端に一対の紫色の歯牙がある。下唇は鮮黄色で上唇より短く、ちょっと複雑な立体形である。この属は、和名をオクエゾガラガラ属と言うらしいが「日本維管束植物目録」にはその記載がない。

◇2016.07.15　Wengernalp, Lauterbrunnental, Berner Oberland, Switzerland

Orobanchaceae　　*Rhinanthus minor*

ハマウツボ科　△属　英語名: Yellow Rattle

国内に自生する近縁の種: なし

これは、北半球で周極分布をする半寄生性の１年草で、ヨーロッパの広範囲、西アジア、北米大陸北部に分布する。標高2,000 mまでの湿った牧草地や草地に生え、全体に毛は少なくて、草丈は25～50 cm。茎は直立してあまり分岐せず、長さ2.5～8 cmの楕円形～狭披針形の葉が対生する。葉先は尖り、葉縁には明瞭な鋸歯がある。茎頂に総状花序をだし、6～12個の花をつける。花は苞葉の葉腋につき、苞葉は三角形で毛はなく、切れ込みは先端に向かって小さくなる。萼は緑色で膨れ、黄色い２唇形の花が突き出す。花筒は彎曲せず、上唇は縦長の帽状で淡黄色。先端にある紫色の歯牙は1 mm以下と小さい。下唇は浅く３裂する。アルプスにはこの仲間が10種ほどあり、牧草地を中心に至る所で目にするので、あまり興味がわかなかった。しかし、近づいてよく見ると、シオガマギク属の花とよく似た造りで、なかなか可愛い花だと思い直した次第。◇2016.07.09　Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Papaveraceae　　*Corydalis turtschaninovii* var. *linearis*

ケシ科　キケマン属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：エゾエンゴサク、キケマン、ジロボウエンゴサク

朝鮮半島、中国東北部、シベリアにかけて分布する多年草で、山地の湿った所に生え、草丈は最大で20 cmほど。葉は1～2回三出複葉で、倒卵形の小葉は上半部がさらに切れ込み、先端には鋸歯がある。表面は緑色で裏面は粉白色である。この種の花の色は、エゾエンゴサクの一部と同色だが、葉と花の形はかなり違う。もっとも、葉の形はヤマエンゴサクと似ているかな。花は、上唇の後方で距となっている部分が立ち上がっており、日本のエンゴサクでは見たことのない形だ。エンゴサクの仲間は世界に200種ほどあり、韓国には11種自生するという。韓国では、どの種も漢方薬として利用するとのことだ。◇2012.04.12　慶州石窟庵、Korea

Papaveraceae

Eschscholzia californica
ハナビシソウ

ケシ科　ハナビシソウ属　英語名: California Poppy, Golden Poppy
国内に自生する近縁の種: なし

米国西部とメキシコ北西部に分布する１年草で、裸地や乾いた草地に生え、草丈は13～150 cmと変異が大きい。これの分類に関しては諸説あるようだが、２つの亜種を認めるという考えが一般的なようだ。茎は無毛で互生状に分岐し、青緑色の葉をつける。葉は掌状に３裂し、裂片は更に細かく切れ込み、先の丸い線形になる。花は長い花柄の先に１個つき、径7～10 cmの４弁花だ。花弁は長さ2～6 cmの扇形で、花色は黄色～橙色。花は、曇った日や低温時には閉じたままで開かない。細長い蕾は２枚の萼片で包まれており、開花すると萼片は落ちる。雄しべは沢山あり、雌しべは１個で先は４裂する。この花は日本でもおなじみで、公園や道路沿いに植えられているが、ケシ属の花ほどの魅力を感じないのはどうしてだろう。
◇1987.04.09　San Francisco近郊, California, USA

Papaveraceae　　*Papaver aurantiacum*

ケシ科　ケシ属　英語名 : Orange Poppy, Rhaetian Poppy

国内に自生する近縁の種: リシリヒナゲシ

ピレネー山脈東部、アルプス南西部、アルプス東部に隔離分布する毛の多い多年草で、標高1,500〜3.000 mの石灰岩質の岩場、モレーン、河原などに生え、草丈は5〜20 cm。本種はエンガディン地域にはあるが、他のスイスアルプスにはないらしい。葉は1〜2回羽状複葉で、楕円径〜披針形の小葉は対生せず、先は丸い。花は鮮やかな黄金色で径4〜5 cm。４枚の花弁には皺があり、大きく開く。花糸と葯も黄金色である。稀には、赤色や白色の花もあるという。この色鮮やかなケシは、ドロミテ山塊の至る所で大きな群落が花盛りだった。しかし、濁った黄白色のドロマイトを背景にしては、この鮮やかな黄金色の花は浮き立たない。写真の花は*Minuartia recurva*の豪華なカーペットを背景に咲いていたので、この黄色いケシが浮き上がって見える。なお、この種についてはいろんな学名があり、どれが正しいのか分からない。ここではより新しいと思われる資料に従った。

◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

シノニム： *Papaver rhaeticum*, *Papaver alpinum* subsp. *rhaeticum*

Papaveraceae　　*Papaver radicatum* subsp. *radicatum*

ケシ科　ケシ属　英語名 : Arctic Poppy
国内に自生する近縁の種: リシリヒナゲシ

これは周極分布をする多年草で、北半球の北極圏や高山に分布し、岩場、礫質斜面、崩壊斜面、ツンドラなどに生えて、草丈は10～20 cm。北緯83°40'にも自生しており、最も北に分布する高等植物の一つである。ヨーロッパではスカンジナビアが分布の南限らしい。根生する葉は緑色で剛毛が生え、羽状に5～7列して裂片は裂けない。毛のある花茎の先に黄色い花を１個咲かせるが、うなだれた蕾を被う２枚の萼片には黒い長毛が密生し、開花と同時に落下する。花は径2～6 cmで４枚の花弁があり、光沢のある花弁は杯状に開く。花の中心には、多数の黄色い雄しべに囲まれた暗緑色で縦長ドーム状の子房があり、放射状に配置された６本の黄色い柱頭が魅力的である。この種には花の径が２ cm以下の亜種があるが、写真の花は3 cm以上あるので基準亜種の方であろう。ちなみに、Arctic Poppyと言う英名は、本種の他にもいくつかの種に共通して用いられている。◇2009.07.16　Whistlers Mt. Jasper National Park, Canada

Papaveraceae

Papaver rhoeas

ケシ科　ケシ属　英語名：Common Poppy, Field Poppy

国内に自生する近縁の種：リシリヒナゲシ

ヨーロッパ、北アフリカ、西アジアに分布する１年草で、畑や路端、人為的に乱された土地などに生え、草丈は30〜90 cm。古代から畑作に伴って移動したため、正確な原産地は分からないという。根生葉は長さ15 cmほどで羽状に裂け、裂片は通常さらに切れ込む。茎葉も根生葉に似るが、裂片は少し長めのようだ。茎は直立して粗い毛が垂直に生え、先端に１個の花を平開する。花は径5〜10 cmで、鮮やかな濃赤色の重なり合う花弁が４枚あり、基部には黒色の斑がある。紫色の葯をつけた雄しべは沢山あるが、バラバラでまとまりが悪い。フランスで共同研究を始めた当初、プロバンスの田舎を車で通ると、畑を真っ赤に染めて、至る所でこのケシが咲き誇っているので驚いた。これでは、小麦を作っているのかケシを栽培しているのか分からない、と思ったものである。これでも、農薬のおかげで数が減ったのだそうだ。畑で咲き誇るのは問題かも知れないが、システロンの古城に咲いていた群落は、風情のある景観を演出して美しかった。◇2004.06.08　Gap東方, French Alps, France

Plantaginaceae　　*Digitalis grandiflora*

オオバコ科　ジギタリス属　英語名: Large Yellow Foxglove
国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパ南部からトルコやシベリア西部にかけて分布する２年草／多年草で、標高2,000 mまでの牧草地やガレ場に生え、草丈は70～120 cm。低山帯では樹木伐採後の空き地に群生することが多い。葉は最大長25 cmの卵形～披針形で、細かい鋸歯と裏面の縮毛がある。根生葉は大きくてロゼットをなし、茎葉は互生して上ほど小さくなる。下部の茎葉には短い柄があるが、上部のものは無柄である。茎頂に長い総状花序をだし、一方向に偏って多数の花をつける。淡黄色の花は長さ3～4.5 cmの筒形で、花筒の内側には褐色の網目模様がある。ジギタリス属は世界に20種ほどあるらしいが、次ページの*D. purpurea*と同様に、本種も強い毒草だ。多分薬効もあるだろうが、こちらの方は薬用には用いられていないようだ。花は大きくて美しいので、ガーデニングには広く利用されている。◇2016.07.14 Schynige Platte下部, Berner Oberland, Switzerland

Plantaginaceae

Digitalis purpurea
ジギタリス

オオバコ科　ジギタリス属　英語名 : Foxglove
国内に自生する近縁の種:　なし

これは、ヨーロッパ温帯域原産の２年草で、林内の空き地、海岸の崖地、人為的に乱された場所などに生え、草丈は40～150 cm。根生葉はロゼット状につき、長い柄のある長さ20～30 cmの楕円形で、表面には皺が多い。茎葉は互生し、披針形～広卵形で上部の葉ほど柄が短くなる。茎の上部に長い総状花序をだし、一方に偏って、沢山の花をうつむき加減に咲かせる。花は赤紫色の膨らんだ筒状で、先は浅い２唇形。花冠の内側には白い縁取りのある暗色の斑が多数ある。ジギタリスは毒草だが薬効もあり、日本国内でも逸出したものが野生化して増えている。北大構内では、道路脇に沢山生えていて珍しくもない。しかし、フランスの林道で、自生株の花が群れて咲いているのを見ると、なかなか良い雰囲気で、マア写真でも撮るかと言うことになった。◇2007.06.23　ボージュ山地、France

Plantaginaceae　　*Erinus alpinus*

オオバコ科　イワカラクサ属　英語名: Alpine Balsam, Fairy Foxglove

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパの南部と中部原産の毛の多い多年草で、ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈で、標高2,400 mまでの岩場、ガレ場、小石の多い草地などに生え、草丈は5〜20 cm。茎は四方に広がり、茎と葉に毛が多い。葉は楕円形で数個の鋸歯があり、根生葉には柄があってロゼットとなる。茎葉は無柄で茎上部まで互生する。花は赤紫色の筒形花で一番上の葉腋につき、先は5裂して径8〜1.2 cmに開く。裂片は先が浅く２裂し、中央には濃色の筋が１本ある。この種は国内のロックガーデンで広く栽培されており、「いわからくさ（岩唐草）」の和名がある。それにしても、英語名にジギタリスと同じFoxgloveが使われるのなぜだろう。ジギタリスの場合は手袋に由来しており、筒状花が手袋の指に似ている事からの連想というのは何となく分かるが、この花には全く当てはまらない。

◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Plantaginaceae

Globularia cordifolia
ルリカンザシ

オオバコ科　グロブラリア属　英語名：Matted Globularia
国内に自生する近縁の種：なし

これは、ヨーロッパの中部と南部、トルコ西部に分布する匍匐性の常緑矮小低木で、マット状に広がって高さは5～10 cm。アルプスでは、標高2,600 mまでの岩場や砂礫地に生える。葉は全て根生し、楕円形～へら形で先が浅く切れ込む。直立した花茎の先に、藤色でやや扁平な球状の頭花状花序を１個つける。花序は径10～20 mmで、唇弁の細い２唇形の小花を沢山つけ、一目でこの属とわかる独特のもの。グロブラリア属は世界に22種あり、ヨーロッパには７種分布するが、アルプスに自生するのは５種に限られるらしい。これは日本には似たもののない美しい花で、アルプスのトレッキングで出会えば嬉しくなる。ところで、今年スイスアルプスのシーニゲ・プラッテで、本種の大集団にお目にかかった。岩壁を被いつくす大群落に、数百個もの花が一斉に咲いているのだから、「筆舌に尽くしがたい」とはこのことという思いがした。もちろん、高山植物園の中の話ではない。◇2012.06.18
Emparis Plateau, French Alps, France

Plantaginaceae　　*Globularia punctata*

オオバコ科　グロブラリア属　英語名：Common Globularia

国内に自生する近縁の種：なし

これは、中部と南部ヨーロッパに自生する匍匐性の常緑矮小低木で、アルプスでは標高1,700 mまでの、主に石灰岩地帯の草地、岩場、疎林に生えて、高さは5〜30 cm。根生葉はロゼット状につき、長い柄のある楕円形で、先が浅く３裂することもある。葉身は深緑色の革質で、葉脈はくぼむ。茎葉は小さな披針形で沢山つき、柄はなくて先が尖る。直立する茎は普通短いが、場所によっては30 cmにまで伸びる。頭花状花序は、径10〜15 mmのややつぶれ気味の球形で、青紫色の２唇形小花が集まって出来ている。この小花の唇弁は細い糸状で、花序は自動洗車装置の回転ブラシのようで極めて特徴的である。そのため、本種の同定は簡単だが、アルプスに自生するグロブラリア属の中では、一つの頭花を作る花弁の数が最も多い種であろう。◇2012.06.16　Granon Pass, French Alps, France

Plantaginaceae

Globularia repens
コルリカンザシ

オオバコ科　グロブラリア属　英語名：Matted Globularia
国内に自生する近縁の種：なし

南西ヨーロッパに分布する匍匐性の常緑矮小低木で、ピレネー山脈とアルプス南西部の標高700～2,500 m地帯の岩場や砂礫地に生え、マット状に広がって高さは3～7 cm。葉は長さ1～2 cmほどの披針形～楕円形で、やや肉厚で先が尖り、地表を埋め尽くすほど沢山つく。頭花状花序は径2 cmほどで、淡青紫色の小花の集合体である。小花は細長い２唇形で、上唇は２裂し下唇は３裂するが、下唇裂片の配置が乱れ勝ちのようだし、花の数も少なめなので、同属の他の種ほどは整った形の花序ではない。。◇2012.06.18　Lac Lerie, French Alps, France

Plantaginaceae　　*Linaria alpina*

オオバコ科　ウンラン属　Alpine Toadflax

国内に自生する近縁の種：ウンラン

中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは標高1,500～3,800 m地帯の岩場や岩れき地に生え、草丈は5～15 cm。茎はつる状で地をはい、マット状に広がる。茎には、長さ1～3 mmで線形～狭披針形の肉質の葉が輪生状につく。葉は紫がかった青緑色である。茎先に丸い総状花序をだし、鮮やかな紫色の花を密に咲かせる。花は２唇形で、上唇は２深裂して立ち上がり、先が後方にそり返る。下唇は３裂し、中央裂片は左右が下方に曲がってアーチ状となる。花の中心には鮮やかなオレンジ色の隆起した付属体が２個あって、紫色の花弁とのコントラストが美しい。これは、遠くからでもよく目立つ美しい花で、特に写真のように形よく纏まった株では、日本のウンランの仲間だとは思えないほど、華麗で魅力的な植物である。ところで、今年訪れたツェルマット近郊の山で、花全体が青紫色の株に出会ったが、これはこれでスッキリした美しい花であった。◇2012.06.16

Galibier Pass, French Alps, France

Plantaginaceae

Linaria vulgaris
ホソバウンラン

オオバコ科　ウンラン属　英語名: Common Toadflax
国内に自生する近縁の種: ウンラン

ヨーロッパから中国西部まで分布する多年草で、裸地、草地、道路脇などに生え、草丈は15〜90 cm。青緑色で無毛の葉は互生し、長さ2〜6 cmの線形〜披針形。茎先に総状花序をだし、黄色い縦長の花を密につける。花は２唇形で長さは25〜35 mm、上唇は立ち上がって先は２裂し、下唇には橙色の隆起部と下方に伸びる長い距がある。この種は、日本でもあちこちに帰化しており、北大構内では大群落をなしているところもある。珍しくもないし、日本在来種のウンランや、アルプスに生える*L. alpina*（前ページ）ほど美しい花ではないが、詳しく見ると独特の面白い形をしており、自生地のイタリアで撮影した写真を、記念に残しておくことにした。
◇2005.09.30　Urbino近郊, Marche Province, Italy

Plantaginaceae　　*Paederota bonarota*

オオバコ科　△属　英語名 : Bluish Paederota

国内に自生する近縁の種: なし

アルプス東部に特産する多毛の多年草で、標高1,500～2,500 m地帯で石灰質岩の割れ目に生え、草丈は10～20 cm。根生葉は無い。茎葉は対生し、長さ1.5～3 cmの楕円形～円形で、短い葉柄があって色は青緑色。縁には鋸歯があり、上方の葉は幅が狭くなる。茎頂に長さ2～4 cmの総状花序をだし、菫青色～青紫色の花を密につける。まれに、ピンク色の花もあるという。花は長さ10～13 mmの細い筒状の２唇形で、下唇は３中裂して、先の尖った裂片は斜開する。この花は、先端に青い葯をつけた雄しべ２本が真っ直ぐ突き出るのが目立つ。本種は、白っぽい岩肌に鮮やかな紫色の花の塊を多数展開するのが印象的だ。アルプスの他地域では見られない事もあり、ドロミテを代表する高山植物の一つである。◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Plantaginaceae　　*Penstemon confertus*

オオバコ科　アメリカイワブクロ属　英語名：Yellow Penstemon

国内に自生する近縁の種：なし

カナダ南西部と米国北西部に分布する多年草で、川岸や湿った草地に生え、草丈は20～50 cm。茎は直立して披針形の葉が対生し、茎頂に淡黄色～乳白色の花がうつむき加減に2～3段輪生する。花は細い筒部のある２唇形で、長さは1.5～2 cm。上唇は先が２裂して裂片が上方に立ち上がり、下唇は３裂して中央裂片は下方に反り返る。筒の内部には紫色の斑がある。北米にはアメリカイワブクロ属の種が沢山あり、紫系統の美しい花を咲かせる種がいくつもあるが、この種は何とも地味な花を咲かせる。そして、これは、アメリカイワブクロ属の中で、唯一黄色い花を咲かせる種だそうだ。この写真は、レンタカーにトラブルがあって、山中で救援車を待つ間に路端の草地で撮影したもの。トラブルがなければ、その存在に気づくことはなかっただろう。◇2009.07.16　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Plantaginaceae *Penstemon davidsonii*

オオバコ科　アメリカイワブクロ属　英語名：Davidson’s Penstemon

国内に自生する近縁の種：なし

北米大陸西部に分布する常緑の多年草で、水はけの良い岩礫地に生え、草丈は5～13 cm。木質の茎が地面をはい、マット状に広がる。葉は長さ1.5 cmの披針形で、厚くて硬く、縁には鋸歯がある。花を咲かせる茎につく葉は、小さくて鱗片状である。花は長さ2～5 cmの筒状花で、先は上下２唇形。花冠は赤紫色～紫色で、のど元に白い綿毛があり、仮雄しべには毛が密生する。花冠筒部の側面は押しつぶされたように少し凹む。上唇は２裂して裂片の先は丸い。下唇は３裂し、咲きだし時の側裂片は垂れ下がるような形で前に伸びるが、時間が経つと水平になるようだ。中央裂片は下方に彎曲する。この花の色の美しさには驚かされた。アメリカの図鑑にはラベンダーブルーと書いてあるが、ちょっと言い表しがたい深い色合いである。日本にあるイワブクロは最近までこの属に含まれていたが、今はイワブクロ属に区分され、日本にアメリカイワブクロ属の種はなくなった。とにかく見事なまでに美しい花で、葉とのバランスも良い魅力的な植物である。◇2009.07.15　Moraine Lake, Banff National Park, Canada

Plantaginaceae　　*Plantago alpina*

オオバコ科　オオバコ属　英語名 : Alpine Plantain

国内に自生する近縁の種:　エゾオオバコ、オオバコ、ハクサンオオバコなど

ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは標高3,000 mまでの草地やガレ場に生え、草丈は5〜15 cm。葉は根生してロゼット状につき、線形で柔らかくて３脈がある。直立した花茎の先に細長い穂状花序をだし、緑白色の小さな花を咲かせる。花はオオバコの花に似ているのだが、葉はイネ科の葉のような形でオオバコの葉とは似ても似つかない。美しい花とはとても言えないが、珍しい草姿でなかなか面白い植物だ。蕾が深くうなだれているのも面白い。ところで、その後日本の図鑑を眺めていたら、日本に自生するエゾオオバコがこの種との共通点が多いことに気がついた。ひいき目に見ても魅力的とはいえない植物なので、記憶に残っていなかったのだろう。エゾオオバコに比べると、こちらの方が魅力度は少し高い。

◇2012.06.22　Balme Pass, Chamonix Mt-Blanc, France

Plantaginaceae *Plantago media*

オオバコ科　オオバコ属　英語名: Hoary Plantain

国内に自生する近縁の種: エゾオオバコ、オオバコ、ハクサンオオバコなど

中部～南部ヨーロッパに分布する多年草で、標高300～2,400 mの小石混じりの草地や荒れ地に生え、草丈は20～50 cmと変化に富む。葉はオオバコの葉に似た広楕円形で細毛が生え、葉柄と7～9本の平行脈がある。長く伸びた花茎の先に長さ2～6 cmの穂状花序をだし、小さな花を密につける。花は白色で花冠は４裂し、裂片は膜状で長さ1.5～2 mm。萼も４裂するが小さくて目立たない。雄しべは４本で長く突き出し、花糸と葯は淡紫色でオオバコの仲間とは思えないほど美しい。走る車の窓からこの花を見たときには、何の仲間か見当がつかなかった。近づいて葉を見て初めてオオバコの仲間と分かったが、逆光で見るこの花序は、他に例を見ない美しさで心を奪われる。◇2012.06.17　Queyras Valley, French Alps, France

Plantaginaceae *Veronica alpina*

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名 : Alpine Speedwell

国内に自生する近縁の種:　エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

ヨーロッパ全域の高山帯と高緯度地域に分布する背の低い多年草で、アルプスでは標高1,500〜3,200 m地帯の草地や砂礫地に生え、草丈は5〜15 cm。茎は根元で分岐することがあり、白い綿毛で被われることも多い。青緑色の茎葉は対生し、長さ1〜2.5 cmの楕円形〜卵形で柄はなく、縁は全縁か細鋸歯がある。上位の葉が下位の葉より大きいのが、本種の特徴である。茎頂に5〜15個の花が集まって総状花序となる。花は濃い青色で、４裂した花冠裂片は開いて径5〜7 mm、花の中心部は白色である。雄しべは２本だが、この仲間にしては余り目立たない。萼は黒紫色で白い毛が密生し、鮮やかな青色の花弁とは美しいコントラストをなす。◇2015.06.28 Innsbruck近郊、Austria

Plantaginaceae　　*Veronica bellidioides*

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名: Violet Speedwell

国内に自生する近縁の種: エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

ヨーロッパ中部と南部に分布する毛の多い多年草で、ピレネー山脈とアルプスの主に酸性岩地帯で、標高1,400〜3,000 mの乾いた草地に生える。草丈は5〜20 cm。茎は分岐せず毛がある。根生葉は長さ2〜3 cmの倒卵形〜さじ形で、ふつうは短い柄と細かい鋸歯があり、根元で重なり合ったロゼットなる。茎葉は小型で１〜３対あり、茎に沿うような形で上向きにつく。茎頂に短い散房花序を出し、３〜10個の深い菫青色の花をつける。花冠は４深裂して径9〜10 mmに斜開し、裂片の先は丸い。本種は、形の良い葉が纏まって根元にあり、分岐のない茎が直立して茎葉は目立たず、クワガタソウ属としては異例なほどスッキリした草姿である。「これぞ高山植物の典型」という風貌が好ましい。

◇2016.07.17　Weissmies小屋の下方, Saastal, Wallis, Switzerland

Plantaginaceae

Veronica chamaedrys
カラフトヒヨクソウ

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名：Germander Speedwell

国内に自生する近縁の種：エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

ヨーロッパとアジア北部に分布する多年草で、アルプスでは標高2,300 mまでの草地や林縁、砂礫質の荒れ地に生え、草丈は15～40 cm。全体に毛があり、葉の形態は変化に富む。茎には毛が２列に並んで生える。葉は対生し、下部の葉には短い葉柄があるが、上部では無柄。葉身は楕円形で粗くて鈍頭の鋸歯があり、両面共に毛深い。花は鮮やかな青紫色で中心部は白く、径は10～14 mm。この花は、西アジア原産で国内に広く帰化しているオオイヌノフグリ(*V. persica*)よりは大きく、花色も濃い。花冠は４深裂し、広卵形の花冠裂片には濃紫色の筋がある。萼は４裂し、裂片は線形で腺毛が生える。雄しべは２本で花冠より長く突き出す。帰国して調べたら、北海道では本種が帰化しているらしい。私は、国内ではこんな鮮やかなクワガタソウを見た記憶がないのだが。◇2015.06.29　Innsbruck近郊, Austria

Plantaginaceae *Veronica fruticans*

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名：Rock Speedwell

国内に自生する近縁の種：エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは標高1,000～3,000 mの小石混じりの草地や岩礫地に生え、草丈は15～30 cm。葉は殆ど無柄で対生し、長さは1～2 cm。厚みのある狭いさじ形で、光沢があって毛はなく、浅い鋸歯がある。茎先にまばらに花をつけた短い総状花序をだし、花柄はその下につく苞葉より長い。花は径11～15 mmで花冠は４裂し、筒部は短い。花色は深い青色で、中心部が赤味を帯びるのが本種の特徴である。萼には毛が密生して。先は４裂する。雄しべは２本で雌しべは１本。この花も、日本のクワガタソウ属には見られないような鮮やかな色合いで、サイズも大きい。フレンチアルプスでは出会った個体は少なかったが、ドロミテ山塊では数多く見られた。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Plantaginaceae

Veronica serpyllifolia subsp. *humifusa*
テングクワガタ

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名：Bright-Blue Speedwell

国内に自生する近縁の種：エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

北半球の亜寒帯に広く分布する多年草で、山地～亜高山の湿った草地、牧草地、路端などに生え、草丈は10～25 cm。日本でも本州の東半分と北海道に分布する。茎は分岐して地を這い、腺毛の生えた茎を多数立ち上げる。葉は対生し、葉身は長さ0.7～1.5 cmの卵形～楕円形で、やや厚くて鋸歯はない。また、葉と花序には腺毛がある。花は径7～10 mmで花冠は４裂し、下部の裂片は小さい、上裂片と側裂片は淡青色で紫色の筋があり、下裂片は白色に近い。花柄は下につく苞葉と同じ程度の長さ。花色は変化に富み、ネットで見るとヨーロッパの花は濃い青色のものが多く、日本の花は淡い色合いのものが多いように見える。フレンチアルプスで撮影したこの花は、その中間という感じ。ヨーロッパには、花が小型で色の薄い基準亜種コテングクワガタ（次ページ）との中間形も多いと聞く。本種は、日本国内でもあちこちで目にするが、ここに示すような見事な株には出会ったことがなかった。

◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

Plantaginaceae

Veronica serphyllifolia subsp. *serphyllifoli*
コテングクワガタ

オオバコ科　クワガタソウ属　英語名：Thyme-Leaved Speedwell

国内に自生する近縁の種：エゾヒメクワガタ、ヒメクワガタ、キクバクワガタ

ヨーロッパ原産の毛の多い多年草で、海岸近くにも生えるが、アルプスでは標高2,500 mまでの半日陰の草地に生える。茎は地を這い、根を下ろしたところから花茎が斜上して、高さ5〜20 cmになる。葉は長さ8〜25 mmの円形〜楕円形で、短い柄があって対生し、鋸歯はないか細かい鋸歯がある。茎先にルーズな穂状花序をだし、20〜40個の花がつく。花冠は４裂して斜開し、径4〜7 mmになる。花冠裂片は先が丸くて白っぽく、明瞭な青い筋模様がある。下位の裂片は他より小さい。これは、繁殖力の強い植物で、世界中に帰化して繁殖しているが、北海道でもあちこちの芝生で蔓延っているのが目に付くようになった。しかし、北海道で見る花は、アルプスで見るものより際立って小さいのが不思議だ。

◇2007.06.24 First, Berner Oberland, Switzerland

Plumbaginaceae *Armeria alpina*

イソマツ科　アルメリア属　英語名 : Mountain Thrift

国内に自生する近縁の種: なし

ピレネー、アルプス、アペニン山脈の標高1,400～3,100 m地帯で、岩礫地や湿った草地に生える多年草で、草丈は10～30 cm。バルカン半島にも自生するらしい。葉は線形で毛はなく、25本ほどがロゼット状に根生する。細い花茎にも毛はなく、分岐しないで真っ直ぐに長く伸びる。花茎の先に淡紅色の花が沢山集まって、径2～3 cmの 球状の花序となる。、花は５弁花で斜開し、楕円形の花弁の先は丸い。この花はこれまで見たことがなかったが、ドロミテ山塊ではあちこちで群生していた。全体の様子はヒガンバナ科のシロウマアサツキに似ているが、葉は筒状でなく、先の尖った花被片６枚のシロウマアサツキよりは柔らかい感じの花序で、こちらの方が段違いに魅力的である。トレチーメの遊歩道には小群落があちこちにあり、ピンクのボールが風に揺れて美しい風景であった。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

シノニム: *Armeria maritima* subsp. *alpina*

Polygalaceae

Polygala cf. *alpestris*

ヒメハギ科　ヒメハギ属　英語名：Mountain Milkwort. Alpine Milkwort

国内に自生する近縁の種：ヒメハギ

この種の正確な分布範囲は分からないが、ピレネー山脈からアペニン山脈にかけては分布し。アルプスでは標高2,200 mまでの草地に生える多年草。茎は分岐して斜上し、草丈は5〜15 cm。葉は互生し、披針形で中心脈が目立ち、上に向かって大きくなり、茎の最上部では密につく。花は短い総状花序に密につき、上から見ると輪生状。花は鮮やかな青色〜青紫色で、花弁状で斜め前方に突き出した萼片(wing)には１脈があり、先端は色が濃い。花の中心にあって３枚が癒着した花弁の先は細裂して白色。アルプスには青い花をつけるヒメハギ属が数種あり、どれもよく似ていて鑑定が難しい。図鑑によればこの種の花の大きさは4〜6 mmだというが、写真の花はもう少し大きい様な気がする。これの種名は確かでないが、日本には赤紫色の花を咲かせるヒメハギしかないので、青い美しい花を咲かせるヒメハギ属としてここに掲載しておく。◇2012.06.21　Pranplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Polygalaceae

Polygala chamaebuxus
トキワヒメハギ

ヒメハギ科　ヒメハギ属　英語名: Shrubby Milkwort

国内に自生する近縁の種: ヒメハギ

これは、西部〜中部ヨーロッパの山岳地帯原産の常緑小低木で、アルプスでは標高2,600mまでの林の中、牧草地、岩礫地などに生え、高さは5〜20 cm。ヨーロッパでは16世紀から栽培されており、日本でもいろんな園芸品種が栽培されているようだ。葉は最大長3.5 cmの楕円形〜披針形で、革質で艶がある。花は大きさ12〜18 mmで、花弁状の萼片(wing)は白色で立ち上がるが、ピンク色や紫色の個体もあり、そちらの花の方が格段に美しい。花弁３枚が癒着したkeelは咲き始めは黄色だが、時間の経過と共にオレンジ色に変化する。この花は、花弁状萼片が立ち上がるので、他のヒメハギ属とは大分印象が異なる。何とも奇妙な形の面白い花だ。

◇2004.06.08　Izoard Pass, French Alps, France

Polygalaceae　　*Polygala paucifolia*

ヒメハギ科　ヒメハギ属　英語名: Fringed Polygala, Gaywings

国内に自生する近縁の種: ヒメハギ

カナダの中部～東部と米国東部に分布する多年草で、部分的に地下をはう茎から地上茎が立ち上がり、草丈は最大でも15 cmほど。茎の下部には苞葉状の葉がつき、長さは3～6 mm。茎の上部には、長さ2.5～4 cmの楕円形～卵形で全縁の葉がまとまって互生し、上から見ると輪生しているように見える。葉腋に1～4個のピンク色～濃赤紫色の花を横向につける。花は５個の萼片と３個の花弁からなり、幅と長さは2 cmほど。３枚の外萼片は小さく、２枚の花弁状内萼片は長さ1.3～2.5 cmの狭楕円形で、鳥の翼のように大きく開く。３枚の花弁のうち２枚は癒着して筒状となり、３枚目は白い舟形となって、先端は赤紫色の房状に細かく切れ込む。これは、日本にあるヒメハギと似たところもある花だが、はるかに大きくて、よりダイナミックな造形で、文句なしに大変魅力的である。◇2013.06.14　Northern Minnesota, Minnesota, USA

Polygalaceae　　*Polygala vulgaris*

ヒメハギ科　ヒメハギ属　英語名: Common Milkwort

国内に自生する近縁の種: ヒメハギ

これはヨーロッパでは普通に見られる多年草で、草地、林縁、日当たりの良い林などに生え、草丈は7～35 cm。茎は枝分かれして下部は木質。茎の下部につく葉は長さ1～2 cmのさじ形で互生し、上部の葉は先の尖った披針形で、鋸歯と毛はない。茎の頂部に数個の花が横向につき、長さ6～8 mmの花は青色～菫色。萼片は５個あり、３つの外萼片は緑色で小さい。内側の２枚は大きくて横に広がるが、普通は下花弁より短い。花弁は３枚あり、２枚の側花弁は小さくて、筒状に固まった８本の雄しべの横に付く。３枚目の下花弁は大きく、後半部は筒状部と一体となるが、前半部は白っぽくて房状に切れ込む。ウイキペディア情報では日本にも自生するとある。しかし、「日本維管束植物目録」によれば、日本にはヒメハギ属が５種自生するが、この種は自生しないし帰化してもいない。◇2000.06.14　Barrem北方, Provance, France

Polygonaceae

Bistorta officinalis subsp. *officinalis*
イブキトラノオの基準亜種

タデ科　イブキトラノオ属　英語名：Common Bistort, European Bistort

国内に自生する近縁の種：クリンユキフデ、ナンブトラノオ

これはヨーロッパ原産の多年草で、湿った草地、湿地、林縁などに生え、草丈は20～80 cm。茎は無毛で直立し、分岐しない。根生葉は無毛で長い柄のある長楕円形で、基部は丸いか心形。茎の上部には、少数の柄のない三角形の茎葉がつく。茎先に長さ3～6 cm、太さ1～2 cmの穂状花序をだし、長さ4～5 mmの小さな花を多数横向につける。花はピンク色で５つの花被片があり、披針形で先が尖る。雄しべは８本で花柱は３本。北海道にあるエゾイブキトラノオと、本州のイブキトラノオはこれの亜種で、前者はこの基準亜種と似た花序をつけるが、後者の花序はもっと細長く色も淡い。この植物は群生することが多く、地上から高いところにピンク色の花が立ち並ぶのは壮観である。◇2007.06.24　First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

シノニム：*Polygonum bistorta*

Primulaceae　　*Androsace alpina*

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名：Alpine Rock-Jasmine
国内に自生する近縁の種: トチナイソウ

アルプス原産の多年草で、標高2,000〜4,000 mの酸性岩（主に花崗岩）の岩場やガレ場に生え、草丈は2〜5 cmしかない。これは、標高4,000 m以上の高度まで生育できる数少ない植物の一つで、マッターホルンの頂上直下にもあるという。普通は密集して、最大幅30 cmのマット状に広がる。葉は披針形〜線形で長さ5〜10 mm、根元に集まって球形〜カップ状のロゼットを形成する。葉には星状毛が密生する。各ロゼットから、短い花柄のある花が1〜数個立ち上がり、同一株でも白い花とピンク色の花が混じり合う。花冠は５裂して径7〜9 mmに平開し、裂片の先は丸くて喉は黄色い。私見であるが、これはムラサキ科の*Eritrichium nanum* (p. 81)と並んで「これぞアルプスの高山植物の王様」と見なしている種である。全体的な佇まいと花色の艶やかさは、「もう最高」というしかない。残念ながら、写真の花は前日までの悪天候で少し傷んでいる。　◇2016.07.16 Rotenbodenの上方, Wallis, Switzerland

Primulaceae　　*Androsace carnea* var. *brigantiaca*

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名: Pink Rock-Jasmine

国内に自生する近縁の種: トチナイソウ、リュウキュウコザクラ

種レベルでは、ピレネー山脈東部からアルプス中部にかけての標高1,400〜3,100 m地帯に生える高山植物で、いくつかの変種（亜種とする説もある）がある。ここに示すのはアルプスの南西部に限って分布する変種で、草丈は10〜15 cm。次ページの基準変種よりは、全体的に大型である。葉は根生してロゼット状につき、先の尖った披針形で、長さは10〜30 mm。小さい鋸歯がある。花茎の先に小さな散形花序をだし、数個の花を上向きにつける。花は径5〜9 mmの５弁花で、白色の花弁は僅かに紅色を帯び、花の喉は黄色い。この変種は、花弁がパラボラ状に開くのが特徴のようだ。しかし、現地で詳しく観察しなかったので、写真の植物は他の変種である可能性も残される。◇2012.06.16　Galibier Pass, French Alps, France

Primulaceae　　*Androsace carnea* var. *carnea*

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名: Pink Rock-Jasmine
国内に自生する近縁の種: トチナイソウ、リュウキュウコザクラ

これは、前ページvar. *brigantiaca*の基準変種で、ピレネー山脈東部とアルプス西部に分布する多年草。ただし、スイスのヴァリス州も分布範囲である。ツェルマット周辺では、標高1,400〜3,100 mの岩場や草地に生える。葉は先の尖った線形で、根元に集まって径1〜2 cmの密なロゼットとなる。葉には星状毛のあるものと無いものがある。ロゼットから長さ2〜7 cmの花茎が立ち上がり、1〜6個の花が集まった散形花序をだす。花冠はピンク色〜白色で５裂し、裂片は径5〜9 mmに開くが平開することは少ない。写真の花は花冠裂片の基部に濃色の部分があり、黄色い喉を取り巻くリングとなって美しいが、花冠全体が単色の花も多く見られる。それにしてもアルプスにはトチナイソウ属の種が多い。世界には110種あるというが、美しい花を咲かせる種や変種が、アルプスだけで24種類もあるのだから嬉しくなる。
◇2016.07.18 Unterrothorn, Wallis, Switzerland

Primulaceae　　*Androsace chamaejasme* subsp. *chamaejasme*

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名：Ciliate Rock-Jasmine

国内に自生する近縁の種：リュウキュウコザクラ

これは日本にもあるトチナイソウの基準亜種で、一見しただけではトチナイソウとの違いは分からない。種レベルでは周極分布をし、この基準亜種はアルプスを含むユーラシアに分布するというが、正確な分布範囲は分からない。Collins社の図鑑では、ピレネー山脈中部とアルプスに分布となっている。またネット情報では、つく場所によって形の異なる３種類の葉が特徴だという。英国の図鑑では。葉は根生するのではなく、毛の生えた茎の先にロゼット状につくように描かれている。しかし、説明文は簡単でこの特徴に関する記述はない。アルプスでは標高3,000 mまでの岩場や高山性の草地に生え、草丈は2〜10 cm。葉は長さ5〜16 mmの長楕円形で、縁に長毛があり、ロゼットを作る。直立する花茎にも長い毛があり、茎先に2〜8個の花が集まった散形花序をだす。花の特徴は次ページの亜種と共通するが、スイスアルプスで見たものには喉がピンク色のものが多かった。

◇2016.07.10　Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Primulaceae　　*Androsace chamaejasme* subsp. *lehmanniana*

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名：Rock-Jasmine

国内に自生する近縁の種：リュウキュウコザクラ

これは北米大陸西部からアジア北部に分布し、ツンドラ、高山の岩場、砂礫地、稜線などに生える多年草で、草丈は3〜10 cm。根生葉は重なったロゼット状につき、長さ3〜15 mmの披針形で、全縁の縁には毛があるが、葉身には軟毛のあることもないこともある。長い軟毛の生えた花茎を伸ばして先にコンパクトな散形花序をだし、短い花柄のある花を2〜6個つける。花は径5〜8 mmで５裂し、裂片は乳白色〜白色。のど元は黄色かピンク色。萼は長さ2〜3 mmで長い毛があり、５裂片の長さは筒部と同じ。日本のトチナイソウは「日本維管束植物目録」ではsubsp. *capitata*とされているが、従来通り北米の亜種(subsp. *lehmanniana*)と同じと考える人も多いようだ。この花はカナディアンロッキーのあちこちで見たが、稜線の株を含めて花茎は長かった。日本のトチナイソウは花茎の長さが3〜４ cmなのでかなり違う印象だが、米国の図鑑では3〜10 cmということなので、トチナイソウ並みに短いものもあるのだろう。 北米ではいくつかの亜種が提唱されているが、「Plants of North America」ではその全てはsubsp. *lehmanniana*の範疇に入るとしている。◇2013.06.10　Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Primulaceae

Androsace vitaliana

サクラソウ科　トチナイソウ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：トチナイソウ、リュウキュウコザクラ

ピレネー山脈からアペニン山脈までの、標高1,700〜3,100 m地帯に分布する多年草で、がれ場や砂礫地に生えてマット状に広がり、草丈は最大でも5 cm。葉は長さ5〜10 mmの線形で、小さいロゼットとなり、緑色〜灰緑色で毛が生える。ロゼット葉の先に黄色い花が１個つく。花冠は５裂して花弁状裂片は径9〜11 mmに開く。花には花柄がなく、長さ1〜1.5 cmの少し太い筒部がある。これは形態変化の大きい植物で、地域によって異なる亜種がいくつもある。トチナイソウ属にしては珍しく黄色い花だが、*Vitaliana primuliflora*という学名もあり、文献によってどちらをシノニムにするかが違っている。つまり、本種をトチナイソウ属とはしない学説もあるということだ。◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

シノニム：*Vitaliana primuliflora*

Primulaceae　　*Dodecatheon pulchellum*

サクラソウ科　△属　英語名: Pretty Shootingstar
国内に自生する近縁の種: なし

米国の西部、カナダの南西部全域、カナダ北西部の一部、に分布する多年草で、湿った草地、岩れき斜面、川岸などに生え、草丈は5〜40 cm。葉には葉柄があって根生し、長さ2〜15 cmの楕円状披針形〜倒披針形で、縁に鋸歯はない。高く伸びた花茎の先に散房花序をだし、2〜8個の花をつける。萼は緑色で５裂し、裂片の長さは3〜5 mm。花冠は濃いピンク色で長さ10〜20 cm、深く５裂して裂片は強く反り返る。筒部は黄色で短く、普通は基部に紫色の波線がある。花糸は癒着して長さ1.5〜3 mmの筒状となり、黄色〜赤紫色の葯は長さ4〜7 mm、５個が集まって前方に突き出す。本種は形態変異が大きく、７つの変種があるという。シューティングスターは北米大陸と北東シベリアの一部にしかないグループで、全部で14種あるが、種による花色の違いが大きく、どの種も実に魅力的で出会うのが楽しみである。
◇2013.06.13　Bow Valley Wilderness Provincial Park, Canada

Primulaceae（Myrsinaceae）　　*Lysimachia borealis*

サクラソウ科　オカトラノオ属　英語名：Star Flower

国内に自生する近縁の種：ツマトリソウ、オカトラノオ、ウミミドリ

これはカナダ中・南部と米国東部、米国西部に分布する多年草で、米国に限れば隔離分布することになる。一部の情報では、北米大陸の東西に分かれて分布する２つの亜種があり、カナダ南東部と米国の東部に分布するものを基準亜種とする。しかし、亜種に分けない情報も多いので、ここでも種レベルでの記述とする。この種は、湿った針葉樹林、広葉樹林、明るい林に生え、草丈は8～30 cm。大きさの異なる葉が5～9枚茎先に輪生し、両端が尖った披針形の葉は長さ4～13 cm。茎頂から花柄を伸ばし、通常は２個の白い花を平開する。 花は径1～1.5 cmの７弁花で、先の尖った披針形の花弁は基部で癒着する。Ver. 2では*Trientalis*属としたが、最近の検索ではツマトリソウと同じオカトラノオ属となっている。また、サクラソウ科に移されたのは最近のことで、多くの図鑑では本種はMyrsinaceae科となっている。

◇2013.06.15 Baudette近郊, Minnesota, USA

シノニム： *Trientalis borealis*

Primulaceae　　*Primula elatior*

サクラソウ科　サクラソウ属　英語名：Oxlip

国内に自生する近縁の種：サクラソウ、エゾコザクラ、ユキワリソウ

ヨーロッパと西アジア原産の多年草で、北はスエーデン南部、東はアルタイ山脈まで分布する。湿った草地や林内に生え、草丈は10～30 cm。根生葉は長さ5～15 cmの楕円形でロゼットとなり、葉柄との付け根に向かって急に細くなる。葉には皺があり、縁には不規則な切れ込みがあって裏側に巻き、両面に毛がある。茎頂に散房花序を出し、10～30個の花を一方向に偏ってつける。花は淡黄色の筒状で５深裂し、裂片は先が２浅裂して、径15～25 mmに斜開する。花冠の基部は、色が濃くなる傾向がある。花には香りがなく、萼は細くて稜がある。これは、アルプスに数あるサクラソウ属の中で、日本のサクラソウ (*P. sieboldii*)に最も似ている。とはいっても、花の色は違うし、花茎は太いし、花は平開しないなど、両者の相違点は数多い。事ほど左様に、次ページの*P. farinosa*を除けば、アルプスと日本のサクラソウ属には類似性が少ないということである。　◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Primulaceae　　*Primula farinosa* subsp. *farinosa*

サクラソウ科　サクラソウ属　英語名：Bird's-Eye Primrose

国内に自生する近縁の種：サクラソウ、エゾコザクラ、ユキワリソウ

これは日本にあるユキワリソウ(subsp. *modesta*)の基準亜種で、ヨーロッパ中部～南部の高山と北欧に分布する多年草。湿り気のある放牧地や湿地に多くて、草丈は3～20 cm。葉は根生してロゼット状につき、長さ2～10 cmのさじ形～楕円形で、鋸歯はあったりなかったり、表面はスムースで裏面には白い粉がつく。花茎の先に丸い散房花序をだし、淡紅色の花を2～10数個ほどつける。花冠は５裂して裂片は径8～16 mmに平開し、のど元は黄色い。まれに花冠が白い花も見られる。日本のユキワリソウと同じ種なので、当然ながらよく似ている。また、ヨーロッパアルプスに数あるプリムラの中では余り派手な花ではない。エゾコザクラに似ているところもあるが、花はより小型で、普通は花序もコンパクトに纏まっている。これまで、本種にはエゾコザクラほどの派手さはないと思っていたが、最近オーストリアで出会った写真の株は、ユキワリソウの変種であるレブンコザクラ並みに華やかで美しい花であった。◇2015.06.29 Seegrube, Innsbruck近郊、Austria

Primulaceae　　*Primula hirsuta*

サクラソウ科　サクラソウ属　英語名：European Alpine Primrose

国内に自生する近縁の種：イワザクラ、ヒダカイワザクラ

ピレネー山脈とアルプスの1,500～3.600 m地帯に分布し、湿った岩場やガレ場、岩の割れ目などに生え、草丈は5～25 cm。葉は長さ1～9 cmの卵形～円形で、翼のある葉柄がある。葉身はやや肉厚で腺毛が生え、上半部には波形の鋸歯がある。長さ1～7 cmの短い茎先に散形状の花序をだし、1～15個の花をつける。花は鮮やかな紅紫色で、花冠は通常５裂して径1.5～2.5 cm。喉部は白い。この種には写真の花に１度出会っただけで、それも通常の５つの花冠裂片ではなく６つの裂片だった。しかし、実に存在感のある美しい花で、葉も日本のサクラソウ類では見たことのない形態で、上等だ。今度は、もっと沢山の花をつけた株を見てみたいものだと願っている。ちなみに、今年訪れたスイスアルプスでは、至る所の岩場で花後の本種に出会った。6月前半に出かければ、間違いなくこの美しい花を満喫できるだろう。

◇2012.06.21　Pranplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Primulaceae　　*Primula mistassinica*

サクラソウ科　サクラソウ属　英語名: Mistassini Primrose

国内に自生する近縁の種: エゾコザクラ、ユキワリソウ

カナダの広い範囲と米国北東部の一部に分布する多年草で、湿原や湿った草地に生え、草丈は5～15 cm 。根生葉はロゼット状につき、長さ1.3～3 cmの楕円形～さじ形で、波形の不規則な鋸歯がある。葉の表面は淡緑色で、裏面には白色～帯黄色の粉がつく。ロゼット葉の真ん中から直立する、細くて褐色無毛の花茎の先に、１～5個の花を横向につける。花は径9～18 mmで、淡紅色の花冠は５深裂し、裂片の先は浅く２裂する。喉部は濃黄色で、５本ある雄しべは筒部に隠れて見えない。本種は、何とも小さなロゼット葉で、細長い茎に少数の小さな花が咲いて目立たないが、紛れもないエゾコザクラやユキワリソウの仲間で、美しいというよりは可愛い。ヨーホー国立公園の周遊歩道を１周して、出会ったのは、白っぽい花のこの一株だけだった。米国の分布地では数の少ない稀な種だとのことだ。◇2013.06.12 Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

Primulaceae *Primula veris*

サクラソウ科　サクラソウ属　英語名：Cowslip, Common Cowslip

国内に自生する近縁の種：クリンソウ

ユーラシア大陸の温帯域に広く分布する常緑～半常緑の多年草で、開けた野原や草地に生え、草丈は10～30 cm。アルプスでは、標高2,200 mまでの草地や牧場に生える。根生葉はロゼット状につき、長さ5～15 cmの楕円形で細かい鋸歯がある。葉脈はへこんで皺となり、表面には毛がある。花茎の先に10～30個の花が集まって散房花序となり、花は一方向にやや偏ってつく。花は径9～15 mmの筒状花で柄があり、花冠は濃黄色で、緑色の角張った長い萼筒がある。また、花には芳香がある。日本のクリンソウに似た“サクラソウ”だが、花色が黄色いのと花冠の径が小さいので、クリンソウのような派手さはない。日本には黄色い“サクラソウ”はないし、北米にもないようだが、ヨーロッパには数種類ある。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Queyras Regeonal Natural Park, French Alps, France

Primulaceae

Soldanella alpina
イワカガミダマシ

サクラソウ科　ソルダネラ属　英語名 : Alpine Snowbell
国内に自生する近縁の種:　なし

これは、ピレネー山脈からアペニン山脈にかけての、主に石灰岩地帯に分布する常緑の多年草である。標高1,200～3,000 m地帯の湿った牧草地や岩礫地に生え、草丈は5～15 cm。根生葉には長い柄があり、葉身は幅1～4 cmの円心形～腎形で、表面には艶がある。無毛の花茎は褐色で、茎頂に2～4個の花をうつむき加減につける。萼片は５個あって、黄褐色の披針形。花冠は径10～15 mmの鐘形で菫色～赤紫色、基部まで細かく切れ込み、裂片の先は反り返る。雄しべは子房を取り囲んで上部でまとまり、その中心から長い雌しべが突き出す。これはアルプスの高山植物を代表する花の一つで、日本のイワカガミと似ている点もあるが、花冠裂片が優美な弧を描いて反り返るのがいい。花の豪華さではイワカガミの方が優れているが、全体の優美さではこちらの方が勝っている。◇2012.06.22　Balme Pass, Chamonix Mt-Blanc, France

Primulaceae　　*Soldanella austriaca*

サクラソウ科　ソルダネラ属　英語名 : Austrian Snowbell
国内に自生する近縁の種:　なし

東部アルプスのオーストリアとイタリア領に自生する多年草で、湿った草地やガレ場に生え、草丈は3〜10 cm。葉は全て根生し、幅の広い腎形で、長い葉柄と艶がある。葉柄と花茎が短い繊毛で被われるのが、本種の特徴である、花茎は直立し、茎頂に細い釣鐘形の花を１個下向きにつける。花には１個の苞葉があり、立ち上がらないで水平につく。萼は５裂し裂片は披針形で斜めに開く。花茎、苞葉、萼裂片は共に赤褐色を呈する。花冠は白味を帯びた淡紅色の細い釣鐘形で、長さは9〜12 mm。花冠の先は細かく切れ込んで少し開く。前ページの*S. alpina*よりは花冠の色が薄く、裂片の切れ込みと開きも少ない。アルプスにはソルダネラ属が８種あるらしいが、これまでは*S. alpina*しか見たことがなく、別の種を見たいものだと思っていた。今回その願いが一部叶ったが、この花は花冠裂片の切れ込みが浅く、大きく開かないので、派手ではないがなかなか味わいのある花である。◇2015.06.29 Innsbruck近郊、Austria

Primulaceae　　*Soldanella pusilla*

サクラソウ科　ソルダネラ属　英語名: Dwarf Snowbell

国内に自生する近縁の種: なし

中部アルプス、北部アペニン山脈からバルカン半島まで分布する無毛の多年草で、標高1,800〜3,100 mの雪田跡や貧栄養の草地に生え、草丈は2〜10 cm。根生葉は長い柄のある腎形〜円形で、葉身は最大でも幅1 cmほどしかない。葉は革質で鋸歯はなく、ルーズなロゼット状となる。ロゼットの中心から淡赤褐色の花茎が直立し、茎頂に1個（まれに2個）の鐘形の花を下向きにつける。花冠は紫赤色の狭い鐘形で、先端が浅く房状に切れ込み、裂片は外側に反り返る。ここで取り上げた*S. alpna* (P. 364)や*S. austriaca* (P. 365)と比べると、葉が極めて小さいのが本種の特徴で、花冠の房状切れ込みは*S. alpna* より浅い。なお、私は見たことがないが、本種には濃赤色や白色の花をつけるものも稀にあるとのことだ。

◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Ranunculaceae *Aconitum vulparia*

キンポウゲ科　トリカブト属　英語名：Variegated Monkshood, Yellow Wolfsbane
国内に自生する近縁の種：オオレイジンソウ、エゾノレイジンソウ、エゾトリカブト

本種は、ピレネー山脈からアペニン山脈にかけての山岳地帯に分布し、標高2,000 mまでの草地や林内に生えて、草丈は60～120 cm。葉は掌状に4～6中裂し、裂片はさらに浅く切れ込む。毛のない茎先に穂状の総状花序をだし、長い花柄の先に淡黄色の花をつける。これは、日本のオオレイジンソウにそっくりの植物で、特に珍しい点や変わったところはない。本種はトリカブト属の一員なので当然有毒植物だが、持っただけで手がしびれるとか、オオカミを毒殺できる唯一の草なので英語名がwolfbaneだとか、恐ろしげな事がネット情報に書きこまれている。トリカブトの猛毒は日本でもよく知られているが、レイジンソウ類をそんなに強い毒草と見なしているだろうか。◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Ranunculaceae　　*Anemone baldensis*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名 : Monte Baldo Anemone

国内に自生する近縁の種:　イチリンソウ、ハクサンイチゲ、アズマイチゲ

これは、アルプスに固有のアネモネで、分布は局所的だという。しかし、去年のドロミテ山塊に加え、今年はスイスアルプスの何カ所かでこの花に出会った。それはともかく、本種は、標高1,800〜3,000 mの岩場やガレ場に生え、草丈は15〜25 cm。特徴的なのは開花期で、他のアネモネやオキナグサの仲間が春先から初夏に咲くのに比べ、本種は７月〜８月に開花する。根生葉は３出複葉で、小葉は３裂して鋸歯がある。茎葉も似た形だが、小さい。花は毛の生えた茎頂に１個付き、径2.5〜4 cmで白い花弁状萼片が６〜10枚平開する。萼弁は長楕円形で先は丸みを帯び、外側が青みを帯びる花もある。雄しべは多数あり、花糸と葯は黄金色で純白の花弁状萼片とのコントラストが美しい。◇2015.07.02 Sella Pass, Alpi Dolomitiche, Italy

Ranunculaceae *Anemone canadensis*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Canadian Anemone, Meadow Anemone
国内に自生する近縁の種：ハクサンイチゲ、ニリンソウ

米国の西部と南部を除く北米大陸に広く分布する多年草で、湿った草地、雑木林、川岸などに生え、草丈は30～60 cm。根生葉には長さ10～20 cmの葉柄があり、葉身は長さ7～15 cmで3～5深裂し、倒披針形の裂片はさらに2～3裂して先は尖る。茎葉は1～2段対生し、形は根生葉と同じだが柄はない。毛のある茎先に長い花柄のある白い花が1～3個つく。花は径2.5～4 cmで、白色の花弁状萼片が５枚あり、中心に黄色い雄しべが多数集まる。これは、日本のニリンソウよりは大型で、花も大きくて見栄えのするアネモネである。どちらかといえば、「全体の感じは花の大きいフタマタイチゲ」という言い方も出来よう。花だけを見れば、イチリンソウといいとこ勝負の美しいアネモネである。◇2013.06.14　Baudette近郊, Minnesota, USA

Ranunculaceae　　*Anemone drummondii*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Alpine Anemone, Drummond's Anemone
国内に自生する近縁の種：ハクサンイチゲ、イチリンソウ

北米大陸西部のツンドラ地帯と亜高山～高山帯に分布する多年草で、岩がちの急斜面、岩礫質の稜線と草地などに生え、草丈は10～25 cm。根生葉は多数あり、2回三出複葉で、最終裂片は幅1～2.5 mmで長毛が生えるが、無毛のこともあるという。茎の中程には、根生葉と同形の茎葉が３枚輪生する。花は茎先に通常１個つき、花柄は長く伸びて、径2～5 cmの花は平開する。花弁状の萼片は5～9枚あり、楕円形～狭倒披針形で青色かラベンダー色を帯びた白色。萼片の外側には毛が密生し、雄しべと雌しべは多数ある。日本にも花が茎頂に１個つくアネモネはいくつもあるが、本種の葉は独特の形態で、日本国内で見るイチリンソウ属の葉とはかなり異なる。◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Ranunculaceae *Anemone multifida*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Cut-Leaved Anemone

国内に自生する近縁の種：アズマイチゲ、イチリンソウ、ハクサンイチゲ

米国南部を除く北米大陸に広く分布する多年草で、草地、疎林、岩れき斜面などに生え、草丈は20～70 cm。南米の一部にも隔離分布するという。本種は、形態と花色に変異が極めて大きい。根生葉は葉柄を含めた長さが5～20 cmで白毛に被われ、先の尖った裂片に裂けて、その裂片が更に切れ込むこともある。最終裂片は披針形で幅2～3.5 mm。茎葉には柄がない。茎は一株から１～数本が長くのび、茎頂に1～3個の花がつく。上向きに咲く花には花弁状萼片が5～8枚あり、色は乳白色～帯青黄色～紫色～赤色と極めて多様で、特に外側の色が濃い。長く伸びた花柄が印象的なアネモネで、ここに示すのは乳白色の花だが、2013年にバンフを訪れたときは、まだ蕾ながら真っ赤な花をつけた株をいくつも見た。◇2009.07.12　C Level Cirque Trail, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae

Anemone narcissiflora subsp. *narcissiflora*
ハクサンイチゲの基準亜種

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Narcissus-Flowered Anemone
国内に自生する近縁の種：アズマイチゲ、イチリンソウ

種レベルでは、周極分布をして北半球北部に広く分布する多年草で、地域による形態変異が大きく、少なくとも12種類の亜種や変種が知られている。日本国内だけでも、２つの亜種（ハクサンイチゲとエゾノハクサンイチゲ）があるし、北米には３つの変種がある。この写真はヨーロッパにある基準亜種で、ピレネー山脈からアペニン山脈にかけて分布する。主に石灰岩地帯の湿った草地に生え、草丈は25～60 cmで、長さ4～20 cmの葉柄がある根生葉を3～10枚つける。茎頂には３枚の苞葉があり、そこから伸びた長い花柄の先に、径2～3 cmの白い花を2～8個平開する。ハクサンイチゲとよく似ているが、葉の切れ込みが深くて最終裂片は細く、先が尖るという違いがある。これは、日本の高山ならどこにでもある種だが、アルプスでは比較的限られているらしく、スイスアルプスではたまに見かける程度だそうだ。しかし、フレンチアルプスは石灰岩が多いためか、何カ所かで大きな群落を見かけた。
◇2012.06.17　Queyras Regeonal Natural Park, French Alps, France

Ranunculaceae *Anemone occidentalis*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Western Pasque Flower, Old Man of the Mountain

国内に自生する近縁の種：イチリンソウ、ハクサンイチゲ

カナダ南西部と米国北西部に分布する多年草で、湿った草地や岩礫地に生え、草丈は10〜60 cm。これをオキナグサ属の種とする説も有力なようだ。根生葉は3〜6枚あり、長さ6〜10 cmの柄があって、葉身は三出複葉。小葉はさらに切れ込んで最終裂片の先は尖る。茎葉には柄が無い。花は茎先に１個つき、径は2.5〜5 cm。雪融け直後に、茎が伸び始めると同時に開花し始める。花には5〜7枚の花弁状萼片があり、色は普通白色だが淡紫色のこともある。萼片の長さは15〜30 mmで幅は10〜17 mm。茎には綿毛が生え、葉にもビロード毛がある。果実はOld man of the mountainという別名が示すように、長さ15〜20 cmの花柄の先につく円筒状の綿帽子のようで、これが立ち並ぶ様は大名行列の様で面白い。◇2013.06.12　Bow Summit, Banff National Park, Canada

シノニム：*Pulsatilla occidentalis*

Ranunculaceae *Anemone parviflora*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Northern Anemone

国内に自生する近縁の種：アズマイチゲ、キクザキイチゲ、イチリンソウ、

北米大陸北西部とカナダの北部に分布する多年草で、湿った岩礫地、草地。川岸などに生え、草丈は10〜30 cm。殆ど毛のない個体と、軟毛が密生する個体とがある。根生葉は数枚で、長い柄があり３裂する。裂片はくさび状で艶があり、先端には粗い鋸歯か切れ込みがある。茎には2〜3枚の苞葉が輪生し、そこから長い花柄を伸ばして１個の花を平開する。花は径2〜5 cmで、長さ8〜13 mmの花弁状萼片が4〜7枚ある。花弁状萼片は楕円形〜広卵形で、内側は白色だが外側は青みを帯びることも多い。日本のアネモネと比べると、このアネモネは葉と花の組み合わせが変わっている。葉と苞葉はアズマイチゲと共通点もあるが、艶があって裂片の形は違う。何より本種の花はニリンソウのタイプで、アズマイチゲやキクザキイチゲの多弁の花とは違っている。茎先に５弁の花が１個つく点はヒメイチゲと共通するが、花弁状萼片はより大きくて先が尖るし、苞葉裂片の形も大きく異なる。結果として、日本には似たもののない珍しいアネモネということになるだろう。◇2013.06.11 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae　　*Anemone patens* var. *multifida*

キンポウゲ科　イチリンソウ属　英語名：Cut-Leaf Anemone, Prairie Crocus

国内に自生する近縁の種：イチリンソウ、ハクサンイチゲ

アラスカ州からカナダの西部～中部にかけてと、米国の中部一帯に分布する多年草で、標高100～3,800 mの乾いた草地、岩れき斜面などに生え。草丈は5～40 cm。根生葉には長さ5～10 cmの葉柄があり、葉身は三出複葉で小葉はさらに細かく切れ込み、最終裂片の先は鋭く尖る。茎と葉には白毛がある。花は茎頂に１個つき長い花柄がある、茎頂には、線状に4～6裂する苞葉も３枚つく。花には5～8枚の花弁状萼片があり、色は青色～紫色～まれには白色で、内側は色が薄いことが多い。雄しべは150～200本ある。*A. occidentalis* (p. 373)と同様に、本種もオキナグサ属のメンバーとする説がある。私はまだ見たことがないが、この変種は通常鮮やかな紫色の花をつけ、広い草原を埋め尽くすほどの群落で咲き乱れるという。私が訪れたのは花期の終わりで、写真に示すような、淡い花色の花が何本か残っているだけだった。

◇2013.06.13　Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

シノニム：　*Pulsatilla patens* subsp. *multifida*

Ranunculaceae　　*Aquilegia atrata*

キンポウゲ科　オダマキ属　英語名 : Dark Columbine

国内に自生する近縁の種: ミヤマオダマキ、ヤマオダマキ

アルプスとアペニン山脈の主に石灰岩地帯に分布する多年草で、標高2,000 mまでの林の開けたところや湿った草地、岩礫地に生える。高さ30〜90 cmまでに長く伸びた茎はよく分岐し、毛がある。根生葉は長い柄のある２回三出複葉で、茎葉は柄のない三出複葉だが、小葉には毛がない。花は径3〜4 cmで、花弁と萼片は共に暗紫赤色で光沢があり、距は内側に彎曲する。雄しべは花弁と同色で真直ぐ突き出すが、鮮黄色の長い葯が、暗色の花弁や萼片と美しいコントラストをなす。萼片の色は日本のヤマオダマキとややにているが、花弁が淡黄色ではないので雰囲気が異なる。この花色は、ワイルドフラワー全体を通しても珍しい色だろう。北米大陸で橙赤色の花をつける２種と並んで、美しい変わり者オダマキの代表格だと思う。

◇2015.07.03 Lake Misurina, Alpi Carniche, Italy

Ranunculaceae　　*Aquilegia bertolonii*

キンポウゲ科　オダマキ属　英語名：Bertoloni Columbine, Apennines Columbine
国内に自生する近縁の種：ミヤマオダマキ、ヤマオダマキ

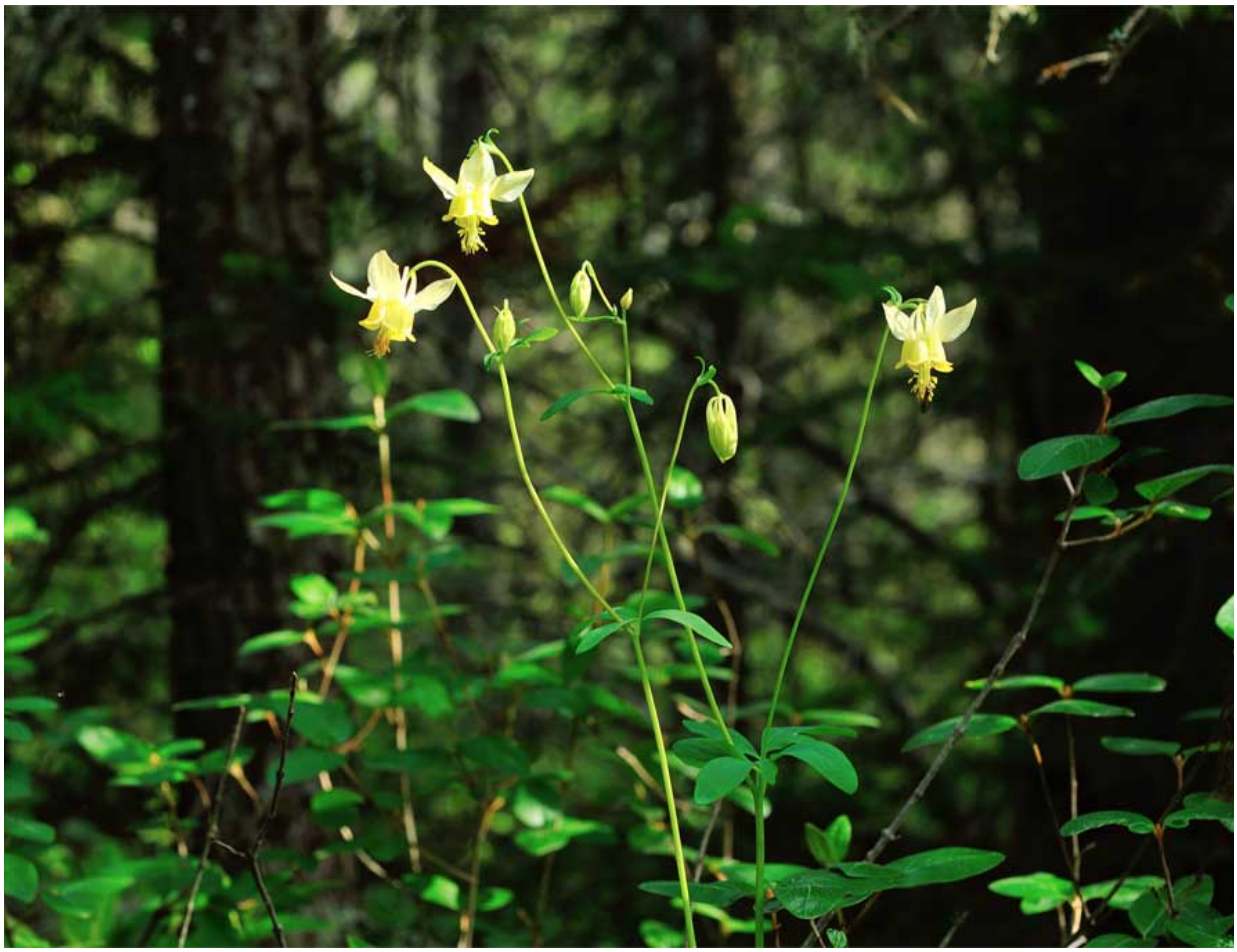
これは、アルプス南西部のフランスとイタリア領に分布する多年草で、標高1,700 mまでの林内や岩礫地に生え、草丈は10～30 cm。花は茎先に最大４個つき、径2.5～3.5 cmでうつむき加減に咲く。花弁状萼片は青菫色～暗青色で５枚あり、大きく開く。花弁も５枚で、萼片と同色だがより小型で、筒状にまとまって先は外側に少し開く。距は真っ直ぐに伸びるか内側に少し彎曲する。この種に関しては、英語の詳しい記載を見つけられないでいるが、日本のミヤマオダマキとの最大の違いは、花弁が萼片と同じ青菫色ということになろう。欧米のガーデニングでは人気の高い「オダマキ」のようで、ネット販売の情報は沢山ある。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Quayras Regional Natural Park, French Alps, France

Ranunculaceae　　*Aquilegia canadensis*

キンポウゲ科　オダマキ属　英語名: Canadian Columbine, Wild Columbine
国内に自生する近縁の種: ヤマオダマキ、ミヤマオダマキ

北米大陸の東半部に分布する多年草で、標高1,600 mまでの森林や岩がちの斜面に生え、草丈は15～90 cm。根生葉は2～３回三出複葉で長い柄がある。小葉は最大長9 cmの卵形で、長い柄があって基部はくさび形。小葉はさらに３裂し、裂片は丸みがある。茎葉はよりシンプルで小型。茎は無毛で枝分かれし、枝先に１個の花を下向きにつける。花は長さ3.8 cmほどでヤマオダマキによく似ており、距は直立して内側に巻き込むことはない。何といっても特筆すべきは花の色で、萼と距は橙赤色で花弁の先は黄色い。雄しべは黄色で、花冠から長く突き出し、葯も黄色だ。赤みがかったこの花色は、日本のオダマキには見られないものだ。雄しべが長く突き出るのは少し興ざめだが、野山で出会うと嬉しくなる、魅力的で変わったオダマキである。◇2013.06.15　Baudette近郊, Minnesota, USA

Ranunculaceae *Aquilegia flavescens*



キンポウゲ科　オダマキ属　英語名 : Yellow Columbine

国内に自生する近縁の種:　ヤマオダマキ、ミヤマオダマキ

北米のロッキー山系に分布する多年草で、ブリティッシュコロンビア州、アルバータ州からユタ州まで分布し、標高1,300～3,500 mの草地、疎林、山の斜面などに生えて、草丈は20～70 cm。葉は多くが根生し、長い柄のある２回三出複葉で、小葉はさらに2～3裂する。葉には毛がないか軟毛がある。茎葉は少ないが互生し、柄は短い。茎は分岐して茎頂に１個の花を下向きにつけ、花の径は2.5～5 cm。５枚の花弁状萼片は黄白色の披針形で、大きく開いて先端部は反り返る。５枚ある花弁は黄色で、基部の距は内側に巻き込む。花弁状の萼片は赤味を帯びた黄色になることもある。この種でも、沢山ある雄しべは花冠から長く突き出す。日本のキバナノヤマオダマキと似た花だが、萼片が反り返るのと、雄しべが突き出す点が異なる。どう見ても、キバナノヤマオダマキの方が優美さで勝るようだ。◇2009.07.12　C Level Cirque Trail, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae

Aquilegia formosa

キンポウゲ科　オダマキ属　英語名：Red Columbine, Crimson Columbine

国内に自生する近縁の種：ヤマオダマキ、ミヤマオダマキ

北米大陸の西半部に分布する多年草で、低地〜山地帯の湿り気のある多様な環境に適応し、草丈は20〜80 cm。標高3,300 mにまで登ることもあるが、本種は北米東部の*A. canadensis* (p. 378)とは違って、より低いところが分布の中心である。全体の草姿は他の北米産オダマキ類と似ているし、花の色も*A. canadensis*に似ているが、萼片は細長く、花弁とは直交して水平に開出する点が異なる。また、萼片と距の色も、*A. canadensis*よりは色が濃くて鮮やかかな。距は殆ど真っ直ぐだが、先端が僅かに内側に曲がる。赤い萼片は長さ1.5〜2.5 cmの楕円径〜披針形で、黄色い花弁は長さ2〜5 mmしかないが、赤い距は長さ10〜15 mm。雄しべは花の長さの2/3ほど花冠から突き出す。日本のオダマキ類は雄しべが突き出さないし、ヨーロッパのオダマキ類でも、少し突き出すのが１種あるけど残りの数種は突き出さない。北米の種でも雄しべが突きでないものはあるのだが、色のきれいな種はどれも雄しべがうるさくて、少し残念というところ。◇1997.06.04　Mendocino National Forest, California, USA

Ranunculaceae

Aquilegia vulgaris

キンポウゲ科　オダマキ属　英語名：European Columbine, Granny's Bonnet
国内に自生する近縁の種：ヤマオダマキ、ミヤマオダマキ

これは、中部〜南部ヨーロッパと北アフリカに広く分布する多年草で、標高2,000 mまでの主に石灰質の森林、草地、岩場などに生え、草丈は40〜120 cm。北米では、広い範囲に帰化しているという。茎は直立して少し分岐し、普通は毛が生える。根生葉は2回三出複葉で表面は濁った緑色、裏面には毛がある。茎葉は羽状に切れ込み、普通はその先端が３裂する。花は径3〜4 cmで萼片と花弁が共に菫青色〜紫色。両方共に先端部が白い個体もある。萼片は大きく開き、花弁の先は少し外側に彎曲することが多い。雄しべは黄色で、花冠から僅かに突き出す。先に取り上げた*A. bertolonii*と比べると、花色は紫色に近い。それにしても、ヨーロッパには青色〜紫色の花をつけるオダマキ類が多いが、どれも花弁と萼片の色が同じなので、色が違う日本のミヤマオダマキは美しい変わり者という感じだ。◇2012.06.16
Granon Pass, French Alps, France

Ranunculaceae

Caltha leptosepala

キンポウゲ科　リュウキンカ属　英語名：Mountain Marsh-Marigold

国内に自生する近縁の種：エゾノリュウキンカ、リュウキンカ

これは、北米大陸西部に分布する多年草で、低地帯～高山帯の湿った草地や川岸、雪田跡などに生え、草丈は5～40 cm。葉の形や花の数に変異が多く、２つの変種（種レベルとする意見も）を認める意見もあるが、種内変異のうちとする意見もある。葉は殆どが根生し、茎にはあっても1～2枚つく程度。葉には長い葉柄があり、葉身は革質で艶があり、楕円形～卵形～円形～腎形と形は多様で、長さは2～12 cm。鋸歯はなかったり、鈍頭鋸歯があったりする。花は茎頂に1～2個つくが、まれには４個のこともある。花柄は長い。茎と花柄は無毛で、黒褐色～緑色。花は径2～4 cmで、白い花弁状萼片は6～12枚ある。これは、エゾノリュウキンカと同じ属だが、花色の違いの他に、萼片の形状や葉の形と大きさの違いなど、似ているところを探すのが難しいほど見た感じが異なる植物で、日本人にとっては珍しくて、魅力的な植物である。◇2009.07.14　Healy Pass, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae

Caltha palustris var. *palustris*
リュウキンカの基準変種

キンポウゲ科　リュウキンカ属　英語名：Marsh-Marigold
国内に自生する近縁の種：エゾノリュウキンカ

これは、北半球の温帯に広く分布する多年草で、本州、九州、朝鮮半島にある変種リュウキンカの基準変種である。北米大陸では、東部にはあるが西部には分布しないようだ。ヨーロッパでは広範囲に分布し、標高2,500 mまでの湿地、沼地、湖畔、川岸などに生えて、草丈は15～40 cm。寒冷地や高山では小型化する。根生葉には長い柄があり、茎葉の柄は短い。葉身は腎形で光沢があり、縁には浅い鈍頭鋸歯がある。茎先に1～7個つく花は径1.5～5 cmで、黄金色の花弁状萼片が５枚あり、杯状に平開する。花弁はなくて黄金色の雄しべが多数ある。この基準変種はリュウキンカとそっくりで、現地で見ただけでは違いが分かりにくいが、こちらの方が、花弁状萼片が幅広でずんぐりしているかな。◇2012.06.16　Lautaret Pass, French Alps, France

Ranunculaceae

Clematis alpina subsp. *alpina* var. *alpina*
エゾミヤマハンショウヅルの基準亜種

キンポウゲ科　センニンソウ属　英語名：Alpine Clematis

国内に自生する近縁の種：カザグルマ、ボタンヅル、ミヤマハンショウヅル

スカンジナビア、アルプスなど、ヨーロッパの山地帯～亜高山帯に分布する落葉性の木質つる植物で、木に絡んだり岩場を登ったりして高さ2～2.5 mにまで伸びる。スカンジナビアからシベリアにかけては、白い花を咲かせる変種(var. *sibirica*)が分布するという。葉は2回三出複葉で、曲がりくねった葉柄につく。葉腋から長い花柄が伸び、大きな花を１個下向きにつける。花は径2.5～7.5 cmで、菫色～紫色の花弁状萼片が４枚半開し、中心には雄しべのような花弁と雄しべの束がある。萼片は披針形で縦皺があり、布のような感じである。これはエゾミヤマハンショウヅルの基準亜種だが、両者は、花の形、色、大きさなどが随分違う。むしろ、北米にある *C. occidentalis* (p.386)の花の方がこれとよく似ており、そちらの方がこれの亜種ではないのかと思ってしまう。それはともあれ、大きさといい色合いといい、数あるセンニンソウ属の中でも、日本のカザグルマ、中国のテッセンと並んで、これは豪華な花のクレマチスを代表する存在であろう。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Queyras Regional Natural Park, French Alpsa, France

Ranunculaceae　　*Clematis aristata*

キンポウゲ科　センニンソウ属　英語名：Australian Clematis, Traveller's Joy
国内に自生する近縁の種：カザグルマ、ボタンヅル、ミヤマハンショウヅル

これは、オーストラリア東部に分布するつる性植物で、湿性の森林に生える。葉は三出複葉で対生する。小葉は最大長7.5 cmの楕円形で、縁には細かい不規則な鋸歯がある。これは雌雄異株の植物だが、花の形は雄株と雌株ではあまり違いがないという。上部の葉腋から花柄を伸ばし、乳白色～白色の花を１個つける。花は径3～7 cmで、披針形の萼片が４枚あり、十字配列する。これを撮影した当時は、まだ私のワイルドフラワー熱が高くなかったので、風景写真のつもりで撮ったのが写真の一枚。残念ながら、クローズアップの写真はない。◇1994.11.13　Bruny Island, Tasmania, Australia

Ranunculaceae　　*Clematis occidentalis* var. *grosseserrata*

キンポウゲ科　センニンソウ属　英語名：Western Blue Virginsbower

国内に自生する近縁の種：カザグルマ、ボタンヅル、ミヤマハンショウヅル

種レベルでは、カナダ南部と米国北部のうち中央部分を除く範囲に隔離分布する木質つる性植物で、この変種はカナダ南西部と米国の北西部に分布する。他の植物に絡みついて伸び、高さは0.2～2.5 mと変化する。葉は三出複葉で対生し、小葉は長さ2～11 cm。縁は通常全縁だが、まれに浅い鋸歯がある。葉腋から長い花柄を伸ばし、１個の花をうつむき加減につける。花は径3～6 cmで、4～5枚の花弁状萼片があり、萼片は披針形～卵形で先は尖り、色は菫青色～淡青色。この花はヨーロッパに自生するC. *alpina*によく似ており、両者は本当に別の種だろうかと疑ってしまいそうになるが、北米東部に分布する基準変種は赤紫色の花だそうで、花色からいえば*C. alpina*とそっくりというわけでもない。また、葉に鋸歯のあるものを*C. columbiana*と呼んで、カナダには分布しないという記述もあるが、異論もあって統一されていないようだ。◇2009.07.12　C Level Cirque Trail, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae

Clematis tanguitica
キバナハンショウヅル

キンポウゲ科　センニンソウ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：カザグルマ、ボタンヅル、ミヤマハンショウヅル

これは、中国の新疆ウイグル自治区から四川省西部にかけてと、中央アジアに分布するつる植物で、乾燥地帯の谷筋の岩礫斜面や水辺の砂礫地に生える。つるは木質で軟毛があり、地表をはって最大8 mまで長く伸びる。葉は1〜2回羽状複葉で、小葉は長さ2〜6 cmの長卵形〜長円状披針形。基部に鋸歯がある。花茎は長さ5〜15 cmで立ち上がり、先端に黄色い花をうつむき加減に咲かせる。花には花弁はなく、長さ2〜4 cmの楕円状披針形の萼片が4枚あり、先は細く尖って反り返る。写真の個体は、干上がった川筋の裸地に自生していたが、私にとって、黄色い花のクレマチスを見たのはこの時だけで、その後は再会の機会がない。◇1993.07.28 新疆ウイグル自治区, China

Ranunculaceae　　*Delphinium parryi* subsp. *parryi*

キンポウゲ科　オオヒエンソウ属　英語名：San Bernardino Larkspur, Parry's Larkspur
国内に自生する近縁の種：なし

カリフォルニア州南部とカリフォルニア半島に特産する多年草で、海岸や開けた林内に生え、草丈は最大で1 mに達する。葉は掌状に3～5裂し、裂片はさらに中程まで3裂する。花には５個の萼片と４個の花弁がある。下方の４個の萼片は鮮やかな濃青紫色で広がり、１個ある上萼片も濃青紫色でやや小型であり、後部は長い距となって上方に跳ね上がる。下方にある２つの小さい花弁は暗青色で、毛が密生する。上の２つの花弁はさらに小さく、白味のある赤紫色で前方に突き出す。北米にはオオヒエンソウ属が数多くあり、綺麗な花を咲かせる種が多いが、本種の深い色はその中でもピカイチの美しさだ。日本の野草でこの色の花を咲かせるものはないだろう。ところで、花と葉の形態から写真は*D. parryi*と考えているが、ネットでその分布範囲を調べると、撮影地は*D. parryi*の分布範囲の北限を少し越えたところにある。従って、これは表題の種ではない可能性もあるのだが、まあ間違いないだろう。◇1997.06.04　Mendocino National Forest, California, USA

Ranunculaceae　　*Pulsatilla alpina* subsp. *alpina*

キンポウゲ科　オキナグサ属　英語名：Alpine Pasqueflower, Alpine Anemone
国内に自生する近縁の種：オキナグサ、ツクモグサ

中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、標高1,200～2,700 mの石灰岩地帯で草地に生え、草丈は15～30 cm。植物全体に白毛が密生する。根生葉は長い柄のある三出複葉で、小葉はさらに分裂して最終裂片の先は尖る。茎葉は２回三出複葉で、柄があり、小葉は羽状に切れ込む。花は茎頂に１個上向きにつき、径4～6 cmで、白色の花弁状萼片が通常６枚（最大９枚）ある。萼片の先は尖らず、裏面には毛が密生する。2004年に初めてIzard峠を通ったとき、道路脇の草地にこの花が群がって咲いていて感激した。純白の萼片と多数ある黄色い葯とのコントラストが美しい。日本のオキナグサより大きな花が、殆ど平開と言える程度まで大きく開くのだから、よく目立った。そのときは黄色い花を咲かせる亜種があることを知らなかったが、その辺りは石灰岩地帯なので、この白花の基準亜種の独断場である。しかし、アルプスでは次ページに示す黄色い花の亜種(subsp. *apiifolia*)の方が、出会う機会が多いのだという。◇2012.06.17　Izoard Pass, French Alps, France

Ranunculaceae　　*Pulsatilla alpina* subsp. *aplifolia*

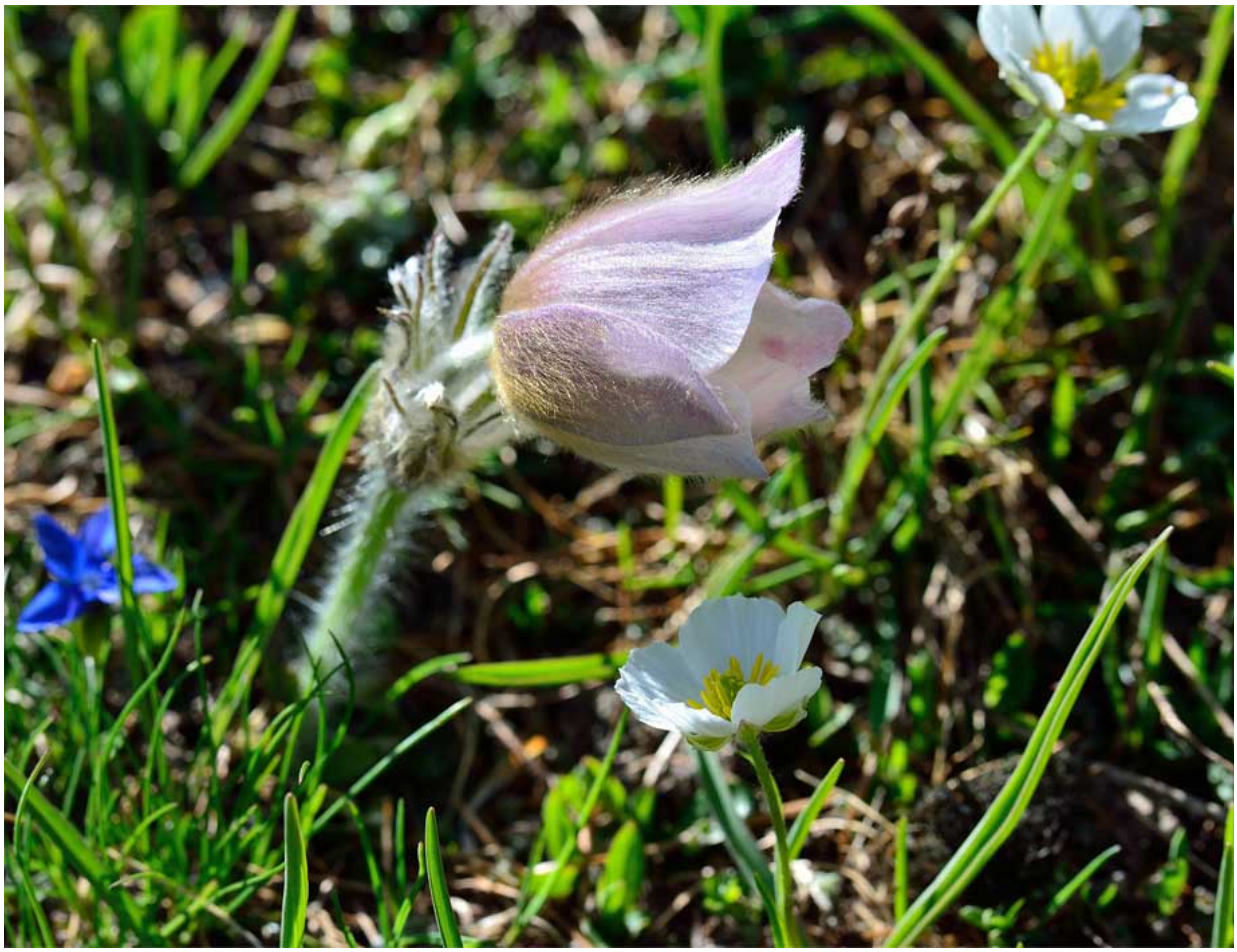
キンポウゲ科　オキナグサ属　英語名：Parsley-Leaved Pasqueflower

国内に自生する近縁の種：オキナグサ、ツクモグサ

この亜種は非石灰岩地帯に生え、黄色い花を咲かせる以外は前ページの基準亜種との違いはない。もっとも、草丈はこちらの方が少し高いかも知れない。一般的には、アルプス西南部のフレンチアルプスでは白い花の基準亜種が多く、シャモニーから東のスイスアルプスでは、黄色い花のこちらの亜種の方が優勢なようだ。私は最初に白い花の基準亜種と出会ったが、ブリアンソン近辺のフレンチアルプスには黄色い花のこの亜種がなく、数年後にスイス中部の山岳地帯で初めてこの花を見た。これを見たいと思い続けた後に出会ったからかも知れないが、花の美しさに関しては、この黄色い花の方が一枚上手かな。何ともいえない上品な黄色の大きな花で、大変魅力的である。しかし、群落の規模に関しては、フレンチアルプスで見た基準亜種の大群落に匹敵する規模の、黄花の軍団を私はまだ見たことがない。

◇2012.06.21　Planplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Ranunculaceae　　*Pulsatilla vernalis*



キンポウゲ科　オキナグサ属　英語名：Spring Pasqueflower, Arctic Violet
国内に自生する近縁の種：オキナグサ、ツクモグサ

これは、ヨーロッパの山岳地帯に分布する半常緑性の多年草で、アルプスでは、標高1,300～3,600 mの草地や岩礫地に生える。草丈は花期には5～20 cmだが、後には35 cmにまで伸びる。茎には毛が多くて分岐しない。根生葉は長い柄があって冬を越し、長毛がある。葉身は羽状に3～5裂し、小葉は楕円形で鋸歯がある。苞葉は柄が無くて輪生し、裂片は線形。茎頂に径6 cmほどの花が１個つき、花の外側には褐色の毛が密生する。花弁状萼片は６枚で二重につき、内萼片は外萼片より幅が広い。萼片の外側は黄色～赤褐色～菫色～青色と色の変異が多く、内側は白色が普通だ。雄しべは多数あり葯は鮮やかな黄色。この花は、開花当初はうつむき加減だが、時間が経つと上向きに変わる。開花後は萼片を閉じ、横向きから下向きに変わって、成長し始めた種子が突き出る。この花にはいろんな所で出会うが、大きく開いた花にはなかなかお目にかかれない。と思っていたら、今年はスイスアルプスで、大きく開いた上向きの花をいくつも見た。やはり、これまでは、満開前の花しか見ていなかったということらしい。◇2004.06.08　Izoard Pass, French Alps, France

Ranunculaceae　　*Ranunculus aconitifolius*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：Aconite-Leaved Buttercup

国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲなど

これは、中部ヨーロッパに分布する多年草で、標高2,600 mまでの草地や林の中に生え、草丈は20～70 cm。大きな群落となることが多い。根生葉は最大長20 cmで長い柄があり、葉身は掌状に3～5深裂して、中央裂片は根元まで切れ込む。裂片は矩形～楕円形で縁には大きな鋸歯がある。茎には毛があり、上部で分岐して集散花序をだし、草丈に比べて小さめの白い花を咲かせる。花は径10～20 mmで花弁は５枚あり、赤紫色の萼片は開花と同時に落下する。花柄にも微毛がある。高い草丈に大きな葉を沢山つけ、その割には小さな花を咲かせるので、個体としてはそれほど魅力的な植物ではないが、大きな群落は見事な花景色を提供する。白花であることに加えて全体的にがっしりとした造りで、日本にはないタイプのキンポウゲ属の植物である。◇2012.06.22　Balme Pass, Chamonix Mt-Blanc, France

Ranunculaceae

Ranunculus acris subsp. *acris*
セイヨウキンポウゲ

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：Meadow Buttercup

国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、ミヤマキンポウゲなど

これは日本にあるミヤマキンポウゲ (subsp. *nipponicus*)の基準亜種で、ユーラシアの温帯域に広く分布する。アルプスでは、標高2,500 mまでの湿った草地や牧場に生えて、草丈は30～100 cm。根生葉は円形で3～7裂し、裂片はさらに中裂するが、最終裂片には柄が無い。茎はよく分岐し、茎頂に多くの花を咲かせて、花柄には微毛がある。光沢のある黄色い花の径は10～25 mmで、花弁と萼片が５枚ずつある。この植物は、家畜が食べないので、牧場では大きな群落となることが多い。育つ環境によって形態変化が大きいというが、ミヤマキンポウゲにも多分同じ事がいえるだろう。とにかく、ミヤマキンポウゲとの形態上の違いは殆ど感じないが、この基準亜種の方が背が高くなるようだ。◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

Ranunculaceae　　*Ranunculus alpestris*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：Alpine Buttercup

国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲ

中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、標高1,300～3,000 m地帯の岩場、岩の割れ目、岩礫地、雪渓脇などに生え、全体が無毛で草丈は5～15 cm。根生葉には長い柄があり、3～5裂して裂片はさらに切れ込み、最終裂片の先は丸い。葉は多肉質で艶がある。茎葉は1～2枚あり、柄はなくて線形の裂片３枚に切れ込む。茎頂に１個、または2～3個の花を上向きにつけ、杯状に開く。花は径20～25 mmで白色の花弁が５枚あり、先端は浅く切れ込む。萼片は花弁の半分ほどの長さで毛はない。雄しべは多数あり、鮮黄色の葯が緑色の雌しべを取り巻いて、美しいコントラストを示す。日本には、水生植物バイカモの仲間を除いては白花のキンポウゲ属はなく、地表に生えるこの白花のキンポウゲ属は新鮮に感じる。また、この透明感のある花弁と艶のある葉は美しく、実に魅力的な植物である。◇2016.07.10
Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Ranunculaceae　　*Ranunculus eschscholtzii*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名: Snowpatch Buttercup, Eschscholtz's Buttercup
国内に自生する近縁の種: タカネキンポウゲ、エゾキンポウゲ

北米大陸西部に広く分布する多年草で、カナダ北極圏からカリフォルニア州まで分布する。亜高山～高山帯の草地や岩れき斜面に生え、草丈は10～25 cm。根生葉は根元に集まって長い柄があり、全体に円形～心形の２回三出複葉で、小葉はさらに丸みのある裂片に分かれる。上部の茎葉はより小型で柄が無い。花は茎先に1～3個つき、短い花柄があって径は3 cmほど。萼片は５枚あり、開花すると直ぐに落下する。黄色い花弁は5～8枚あり、中心部には多数の雄しべと雌しべがある。キンポウゲ属にしては花は大きいし、葉もあまり切れ込まないで格好がよい。何よりも草丈が小型で花が大きく、高山植物の雰囲気があるのが好ましい。日本にあるキンポウゲ属では、花は少し小さいが、タカネキンポウゲかエゾキンポウゲが、これと最もよく似ているだろう。◇2013.06.11 Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae *Ranunculus ficaria*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名 : Lesser Celandine

国内に自生する近縁の種 :　ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲ

ヨーロッパ全域と西アジアに分布する多年草で、川岸、湿った草地、湿った落葉樹林などに生え、草丈は5〜20 cmで全体に毛がない。葉は肉厚の三角状心形で艶があり、暗緑色の地に白い斑のあることが多い。縁には波形の粗い鋸歯がある。花は茎先に１個つき、径15〜60 mm。花には緑色の萼片が３個あり、卵形〜卵状披針形で長さは7〜10 mm。黄金色で狭楕円形の花弁が7〜13枚あり、表面には光沢があるが、時間の経過と共に白く変化する。本種は日本でも庭植えされており、能登半島をドライブした時には、田んぼの脇に逸出した小群落が花盛りであった。本種は葉に特徴があるので、他のキンポウゲ科の種と見間違える可能性は低いだろう。

◇1994.04.27　ウエールズ北部, United Kingdom

Ranunculaceae　　*Ranunculus glacialis*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：Glacier Buttercup, Glacier Crowfoot
国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲ

これは典型的な極地・高山型植物で、スバルスバード、グリーンランドなどの北極圏と、アルプス、ピレネーなど南ヨーロッパの高山帯に分布する。アルプスでは標高2,300～4,250 m地帯の岩屑斜面、モレーン、雪田の脇などに生え、草丈は5～20 cm。茎は紫色で毛はなく、斜上または直立する。根生葉には長い柄があり、肉厚で掌状に３裂し、小葉には柄があって深く切れ込む。茎葉は柄が無く、円形で披針形の裂片に裂ける。茎先に径20～25 mmの白い花が1～2個平開する。丸みのある花弁は５枚あり、重なり合って隙間がないので、花の外形は円に近い。萼片は５個あるが花弁より短く、褐色毛が密生する。葯は黄色い。この種は最も極寒の気候に適応した高等植物で、グリーンランドでは最も高緯度に自生する植物の記録保持者だし、アルプスでも最も高所で花を咲かせる。咲き始めの頃は草丈が低く、白い花は満開状態でもあまり目立たないが、時間の経過と共にピンク色を帯び、最後は赤橙色に変わるらしい。◇2016.07.17　Hohsaas, Saastal, Wallis, Switzerland

Ranunculaceae　　*Ranunculus montanus*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名 : Mountain Buttercup

国内に自生する近縁の種: ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲ

ピレネー山脈からカルパチア山脈までのヨーロッパの山岳地帯に分布する多年草で、標高700～2,800 mの草地、雪田跡、ガレ場などに生える。葉には毛があったり無かったりで、草丈は10～40 cm。根生葉は長い柄のある円形で掌状に3～5裂し、裂片は楕円形で鋸歯がある。茎葉の裂片は披針形で半分茎を抱き、光沢がある。花は黄金色の５弁花で光沢があり、径は20～30 mm。萼片には短い毛がある。黄色い花を咲かせるキンポウゲ属は、日本同様アルプスにも数多くあるが、どれもよく似ていて見分けが難しい。余りにも多くの種があり、またこの仲間の個体数は多いので、草丈が低くて大きな花をつけるもの以外は、関心が薄いのが正直なところだ。その点で、本種は、この仲間の中では興味を引く存在である。◇2015.06.29 Innsbruck近郊、Austria

Ranunculaceae *Ranunculus occidentalis*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名 : Western Buttercup

国内に自生する近縁の種 : ウマノアシガタ、ミヤマキンポウゲ

これは、北米大陸西部に分布する多年草で、標高2,200 mまでの草地、林内、開けた場所などに生え、草丈は15〜75 cm。茎には軟毛があり、直立して分岐する。根生葉には長さ3〜7 cmの柄があり、葉身は楕円形〜心形で３裂し、裂片はさらに深く裂ける。茎葉は互生して細かく切れ込み、上部では全縁の苞葉になる。長さ10 cmにもなる花柄の先に、径1.3〜2.5 cmの黄色い５弁花を１個平開する。花弁は楕円形で艶があり、長さは9〜12 mm。これは日本にあるウマノアシガタによく似た植物で、個々の株としては特に興味を引くことはないが、路端で群生していると、開花時には目を引く存在となる。◇2009.07.15　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Ranunculaceae *Ranunculus platanifolius*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、ミヤマキンポウゲ

これは、ヨーロッパ全域に広く分布する多年草で、標高 800～2,000 mの乾いた草地や雑木林に生え、草丈は50～130 cm。根生葉は5～7裂し、中央裂片は根元まで切れ込まない。茎には毛がなくて上部で分岐し、集散花序をだして径1～2 cmの白い5弁花を沢山咲かせる。本種は、*R. aconitifolius* (p. 392) とよく似ており、従来は*R. aconitifolius*の亜種や変種として取り扱われることもあった。*R. aconitifolius*との違いは、1）より大型で、2）葉が3～5裂ではなく5～7裂し、3）葉の中央裂片が根元まで切れ込まず、4）花柄には毛がない、事だとされている。この写真では葉の様子は完全には分からないが、花柄は無毛だし草丈は1 mほどありそうなので表題の種と同定した。最近の遺伝子学的調査では、本種は、東西に分布する2つのグループに分けられるという。

◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

シノニム： *Ranunculus aconitifolius* subsp. *platanifolius*

Ranunculaceae　　*Ranunculus pyrenaeus*

キンポウゲ科　キンポウゲ属　英語名：Pyrenean Buttercup

国内に自生する近縁の種：ウマノアシガタ、バイカモ、ミヤマキンポウゲ

これは、ピレネー山脈、アルプス、コルシカ島の標高1,700～2,800m地帯に分布する多年草で、主に石灰岩地帯の湿った草地に生えて、草丈は5～20 cm。葉は青緑色の線形～披針形で、柄も鋸歯もない。花は茎頂に1個つき、径は2 cmほど。純白の楕円形の花弁が５枚あり、先は丸くて表面には縦皺があり、光沢もある。雄しべは多数あり、黄色い葯と白い花弁のコントラストが美しい。日本には、水生植物のバイカモ類以外は白い花を咲かせるキンポウゲ属がなく、この種や前出の*G. glacialis* (p. 397)の白い花には新鮮な感動を覚える。本種は低い草丈の割には大きな花を咲かせ、披針形の葉との組み合わせも好印象だし、雪田跡に大きな群落を作って咲き誇る風景も美しい。◇2012.06.17　Izoard Pass, French Alps, France

Ranunculaceae *Thalictrum aquilegifolium*

キンポウゲ科　カラマツソウ属　英語名：Great Meadow-Rue, French Meadow-Rue
国内に自生する近縁の種：カラマツソウ、シキンカラマツ、ミヤマカラマツ

中部ヨーロッパから温帯アジアにかけて分布する多年草で、アルプスでは標高2,500 mまでの湿った林内や湿った草地に生え、草丈は40～120 cm。茎は暗紫色で直立し、葉は2～3回羽状複葉で、裂片は楕円形で鋸歯があり、先は丸くて全体の印象はオダマキ類の葉に似る。茎先にコンパクトな散房花序をだし、6～8個の花をつける。花には花弁がなく、萼は小型で４個あるが、開花と同時に落下する。雄株には赤紫色の雄しべが放射状に多数つき、大変美しい。日本のミヤマカラマツも赤紫色を帯びた雄しべをもつが、線形ではないし数も少なく、本種の花のような華麗さはない。これは、ヨーロッパでは庭園植物として人気が高いが、園芸品種では花数も多く、赤紫色の雲のようで華やかだが、野生種のもつ好ましい雰囲気は消えてしまっている。◇2012.06.17　L'Echalp南方, Queyras Provincial Natural Park, French Alps, France

Ranunculaceae *Thalictrum occidentale*

キンポウゲ科　カラマツソウ属　英語名：Western Meadow-Rue

国内に自生する近縁の種：チャボカラマツ、ヒメカラマツ

北米大陸西部に分布する多年草で、林下や半日陰の湿った草地に生え、草丈は30〜100 cm。茎は無毛か僅かに毛があり、上部で分岐する。葉は殆どが茎につき、青緑色で艶があり、微毛が生えて長い葉柄がある。葉は３回三出複葉で小葉は3〜4対ある。小葉は楕円形で粗い丸みのある鋸歯がある。茎先にまばらな円錐花序をだし、花は緑白色か紫赤色。本種は雌雄異株で、雌花は赤紫色の未熟な果実の先に雌しべがつき、4〜9本が放射状に広がる。写真に示すのは雄株で、緑白色で鐘形の萼から15〜30本の雄しべが下垂する。雄しべは紫色で褐色の長い葯が付く。雄株と雌株では全く違う花をつけるので、私は最初、違う植物だと思って撮影した。雄株は日本のチャボカラマツやヒメカラマツによく似ており、葉にも共通点がある。しかし、どの図鑑を見ても記載がないけど、チャボカラマツとヒメカラマツは雌雄異株じゃないのかな。◇2013.06.10　Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Ranunculaceae

Trollius albiflorus

キンポウゲ科　キンバイソウ属　英語名: American Globeflower

国内に自生する近縁の種:キンバイソウ、シナノキンバイ、チシマノキンバイソウ

これは、カナダ南西部と米国北西部の内陸側に分布する多年草で、山地帯～高山帯の湿った草地、川岸、雪田跡などに生え、草丈は10～50 cm。根生葉は長さ4～25 cmで柄があり、卵形で掌状に深く5～7裂し、裂片には粗い鋸歯がある。茎葉は1～3枚が互生する。花は茎頂に通常1個つき、5～9枚の白い萼片が皿形に開いて径は2.5～6 cm。萼片は殆ど円形で長さ1～2 cm、開花前は淡黄色～緑白色である。花弁は小さな矩形～円柱形で黄色く、15～25個あって雄しべの下に隠れる。雄しべは多数ある。これは日本にはない白花のキンバイソウ属で、日本のシナノキンバイと同等の高い生息密度で、登山道脇の湿地に咲き誇る。開花当初は草丈が低いが、長い開花期の終わりには見違えるほど大きくなる。この種は、*T. Luxus* var. *albiflorus*として区分されることもあるが、米国東北部に分布する*T. luxus* は４倍体で、北米西部に分布するこの種は２倍体だし、分布域も離れているということで、Flora of North Americaでは別種扱いである。◇2013.06.11　Healy Creek, Banff National Park, Canada

シノニム：　*Trollius luxus* var. *albiflorus*

Ranunculaceae

Trollius europaeus

キンポウゲ科　キンバイソウ属　英語名：Globe Flower

国内に自生する近縁の種：キンバイソウ、シナノキンバイ、チシマノキンバイソウ

これは、ヨーロッパの広い範囲と西アジアに分布する多年草で、標高2,800 mまでの湿った草地や明るい林内に生え、草丈は45～60 cm。根生葉には長い柄があり、葉身はほぼ円形で５深裂し、裂片はさらに羽状に切れ込む。茎葉はより小型で互生し、柄は短くて裂片も細い。直立する茎は上部で分岐し、枝先に通常１個（稀に2～3個）の花を上向きにつける。花は径20～45 cmの上下に少しつぶれた球形で、鮮黄色の花弁状萼片10～15枚が折り重なって、花の内部は殆ど見えない。花の内部には、蜜腺化した花弁5～15個と、多数の雄しべがある。これはアルプスの湿性お花畑を代表する花と思っていたが、実はヨーロッパのどこにでもある種で、高山でなくても自生しているらしい。いずれにしても、この大きな丸い花は独特の雰囲気で大変好ましく、アルプスで出会うのが毎回の楽しみである。園芸の世界では、日本名をタマキンバイというらしい。◇2012.06.16　Brianson近郊, French Alps, France

Rosaceae　　*Alchemilla* cf. *conjuncta*

バラ科　ハゴロモグサ属　英語名: Mountain Lady's Mantle

国内に自生する近縁の種: ハゴロモグサ

アルプスには多くのハゴロモ属があり、日本に自生するハゴロモグサとは違って、葉が根元まで深く切れ込むものがいくつもある。そこで、次ページの*A. hoppeana*の他に、少し雰囲気の違う種を一つ掲載したいと思ってこの写真を選んだが、間違いなく同定できる種が見つからず、表題の種が最も近いと思って仮に同定してある。この種は南西アルプスとジュラ山脈に原産するという事だが、「スイスアルプス花図鑑」では、これの変種*nitida*がベルナー高地にも自生することになっている。また、図鑑では、葉は青緑色だというが写真ではそう見えない、しかし、ネット情報では普通の緑色のものもある。とにかく、写真の株では、根生葉の裂片が*A. hoppeana*より幅広で、上方にたたみ込まれていない。裂片の数は7〜8枚あるように見える。*A. hoppeana*もそうだが、日本のハゴロモグサよりは遙かによい雰囲気の植物である。　◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

Rosaceae　　*Alchemilla hoppeana*

バラ科　ハゴロモグサ属　英語名：Hoppe’s Lady’s Mantle

国内に自生する近縁の種：ハゴロモグサ

アルプスとアペニン山脈で、標高2,600 mまでの石灰岩地帯に分布する多年草で、草地や岩礫地に生え、草丈は5〜30 cm。根生葉には長い柄があり、葉身は掌状に7〜9裂する。裂片は矩形〜線形で表面は無毛だが、裏面には銀毛が密生して、表面から見ても縁に白い縁取りが見える。裂片の上半部には鋭い鋸歯があり、主脈を中心にして少し上方にたたみ込まれる。茎先にコンパクトな散房花序をだし、径2〜4 mmの淡黄色の花を輪生状に沢山つける。アルプスにはハゴロモグサ属の種が数多くあり、葉が深く切れ込むものだけでも10種近くある。しかし、８枚以上の裂片となるのは本種だけのようだ。花は小さすぎてあまり面白くないが、この葉は大変美しい。◇2012.06.18　Emparis Plateau, French Alps, France

Rosaceae

Dryas drummondii
キバナチョウノスケソウ

バラ科　チョウノスケソウ属　英語名 : Yellow Mountain-Avens
国内に自生する近縁の種 :　チョウノスケソウ

北米大陸の北西部と北東部に隔離分布する常緑性の矮小低木で、モレーン、岩れき斜面、稜線、礫質の路端などでマット状に広がり、高さは10～25 cm。革質で艶のある葉は長楕円形～さじ形で、縁には先の丸い鋸歯があり、葉脈は凹む。花は直立する花茎の先に1個つき、長さ2 cmほどの鐘形で、半開き以上に開くことはない。花には黄色い花弁が8～10枚あり、開花当初はうつむくが次第に横向きとなり、果実期には上向きとなる。萼片は広楕円形で先が尖るものもあり、暗赤褐色の腺毛が密生する。この葉は、日本のチョウノスケソウと北米のキョクチチョウノスケソウとの中間形というところ。しかし、花の方は、色の違いだけではなく、形も咲き方もチョウノスケソウとは随分異なる。バンフからジャスパーへ抜けるハイウエー沿いには、何10kmにも渡って路端に本種の純群落が続いており、まさに度肝を抜かれる景観である。◇2009.07.16　Sunwapta Pass, Banff National Park, Canada

Rosaceae

Dryas octopetala var. *octopetala*
キョクチチョウノスケソウ

バラ科　チョウノスケソウ属　英語名：White Mountain-Avens

国内に自生する近縁の種：チョウノスケソウ

これは、北極圏と北半球北部の高山帯に分布する常緑矮小低木で、乾いた岩礫地、稜線、ツンドラなどでマット状に広がり、高さは5～20 cm。葉は長楕円形で長い柄があり、長さは0.8～4 cm。表面は無毛で明確な皺があり、縁には粗い鈍頭の鋸歯がある。裏面には白い綿毛が密生する。花は径2～3 cmで、楕円形の白い花弁が8～10枚ある。萼片も8～10個あり、狭披針形で白い綿毛が生える。日本の変種チョウノスケソウ(var. *asiatica*)と比べると花は全く見分けがつかないが、葉はこちらの方が細長く、葉柄も長めである。この基準変種は石灰質の土壌を好むというが、日本の高山では石灰岩が少なく、チョウノスケソウは中性（安山岩など）の火山岩地帯に生えている。◇2009.07.12　C Level Cirque, Banff National Park, Canada

Rosaceae *Geum montanum*

バラ科　ダイコンソウ属　英語名：Alpine Avens

国内に自生する近縁の種：コキンバイ、ダイコンソウ、ミヤマダイコンソウ

ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈など、中部～南部ヨーロッパの1,200～3,000 m地帯に分布する常緑の多年草で、草地や岩礫地に生え、草丈は5～15 cm。ほふく枝はない。根生葉は長さ10～20 cmの奇数羽状複葉で、粗い鋸歯があり、矩形の頂小葉が際だって大きい。茎葉は小さくて互生する。茎は直立し、先端に１個の花を上向きに平開する。花は径3 cmほどの黄色い5～6弁花で、広卵形の花弁の先は通常少しへこむ。日本のミヤマダイコンソウと似た花だが、それよりはるかに大きくて見栄えがする。また、植物全体がミヤマダイコンソウほどは大きくならず、茎が直立するのも好印象だ。しかし、葉に関してはミヤマダイコンソウの方が格好良い。本種の種子はチングルマそっくりで、羽毛状になった雌しべが房状につく。

◇2012.06.22　Balme Pass, Chamonix Mt-Blanc, France

Rosaceae　　*Geum reptans*

バラ科　ダイコンソウ属　英語名 : Creeping Avens

国内に自生する近縁の種: コキンバイ、ダイコンソウ、ミヤマダイコンソウ

これは、アルプスやカルパチア山脈で標高1,500～3.800 m地帯の崖地、砂礫地、モレーン上などに生える毛の多い多年草で、草丈は5～30 cm。赤くて長いほふく枝がある。葉は羽状複葉で小葉には鋸歯があり、大根の葉によく似ているので、日本語でダイコンソウ属と呼ばれるのが納得出来る。花は茎頂に 1 個つき、径25～40 mmの黄金色の5～7弁花で、花弁は楕円形～円形で先はまるい。日本にある同属のコキンバイやミヤマダイコンソウと比べると、花の中心部が非常に大きい。その中心部には多数の雄しべがあり、花糸と葯は黄色い。伸びた花柱の先は、真っ直ぐで鉤形に曲がらない。前ページの*G. montanum*とよく似た植物だが、1)ほふく枝があって、2)根生葉の頂小葉が大きくなく、3)花弁の数が多いものがあり、4)花弁の先がへこまないという違いがある。◇2016.07.17　Weissmies小屋周辺, Saastal, Wallis, Switzerland

Rosaceae　　*Geum rivale*

バラ科　ダイコンソウ属　英語名：Water Avens, Purple Avens

国内に自生する近縁の種：コキンバイ、ダイコンソウ、ミヤマダイコンソウ

これは、地中海沿岸を除くヨーロッパ全域、中央アジアの一部、北米大陸北半部の一部に分布する綿毛のある多年草で、草丈は30～60 cm。アルプスでは標高2,100 mまでの湿った草地、明るい疎林、渓流沿いなどに生える。根生葉は羽状複葉で3～6対の小葉があり、茎葉は三出複葉で、主に茎の下半部に互生する。茎は直立して上部で分岐し、枝先に１個の花を下向きに咲かせる。花は鐘形で径8～15 mm、萼は５裂して萼裂片は赤褐紫色。花弁は５枚で萼片より少し長く、色は淡黄色～淡紅色。雄しべは多数、雌しべは数個あり、伸びた花柱の先は鉤形に曲がる。北米にある*G. triflorum*（次ページ）と同様に、果実は上向きになり、チングルマやオキナグサのような綿毛状となる。写真の中央にある花は、開花が終わって花柱が伸び始めたところである。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Rosaceae　　*Geum triflorum*

バラ科　ダイコンソウ属　英語名: Prairie Smoke, Old Man's Whiskers
国内に自生する近縁の種: ミヤマダイコンソウ、ダイコンソウ

北米大陸の西部一帯と、中西部からニューヨーク州までに分布する多年草で、山地帯の乾いた草地、プレーリー草原、松林などに生え、草丈は20～50 cm。葉は殆どが根生し、長さ15～20 cmで羊歯状に切れ込み、開花期には立ち上がる。直立した赤紫色の茎には一対の茎葉があり、頂部から長い花柄を３本伸ばして、赤紫色の変わった形の花を1個ずつ下垂する。花は径1～2 cmの先がつぼまった壺形で、５個ある萼片は基部が癒着して椀型となり、先端は線形で反り返る。花弁も５枚で、赤色～クリーム色～黄色と変異がある。果実はチングルマの綿毛を長くしたような房状で赤紫色である。これはプレーリーに自生する植物の中で最も人気のある植物だという。まだ果実を見たことはないが、不思議な形の花を見ただけでも、この評価には十分納得だ。これは随分変わった花ではあるが、北米、ヨーロッパとアジアの一部にも、これとよく似た*Geum rivale*（前ページ）という高山植物が存在する。
◇2013.06.10　Calgary西方、Alberta, Canada

Rosaceae　　*Potentilla aurea*

バラ科　キジムシロ属　英語名：Golden Cinquefoil

国内に自生する近縁の種：ミヤマキンバイ、チシマキンバイ、イワキンバイなど

これは、南部～中部ヨーロッパの主として非石灰岩地帯に分布する多年草で、標高1,400～2,600 mの岩場や草地でマット状に広がり、草丈は10～20 cm。茎には毛がある。根生葉には長い柄があり、葉身は掌状に５深裂して、裂片は矩形で鋸歯がある。葉は全体に毛があり、縁には絹毛が生える。茎葉は小型で３裂し、托葉は楕円形～披針形。花は径14～24 mmの黄色い５弁花で、花弁の基部にはオレンジ色の斑があり、花弁の間には隙間がなくて先は凹む。日本にもこれと似た花をつけるキジムシロ属の種は多いが、本種の葉の形は、羽状複葉のキジムシロや、三出複葉のミヤマキンバイのグループとは明確に異なる。◇2012.06.17　Izoard Pass, French Alps, France

Rosaceae

Potentilla brauniana

バラ科　キジムシロ属　英語名 : Dwarf Cinquefoil

国内に自生する近縁の種: ：ウラジロキンバイ、ミヤマキンバイ、キジムシロ

これは、中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に広く分布する多年草で、アルプスでは、標高1,800～3,200 m地帯の石灰岩質の草地、砂礫地、雪田跡などに生える。全体に毛があり、草丈は5～15 cm。葉は小さい三出複葉で長い柄があり、小葉は楕円形で鋸歯がある。葉の表面は無毛だが縁には毛が生える。地を這う茎から枝分かれした枝先に、１個から2～3個の黄色い５弁花を咲かせる。花の径は7～11 mmで、花弁の先は少し凹む。花弁の基部は細まって、隣の花弁との間には隙間がある。この仲間によく見られる、花弁基部の橙斑は余り目立たないようだ。萼片は毛が生えて先が尖り、長さは花弁より短い。副萼片は先が尖らない。この種は、日本のミヤマキンバイと同じ三出複葉の葉を持つが、小葉の形は、ミヤマキンバイとアポイキンバイの中間位というところだろう。◇2015.07.05　Tofana di Mezzo, Alpi Carniche, Italy

Rosaceae

Potentilla erecta

バラ科　キジムシロ属　英語名：Tormntil, Erect Cinquefoil

国内に自生する近縁の種：ウラジロキンバイ、ミヤマキンバイ、キジムシロ

ヨーロッパには沢山のキジムシロ属があり、その多くが似たような花を咲かせるので同定が難しい。しかし、この種は5弁ではなく4弁の花を咲かせるので、同定を間違える可能性は低い。これは、ヨーロッパと西アジアに広く分布する多年草で、低地のヒース、草地、砂丘から高山帯まで多様な環境に自生する。アルプスでは、標高3,000 mまでの草地や牧草地に生え、草丈は15～60 cm。葉は光沢のある三出複葉で、一対の托葉が根元につく。小葉は狭倒卵形で粗い鋸歯があり、托葉は小型の小葉のようにも見える。根生葉には長い柄があり、茎葉は互生して柄はないか短い。花は径7～11 mmの４弁花で、長さ2～6 cmの長い花柄の先で平開する。花弁は長さ3～6 mmしかなく、ふつうは先が浅く凹むというが、写真の花では凹みは見えない。

◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

シノニム：*Potentilla tormentilla*

Rosaceae

Potentilla nitida

バラ科　キジムシロ属　英語名 : Pink Cinquefoil

国内に自生する近縁の種: ウラジロキンバイ、ミヤマキンバイ、キジムシロ

これは、ドロミテ山塊に多い多年草で、南西アルプスや北部アペニン山脈にも自生する。ドロミテでは標高1,200～3,200 mのドロマイト（泥灰岩）の岩上や岩の隙間にマット状に生え、草丈は2～5 cmほどだが、ほふく枝の長さは15 cmほどある。葉は三出複葉。図鑑では、小葉は矩形で先端部分にのみ鋸歯があるとなっているが、私が見た限りでは小葉は全て披針形で、鋸歯のないものが殆ど、ごく一部に小さい鋸歯を認めた。それはとにかく、葉は全体に綿毛が密生し、表面は銀灰色を帯びた緑色、葉縁は銀白色に見える。枝先に１個（まれに２個）付く花は濃淡いろいろなピンク色で、時々白い花があるという。花は径22～26 mmの５弁花で、花弁の基部は色が濃く、濃赤色の雄しべが多数放射状に突き出して、力強い印象を受ける。この植物は岩上にマットを作り、葉の形と色が特徴的で、白味を帯びた大きな赤い花が多数平開するので、極めて印象的だ。ドロミテを訪れたら是非見たいと思っていたが、あちこちに以外と沢山咲いていて、大いに満足した。

◇2015.07.03　Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Rosaceae

Potentilla nivea var. *nivea*
ウラジロキンバイの基準変種

バラ科　キジムシロ属　英語名: Snowy Cinquefoil

国内に自生する近縁の種: ウラジロキンバイ、ミヤマキンバイ

これは、日本にあるウラジロキンバイ(var. *camtschatica*)の基準変種で、種レベルでは周極分布をする多年草。北米ではカナダ全土と米国西部に、アジアでは日本を含む極東アジアからヒマラヤにかけて、ヨーロッパではスカンジナビアとアルプスなどに分布する。水はけの良い草つき斜面、稜線、岩礫地などに生え、草丈は5〜40 cm。茎には綿毛が生え、葉は三出複葉で小葉には鋭い鋸歯がある。葉の裏面には毛が密生して白く見え、表面にも毛があるが緑色だ。花は茎頂に1〜3個つき径1〜2 cmで、黄色い花弁が５枚ある。本種は分布範囲が広いだけに、いくつもの亜種や変種がある。また、北米にもアルプスにもこれとよく似た種が沢山あって、毛の種類や付き方などで区分されており、鑑定は大変難しそうだ。この写真も*Potentilla uniflora*グループの一員である可能性がある。◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

Rosaceae *Rosa canina*

バラ科　バラ属　英語名：Dog Rose

国内に自生する近縁の種：オオタカネバラ、サンショウバラ、ハマナス

ヨーロッパ、北アフリカ、西アジアに分布する常緑低木で、雑木林、土手、草地などに生え、高さは1～5 m。茎は緑色で鉤状の刺が多数ある。葉は奇数羽状複葉で、青緑色～緑色の小葉が5～7枚あり、長さ6～11 cmの小葉には、縁に鋭い鋸歯がある。茎先に単独または複数の花がつき、花は径4～6 cmで、薄いピンク色～白色の花弁が５枚ある。花弁は倒心形で先はへこむ。果実は卵形で赤橙色に熟し、ハーブティーとして利用される。これは、ヨーロッパではどこででも見られる一般的な野バラで、栽培されているバラの原種の一つでもある。花は大きいし、この色合いの花を咲かせる野生バラは日本にはないので、大変魅力的な花である。◇2012.06.19 La Grave西方, French Alps, France

Rosaceae　　*Rosa pendulina*

バラ科　バラ属　英語名: Alpine Rose

国内に自生する近縁の種:オオタカネバラ、サンショウバラ、ハマナス

中部～南部ヨーロッパに広く分布する小低木で、高さは0.5～2 m。主に標高2,500 mまでの山地帯で、松林や雑木林に生えるというが、撮影地では牧草地に多くの株が残されており、大きく育って見事な花景色であった。茎は黄緑色～紫褐色で、通常は刺がない。葉は奇数羽状複葉で、7～11枚の小葉には少しの毛があり、縁には二重の鋸歯がある。花は長さ1～3 cmの花柄の先に１個、横向きかうつむき加減につき、径25～50 mmの５弁花で、色は鮮やかな濃紫紅色。写真でも分かるように、花弁の形は変化に富み、倒卵形で先がへこんだものから、先の丸い卵形などがある。本種も、古くから葉や果実が食用・薬用として利用されてきており、現在でも大量に消費されているという。牧草地に残されていたのには、それなりの訳があるのだ。 ◇2016.07.11 Oeschinensee, Kandertal, Berner Oberland, Switzerland

シノニム： *Rosa alpina*

Rosaceae

Rosa woodsii var. *ultramontana*

バラ科　バラ属　英語名：Interior Rose, Wood's Rose

国内に自生する近縁の種：オオタカネバラ、サンショウバラ、ハマナス

これは、カナダ全域と米国の西半部に分布する落葉低木で、山地帯～亜高山帯の森林に生え、高さは0.5～3 m。茎には断面が丸くて真っ直ぐな刺がある。葉は奇数羽状複葉で互生し、小葉は5～11枚ある。小葉は長さ2～5 cmの楕円形～倒卵形で、鋭い鋸歯がある。枝先に2～3個の花を咲かせるが、花は濃いピンク色の５弁花で、花弁は長さ1～2.5 cm。萼片は５個あり、長さ1～2 cmで幅2～3.5 mm。北米大陸には、これとよく似た美しい花をつける野生バラの種が数種類あり、鑑定は難しい。どれをとっても日本のハマナスそっくりの花だが、ハマナスのように径10 cmにもなる大きな花は見られない。◇2009.07.17　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

Salicaceae　　*Salix* cf. *arctica*

ヤナギ科　ヤナギ属　　英語名: Arctic Willow

国内に自生する近縁の種:エゾノタカネヤナギ、ミヤマヤナギ、ケショウヤナギ

これはバンフ国立公園モレーン湖の駐車場脇に咲いていた柳の花で、樹高は1 mほどだったろう。日本の柳では見たことの会い色合いの雄花なので、魅力的だが、手持ちの図鑑では同定が出来ない。Arctic willowの花はこれとにているが、樹高はふつう15 cmほどしかないとのことなので、写真の花はArctic willowではないかもしれない。しかし、北米の北西部太平洋岸では50 cmになるということだし、撮影地は比較的風当たりの弱そうな所だったので、案外Arctic willowなのかも知れない。また、*Salix arctica*にはいくつかの亜種や近縁種があるようだ。*Salix arctica*は北半球の寒帯と亜寒帯で周極分布をし、最も高緯度に生える樹木である。

◇2013.06.11　Morane Lake, Banff National Park, Canada

Salicaceae　　*Salix reticulata*

ヤナギ科　ヤナギ属　　英語名 : Net-leaved Willow

国内に自生する近縁の種: エゾノタカネヤナギ、ミヤマヤナギ

北半球の寒冷地に広く分布する雌雄異株の落葉小低木で、北米ではロッキーやシェラネバダ山脈に分布し、ヨーロッパでは、ピレネー山脈からカルパチア山脈までの山岳地帯が南限である。アルプスでは、標高1,200～2.500 mの湿った岩場やガレ場に生え、マット状に広がって、幅1 mになることもある。地下には、複雑に枝分かれした地下茎があり、地上に出る枝の高さは5～20 cm。枝は出始めは多少の毛をつけるが、後に毛が無くなって暗赤褐色に変わる。葉は長さ1～5 cmの広楕円形で、出始めは毛が密生するが、後に表面は無毛となる。葉の表面には、くぼんだ網目状の葉脈が顕著で、英語名の由来となっている。春先に、葉が展開するのと同時に尾状花序をだす。花序には長い柄があり、花は黄色だが、花序の先端は淡紅色で目立つ。　◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Sarraceniaceae

Sarracenia purpurea

サラセニア科　サラセニア属　英語名：Purple Pitcher-Plant, Northern Pitcher-Plant

国内に自生する近縁の種：なし

カナダ南部と米国北東部～東海岸に分布する多年性の食虫植物で、泥炭湿原に生え、草丈は30～50 cm。これはサラセニア属としては最も広範囲に、かつ最も北まで分布する種である。根生葉はピッチャー（水差し）状で先端は広がり、最大長は45 cmになる。葉は直立～斜上し、口縁部のスカートが立ち上がるので、中はかなりの高さまで雨水が溜まる。葉の色は鮮黄緑色～暗紫色で複雑な褐赤色の筋模様がある。高く伸びた花茎の先に１個の花が下向きにつく。花は径数 cmで、赤紫色の萼片は笠のように広がり、花弁は赤くて丸い。何より面白いのは、笠のように広がった黄緑色の柱頭が萼片と向き合って配置されることで、極めてユニークな造形である。私が米国で就職し、休暇を取ってノバスコチア州を旅行した折、近くで皆既日食があって99%以上も太陽が隠れたことがあった。そのときに、この花を見つけて左図の写真を撮ったが、これが私のワイルドフラワー撮影の最初の１枚目であった。もう一度、自生株を詳しく見てみたいと思っているが、最近のミネソタ旅行ではまだ蕾の状態だった。

◇左の写真：1971.07.10　Pegy Cove, Nova Scotia, Canada（皆既日食に近い状態で色が変）

◇右の写真：2014.06.23 札幌市百合が原公園（植栽株で赤い花弁は既に散った後）

Saxifragaceae

Saxifraga aizoides

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名 : Yellow Mountain Saxifrage

国内に自生する近縁の種 :　シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

英国とアペニン山脈南部を除くヨーロッパと、北米大陸北部の山岳地帯に広く分布する多年草。アルプスでは、標高3,200 mまでの砂礫地や渓流沿いに生えてマットを作る。茎は地を這い、よく分岐して多数の枝を立ち上げる。草丈は5〜15 cm。全体にまばらな毛が生える。枝に互生する葉は、肉質で長さ10〜25 mmの狭楕円形、柄はなくて時たま細かい鋸歯がある。花は径8〜15 mmで、鮮黄色〜オレンジ色の狭披針形の花弁が５枚あり、時たま、花弁に赤い斑点のあるものも見られる。萼片は緑色で花弁と同長同形、腺毛があって花弁の間に等間隔で配置される。オレンジ色の花弁を持つこの花の写真を見て、実物を見たいものだと思っていたが、訪問時期の関係か、どこにでも普通にあるというこの花に出会ったことがなかった。今回ドロミテで初めて見たが、本当のシーズン始めで開花していたのは写真の１花だけ、それもオレンジ色ではなく黄色い花弁だった。オレンジ色の花は、将来の楽しみにしておこう。◇2015.07.02 Valparola Pass, Alpi Dolomitiche, Italy

Saxifragaceae　　*Saxifraga androsacea*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名: Scree Saxifrage

国内に自生する近縁の種:シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

ヨーロッパのピレネー山脈からカルパチア山脈にかけてと、シベリア西部の山岳地帯に分布する多年草で、アルプスでは標高1,500〜3,500 mのガレ場や雪田跡に生えて、草丈は2〜8 cm。葉は全てが根生してロゼットを造り、長さ5〜20 mmの先の尖った披針形〜さじ形で、先が浅く３裂するか全縁である。縁にのみ毛がある。茎は直立して毛が多く、1〜3枚の披針形の苞葉がある。茎頂に1〜3個の５弁花を上向きに咲かせる。花弁は長さ4〜6 mmの白い倒卵形で、ほぼ平開するが、部分的に重なり合うことが多い。萼は鐘状で５裂し、外側には線毛が多い。これは全体の雰囲気が*S. caespitosa* (p. 429)に似ているが、葉の形は違うし、分布域も重ならないようだ。◇2016.07.10 Bachsee, Berner Oberland, Switzerland

Saxifragaceae　　*Saxifraga bronchialis* subsp. *austromontana*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Spotted Saxifrage

国内に自生する近縁の種：シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

これは日本のシコタンソウと同じ種に属するが、シコタンソウ(subsp. *funstonii* var. *rebunshirensis)*とは別の亜種である。この亜種はアラスカからオレゴン州までの北米大陸西部と、それ以南のロッキー山系に分布する常緑の多年草で、山地帯から高山帯の岩の割れ目や岩屑斜面に生えてマット状となり、草丈は5〜15 cm。葉は互生して殆どが根元近くに集まり、長さ5〜15 mmの線状披針形で鋸歯はなく、縁には剛毛がある。茎頂に頭が平な散房花序をだし、2〜10個の花を上向きに咲かせる。花は径5〜7 mmの５弁花で、乳白色の花弁は倒卵形。上半分に赤紫色の斑点が、下半分には黄色い斑点がある。この花は、一見したところシコタンソウにそっくりで、どこが違うのか分からなかった。亜種レベルで違うので、分布域は異なるのだろうが、似たような植物にいろんな名前が付けられており、再検討が必要なグループとのことだ。◇2009.07.15　Moraine Lake, Banff National Park, Canada

Saxifragaceae　　*Saxifraga bryoides*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Mossy Saxifrage

国内に自生する近縁の種：シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

これは北極圏のツンドラに分布の中心があるが、ヨーロッパの高山地帯にも分布する多年草で、アルプスでは標高2,000～4,000 mの稜線や山頂で、珪質岩の岩棚や岩の割れ目に生える。葉は線状披針形で先端が内側に曲がり、殆どが根元に集まって密なロゼットとなり、それが密集して高さ2.5 cm以下のマットを形成する。一部のロゼットからは花茎が延びるが、花茎のあるロゼットとないロゼット間では、サイズの違いがないという。花茎には少数の葉がつくが、茎葉の長さは8 mmで根生葉は長さ5 mm。花茎は3～8 cmの高さに伸び、茎頂に１個の花を上向きに咲かせる。花弁は5（稀に６）枚あり、長さ4～6 mmの白色～乳白色の狭卵形で、基部には多数の黄色い斑点がある。これもシコタンソウに似た花だが、赤い斑点がないので、一見して違いが分かる。

◇2016.07.17　Weissmies小屋周辺, Saastal, Wallis, Switzerland

Saxifragaceae　　*Saxifraga caespitosa*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Tufted Saxifrage

国内に自生する近縁の種：クモマグサ、シコタンソウ、ダイモンジソウ

これは周極分布をする多年草で、北半球の高緯度地方に広く分布する。ヨーロッパでは、スカンジナビアと英国北部まで南下するようだ。北米での分布を詳しくみると、カナダ全域と米国西部に分布するが、高山のない米国東部には分布しない。湿った岩場や崖に生え、枯れた葉が根元に残って草丈は3〜15 cm。葉は硬く、長さ5〜10 mmのくさび形で非常に毛が多く、先端は３裂する。１本の茎に1〜3個ほどの花がつき、咲き始めは鐘形。花は最大径が1 cmほどの５弁花で、花弁は白色の楕円形で先は丸い。いかにも極北の植物という雰囲気で、なかなか魅力的な植物だ。バンフ国立公園では見なかったが、ジャスパー国立公園の山に登って初めてお目にかかった。種小名を*cespitosa*と標記する資料も多くて、どれが正しいのか混乱気味である。◇2009.07.16　Whistlers Mt., Jasper National Park, Canada

シノニム：*Saxifraga cespitosa*

Saxifragaceae　　*Saxifraga exarata* subsp. *exarata*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名: White Musky Saxifrage

国内に自生する近縁の種: シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

この基準亜種は、アルプスからバルカン半島にかけての山岳地帯や、小アジアの山岳地帯に分布する毛の多い多年草で、草丈は3～12cm。アルプスでは1,200～3,600 mの岩場やガレ場に生える。根生葉は形態変化が大きく、長さ5 mmほどで3～5裂し、裂片の先は丸くて表面には溝がある。緑色～赤褐色の花茎の先に、3～8個の乳白色の花を上向きに咲かせる。花弁は５枚あり、乳白色～淡黄色の卵形で長さ5 mmほど。花弁は殆どくっつき合っている。萼は花弁より短い。最近まで別種だった亜種 (var. *moschata)*は、ピレネー山脈、アルプス、アペニン山脈などに分布し、葉が全縁～3裂して表面のくぼみはなく、花弁は濁黄色～帯緑色で、花弁はこの基準亜種より細長いというが、私は写真を撮ったことがない。

◇2016.07.18 Findelalp, Mattertal, Wallis, Switzerland

Saxifragaceae

Saxifraga oppositifolia
ムラサキクモマグサ

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Purple Saxifrage, Purple Mountain Saxifrage
国内に自生する近縁の種：クモマグサ、シコタンソウ、ダイモンジソウ

本種は周極分布をする多年草で、北半球の高緯度地方に広く分布し、アルプスやロッキー山脈にも自生するが、石灰質の土壌を好むらしい。これはグリーンランドの北緯83°40′でも見つかっており、高等植物に関する北方分布の世界記録保持者だとされる。やや木質化した枝が地を這い、砂礫質地でマットを作って、高さは3〜5 cm。葉は小さくて丸みのある鱗状で、４列に対生する。花は短い花柄の先に１個つき、径は1〜2 cmほど。５枚の花弁は紫色〜赤紫色で、花弁は萼片より長い。雄しべは５本で葯は青色であり、雌しべは２個で根元で癒着する。意外なことに、この花は食べられるというが、これを食べようという発想は、いかにも極北に住む人の考えらしい。それはともかく、これは、いかにも北極圏の植物という出で立ちで、色鮮やかな花が地面から直接立ち上がるように見えて実に魅力的だ。
◇2015.07.05 Tofana di Mezzo, Alpi Carniche, Italy

Saxifragaceae　　*Saxifraga paniculata*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Paniculate Saxifrage, Livelong Saxifrage
国内に自生する近縁の種：クモマグサ、シコタンソウ、ダイモンジソウなど

これは周極分布をする多年草で、中央ヨーロッパ、スカンジナビア、北米大陸東北部などに分布し、塩基性岩地帯の岩場に生えて、草丈は10～30 cm。葉は革質で硬く、根元に密なロゼット状につき、長さ1～3 cmの矩形～卵形で縁には鋸歯がある。面白いことに、葉縁には石灰を排出する穴があり、白っぽく見えることが多い。ロゼットの中から赤みがかった細い花茎が直立し、鱗片状の葉がつく。花茎の先に少し伸びた散房花序をだし、径1 cmほどの花を多数つける。花は白い５弁花で、花弁には紫色～赤色の斑点がある。密なロゼット葉と葉の目立たない長い茎が特徴の植物で、日本に自生するユキノシタ属にはこれと似た種は思い浮かばない。私の印象では、スイスアルプスとフレンチアルプスでは、これがユキノシタ属で最も頻繁に現れる種である。この花は少し間延びをしており、シコタンソウほどの魅力がある花ではない。◇2007.06.24　First → Grosse Scheidegg, Berner Oberland, Switzerland

Saxifragaceae　　*Saxifraga rotundifolia*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名：Round-leaved Saxifrage

国内に自生する近縁の種：シコタンソウ、ダイモンジソウ、クモマユキノシタ

中部～南部ヨーロッパに広く分布する多年草で、イベリア半島からバルカン半島までの、標高700～2,200 mの林内、崖地、渓流脇などに生え、草丈は20～60 cm。ロゼット状に集まる根生葉は幅5 cmほどの円形～腎形で、長さ10 cmほどの柄があり、縁には三角形の鋸歯が多数ある。茎葉も根生葉と同形で、上に向かって小型化する。茎は直立して毛が多く、上部で分岐して多数の星状花をつける。花には、白くて先の尖った披針形の花弁が５枚あり、花弁の長さは6 mmほど。花弁の基部には黄色の、先の方には赤い斑点がある。本種は、花数は多いものの細い茎の先で散らばって咲いており、ユキノシタ属としては珍しく弱々しい感じの草姿である。しかし、丸くて均一な鋸歯のある葉は魅力的だし、楚々とした風情の花も日本人好みかも知れない。◇2016.07.09 Schynige Platte, Berner Oberland, Switzerland

Saxifragaceae

Saxifraga sedoides

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名: Eastern Saxifrage, Mossy Cyphel

国内に自生する近縁の種: タカネツメクサ、ミヤマツメクサ

これは、アルプス東部とアペニン山脈に分布する毛のある多年草。標高1,600〜3,100 mの石灰岩質の岩場やガレ場、雪田跡などに自生し、大きなマット状に広がるが、草丈は2〜5 cmしかない。葉は長さ8〜9 mmの披針形〜さじ形で、裂けない。短い枝先に１個または2〜3個固まってつく花は、径4〜6 mmと小さく、緑白色の花弁が５枚と黄緑色の萼片が５個ある。撮影地には*Minuartia sedoides* (p. 140)が多数開花しており、この花を最初に見た時は、随分立派な*M. sedoides*だなと思った。しかし、近づいてよく見ると*M. sedoides*の花には花弁がないはずなのに、この花には余り目立たないけども立派な花弁が５枚ある。帰って調べて学名が分かったが、属は違うが種小名が*M. sedoides*と同じとはね。両種の命名者は同じようなので、両種がよく似ているのが印象的だったのだろう。それとも、後から属を分けたのかな。とにかく、これは地味で余り目立たない花だが、カルニケ山地やドロミテ山塊では数が多く、大きなマットとなって岩場に広がるので良く目につく。◇2015.07.03 Tre Cime, Alpi Carniche, Italy

Saxifragaceae　　*Saxifraga seguieri*

ユキノシタ科　ユキノシタ属　英語名: Seguier's Saxigraga

国内に自生する近縁の種: タカネツメクサ、ミヤマツメクサ

中部～東部アルプスに特産する多年草で、標高1,600～3,000 mのガレ場や雪田跡に生え、全体に毛があって草丈は2～6 cm。根生葉は長さ5～30 mmのへら形で、鋸歯はない。茎には葉がないか、最大2枚までの茎葉をつける。花は短い茎先に1～2個つき、径3～6 mmで上向きに平開する。花弁は５枚あり、濁黄色～淡黄色の狭倒卵形で、隣の花弁とは離れてつく。萼片は黄緑色で５個あり、花弁とよく似た長さと形状なのに加えて、花弁の間に行儀良く配列するので、この花は10弁花のようにも見える。一見すると前ページの*S. sedoides*と似た花だが、*S. sedoides*の花弁は先が尖って萼片より長く、平に平開して本種の平皿のような断面とは異なる。葉も本種の方が幅広で明確な違いがある。また、*S. sedoides*はスイスアルプスには分布しないようだ。◇2016.07.17 Rotenbodenの上方、Wallis, Switzerland

Saxifragaceae　　*Tiarella trifoliata* var. *trifoliata*

ユキノシタ科　ズダヤクシュ属　英語名: Threeleaf Foamflower, Triple Sugar Scoop
国内に自生する近縁の種: ズダヤクシュ

北米大陸の西部に分布する多年草で、湿った林内や沢沿いに生え、草丈は15〜60 cm。根生葉は長さ15〜80 mmの三出複葉で、鋭い鋸歯がある。茎葉は少なくて小さく、分裂しないが鋸歯はある。茎頂に長い円錐花序をだし、鐘形の小さい白い花を咲かせる。萼片は長さ1.5〜2.5 mmで、糸状の花弁は５個あって長さは3〜4 mm。10本の雄しべは花から突き出す。花を含めて全体の草姿は日本のズダヤクシュそっくりだが、根生葉が浅く５裂するのではなく、３つの小葉に分かれる点がズダヤクシュと異なる。しかし、より高いところに生える変種 (var. *unifoliata*）は根生葉が浅く3〜5裂するので、ズダヤクシュとの違いは殆ど無くなるようだ。日本にはズダヤクシュ属は１種だけだが、北米には、少なくともう２種ある。◇2013.06.12 Emerald Lake, Yoho National Park, Canada

Scrophulariaceae　　*Verbascum lychnitis*

ゴマノハグサ科　モウズイカ属　英語名: White Mullein

国内に自生する近縁の種: なし

ヨーロッパの広範囲に分布する２年草で、亜高山帯の乾燥した草地や小石の多い荒れ地に生えて、草丈は50～200 cm。茎は角張って上部でよく分岐する。根生葉は長さ 15～30cmの楕円形～披針形でロゼットとなり、先は尖って縁には不規則な鋸歯がある。葉の表面は深緑色だが、裏面は短毛が密生して白い。茎葉も根生葉と同形で多数つき、上に向かって小型化する。茎上部に長い総状花序をだし、葉腋に2～7個の花がつく。花は黄色または白色で、花冠は５深裂して平開する。花冠裂片は縁が波打った楕円形で、外側に短毛がある。花糸には白い綿毛が密生し、葯はオレンジ色。これは、日本に帰化しているビロードモウズイカ(*V. thapsus*)よりは複雑な全体構成で、なかなか迫力のある植物だが、大きすぎて魅力的とは言い難い。「日本維管束植物目録」によれば、国内には本属の５種が帰化している様だが、この種はそれに含まれていない。 ◇2012.06.17 Queyras Valley, French Alps, France

Thymelaeaceae　　*Daphne cneorum*

ジンチョウゲ科　ジンチョウゲ属　英語名：Garland Flower

国内に自生する近縁の種：カラスシキミ、コショウノキ、ナニワズ

これは、中部～南部ヨーロッパの山岳地帯に分布する匍匐性の常緑の矮小低木で、主に石灰岩地帯の岩礫地や牧草地に生え、高さは20 cmほど。若い枝には毛がある。暗緑色の葉は、長さ1.8～2.5 cmの狭倒披針形で先は丸く、枝に互生する。枝先に小さな散房花序をだし、濃いピンク色の花をつける。この美しい花は萼で、花弁がないというから驚きだ。萼は肉質の筒形で、筒部は長さ6～10 mm。先は４深裂して平開し、径1.2 cmほどになる。この美しい花には強い芳香があるが、人間にとっては全体が有毒だそうだ。日本にはジンチョウゲ属が５種あるが、どれも白や黄色の淡い色の花を咲かせるので、この鮮やかなピンク色の花はすこぶる新鮮な感じがする。さらに、ヨーロッパには、同じように派手な花を咲かせるジンチョウゲ属が、この他にまだ数種あるのだ。◇2012.06.07　Izard Pass, French Alps, France

Thymelaeaceae　　*Daphne striata*

ジンチョウゲ科　ジンチョウゲ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：カラスシキミ、コショウノキ、ナニワズ

これはアルプスの固有種で、標高1,500～3,000 m地帯の、石灰質岩のガレ場や牧草地の周辺などに自生する、常緑の矮小低木である。全体に無毛で、高さは5～40 cm。葉は狭楕円形～披針形で長さ10～25 mm、枝先に集まって付くのが特徴だ。花も枝先に4～15個が集まって付く。この鮮やかな赤紫色の花には花弁はなく、肉質の萼は長い筒部のあるトランペット形で、萼筒の長さは15 mmほど。萼筒の先は４裂して斜開する。萼裂片の内側は外側より色が薄く、白味のあるピンク色である。前ページの*D. cneorum*よりは細い枝がのびのびと展開し、葉はより細長い。また、花の筒部がより長く、裂片は小さくて余り大きく開かない。花期も*D. cneorum*より遅くまで続くという。ぱっと見たところは*D. cneorum*の方が派手な花だが、こちらの方は立体的に大きく展開し、違った観点で魅力的である。◇2015.07.04 Cinque Torri, Alpi Dolomitiche, Italy

Tofieldiaceae

Tofieldia calyculata

チシマゼキショウ科　チシマゼキショウ属　英語名：Tofield’s Asphodel

国内に自生する近縁の種：ヒメイワショウブ、チシマゼキショウ、チャボゼキショウ

ピレネー山脈からウクライナまで、ヨーロッパの山岳地帯に広く分布する無毛の多年草で、アルプスでは、標高500～2,500 mの湿った牧草地や湿地、湿った岩礫地などに生え、草丈は10～30 cm。根生葉は長さ5～10 cmの剣形で、５本以上の脈がある。茎葉はより小さく、互生する。苞葉は緑色で３裂する。茎は直立して分岐せず、茎頂に15～40個の花が集まって長さ3～10 cmの円柱状花序をつくる。花は淡黄色で６枚の花被片からなり、花被片の長さは2～3.5 mm。これは、日本のヒメイワショウブと似た植物だが、日本には黄色い花のチシマゼキショウ属はないので、物珍しい。ドロミテで買い求めた図鑑では、この花は*T. pusilla*とされていたので、前バージョンでは間違えたが、これは表題の種であろう。◇2015.07.04 Falzarego Pass, Alpi Dolomotiche, Italy

シノニム：*Anthericum calyculatum*

Tofieldiaceae

Triantha glutinosa

チシマゼキショウ科　イワショウブ属　英語名：Sticky False Asphodel

国内に自生する近縁の種：イワショウブ

これは、カナダ全域と米国東部に分布する多年草で、山地帯～高山帯の湿地や沢沿いに生え、草丈は30～100 cm。茎の上部には線毛があり、触ると粘つく。根生葉は数枚あり、広線形で先が尖り長さは8～20 cm。茎葉はないか茎の中程に1～2枚つく。茎頂に長さ2～5 cmの穂状散房花序をだし、白色～帯緑白色の花を密に咲かせる。花は１節に３個つき、花柄は長さ3～6 mmで触ると粘つく。花冠は６深裂し、花被片は長さ3.8～5 mmの披針形で、葯は紫褐色。これは日本のイワショウブそっくりの植物だが、草丈は２倍ほどある。イワショウブ属は世界に４種しかないが、本種を含む３種が北米大陸にあり、イワショウブは日本固種である。

◇2009.07.15　Icefield Parkway, Banff National Park, Canada

シノニム：*Tofieldia glutinosa*

Violaceae

Viola adunca

スミレ科　スミレ属　英語名：Early Blue Violet, Hookedspur Violet

国内に自生する近縁の種：タチツボスミレ、ナガハシスミレ

米国南東部を除く北米大陸に広く分布する地上茎のあるスミレで、低地帯から高山帯までの草地、明るい林内、空き地、川岸などに生え、草丈は2～20 cm。根生葉と茎葉には長さ5～9 cmの葉柄があり、葉身は長さ0.5～5 cmの卵形～三角状卵形で、基部はやや心形。縁は全縁か鈍い鋸歯がある。花は葉腋から出た花柄の先に１個つき、花弁は５枚で青色～菫色。下側の３花弁は基部が白色で紫色の筋がある。側花弁の内側には白毛がある。距を含めた下唇の長さは7～20 mmで、距の先は普通彎曲するか鉤形になる。スミレ大国の日本と比べると、北米でもヨーロッパでもスミレの仲間は少ない。本種は日本でもよく見るタイプのスミレで、特に珍しくはないが、花の色と形は日本のスミレ類と比べても美しい方だろう。◇2009.07.12　C Level Cirque, Banff National Park, Canada

Violaceae　　*Viola calcarata*

スミレ科　スミレ属　英語名：Long-Spurred Pansy, Mountain Violet
国内に自生する近縁の種：スミレ、サクラスミレ

ヨーロッパ中部～南東部の山岳地帯に分布する地上茎のないスミレで、アルプス、ジュラ山脈、アペニン山脈の標高1300～2400 m地帯の草地や岩礫地に生え、草丈は5～15 cm。葉は全て根生してロゼットとなり、葉身は長さ1～4 cmの楕円形～披針形で鈍頭の鋸歯がある。葉柄も葉身と同じ長さであり、付け根には多様な形の托葉がつく。花は径2～4 cmあり、花色は青紫～黄色～白色と多様で、下の花弁の根元は黄色くて紫色の筋がある。距は長さ8～15 mmと長い。また、黄色や白色の花をつけるもの（次ページ）を亜種や変種として区別する説もあるようだが、専門家ではないので深く立ち入らないことにする。これは、園芸品種のパンジーの原種の一つだそうだが、花の形といい大きさといい、日本に数あるスミレのどれとも似ていない。◇2012.06.17 Izard Pass, French Alps, France

Violaceae　　*Viola calcarata*（黄花タイプと白花タイプ）

◇2012.06.18
Emparis Plateau, French Alps, France

◇2012.06.16
Brianson近郊, French Alps, France

これらの写真は、青紫色の花をつけた前ページの個体と同じ種なので、特に追加することはないが、左側の黄花タイプには紫色の長い距が写っている。*Viola lutea*とよく似た花だが、*V. lutea*の距は3〜6 mmと短いので、この花は*V. calcarata*の黄花タイプだろう。しかし、ネット上には、もっと長い距を示す*V. lutea*の写真もある。花弁の一部が黄色いスミレはあちこちで見かけるものの、全体が完全に黄色い花は、ここEmparis台地で見ただけである。この花は、台地のある一角にだけ、集中的に咲いていた。

右側の白花タイプは、純白で大きな花には清々しい美しさがある。紫色の花を咲かせる標準タイプよりも、唇弁基部の黄色い斑と紫色の筋が目立つ。写真には淡紫色の細長い距が写っている。

Violaceae　　*Viola canadensis* var. *rugulosa*

スミレ科　スミレ属　英語名 : Canada Violet, Canadian White Violet

国内に自生する近縁の種 : タチツボスミレ、ナガハシスミレ

基準変種が北米大陸東半部に分布するのに対し、この変種はカナダ西・中部と米国北西部を中心に分布する。これは、混交林内の空き地などに生える地上茎のあるスミレで、草丈は20〜40 cm。根生葉には長い柄があり、葉身は長さ7 cmほどの心形である。茎葉はより小型で互生し、先の尖った心形で葉柄の基部には１対の托葉がある。全ての葉には掌状の葉脈があり、縁には鈍頭の鋸歯に似た欠刻がある。上部の葉脇から複数の花柄が伸び、径2.5〜3 cmの花を１個ずつつける。５枚の花弁は白色で基部に黄色い斑があり、下方の３花弁には紫色の筋がある。２枚の側花弁には基部に白毛が生える。全ての花弁、特に上方の２枚の裏面は紫色を帯びる。これは、アルプスの*V, calcarata* (p. 444)とは違って、日本のスミレ類でも見慣れた形態の花だが、日本では見ないほど大きな白い花をつけるスミレで、新鮮味があって美しい。 ◇2013.06.10　Bow Valley Wilderness Provincial Park, Alberta, Canada

Violaceae

Viola cf. *cenisia*

スミレ科　スミレ属　英語名 : Mt. Cenis Pansy

国内に自生する近縁の種:　スミレ、サクラスミレ

これは、アルプスの南西部と中部に分布する多年草で、標高1,800～3,300 mの主に石灰岩質のガレ場に生え、草丈は5～10 cm。葉は小さく長い柄のある楕円形～長方形で、鋸歯はない。托葉は葉と似るがより小型である。花は鮮やかな菫色で径20～25 mm、花弁の基部に黄色い斑がある。距は細長くて長さは5～8 mm。これは、広範囲に分布して花色の変化が多い*V. calca*rataとよく似た花だが、葉が鋸歯のある披針形ではなく全縁の楕円形なのと、花色が青紫色だけで距は短い、という点で違いがある。日本のスミレには見られない構造の花で、色も美しく、楕円形の葉も珍しい。ただし、この写真では葉は余りよく見えないし、「スイスアルプス花図鑑」で強調されている「喉の入り口の紫色の縁取り」もない。従って、同定は ”confer” 付きであるが、ネット情報では、これとよく似た写真も表題の種として掲載されている。　◇2016.07.16　Rotenboden, Wallis, Switzerland

Violaceae

Viola chaerophylloides var. *chaerophylloides*
ナンザンスミレ

スミレ科　スミレ属　英語名 : Japanese Violet

国内に自生する近縁の種:　エイザンスミレ、ヒゴスミレ

これは、極東アジアに分布する地上茎のないスミレで、朝鮮半島、中国東北部、シベリアに分布し、日本では対馬列島にのみ分布する。生える場所は多様で、湿った林縁や日当たりの良い草地などに生え、草丈は5〜10 cm。葉は五角形で羽状に３裂するが、側裂片がさらに２裂して５裂状となり、各裂片はさらに切れ込む。花期の葉は長さ4〜7 cm。花は白色〜淡紅色で径2 cmほど。下弁の基部には淡黄色の斑と紫色の筋があり、側弁の基部には毛がある。距は太くて長め。韓国で買った韓国語の図鑑やネットの英文情報では、*V. dissecta*の変種となっているが、「日本維管束植物目録」では独立した種に格上げされて、日本にあるヒゴスミレの基準変種とされている。◇2012.04.12　慶州石窟庵、Korea

Violaceae

Viola orbiculata

スミレ科　スミレ属　英語名：Round-Leaved Violet, Darkwood Violet

国内に自生する近縁の種：エゾキスミレ、タカネスミレ

カナダ南西部と米国北西部に分布する地上茎のないスミレで、山地帯〜下部高山帯の開けた林内、草地、沢沿いなどに生え、草丈は3〜9 cm。根生葉には長さ2〜10 cmの葉柄があり、托葉は茶色の披針形で鱗片状。少なくとも一部の根生葉は常緑で、葉身は幅1.5〜5 cmの広楕円形、基部は心形で縁には鈍頭の鋸歯がある。花は長さ5〜15 mmで葉より上に伸びた花茎の先につく。花弁はレモンイエロー〜黄金色で、下の３枚には紫色の筋がある。側花弁の基部には黄色い毛が生える。このスミレは葉が丸いのは珍しいが、黄色い花の方は、日本に沢山ある黄色いスミレとよく似ていて、親しみは覚えるが特別感はない。◇2013.06.11　Healy Creek Trail, Banff National Park, Canada

Violaceae　　*Viola rupestris*

スミレ科　スミレ属　英語名：Teesdale Violet

国内に自生する近縁の種：スミレ、サクラスミレ

ユーラシア大陸北部に広く分布する毛の多い多年草で、分布範囲はピレネー山脈からシベリア東部まで及ぶ。アルプスでは、標高3,100 mまでの主に石灰岩地帯の乾いた草地や礫地に生え、草丈は2〜10 cm。根生葉はロゼットとなり、やや肉厚の心形〜腎形で長い柄がある。茎は極めて短く、茎葉は互生する。托葉は楕円形〜披針形で、鋸歯があるものと無いものがある。花は赤紫色〜淡青色（時には白色）で、幅は10〜15 mm。側花弁の内側には毛がある。距は短めで紫色〜白色。大荒れの天気の直後だったせいか、写真の花は泥だらけになった哀れな姿だが、アルプスでは、日本でよく見るこのタイプのスミレに会うことが少ないので、ここに取り上げた。

◇2016.07.18 Findelalp, Wallis, Switzerland

Violaceae

Viola thomasiana

スミレ科　スミレ属　英語名：不明

国内に自生する近縁の種：スミレ、サクラスミレ

これは、アルプス中部～南部の標高900～2,300 m地帯に分布するスミレで、乾いた草地、牧草地、明るい林内に生えて、草丈は5～10 cm。葉は全て根生し、葉身は卵形～楕円形で長い葉柄があり、基部は僅かに心形。托葉は狭披針形だ。花は径10～15 mmで、色はライラック色から白色。側花弁の内側には毛がある。下花弁は広楕円形で先は丸く、基部には紫色の筋がある。このスミレは1箇所で何株か見ただけだが、花色が柔らかい藤色で、斑模様になっているのが面白い。ネットでの英語情報は見当たらなかったので、詳細は不明である。◇2012.06.21　Pranplaz東方, Chamonix Mt-Blanc, France

Xanthorrhoeaceae　　*Asphodelus albus*

ススキノキ科　ツルボラン属　英語名：Asphodel, White Asphodel

国内に自生する近縁の種：なし

これは、地中海沿岸域に分布する毛のない多年草で、草丈は50～120 cm。スペイン中部、フランス南西部、アルプス南部、バルカン半島西部、リビアなどで、標高2,000 mまでの草地、岩れき斜面、雑木林などに生える。葉は全て根生し、長さ50～70 cm、幅20～22 mmのむち状で溝があり、表面は粉っぽい。長く伸びた花茎の先に総状花序をだし、白色～淡紅色の花を密につける。花はロート形で、細長い花被片が６枚あり、大きく開いて径4～5 cmになる。花被片の中央には、緑色～褐色の脈が一本入る。この花の花期は長く、４月から７月まで続く。この種は石灰岩地帯を好むようで、写真は石灰岩台地の裾の斜面に育つ大きな純群落を撮影したものだ。ツルボラン属は世界に20種あり、国内ではハナツルボラン(*A. fistulosus*)が庭から逸出して、一部に野生化しているそうだ。　しかし、花は径１cmしかないとのことなので、本種のダイナミックな造形とは格が違う。

◇2004.06.09　Briancon近郊, French Alps, France

頁	Family（科の学名）	科	Scientific Name （学名）	属
2	Amaryllidaceae	ヒガンバナ科	*Allium schoenoprasum* var. *sibiricum*	ネギ属
3	Amaryllidaceae	ヒガンバナ科	*Narcissus poeticus*	スイセン属
4	Apiaceae	セリ科	*Angelica sylvestris*	シシウド属
5	Apiaceae	セリ科	*Astrantia major*	アストランティア属
6	Apiaceae	セリ科	*Bupleurum stellatum*	ホタルサイコ属
7	Apiaceae	セリ科	*Ligusticum mutellina*	マルバトウキ属
8	Apiaceae	セリ科	*Pimpinella major*	ミツバグサ属
9	Apiaceae	セリ科	*Zizia aptera*	△
10	Arariaceae	ウコギ科	*Aralia nudicaulis*	タラノキ属
11	Asparagaceae	キジカクシ科	*Anthericum liliago*	△
12	Asparagaceae	キジカクシ科	*Aphyllanthes monspeliensis*	△
13	Asparagaceae	キジカクシ科	*Convallaria majalis* var. *majalis*	スズラン属
14	Asparagaceae	キジカクシ科	*Hyacinthoides non-scripta*	ヒアシントイデス属
15	Asparagaceae	キジカクシ科	*Maianthemum canadense*	マイヅルソウ属
16	Asparagaceae	キジカクシ科	*Maianthemum racemosum*	マイヅルソウ属
17	Asparagaceae	キジカクシ科	*Maianthemum stellatum*	マイヅルソウ属
18	Asparagaceae	キジカクシ科	*Maianthemum trifolium*	マイヅルソウ属
19	Asparagaceae	キジカクシ科	*Ornithogalum umbellatum*	オオアマナ属
20	Asparagaceae	キジカクシ科	*Paradisea liliastrum*	パラディセア属
21	Asparagaceae	キジカクシ科	*Scilla bifolia*	△
22	Asteraceae	キク科	*Achillea barreliri* subsp. *oxyloba*	ノコギリソウ属
23	Asteraceae	キク科	*Achillea clavennae*	ノコギリソウ属
24	Asteraceae	キク科	*Achillea erba-rotta* subsp. *moscata*	ノコギリソウ属
25	Asteraceae	キク科	*Achillea millefolium*	ノコギリソウ属
26	Asteraceae	キク科	*Adenostyles alliariae*	アデノスティレス属
27	Asteraceae	キク科	*Antennaria dioica*	エゾノチチコグサ属
28	Asteraceae	キク科	*Antennaria media*	エゾノチチコグサ属
29	Asteraceae	キク科	*Antennaria racemosa*	エゾノチチコグサ属
30	Asteraceae	キク科	*Antennaria rosea*	エゾノチチコグサ属
31	Asteraceae	キク科	*Argyroxiphium sandwicense* subsp. *macrocephalum*	ギンケンソウ属
32	Asteraceae	キク科	*Arnica cordifolia*	ウサギギク属
33	Asteraceae	キク科	*Arnica montana*	ウサギギク属
34	Asteraceae	キク科	*Artemisia glacialis*	ヨモギ属
35	Asteraceae	キク科	*Aster alpinus*	シオン属
36	Asteraceae	キク科	*Aster bellidiastrum*	シオン属
37	Asteraceae	キク科	*Aster flaccidus*	シオン属
38	Asteraceae	キク科	*Bellis perennis*	ヒナギク属
39	Asteraceae	キク科	*Carduus defloratus*	ヒレアザミ属
40	Asteraceae	キク科	*Carduus nutans*	ヒレアザミ属
41	Asteraceae	キク科	*Catananche caerulea*	△
42	Asteraceae	キク科	*Centaurea jacea*	ヤグルマギク属
43	Asteraceae	キク科	*Centaurea maculosa*	ヤグルマギク属

44	Asteraceae	キク科	*Centaurea montana*	ヤグルマギク属
45	Asteraceae	キク科	*Centaurea nebosa*	ヤグルマギク属
46	Asteraceae	キク科	*Centaurea triumfetti*	ヤグルマギク属
47	Asteraceae	キク科	*Cicerbita alpina*	△
48	Asteraceae	キク科	*Cirsium arvense*	アザミ属
49	Asteraceae	キク科	*Cirsium hookerianum*	アザミ属
50	Asteraceae	キク科	*Cirsium oleraceum*	アザミ属
51	Asteraceae	キク科	*Cirsium spinosissimum*	アザミ属
52	Asteraceae	キク科	*Craspedia uniflora*	△
53	Asteraceae	キク科	*Crepis aurea*	フタマタタンポポ属
54	Asteraceae	キク科	*Doronicum columnae*	△
55	Asteraceae	キク科	*Doronicum grandiflorum*	△
56	Asteraceae	キク科	*Echinops cornigerus*	ヒゴタイ属
57	Asteraceae	キク科	*Erigeron aureus*	ムカシヨモギ属
58	Asteraceae	キク科	*Erigeron compositus*	ムカシヨモギ属
59	Asteraceae	キク科	*Erigeron neglectus*	ムカシヨモギ属
60	Asteraceae	キク科	*Erigeron uniflorus*	ムカシヨモギ属
61	Asteraceae	キク科	*Eurybia sibirica*	△
62	Asteraceae	キク科	*Hieracium alpinum*	ヤナギタンポポ属
63	Asteraceae	キク科	*Hieracium peletierianum*	ヤナギタンポポ属
64	Asteraceae	キク科	*Hieracium scouleri*	ヤナギタンポポ属
65	Asteraceae	キク科	*Hieracium villosum*	ヤナギタンポポ属
66	Asteraceae	キク科	*Homogyne alpina*	ホモジネ属
67	Asteraceae	キク科	*Hypochaeris uniflora*	ブタナ属
68	Asteraceae	キク科	*Lactuca perennis*	チシャ属
69	Asteraceae	キク科	*Leontopodium alpinum*	ウスユキソウ属
70	Asteraceae	キク科	*Leucanthemopsis alpina*	レウカンセモプシス属
71	Asteraceae	キク科	*Petasites frigidus*	フキ属
72	Asteraceae	キク科	*Saussurea densa*	トウヒレン属
73	Asteraceae	キク科	*Scorzoneroides helvetica*	△
74	Asteraceae	キク科	*Scorzoneroides montana*	△
75	Asteraceae	キク科	*Senecio halleri*	ノボロギク属
76	Asteraceae	キク科	*Tanacetum vulgare* var. *vulgare*	ヨモギギク属
77	Asteraceae	キク科	*Taraxacum coreanum*	タンポポ属
78	Asteraceae	キク科	*Tephroseris integrrifolia* subsp. *capitata*	オカオグルマ属
79	Asteraceae	キク科	*Tragopogon porrifolius*	バラモンジン属
80	Asteraceae	キク科	*Tussilago farfara*	フキタンポポ属
81	Boraginaceae	ムラサキ科	*Echium vulgare*	シベナガムラサキ属
82	Boraginaceae	ムラサキ科	*Eritrichium nanum*	ミヤマムラサキ属
83	Boraginaceae	ムラサキ科	*Lithospermum canescens*	ムラサキ属
84	Boraginaceae	ムラサキ科	*Lithospermum ruderale*	ムラサキ属
85	Boraginaceae	ムラサキ科	*Myosotis alpestris*	ワスレングサ属
86	Boraginaceae	ムラサキ科	*Myosotis sylvatica*	ワスレングサ属
87	Brassicaceae	アブラナ科	*Biscutella laevigata*	△
88	Brassicaceae	アブラナ科	*Brassica repanda*	アブラナ属
89	Brassicaceae	アブラナ科	*Cardamine pratensis*	タネツケバナ属

90	Brassicaceae	アブラナ科	*Draba aizoides*	イヌナズナ属
91	Brassicaceae	アブラナ科	*Draba incerta*	イヌナズナ属
92	Brassicaceae	アブラナ科	*Draba oligosperma*	イヌナズナ属
93	Brassicaceae	アブラナ科	*Erysimum pallasii*	エゾスズシロ属
94	Brassicaceae	アブラナ科	*Erysimum rhaeticum*	エゾスズシロ属
95	Brassicaceae	アブラナ科	*Hornungia alpina*	タカネカラクサナズナ属
96	Brassicaceae	アブラナ科	*Petrocallis pyrenaica*	ペトロカリス属
97	Brassicaceae	アブラナ科	*Thlaspi rotundifolium*	グンバイナズナ属
98	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula barbata*	ホタルブクロ属
99	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula cochlearifolia*	ホタルブクロ属
100	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula glomerata* subsp. *glomerata*	ホタルブクロ属
101	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula patula*	ホタルブクロ属
102	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula rhomboidalis*	ホタルブクロ属
103	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula rotundifolia*	ホタルブクロ属
104	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula scheuchzeri*	ホタルブクロ属
105	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula thyrsoides*	ホタルブクロ属
106	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula trachelium*	ホタルブクロ属
107	Campanulaceae	キキョウ科	*Campanula* sp.	ホタルブクロ属
108	Campanulaceae	キキョウ科	*Phyteuma betonicifolium*	タマシャジン属
109	Campanulaceae	キキョウ科	*Phyteuma orbiculare*	タマシャジン属
110	Campanulaceae	キキョウ科	*Phyteuma ovatum*	タマシャジン属
111	Campanulaceae	キキョウ科	*Phyteuma scorzonerifolium*	タマシャジン属
112	Campanulaceae	キキョウ科	*Phyteuma spicatum*	タマシャジン属
113	Capparaceae	フウチョウボク科	*Capparis spinosa*	フウチョウボク属
114	Caprifoliaceae	スイカズラ属	*Centranthus angustifolius*	△
115	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Knautia arvensis*	クナウティア属
116	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Knautia dipsacifolia*	クナウティア属
117	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Linnaea borealis*	リンネソウ属
118	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Lonicera etrusca*	スイカズラ属
119	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Scabiosa columbaria*	マツムシソウ属
120	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana dioica*	カノコソウ属
121	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana montana*	カノコソウ属
122	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana officinalis*	カノコソウ属
123	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana pyrenaica*	カノコソウ属
124	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana saliunca*	カノコソウ属
125	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana saxatilis*	カノコソウ属
126	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana sitchensis*	カノコソウ属
127	Caprifoliaceae	スイカズラ科	*Valeriana supina*	カノコソウ属
128	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Arenaria biflora*	ノミノツヅリ属
129	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Arenaria ciliata*	ノミノツヅリ属
130	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Cerastium alpinum*	ミミナグサ属
131	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Cerastium arvense* subsp. *strictum*	ミミナグサ属
132	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Cerastium latifolium*	ミミナグサ属
133	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Dianthus armeria*	ナデシコ属
134	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Dianthus barbatus*	ナデシコ属
135	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Dianthus carthusianorum*	ナデシコ属

136	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Dianthus gratianopolitanus*	ナデシコ属
137	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Dianthus sylvestris*	ナデシコ属
138	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Gypsophila repens*	カスミソウ属
139	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Minuartia nuttallii*	タカネツメクサ属
140	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Minuartia recurva*	タカネツメクサ属
141	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Minuartia sedoides*	タカネツメクサ属
142	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Minuartia verna* var. *verna*	タカネツメクサ属
143	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Saponaria ocymoides*	サボンソウ属
144	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene acaulis*	マンテマ属
145	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene dioica*	マンテマ属
146	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene nutans*	マンテマ属
147	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene pusilla*	マンテマ属
148	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene suecica*	マンテマ属
149	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Silene vulgaris*	マンテマ属
150	Caryophyllaceae	ナデシコ科	*Stellaria longipes*	ハコベ属
151	Celastraceae	ニシキギ科	*Parnassia palustris*	ウメバチソウ属
152	Cistaceae	ハンニチバナ科	*Helianthemum alpestre*	ハンニチバナ属
153	Cistaceae	ハンニチバナ科	*Helianthemum apenninum*	ハンニチバナ属
154	Cistaceae	ハンニチバナ科	*Helianthemum canum*	ハンニチバナ属
155	Cistaceae	ハンニチバナ科	*Helianthemum nummularium*	ハンニチバナ属
156	Cornaceae	ミズキ科	*Cornus unalaschkensis*	サンシュユ属
157	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Rhodiola integrifolia* subsp. *integrifolia*	イワベンケイ属
158	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Sedum album*	マンネングサ属
159	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Sedum atratum*	マンネングサ属
160	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Sempervivum arachnoideum*	クモノスバンダイソウ属
161	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Sempervivum montanum*	クモノスバンダイソウ属
162	Crassulaceae	ベンケイソウ科	*Sempervivum tectorum*	クモノスバンダイソウ属
163	Cyperaceae	カヤツリグサ科	*Eriophorum chamissonis*	ワタスゲ属
164	Cyperaceae	カヤツリグサ科	*Eriophorum scheuchzeri* var. *scheuchzeri*	ワタスゲ属
165	Ephedraceae	マオウ科	*Ephedra pachyclada*	マオウ属
166	Ericaceae	ツツジ科	*Andromeda polifolia*	ヒメシャクナゲ属
167	Ericaceae	ツツジ科	*Cassiope mertensiana*	イワヒゲ属
168	Ericaceae	ツツジ科	*Kalmia polifolia*	カルミア属
169	Ericaceae	ツツジ科	*Menziesia ferruginea*	ヨウラクツツジ属
170	Ericaceae	ツツジ科	*Moneses uniflora*	イチゲイチヤクソウ属
171	Ericaceae	ツツジ科	*Phyllodoce empetriformis*	ツガザクラ属
172	Ericaceae	ツツジ科	*Phyllodoce glanduliflora*	ツガザクラ属
173	Ericaceae	ツツジ科	*Pyrola asarifolia* subsp. *asarifolia*	イチヤクソウ属
174	Ericaceae	ツツジ科	*Pyrola chlorantha*	イチヤクソウ属
175	Ericaceae	ツツジ科	*Pyrola rotundifolia*	イチヤクソウ属
176	Ericaceae	ツツジ科	*Rhododendron albiflorum*	ツツジ属
177	Ericaceae	ツツジ科	*Rhododendron ferrugineum*	ツツジ属
178	Ericaceae	ツツジ科	*Rhododendron groenlandicum* var. *groenlandicum*	ツツジ属
179	Ericaceae	ツツジ科	*Rhododendron hirsutum*	ツツジ属
180	Ericaceae	ツツジ科	*Rhodothamus chamaecistus*	△

181	Ericaceae	ツツジ科	*Sarcodes sanguinea*	△
182	Ericaceae	ツツジ科	*Vaccinium myrtillus*	スノキ属
183	Euphorbiaceae	トウダイグサ科	*Euphorbia cyparissias*	トウダイグサ属
184	Fabaceae	マメ科	*Anthyllis montana*	クマノアシツメクサ属
185	Fabaceae	マメ科	*Anthyllis vulneraria*	クマノアシツメクサ属
186	Fabaceae	マメ科	*Astragalus alpinus*	ゲンゲ属
187	Fabaceae	マメ科	*Astragalus centralpinus*	ゲンゲ属
188	Fabaceae	マメ科	*Astragalus danicus*	ゲンゲ属
189	Fabaceae	マメ科	*Astragalus nivalis*	ゲンゲ属
190	Fabaceae	マメ科	*Astragalus zanskarensis*	ゲンゲ属
191	Fabaceae	マメ科	*Hedysarum boreale*	イワオウギ属
192	Fabaceae	マメ科	*Hedysarum hedysaroides*	イワオウギ属
193	Fabaceae	マメ科	*Hippocrepis comosa*	ヒポクレピス属
194	Fabaceae	マメ科	*Lotus alpinus*	ミヤコグサ属
195	Fabaceae	マメ科	*Lotus corniculatus* var. *corniculatus*	ミヤコグサ属
196	Fabaceae	マメ科	*Onobrychis montana*	オノブリキス属
197	Fabaceae	マメ科	*Onobrychis vicifolia*	オノブリキス属
198	Fabaceae	マメ科	*Ononis cristata*	オノニス属
199	Fabaceae	マメ科	*Oxytropis campestris*	オヤマノエンドウ属
200	Fabaceae	マメ科	*Oxytropis monticola*	オヤマノエンドウ属
201	Fabaceae	マメ科	*Oxytropis podocarpa*	オヤマノエンドウ属
202	Fabaceae	マメ科	*Oxytropis pyrenaica*	オヤマノエンドウ属
203	Fabaceae	マメ科	*Oxytropis sericea*	オヤマノエンドウ属
204	Fabaceae	マメ科	*Securigera varia*	△
205	Fabaceae	マメ科	*Spongiocarpella purpurea*	スポンギオカルペラ属
206	Fabaceae	マメ科	*Thermopsis montana*	センダイハギ属
207	Fabaceae	マメ科	*Trifolium alpinum*	シャジクソウ属
208	Fabaceae	マメ科	*Trifolium montanum*	シャジクソウ属
209	Gentianaceae	リンドウ科	*Comastoma tenella*	サンプクリンドウ属
210	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana acaulis*	リンドウ属
211	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana alpina*	リンドウ属
212	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana bavarica* var. *bavarica*	リンドウ属
213	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana bavarica* var. *subacaulis*	リンドウ属
214	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana brachyphylla*	リンドウ属
215	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana clusii*	リンドウ属
216	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana lutea*	リンドウ属
217	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana nivalis*	リンドウ属
218	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana orbicularis*	リンドウ属
219	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana punctata*	リンドウ属
220	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana schleicheri*	リンドウ属
221	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana utriculosa*	リンドウ属
222	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentiana verna*	リンドウ属
223	Gentianaceae	リンドウ科	*Gentianopsis paludosa*	チチブリンドウ属
224	Gentianaceae	リンドウ科	*Sabatia campestris*	サバティア属
225	Geraniaceae	フウロソウ科	*Geranium rivulare*	フウロソウ属
226	Geraniaceae	フウロソウ科	*Geranium sylvaticum*	フウロソウ属

227	Hypericaceae	オトギリソウ科	*Hypericum perforatum*	オトギリソウ属
228	Iridaceae	アヤメ科	*Crocus vernus* subsp. *albiflorus*	クロッカス属
229	Iridaceae	アヤメ科	*Crocus vernus* subsp. *vernus*	クロッカス属
230	Iridaceae	アヤメ科	*Gladiolus italicus*	グラジオラス属
231	Lamiaceae	シソ科	*Acinos alpinus*	アキノス属
232	Lamiaceae	シソ科	*Ajuga pyramidalis*	キランソウ属
233	Lamiaceae	シソ科	*Ajuga reptans*	キランソウ属
234	Lamiaceae	シソ科	*Horminum pyrenaicum*	△
235	Lamiaceae	シソ科	*Lamium maculatum*	オドリコソウ属
236	Lamiaceae	シソ科	*Lavandula angustifolia*	ラヴァンドラ属
237	Lamiaceae	シソ科	*Salvia glutinosa*	アキギリ属
238	Lamiaceae	シソ科	*Salvia pratensis*	アキギリ属
239	Lamiaceae	シソ科	*Satureja montana*	△
240	Lamiaceae	シソ科	*Scutellaria alpina*	タツナミソウ属
241	Lamiaceae	シソ科	*Thymus glabrescens*	イブキジャコウソウ属
242	Lamiaceae	シソ科	*Thymus pulegioides*	イブキジャコウソウ属
243	Lamiaceae	シソ科	*Thymus serphyllum* subsp. *polytrichus*	イブキジャコウソウ属
244	Lamiaceae	シソ科	*Thymus serphyllum* subsp. *serphyllum*	イブキジャコウソウ属
245	Lentibulariaceae	タヌキモ科	*Pinguicula alpina*	ムシトリスミレ属
246	Lentibulariaceae	タヌキモ科	*Pinguicula vulgaris* var. *vulgaris*	ムシトリスミレ属
247	Liliaceae	ユリ科	*Clintonia borealis*	ツバメオモト属
248	Liliaceae	ユリ科	*Erythronium americanum*	カタクリ属
249	Liliaceae	ユリ科	*Erythronium grandiflorum*	カタクリ属
250	Liliaceae	ユリ科	*Fritillaria purdyi*	バイモ属
251	Liliaceae	ユリ科	*Fritillaria recurva*	バイモ属
252	Liliaceae	ユリ科	*Gagea fistulosa*	キバナノマナ属
253	Liliaceae	ユリ科	*Lilium bulbiferum*	ユリ属
254	Liliaceae	ユリ科	*Lilium martagon*	ユリ科
255	Liliaceae	ユリ科	*Lilium philadelphicum*	ユリ科
256	Liliaceae	ユリ科	*Lloydea serotina*	チシマアマナ属
257	Linaceae	アマ科	*Linum perenne*	アマ属
258	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Anticlea elegans*	リシリソウ属
259	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Paris quadrifolia*	ツクバネソウ属
260	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Stenanthium occidentalis*	△
261	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Trillium cernuum*	エンレイソウ属
262	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Trillium erectum*	エンレイソウ属
263	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Trillium ovatum*	エンレイソウ属
264	Melanthiaceae	シュロソウ科	*Veratrum album*	シュロソウ属
265	Montiaceae	ヌマハコベ科	*Claytonia lanceolata*	ハルヒメソウ属
266	Nymphaeaceae	スイレン科	*Nuphar lutea* subsp. *polysepala*	コウホネ属
267	Onagraceae	アカバナ科	*Chamerion angustifolium*	ヤナギラン属
268	Onagraceae	アカバナ科	*Chamerion latifolium*	ヤナギラン属
269	Onagraceae	アカバナ科	*Epilobium alpestre*	アカバナ属
270	Onagraceae	アカバナ科	*Epilobium hirsutum*	アカバナ属
271	Onagraceae	アカバナ科	*Epilobium parviflorum*	アカバナ属
272	Onagraceae	アカバナ科	*Oenothera speciosa*	マツヨイグサ属

273	Orchidaceae	ラン科	*Anacamptis pyramidalis*	△
274	Orchidaceae	ラン科	*Calypso bulbosa* var. *occidentalis*	ホテイラン属
275	Orchidaceae	ラン科	*Cephalanthera rubra*	キンラン属
276	Orchidaceae	ラン科	*Corallorhiza striata*	△
277	Orchidaceae	ラン科	*Corallorhiza trifida*	△
278	Orchidaceae	ラン科	*Cypripedium parviflorum* var. *makasin*	アツモリソウ属
279	Orchidaceae	ラン科	*Cypripedium parviflorum* var. *pubescens*	アツモリソウ属
280	Orchidaceae	ラン科	*Cypripedium reginae*	アツモリソウ属
281	Orchidaceae	ラン科	*Dactylorhiza cruenta*	ハクサンチドリ属
282	Orchidaceae	ラン科	*Dactylorhiza fuchsii*	ハクサンチドリ属
283	Orchidaceae	ラン科	*Dactylorhiza maculata*	ハクサンチドリ属
284	Orchidaceae	ラン科	*Dactylorhiza majalis*	ハクサンチドリ属
285	Orchidaceae	ラン科	*Dactylorhiza viridis*	ハクサンチドリ属
286	Orchidaceae	ラン科	*Diuris sulphurea* + *Lyperanthus suaveolens*	△
287	Orchidaceae	ラン科	*Galearis rotundifolia*	カモメラン属
288	Orchidaceae	ラン科	*Gymnadenia conopsea*	テガタチドリ属
289	Orchidaceae	ラン科	*Neotinea ustulata*	△
290	Orchidaceae	ラン科	*Neottia borealis*	サカネラン属
291	Orchidaceae	ラン科	*Neottia ovata*	サカネラン属
291	Orchidaceae	ラン科	*Nigritella nigra*	ニグリテラ属
293	Orchidaceae	ラン科	*Nigritella rubra*	ニグリテラ属
294	Orchidaceae	ラン科	*Orchis mascula*	オルキス属
295	Orchidaceae	ラン科	*Platanthera chlorantha*	ツレサギソウ属
296	Orchidaceae	ラン科	*Platanthera dilatata* var. *dilatata*	ツレサギソウ属
297	Orchidaceae	ラン科	*Platanthera huronensis*	ツレサギソウ属
298	Orchidaceae	ラン科	*Pseudoorchis albida*	△
299	Orchidaceae	ラン科	*Traunsteinera globosa*	△
300	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Castilleja coccinea*	カスティレア属
301	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Castilleja miniata*	カスティレア属
302	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Castilleja occidentalis*	カスティレア属
303	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Castilleja rhexifolia*	カスティレア属
304	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Euphrasia minima*	ココメグサ属
305	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Euphrasia montana*	ココメグサ属
306	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Melampyrum pratense*	ママコナ属
307	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Melampyrum sylvaticum*	ママコナ属
308	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis bracteosa*	シオガマギク属
309	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis cheilanthifolia*	シオガマギク属
310	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis comosa*	シオガマギク属
311	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis foliosa*	シオガマギク属
312	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis groenlandica*	シオガマギク属
313	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis langsdorfii* subsp. *arctica*	シオガマギク属
314	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis oederi*	シオガマギク属
315	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis rosea*	シオガマギク属
316	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis rostratocapitata*	シオガマギク属
317	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis tuberosa*	シオガマギク属

318	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Pedicularis verticillata*	シオガマギク属
319	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Rhinanthus alectorolophus*	△
320	Orobanchaceae	ハマウツボ科	*Rhinanthus minor*	△
321	Papaveraceae	ケシ科	*Corydalis turtschaninovii* var. *linearis*	キケマン属
322	Papaveraceae	ケシ科	*Eschscholzia californica*	ハナビシソウ属
323	Papaveraceae	ケシ科	*Papaver aurantiacum*	ケシ属
324	Papaveraceae	ケシ科	*Papaver radicatum* subsp. *radicatum*	ケシ属
325	Papaveraceae	ケシ科	*Papaver rhoeas*	ケシ属
326	Plantaginaceae	オオバコ科	*Digitalis grandiflora*	ジギタリス属
327	Plantaginaceae	オオバコ科	*Digitalis purpurea*	ジギタリス属
328	Plantaginaceae	オオバコ科	*Erinus alpinus*	イワカラクサ属
329	Plantaginaceae	オオバコ科	*Globularia cordifolia*	グロブラリア属
330	Plantaginaceae	オオバコ科	*Globularia punctata*	グロブラリア属
331	Plantaginaceae	オオバコ科	*Globularia repens*	グロブラリア属
332	Plantaginaceae	オオバコ科	*Linaria alpina*	ウンラン属
333	Plantaginaceae	オオバコ科	*Linaria vulgaris*	ウンラン属
334	Plantaginaceae	オオバコ科	*Paederota bonarota*	△
335	Plantaginaceae	オオバコ科	*Penstemon confertus*	アメリカイワブクロ属
336	Plantaginaceae	オオバコ科	*Penstemon davidsonii*	アメリカイワブクロ属
337	Plantaginaceae	オオバコ科	*Plantago alpina*	オオバコ属
338	Plantaginaceae	オオバコ科	*Plantago media*	オオバコ属
339	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica alpina*	クワガタソウ属
340	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica bellidioides*	クワガタソウ属
341	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica chamaedrys*	クワガタソウ属
342	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica fruticans*	クワガタソウ属
343	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica serpyllifolia* subsp. *humifusa*	クワガタソウ属
344	Plantaginaceae	オオバコ科	*Veronica serpyllifolia* subsp. *serpyllifolia*	クワガタソウ属
345	Plumbaginaceae	イソマツ科	*Armeria alpina*	アルメリア属
346	Polygalaceae	ヒメハギ科	*Polygala alpestris*	ヒメハギ属
347	Polygalaceae	ヒメハギ科	*Polygala chamaebuxus*	ヒメハギ属
348	Polygalaceae	ヒメハギ科	*Polygala paucifolia*	ヒメハギ属
349	Polygalaceae	ヒメハギ科	*Polygala vulgaris*	ヒメハギ属
350	Polygonaceae	タデ科	*Bistorta officinalis* subsp. *officinalis*	イブキトラノオ属
351	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace alpina*	トチナイソウ属
352	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace carnea* var. *brigantiaca*	トチナイソウ属
353	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace carnea* var. carne*a*	トチナイソウ属
354	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace chamaejasme* subsp. *chamaejas*	トチナイソウ属
355	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace chamaejasme* subsp. *lehmannia*	トチナイソウ属
356	Primulaceae	サクラソウ科	*Androsace vitaliana*	トチナイソウ属
357	Primulaceae	サクラソウ科	*Dodecatheon pulchellum*	△
358	Primulaceae	サクラソウ科	*Lysimachia borealis*	オカトラノオ属
359	Primulaceae	サクラソウ科	*Primula elatior*	サクラソウ属
360	Primulaceae	サクラソウ科	*Primula farinosa* subsp. *farinosa*	サクラソウ属
361	Primulaceae	サクラソウ科	*Primula hirsuta*	サクラソウ属
362	Primulaceae	サクラソウ科	*Primula mistassinica*	サクラソウ属
363	Primulaceae	サクラソウ科	*Primula veris*	サクラソウ属

364	Primulaceae	サクラソウ科	*Soldanella alpina*	ソルダネラ属
365	Primulaceae	サクラソウ科	*Soldanella austriaca*	ソルダネラ属
366	Primulaceae	サクラソウ科	*Soldanella pusilla*	ソルダネラ属
367	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aconitum vulparia*	トリカブト属
368	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone baldensis*	イチリンソウ属
369	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone canadensis*	イチリンソウ属
370	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone drummondii*	イチリンソウ属
371	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone multifida*	イチリンソウ属
372	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone narcissiflora* subsp. *narcissiflora*	イチリンソウ属
373	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone occidentalis*	イチリンソウ属
374	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone parviflora*	イチリンソウ属
375	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Anemone patens* var. *multifida*	イチリンソウ属
376	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia atrata*	オダマキ属
377	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia bertolonii*	オダマキ属
378	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia canadensis*	オダマキ属
379	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia flavescens*	オダマキ属
380	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia formosa*	オダマキ属
381	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Aquilegia vulgaris*	オダマキ属
382	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Caltha leptosepala*	リュウキンカ属
383	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Caltha palustris* var. *palustris*	リュウキンカ属
384	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Clematis alpina* subsp. *alpina* var. *alpina*	センニンソウ属
385	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Clematis aristata*	センニンソウ属
386	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Clematis occidentalis* var. *grosseserrata*	センニンソウ属
387	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Clematis tanguitica*	センニンソウ属
388	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Delphinium parryi* subsp. *parryi*	オオヒエンソウ属
389	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Pulsatilla alpina* subsp. *alpina*	オキナグサ属
390	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Pulsatilla alpina* subsp. *apiifolia*	オキナグサ属
391	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Pulsatilla vernalis*	オキナグサ属
392	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus aconitifolius*	キンポウゲ属
393	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus acris* subsp. *acris*	キンポウゲ属
394	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus alpestris*	キンポウゲ属
395	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus eschscholtzii*	キンポウゲ属
396	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus ficaria*	キンポウゲ属
397	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus glacialis*	キンポウゲ属
398	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus montanus*	キンポウゲ属
399	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus occidentalis*	キンポウゲ属
400	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus platanifolius*	キンポウゲ属
401	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Ranunculus pyrenaeus*	キンポウゲ属
402	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Thalictrum aquilegifolium*	カラマツソウ属
403	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Thalictrum occidentale*	カラマツソウ属
404	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Trollius albiflorus*	キンバイソウ属
405	Ranunculaceae	キンポウゲ科	*Trollius europaeus*	キンバイソウ属
406	Rosaceae	バラ科	*Alchemilla conjuncta*	ハゴロモグサ属
407	Rosaceae	バラ科	*Alchemilla hoppeana*	ハゴロモグサ属
408	Rosaceae	バラ科	*Dryas drummondii*	チョウノスケソウ属
409	Rosaceae	バラ科	*Dryas octopetala* var. *octopetala*	チョウノスケソウ属

410	Rosaceae	バラ科	*Geum montanum*	ダイコンソウ属
411	Rosaceae	バラ科	*Geum reptans*	ダイコンソウ属
412	Rosaceae	バラ科	*Geum rivale*	ダイコンソウ属
413	Rosaceae	バラ科	*Geum triflorum*	ダイコンソウ属
414	Rosaceae	バラ科	*Potentilla aurea*	キジムシロ属
415	Rosaceae	バラ科	*Potentilla brauniana*	キジムシロ属
416	Rosaceae	バラ科	*Potentilla erecta*	キジムシロ属
417	Rosaceae	バラ科	*Potentilla nitida*	キジムシロ属
418	Rosaceae	バラ科	*Potentilla nivea* var. *nivea*	キジムシロ属
419	Rosaceae	バラ科	*Rosa canina*	バラ属
420	Rosaceae	バラ科	*Rosa pendulina*	バラ属
421	Rosaceae	バラ科	*Rosa woodsii* var. *ultramontana*	バラ属
422	Salicaceae	ヤナギ科	*Salix arctica*	ヤナギ属
423	Salicaceae	ヤナギ科	*Salix reticulata*	ヤナギ属
424	Sarraceniaceae	サラセニア科	*Sarracenia purpurea*	サラセニア属
425	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga aizoides*	ユキノシタ属
426	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga androsacea*	ユキノシタ属
427	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga bronchialis* subsp. *austromonana*	ユキノシタ属
428	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga bryoides*	ユキノシタ属
429	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga caespitosa*	ユキノシタ属
430	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga exarata* subsp. *exarata*	ユキノシタ属
431	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga oppositifolia*	ユキノシタ属
432	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga paniculata*	ユキノシタ属
433	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga rotundifolia*	ユキノシタ属
434	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga sedoides*	ユキノシタ属
435	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Saxifraga seguieri*	ユキノシタ属
436	Saxifragaceae	ユキノシタ科	*Tiarella trifoliata* var. *trifoliata*	ズダヤクシュ属
437	Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科	*Verbascum lychnitis*	モウズイカ属
438	Thymelaeaceae	ジンチョウゲ科	*Daphne cneorum*	ジンチョウゲ属
439	Thymelaeaceae	ジンチョウゲ科	*Daphne striata*	ジンチョウゲ属
440	Tofieldiaceae	チシマゼキショウ科	*Tofieldia calyculata*	チシマゼキショウ属
441	Tofieldiaceae	チシマゼキショウ科	*Triantha glutinosa*	イワショウブ属
442	Violaceae	スミレ科	*Viola adunca*	スミレ属
443	Violaceae	スミレ科	*Viola calcarata*	スミレ属
444	Violaceae	スミレ科	*Viola calcarata* (white fl. and yellow fl.)	スミレ属
445	Violaceae	スミレ科	*Viola canadensis* var. *rugulosa*	スミレ属
446	Violaceae	スミレ科	*Viola censia*	スミレ属
447	Violaceae	スミレ科	*Viola chaerophylloides* var. *chaerophylloides*	スミレ属
448	Violaceae	スミレ科	*Viola orbiculata*	スミレ属
449	Violaceae	スミレ科	*Viola rupestris*	スミレ属
450	Violaceae	スミレ科	*Viola thomasiana*	スミレ属
451	Xanthorrhoeaceae	ススキノキ科	*Asphodelus albus*	ツルボラン属

地球の息吹　　これでおしまい。

著者：フレンチアルプスにて